生物多様性保全利用指針 OKINAWA

［宮古・久米島編］

R2 暫 定 版

沖 縄 県

「暫定版」における注意事項

「生物多様性保全利用指針 OKINAWA」は、令和 3 年度までに「沖縄島編」、「八重山編」、「宮古・久米島編」、「沖縄島周辺諸島及び大東諸島編」の 4 編の作成を予定しており、現在、各編について順次情報収集、調査、解析を進めているところである。このたび一連の作業が完了した宮古・久米島編について、県民の皆さまにいち早くお届けするために【暫定版】を公開する。

暫定公開である理由は、本指針の中核である生物多様性の解析評価手法の特性上、各島毎の解析ではなく、本県全体での解析を行う必要があるためである。また、事業期間中に追加されたデータを加えることで、より解析精度を高めることが想定されている。このような事業デザインのため、今回の宮古・久米島編【暫定版】に掲載された情報は暫定的なものであり、今後沖縄島周辺諸島及び大東諸島編等の情報が加わることで最終版策定まで更新される。

本指針【暫定版】については、上記の事項についてご理解いただき、本県全体の解析が完了し、最終版（令和 3 年度末を予定）が策定されるまでは、引き続き「自然環境の保全に関する指針」（沖縄県 1998～2000）を参照いただきたい。

生物多様性保全利用指針 OKINAWA［宮古・久米島編］

－目次－

コラム

第１章　はじめに

１．背景と目的

沖縄県は亜熱帯海洋性気候に属し、160 の島々で構成される島嶼県である。周囲には、琉球列島に沿う形で黒潮が流れ、沿岸域にはサンゴ礁が発達する。本県を含む琉球列島は、約 200 万年前に大陸と分かれたのち、時間の経過とともに現在の島嶼環境を形成してきた。このような地理的分断などを経て、一部の生物（イリオモテヤマネコ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラなど）は固有種（固有亜種）へと進化を遂げたとされており、生物多様性[※1]の保全上、世界的に見ても特徴的で重要な地域の一つとされる。

本県は、戦前までは農業を中心とする社会であり、自然環境の利用や開発は現在よりも穏やかで、豊かな自然環境が維持されていた。しかしながら、戦後は米軍基地建設や人口の増加、復帰以降の県土の大規模な開発などによって自然環境の改変が急速に進み、その結果、陸域及び海域の自然環境の劣化が社会問題として顕在化してきた経緯がある。

このような状況を踏まえて、本県は平成 6 年 3 月に「沖縄県環境管理計画」を策定した。また、陸域及び海域生態系の保全を目的に、地域環境の特性に応じた自然環境保全のあり方や適切な土地利用を示す資料として、「自然環境の保全に関する指針」を策定した。同指針は地域ごとに沖縄島編（平成 10 年 2 月)、八重山編（平成 10 年 3 月)、宮古・久米島編（平成 11 年 3 月)、沖縄島周辺諸島及び大東諸島編（平成 12 年 3 月）として刊行され、各地域の自然環境の保全及び適切な利用のための情報源として利活用されてきた。

「自然環境の保全に関する指針」の策定から約 20 年が経過した現在、当時の主要な課題であった土地の改変による自然環境への影響に加えて、外来種の侵入による在来種への悪影響や高水温によるサンゴ礁生態系の劣化などが顕在化し、本県の自然環境を取り巻く状況は複雑化している。一方、社会的には、生物多様性の保全が地球規模での課題となっている。平成 5 年には「生物の多様性に関する条約（CBD)」が締結され、平成 22 年に愛知県で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議（CBD/COP10）等を経て、国内においても生物多様性の重要性への理解が高まっているところである。生物多様性の核をなす野生動植物の現状について、本県は平成 8 年に沖縄県版レッドデータブック（沖縄県の絶滅の恐れのある野生生物：レッドデータおきなわ）を刊行し、平成 29 年に動物編、平成 30 年に菌類編・植物編の第 3 版を発刊した。その間、版を重ねるごとに掲載種数が増加しており、ヤンバルクイナの絶滅危惧度が格上げされるなど、希少種の絶滅が危惧される

状況が続いている。

「生物の多様性に関する条約（CBD）」では、その目的として生物多様性の保全に加えて、その持続可能な利用が謳われている。本県の人々は、生きものにさまざまな名前を付け、生物多様性から生まれる恩恵を賢明に利用しつつ、次世代へと継承してきた。このような生物多様性に関する知識や活用の知恵は地域に固有のものであり、「生物文化[※2]」として定義される。生物文化は生物多様性の持続可能な利用を追求する上で重要な示唆を与えるものであるが、本県の豊かな生物文化の価値は十分認知されているとはいえず、生活様式の近代化に伴って急速に失われようとしている。

このような自然状況や社会状況の変化を踏まえて、本県では生物多様性の保全とその適正な利用を目的として「自然環境の保全に関する指針」を改訂し、「生物多様性保全利用指針 OKINAWA」として新たに取りまとめた。改訂にあたり、既存資料や現地調査から、県内の生物多様性の状況及び保全上の優先度を総合的に評価した。また、各地域の生物多様性を取り巻く現状や生物文化等についても情報を整理した。これらの情報を元に、各地域の生物多様性の保全と利用のありかた（環境配慮方針）を定め、それらの情報を「環境カルテ」として地域ごとに取りまとめた。

クメトカゲモドキ

[※1] 生物多様性：生物が長い歴史の中で獲得した、様々な姿形や生活様式といった生物間の違いのこと。遺伝的多様性、種の多様性、生態系の多様性という 3 つのレベルで捉えられる。遺伝的多様性とは、種が同じでも持っている遺伝子がことなることを指す。種の多様性とは、様々な生物種が存在する状態を指す。生態系の多様性は、様々な生物の相互作用から構成される様々な生態系が存在することを指す。

[※2] 生物文化：古来より人々が周辺の生物資源を利用し、地域ごとに発展してきた動植物の方言、衣食住、信仰への利用などに関する多様な知識、知恵。

２．指針の位置づけ

生物多様性の保全と利用に関する本県の基本構想として、平成 22 年に策定された「沖縄２１世紀ビジョン」では、「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島」が目指すべき将来像として掲げられており、自然環境の保全と再生が課題として挙げられている。このような基本構想に沿って、平成 25 年には、自然環境共生型社会を実現していくための基本的な計画である「生物多様性おきなわ戦略」を策定した。同戦略では、県内の生物多様性に関する課題を踏まえ、生物多様性を保全・維持・回復して次世代に繋げることで、自然との「つながり」と自然からの「恵み」を持続的に享受する社会の実現を目指している。

本指針はこのような本県の基本構想等に従い、県全域を対象とし、各地域の生物多様性の現状と保全の方向性を明示するとともに、自然環境の持続可能な利活用を促すことを目的として策定された。本指針は、前指針である「自然環境の保全に関する指針」と同様に、地域環境の特性に応じた生物多様性の保全や生物多様性に配慮した土地利用等を実現するための基礎的資料としての役割を持つ。加えて、本指針の環境カルテにおいて整理された、自然環境、生物、生物文化等は地域固有の価値であり、これらは「生物多様性ブランド[※1]」と位置づけられる。各地域の生物多様性ブランドを生かすための総合的な情報源として、本指針を活用することが期待される。

[※1]：「生物多様性ブランド」は、地域を特徴づける優れた「生物多様性」と「生物文化」から生み出される価値と定義する。

3．指針の概要

（1）検討内容（全体フロー）

本指針では、宮古島周辺及び久米島の陸域及び周辺海域について、生物多様性、生物文化、自然の利活用、自然環境及び社会環境に関する情報収集及び解析を行い、その結果を環境カルテとして地域区分単位で取りまとめた。

環境カルテ作成の全体フローと対応する本指針の章を図 1－3－1 に示す。

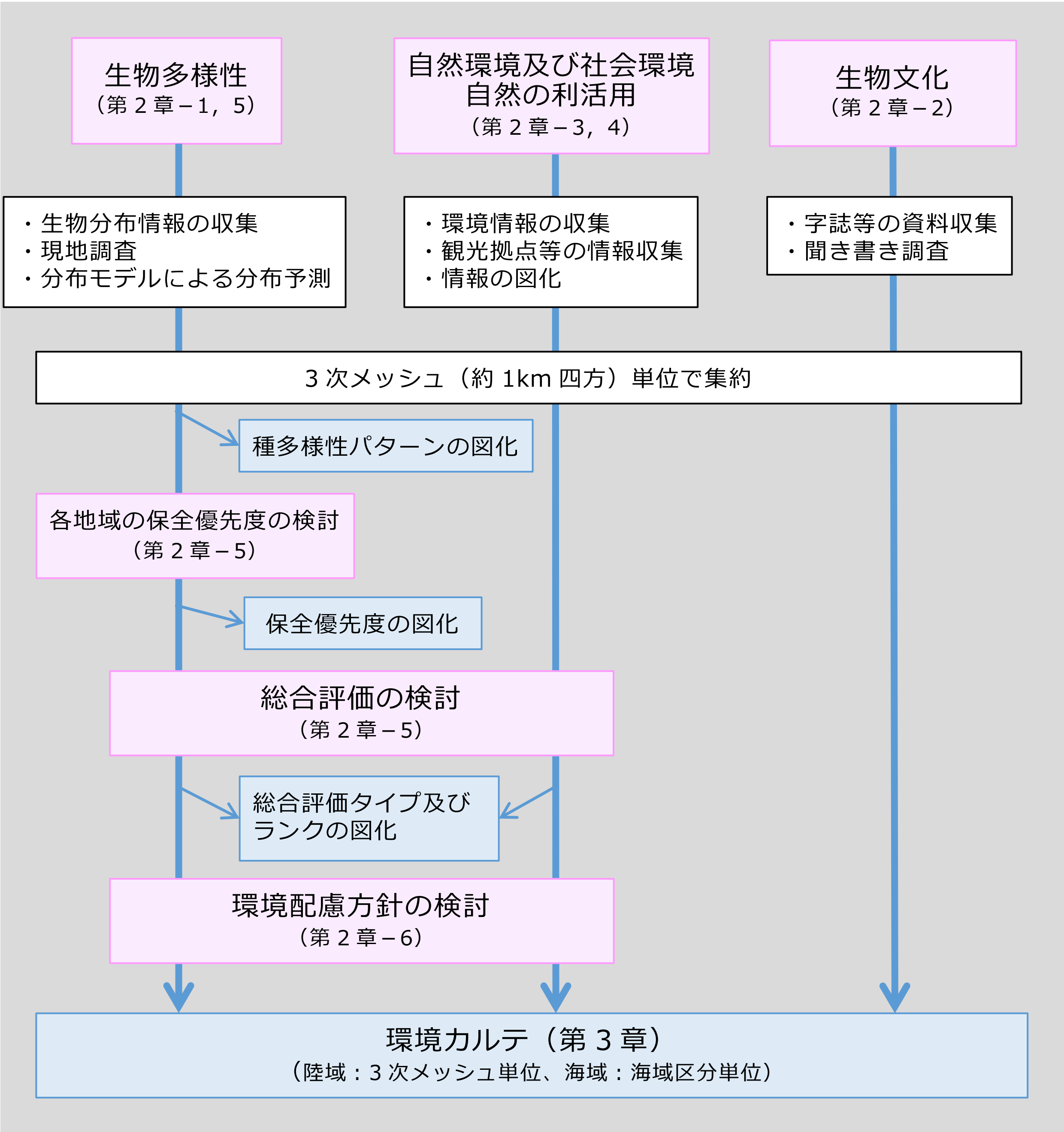


図 1－3－1．環境カルテ作成のフロー

（2）対象地域

本指針[宮古・久米島編]の対象とする地域は、宮古島周辺及び久米島の陸域及び沿岸域である。対象地域を図１－３－２に示す。

図１－３－２．対象地域図

（３）生物多様性（第２章－１に詳述）

宮古・久米島各地域の生物多様性について、生物分布情報及び環境データから生物分布予測を行った。評価の根幹をなす生物分布情報に関しては、本県の生物多様性を特徴づけ、かつ分類学的情報が充実している生物分類群（陸域 10 分類群、海域 7 分類群）について、既往文献の収集及び現地調査を実施し、それらを元に種レベルで分布情報をデータベース化した。また、環境データに関しては、生物分布に関連する環境データ（気象、地形地質、生態系等）を既存資料より収集整理した。これらの情報を種分布モデルにより解析し、3 次メッシュ（約 1×1km）単位で生物種分布の予測を行った（動植物推定分布マップ）。種ごとの予測結果を分類群毎に重ね合わせることで、分類群毎の推定分布マップを作成した。

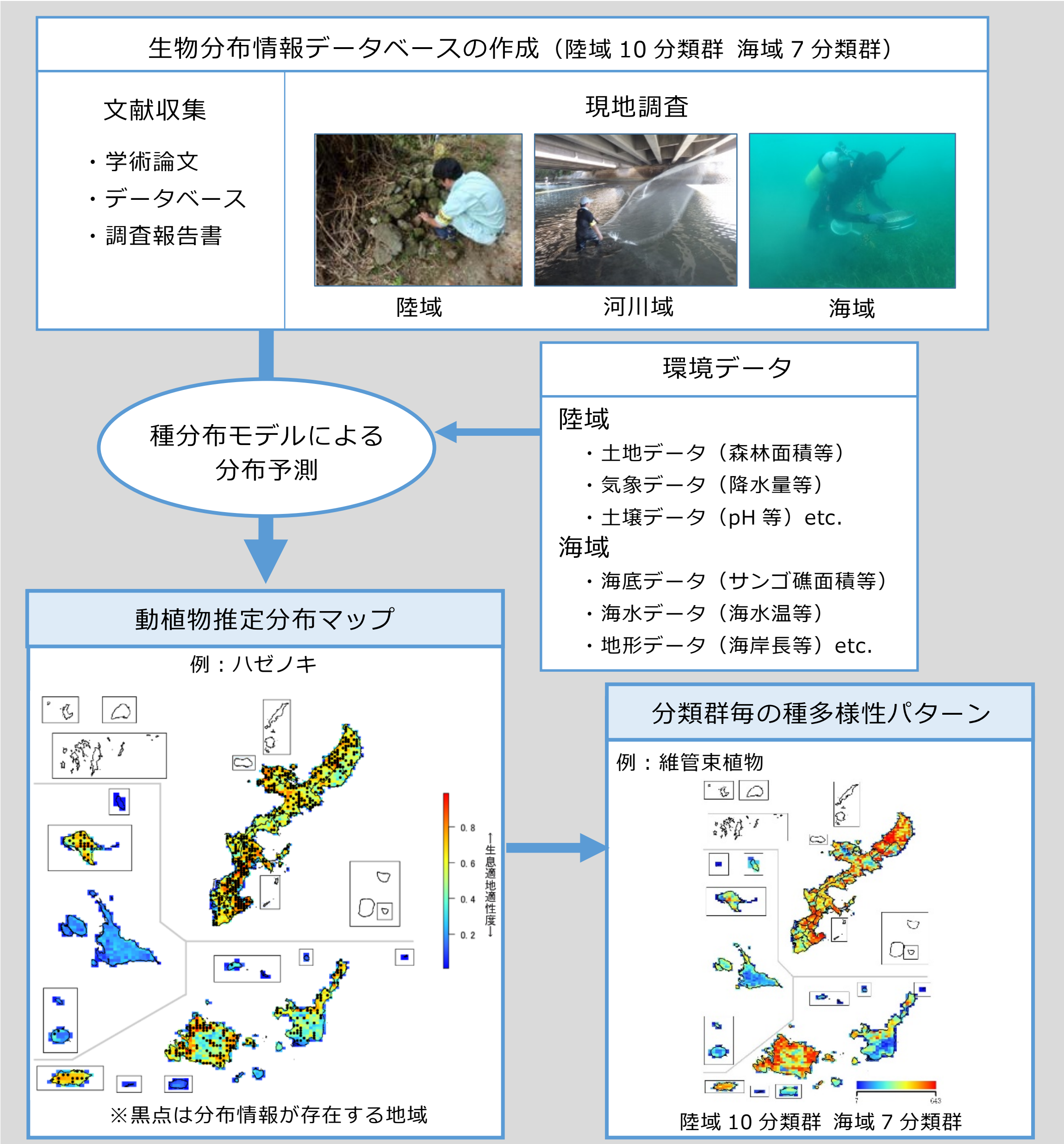


図 1－3－3．各地域の生物多様性評価の概要

Column

ビッグデータで自然環境や生物多様性を保全管理する

［文：久保田康裕（琉球大学教授）］

自然環境を保全することの重要性は、今や社会的な共通認識です。「生物多様性を保全して次世代に残そう」という考えに真っ向から反対する人は、おそらく皆無でしょう。しかし、現実の自然保護の問題では、貴重な野生生物や生態系を保護したいと願う人たちと、自然を開発して経済的に活用したいと考える人たちの間で、程度の差はあれ、必ず意見の対立が生じます。私たち人間が、自然環境を生活や産業の空間としてあるいは生物資源として利用する限り、このよう意見の対立は止むを得ない面があります。しかし、「保護と開発のどちらを優先すべきか」と言った“二項対立的”な論争は、ときに地域社会を二分し、特定の産業を否定するような、残念な事態におちいることもあります。

自然環境問題が膠着状態になるのを回避する道具として、科学的データや科学的方法論が役立ちます。何より、自然科学は価値観に左右されません。したがって、科学的根拠に基づいて自然環境問題を考えれば、価値観の違いによる感情的な論争や対立を和らげることができ、保護と開発をめぐる論争も、合理的に解決できるはずです。一方、自然環境や生物多様性に関する科学的知見は、必ずしも十分ではありませんでした。そのため、人間の経済活動が自然環境や生物多様性に与える影響を正確に定量することは困難です。

しかし近年になって、地域の自然に関する地道で膨大な研究活動の蓄積は、自然史ビッグデータとして利用可能になりつつあります。例えば、生物種の分布記録や採集された標本情報によって、生物多様性の空間パターンを高精度で予測することができ、さらに、種の分子系統や人間にとっての有用性の情報（機能特性や民族生物学的データ）を統合することで、生物多様性ホットスポットの進化的成り立ちや、それが人間社会にもたらす恩恵（生態系サービス）の空間分布をも定量できつつあります。

さらに、自然史ビッグデータと社会経済データを統合的に分析すれば、様々な利害関係者、例えば、農林水産業、観光産業などのニーズを考慮して、社会的に実行可能で、生物学的に実効性のある生物多様性の保全計画や生態系の利用計画を提案することも可能です。具体的には、一次産業の活動を損なうことなく、なおかつ、生物の絶滅リスクを最大限回避するための保護区ネットワークを空間的にデザインすることもできます。したがって、自然環境を資源として利用する産業セクターも、開発によって得られる利益と、それに伴う生態学的損失のコストを、ビッグデータの分析を通して事前評価することも可能で、持続可能な開発プランが要求される時代になります。

同時に科学者も、もはや、研究者個人の経験に基づいて自然や生物の保全を、やみくもに、あるいは抽象的に主張するだけでは不十分で、膨大なデータに基づいて、様々な問題に対する具体的な予測と対策を要求されます。すなわち、ビッグデータは、自然を保護したいと考える市民、社会経済的に自然を利用したいと考える経済産業界、様々な立場の人たちが合意形成するための科学的根拠を提供し、自然環境問題のアクションプラン構築を革新する事になるでしょう。

（４）生物文化（第２章－２に詳述）

古来より沖縄の人々は自然に寄り添い、身の回りの動植物に地方名を付け、生活に利用してきた。その知識は各地で引き継がれてきたが、生活様式の変化等に伴い、現在急速に失われつつある。

本指針では、生物多様性と文化多様性のつながりを「生物文化」として位置づけた。生物多様性と生物文化の関係性から、地域の人々の自然利用や自然観などの手がかりを得ることができ、各地の自然環境の保全や適切な利用に貢献すると考えられる。

本指針では、地域の動植物の方言や利用について、文献調査と聞き取り調査を行った。聞き取り調査は文献情報が不足する地域で実施した。これらの調査から得られた知見のうち、特に生物文化に関連が強いものを抜粋し、環境カルテに記載した。

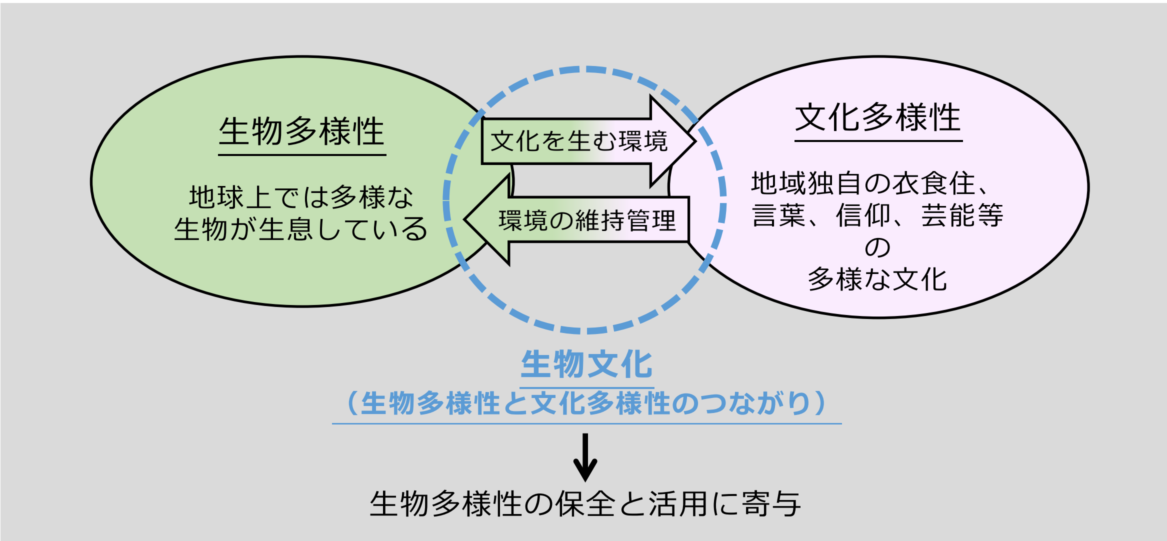


図１－３－４．生物文化の概念

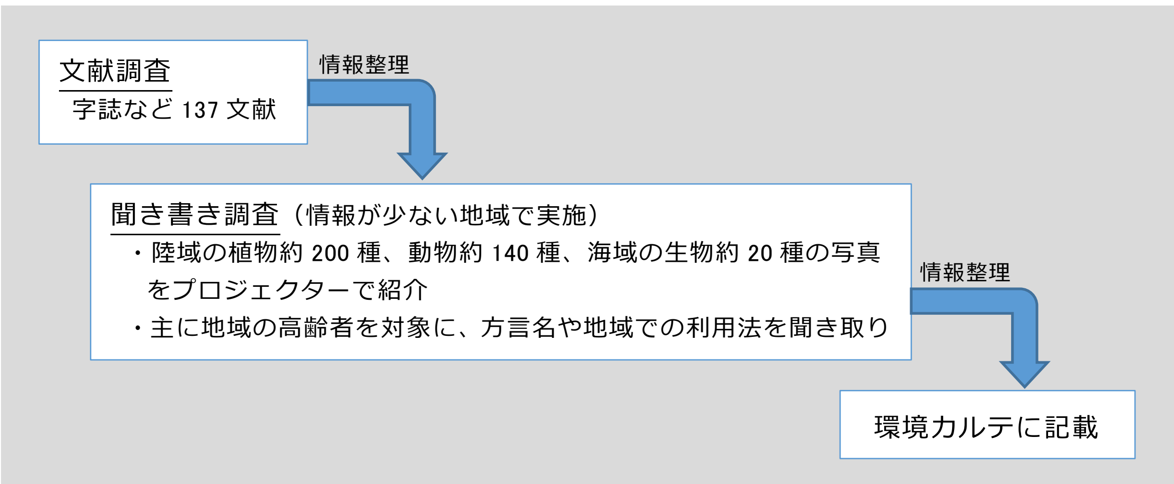


図１－３－５．生物文化の調査方法

Column

生物文化

［文・写真：当山昌直（沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員）］

電気なし、ガスコンロなし、もちろん自動車などの機械類がない昔、島人はどのように暮らしていただろうか。

夜は、囲炉裏の明かりに家族が集まった。夜なべをするときはホウライチクを燃やして明かりにした。松明も貴重な明かりで、夜のイザリ漁には欠かせなかった。

毎日の食事はカマドで炊いた。薪が必要だった。薪は野山から調達した。ヤブニッケイは軽くて運びやすい、よく燃えるのだが長持ちはしない。ソテツはたきつけによい。アコウは燃えにくく薪には適さない、などと先人たちは樹木を区別し、地方名をつけ、その性質を理解していた。樹木の少ない地域では、サトウキビの枯葉、農作物の不要な枝葉、林内に落ちている枯れ枝や枯葉を利用し、生木を採るようなことはしなかった。他、製糖用の釜ではススキを薪として利用した。海岸近くではアダンの葉を日々の薪に利用した。

運搬は、馬を利用することもあったが、人力がたよりだった。山から切った木材をイルカンダで縛り、川を利用して運んだ。イタジイなどの薪はホウライチクで輪をつくり束ねて販売用とした。サトウキビを束ねたり、燃料用の枯葉をくくるのはゲットウの茎を潰して縄にしたもの、またはススキの葉を利用した。アダンの気根で縄をなって、モッコなどの籠をつくって物を運んだ。縄の主役はシュロで作ったものだった。水にもつよく井戸の釣瓶にもつかった。

薪を束ねたホウライチク（国頭村奥）

昔の島人は、野山の自然を利用し、自然に寄り添って生きてきた。いや、自然に生かされてきたといってもよいだろう。

他にも衣食住をはじめ、薬草、行事、忌避など暮らしに関わった動植物があげられる。染料に利用したシャリンバイ、クチナシなど。食の対象となったオキナワウスカワマイマイ、ヌマガエル、ホルストガエル、ハブ、クマネズミなど。建材として利用されたリュウキュウチク、モッコク、イタジイなど。おできにはオオバコを炙って利用した。目に入ったゴミはエビヅルの茎を切って、それから出る汁で洗った。祭祀に使われる冠（ハブイ）にはカニクサとゴンズイが使われた。生業の道具としては、硬いオキナワウラジロガシを

建材に使われたリュウキュウチク

利用した斧。アデクやシマミサオノキのしなりの性質を利用した斧や鍬の柄。ゲッキツの枝の又を利用したヘラの柄がある。

斧の頭は硬いオキナワウラジロガシ、
柄はよくしなるアデクが使われている
（国頭村奥）

ここまでは自然利用の一部を紹介したが、島人たちはいろいろな機会、いろいろな場面で野山の動植物を利用していた。その利用の中には、先人たちから引き継がれてきた知識や知恵がたくさん詰まっている。一方、これらの動植物に対しては地域ごとに地方名（方言名）がつけられている。これらの動植物の方言とその利用（または忌避：例えばハゼやハブなどの毒性に対する忌避）についてはセットになっていることが多い。本事業では、これらの動植物の方言と利用（知識・知恵）を生物文化と称している。

生物多様性条約の中で生物多様性の保全、生物多様性の構成要素の持続的利用、遺伝資源の衡平な配分が目的としてあげられている。目的の二つめにあげられているように、21 世紀からは保全だけではなく、利用としての人との関わりも含めて考えなければならない。

近年は地域の多様な文化を文化多様性としているが、文化には芸術や芸能なども含まれ、生物多様性とは直接結ぶのは困難な面もある。これらの生物と人をつなぐもの、その具体的なものが「生物文化」である。

沖縄の場合は、島ごとに動植物の方言やその利用が異なる場合が多い。生物文化も多様性に富んでいるのである。このような意味で沖縄は生物文化多様性に富んだ地域といえるかもしれない。

昔の島人は、野山を利用していたが、資源を枯渇させることはしなかった。先人の知識や知恵が集約された生物文化に持続的利用のヒントが隠されていると思われる。

本事業では、生物多様性の保全を先行しながらも、生物文化を加えることによって新しい 21 世紀型の保全を目指そうとするものである。

※文化人類学者ルイーザ・マーフィは、1990 年代から「生物文化多様性」という概念を育てた。言語を中心としており、本事業の生物文化とは若干視点が異なる。

文献：今村・湯本・辻野（2011）生物文化多様性とは何か．pp.55-73． 湯本編，シリーズ日本列島の三万五千年－人と自然の環境史　第 1 巻環境史とは何か．文一総合出版．

（５）自然環境の利活用（第２章－3 に詳述）

生物多様性の賢明な利活用を検討するための基礎資料として、観光等に生物多様性が利用されている事例や地域の自主ルールについて地図上に整理した。

（６）自然環境及び社会環境（第２章－4 に詳述）

各地域における環境情報の一覧化を目的とし、自然環境及び社会環境データの収集整理を行った。図面が存在しないものについては情報を整理し図面を作成した。

（７）保全優先度と総合評価（第２章－５に詳述）

種レベルでの生物分布の予測結果を元に、「Zonation アルゴリズム」と呼ばれる解析手法を用いて、各地域の生物多様性の保全優先度を算出した。評価単位は、陸域では３次メッシュ（355 メッシュ）、海域では海域区分（52 海域）とし、評価単位ごとに各分類群の保全優先度と、生物分類群を統合した統合保全優先度を算出した。これらの結果を保全優先地域マップとして整理した。このようにして各地域の生物多様性の保全優先度を算出し、加えて土地利用の状況等を考慮し、各地域の総合評価タイプ及び総合評価ランクを算出した（図１－3－6）。なお、海域の総合評価ランクについては今後検討する余地があるため、本暫定版には掲載していない。

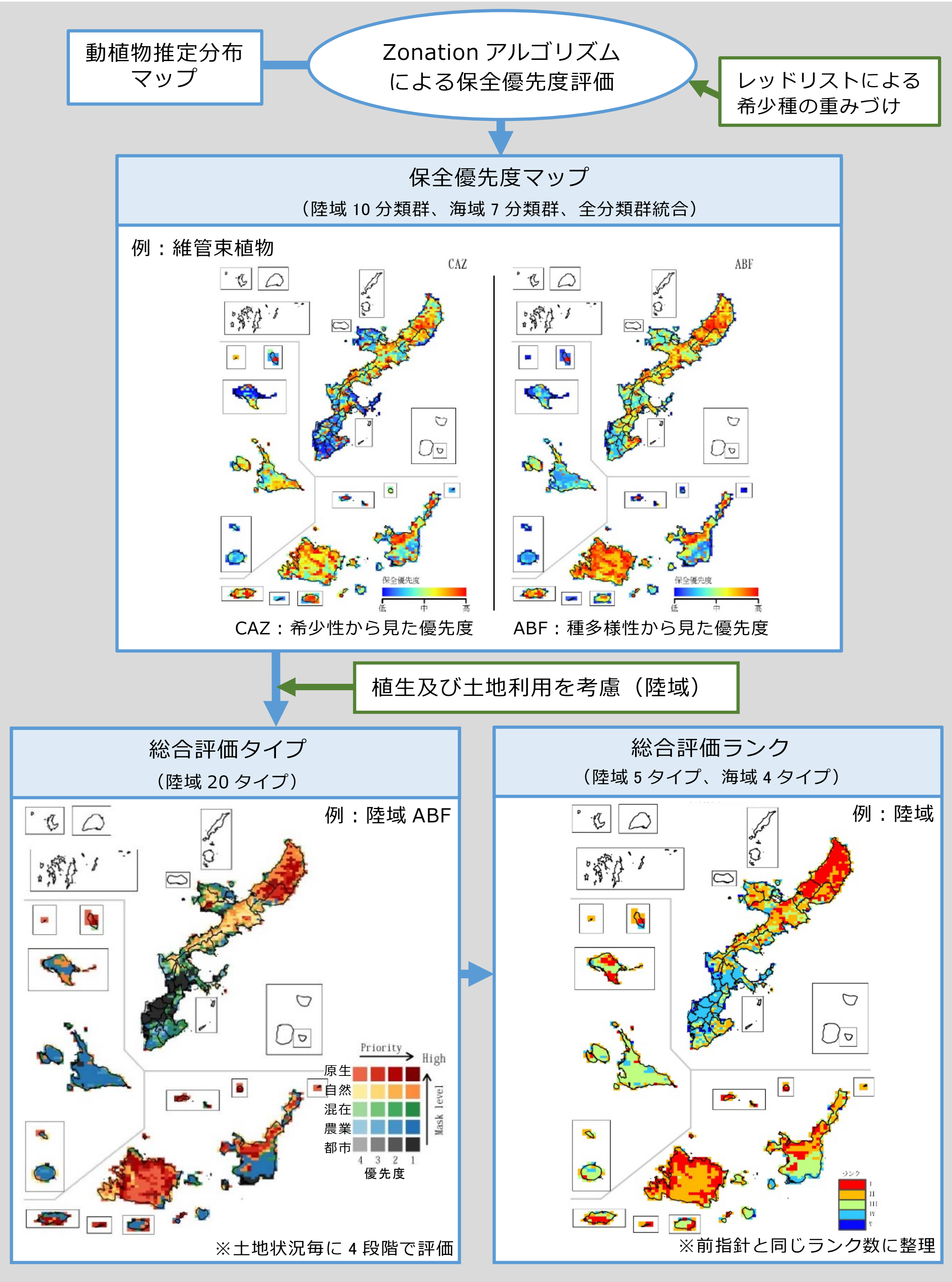
（８）環境配慮方針（第２章－６に詳述）

上記（３）～（７）より、特に配慮すべき情報（総合評価ランク・タイプ、保全優先度の高い分類群、保護区等の設置状況、特異な自然環境、重要種の分布）を環境配慮方針として地域区分ごとに取りまとめた。

（９）環境カルテ（第３章に詳述）

地域の生物多様性の保全や利用に活用できるよう、上記の（３）～（８）を地域区分ごとに環境カルテとして一覧化した。地域区分は陸域では３次メッシュ単位、海域では海域区分単位とし、陸域 355、海域 52 の環境カルテを作成した。

環境カルテには当該地域の環境条件や自然環境保全利用における留意事項が概略的かつ網羅的に示されており、自然環境の保護施策、開発事業における保全措置、自然の利活用、地域の自然ブランド発掘等を検討する際の参考資料としての活用を期待するものである。



第２章　評価手法等

１．生物多様性

（１）生物多様性の概念

生物多様性は、いくつかの生物学的な要素を含む。例えば、植物・無脊椎動物・脊椎動物など様々な生物分類群における種の豊富さ、生物種と物理的環境の相互作用で構築された生態系の豊かさ、および生物種の進化履歴や種個体群が有する系統的多様性あるいは遺伝的多様性の豊かさなどで定義される。さらに、ある生物分類群の多様性は、その他の分類群のハビタット形成や餌資源提供に寄与するので、各生物分類群はお互いの種多様性を支え合う。また、種の個体群は、それを構成する個体の遺伝的多様性によって健全に保たれるので、種個体群の遺伝的多様性は種多様性の保持に寄与している。このような観点から、ある地域の生物多様性とその永続性を評価する場合、生態系の基盤分類群として機能する植物の空間分布や、生態系のアンブレラ種と考えられる脊椎動物や無脊椎動物の空間分布、進化的に特異な生物の空間分布を定量することが重要になる（久保田ほか 2017）。さらに、地域で観察される生物多様性パターンは、生物種や生態系が提供する様々なサービスにも直結する。したがって、生物多様性パターンと永続性の評価は、私たちの地域社会の持続可能性を理解することにもつながる。

東アジア島嶼は、地史的な陸橋形成や島嶼化によってアジア大陸と分断や連結を繰り返しており、個々の島々は特異な歴史を辿って生物相を育んできた（Kubota et al. 2014; Lehtomäki et al. 2018）。特に琉球諸島は、亜熱帯気候に適応した森林、河川、マングローブ、サンゴ礁など多様な生態系が存在し、温帯性と熱帯性の生物が同所的に分布している。このため、琉球諸島の生物多様性は、進化的あるいは生態学的な固有性の高さで特徴づけられる(Millien-Parra & Jaeger 1999; Kubota et al. 2015; 2017)。実際、琉球諸島の固有種は、それらの特徴的な形態や生態特性から、地域的な象徴種として注目されやすく、一般の人々にも身近な存在であることも少なくない。一方、琉球諸島の固有種の多くは、概して希少であり、その絶滅が危惧されている。したがって、沖縄県の生物多様性を評価し、それを適切に保全することは、沖縄県や日本のみならず地球規模での生物多様性を考える上で重要な課題である(Mittermeier et al. 2011; Lehtomäki et al. 2018)。

地域の生物多様性の保全では、生態系の価値と機能を評価し、保護区の設置や利用規制を行うことが有効である(Kusumoto et al. 2017)。従来、保護区を設置する際、場所ごとの風致性、植生タイプ、土地の利用履歴などが考慮されてきた。しかし、前述したような様々な生物学的要素を含む生物多様性を保全する場合、生態系を構成する個々の生物種レベルでの保全を基盤に考えることが有効である(久保田ほか 2017)。したがって、生物種の組成によって、各空間の保全上の価値が評価されるべきである。このような種レベルの生物多様性の評価には、生物種ごとの空間分布を精確かつ詳細に把握することが不可欠となる。特に、琉球列島の島々はお互いに同様の気候環境にありながら、島ごとに固有で希少な生物相を発達させている。このことは、特に琉球列島における生物多様性保全を考える上で、風致性や植生による評価だけでなく、生物地理学的プロセスの理解に基づいた計画の重要性を示している（Ladle & Whittaker 2011）。

（２）生物分布データの収集と整理

生物種の分布に関するデータの収集と整理は、図２−１−１に示す手順で行った。なお、本指針における解析プロセスは久保田ほか（2019）でも解説している。

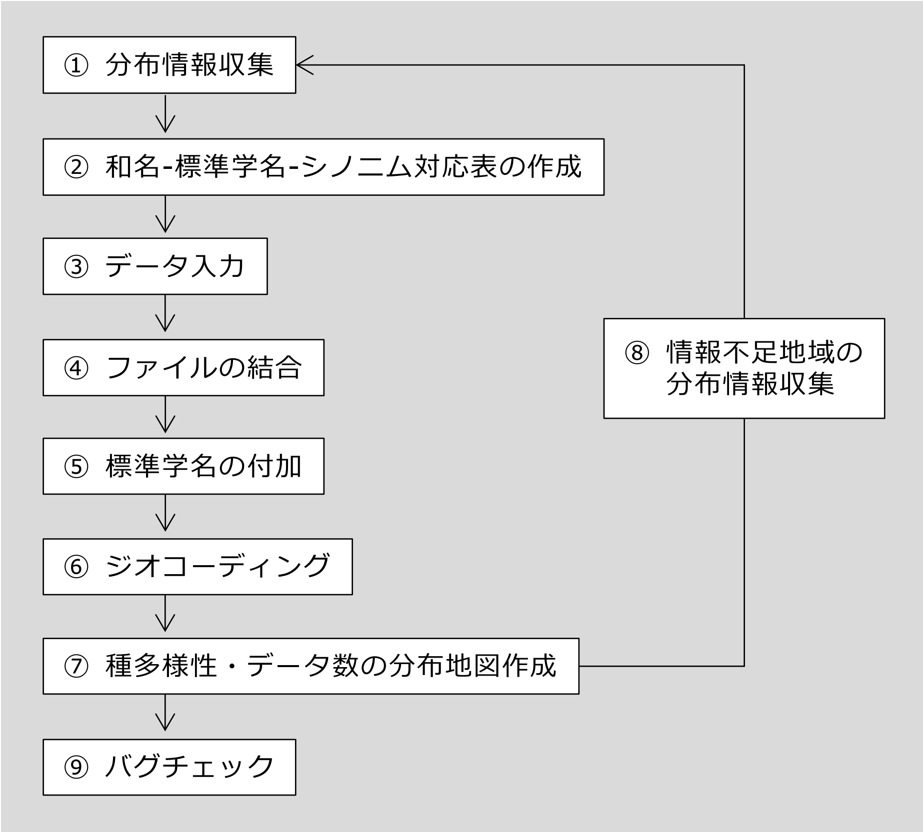


図 2－1－1．生物分布データの収集・編集の手順

① 分布情報収集

生物の分布に関する情報は本質的に不十分で、全生物種を網羅する生物多様性データベースの構築は現実的に不可能である(Hortal et al. 2015)。よって、生物多様性の保全計画を検討する場合、特定の分類群、保全上重要な種群（絶滅危惧種や象徴種など）を生物多様性の指標にする。これは生物多様性のサロゲート（surrogate：代替指標）と定義され、保全優先地域の特定や順位付けにおいて重要である（久保田ほか 2017）。そこで、本プロジェクトでは、沖縄県の生物多様性を特徴付ける陸域の 10 の生物分類群と、海域の 7 つの生物分類群の全種をサロゲートにした（維管束植物、陸産哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、チョウ類、トンボ類、淡水および陸産貝類、淡水および陸産甲殻類、海産爬虫類、沿岸魚類、海産貝類、イシサンゴ類、海産甲殻類、海草藻類、海産哺乳類）（表 2－1－1）。

様々な生物分類群の空間分布情報は、個々の研究者によって行われてきた自然史調査、自治体レベルで編纂された郷土史、開発事業に伴う環境アセスメントなどで蓄積されてきた。そこで本プロジェクトでは、陸域と沿岸海域のサロゲート分類群について、種の分布が記載されている文献（原著論文や環境アセスメントなど様々な報告書など）を網羅的に

収集した。また、種の分布情報を含む様々なデータベースを探索し、利用可能なデータをダウンロードして収集した。その後、文献やデータベースを個別に精査して種の分布情報を確認した。更に、行政等の行った生物調査（非公開データ）については、環境アセスメント、河川整備計画に関するデータに限って、可能な限り行政機関より収集した。これらの資料の詳細は第 4 章に示した。

表 2―1―1．分類群別収集データ数（宮古・久米島）

分類群		データ数		現地調査寄与率(%)	全種数	[参考]外来種数
		文献	現地調査			
1	維管束植物	16,077	5,137	24.2	996	292
2	哺乳類（海産含む）	170	20	10.5	15	7
3	鳥類	6,981	209	2.9	339	11
4	爬虫類（海産含む）	1,468	100	6.4	48	14
5	両生類	494	76	13.3	10	3
6	淡水魚類	754	72	8.7	46	13
7	チョウ類	2,048	202	9.0	70	17
8	トンボ類	1,047	115	9.9	46	9
9	淡水および陸産甲殻類	1,044	176	14.4	41	0
10	淡水および陸産貝類	1,344	144	9.7	103	22
11	沿岸魚類	1,024	127	11.0	377	2
12	海産貝類	1,618	2,511	60.8	701	2
13	イシサンゴ類	124	0	0.0	91	0
14	海産甲殻類	1,650	1,816	52.4	470	0
15	海草藻類	1,264	1,670	56.9	308	0
合計		37,107	12,375	25.0	3,661	392

② 和名-標準学名-シノニム対応表の作成

生物種によっては、多くのシノニム（別名）が存在する場合がある。後述する分布情報を記載している文献やデータベースにも異なる和名や学名の情報が含まれていることが多い。したがって、生物分類群の種リストとして、和名-標準学名対応表とシノニム-標準学名対応表を作成した。これは、後述する種の分布情報のデータ入力に関わる過誤を軽減する意図もある。また、学名の入力に比較して、和名の入力はタイプミスが少なくなるという利点もある。標準学名は分類群ごとに以下のデータベースおよび図鑑に準拠した。維管束植物は米倉・梶田（2003）<http://ylist.info>、哺乳類は阿部・石井・金子・前出・三浦・米田（2005）、鳥類は日本鳥学会（2012）、両生爬虫類は日本爬虫両棲類学会（2015）<http://herpetology.jp/wamei/index_j.php>、魚類は中坊（2013）、イシサンゴ類は西平・Veron（1995）、貝類・甲殻類・海草藻類は国土交通省(2007)、河川環境データベース（河川水辺の国勢調査）<http://mizukoku.nili

m.go.jp/ksnkankyo/>、JODC(2013) <http://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/JODC_J-DOSS>。また、今回の分析では、標準学名は種レベルとしたが、絶滅の恐れのある野生生物種のリストとして環境省や地方公共団体などが発表しているレッドリストは亜種変種レベルで作成されている。したがって種リストのファイル編集では、標準亜種や変種名も含めて整備した。なお、種レベルの学名はついていないが、和名が与えられて別種として認知されている（特に魚類、貝類に多い）分類学的不確実種は、本プロジェクトでは種とみなし分析に含めた。一方、種レベルまで同定されていない分布情報については、今回の分析データには含めなかった。

③ データ入力

収集した生物種分布情報について、標本や観察データの標準交換形式である Darwin core（Wieczorek et al. 2012）<https://www.tdwg.org>に基づき、文献 ID、種名（和名または学名）、標本採取地・観測地の市町村名、緯度経度情報（文献中に記載がある場合のみ）、イベント発生の年月日（データが取られた年月日）、収集方法（標本、観察など）の情報を収集した。なお、文献における分布情報の記述は不規則で、分布の空間解像度も市町村レベルや島レベルなど様々である。したがって、この過程では、分布情報の空間解像度も精査し、3 次メッシュ（約 1×1km）精度に統一した形式でデータを整備した。なお、空間解像度の低い分布データも電子化は行い、様々な空間スケールでの種分布図作成に対応できるようにした。

④ ファイルの結合

各文献から抽出した分布情報（種名と地名情報）を入力した後、一つの CSV ファイルに結合し、種分布データのマスターファイルを編集した。なお、文献の文章中に種の分布情報が記載されている場合や、種名と地名が一対一対応している表の場合は、リスト形式で入力した。縦列に種名が、横列に調査地点名が記入されている表の場合は表のまま入力し、後に統計分析ソフト「R」を用いて縦展開し、リスト形式と同様の形式に整備した。文献情報は別ファイルにまとめ、Darwin core（Wieczorek et al. 2012）<https://www.tdwg.org>に基づき、文献 ID とともに言語、著者名、タイトル、雑誌名、年号、巻、号、ページ、出版元、出版元住所、文献区分（論文、書籍、報告書データベース、環境アセス資料）の情報を整備した。

⑤ 標準学名の付加

種分布データのマスターファイルからも種名リストを生成し、和名-標準学名対応表とシノニム-標準学名対応表をもとに、標準学名と対応しない種（unknown species）を特定した。unknown species に対応する標準学名を探索し、種分布データのマスターファイルの生物種情報の完全性を逐次的に向上させた。

⑥ ジオコーディング

次に、種分布データのマスターファイルに含まれる地名情報の地理座標（緯度経度）を特定する作業（ジオコーディング）を行った。ここでは、地名リストデータと自動ジオコーディングシステムをもとに、地名に対応した緯度経度データを割り当てた。なお、このシステムではジオコーディング精度も算出され、3 次メッシュ（約 1km 四方）精度でジオコーディングできなかったデータは排除した。緯度経度を特定できなかった地名については、国土地理院地図等を使用して手作業による検索を行って、地理座標を特定した。なお、文献などに調査地点が図示されている場合は、GIS ソフトのスーパーマップを用い、分布地図のジオリファレンスを行い分布情報の緯度経度情報を特定した。沿岸域は地名情報がないため、文献に記載されている浜名や海岸名に基づいて、海岸線沿いの海上の緯度経度を与えた。

⑦ 種多様性・データ数の分布地図作成

種分布データのマスターファイルに含まれる種名と緯度経度情報が整った後、種数および分布データ密度を地図化した。

⑧ 情報不足地域の分布情報収集

⑦での地図化により、分布データの空間的偏りや分類群や種の偏り（データバイアス）を明らかにし、分布が不足している種や地域について文献情報のさらなる収集を行い、分布データの完全性の向上を図った。同時に、生物分類群ごとに、2 次メッシュ（約 10×10km）、5 倍地域メッシュ（約 5×5km）、3 次メッシュ（約 1×1km）、海域区分ごとの面積あたりのデータ密度地図を作成して情報不足地域を特定し、現地調査の計画立案にフィードバックした（図 2－1－2、図 2－1－3）。なお、本指針における海域区分は、前指針である「自然環境の保全に関する指針」における海域区分及びサンゴ礁資源情報整備事業（沖縄県文化環境部自然保護課、平成 21～23 年度）における海域区分を参考に、一部修正を加えたものである。

宮古・久米島の現地調査（陸域、海域）は、平成 31 年度及び令和 2 年度の「生物多様性おきなわブランド発信事業」にて実施した。陸域は、維管束植物（31 地点）、陸域脊椎動物（31 地点）、河川生物（魚類・底生動物；61 地点）についてインベントリー調査を実施した。その他の無脊椎動物は、上記の調査時に目視確認された種類について、補足的に記録を行った。海域は、藻場（海草藻類・海産甲殻類・海産貝類；19 地点）、干潟（海草藻類・海産甲殻類・海産貝類；46 地点）について、インベントリー調査を実施した。

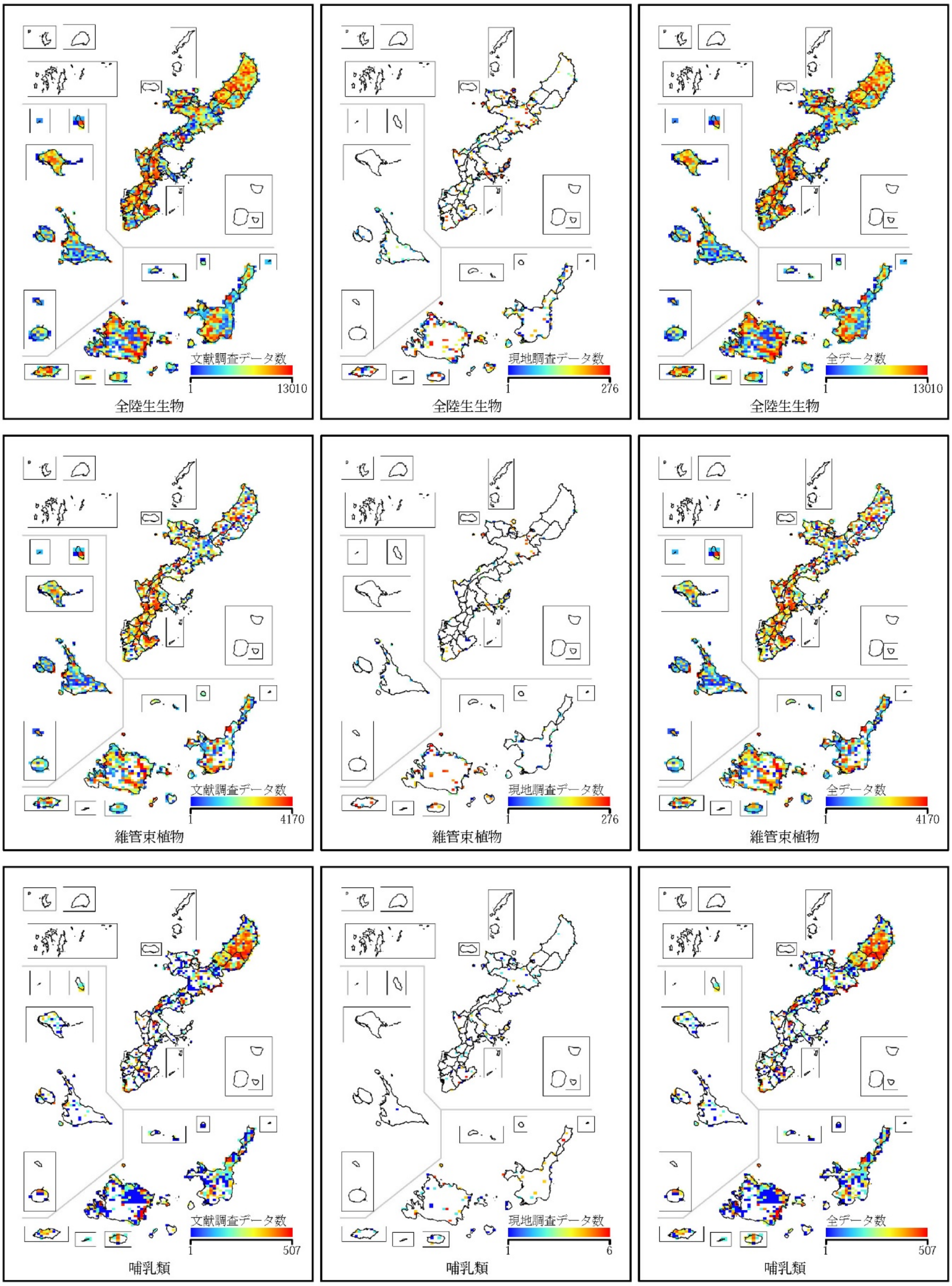


図２−１−２（1）．データ密度分布図（陸域・３次メッシュ単位）

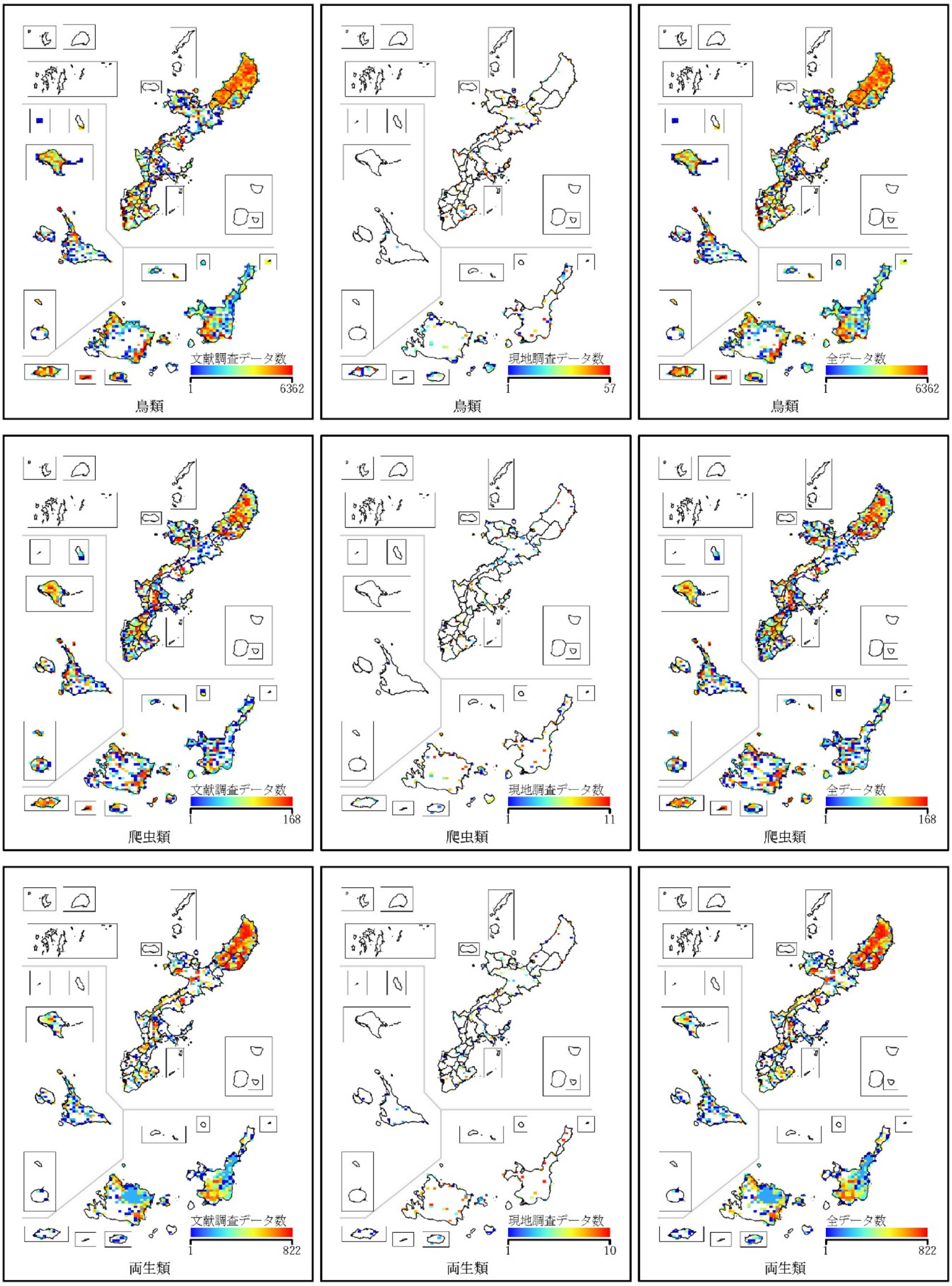


図 2－1－2（2）．データ密度分布図（陸域・3 次メッシュ単位）

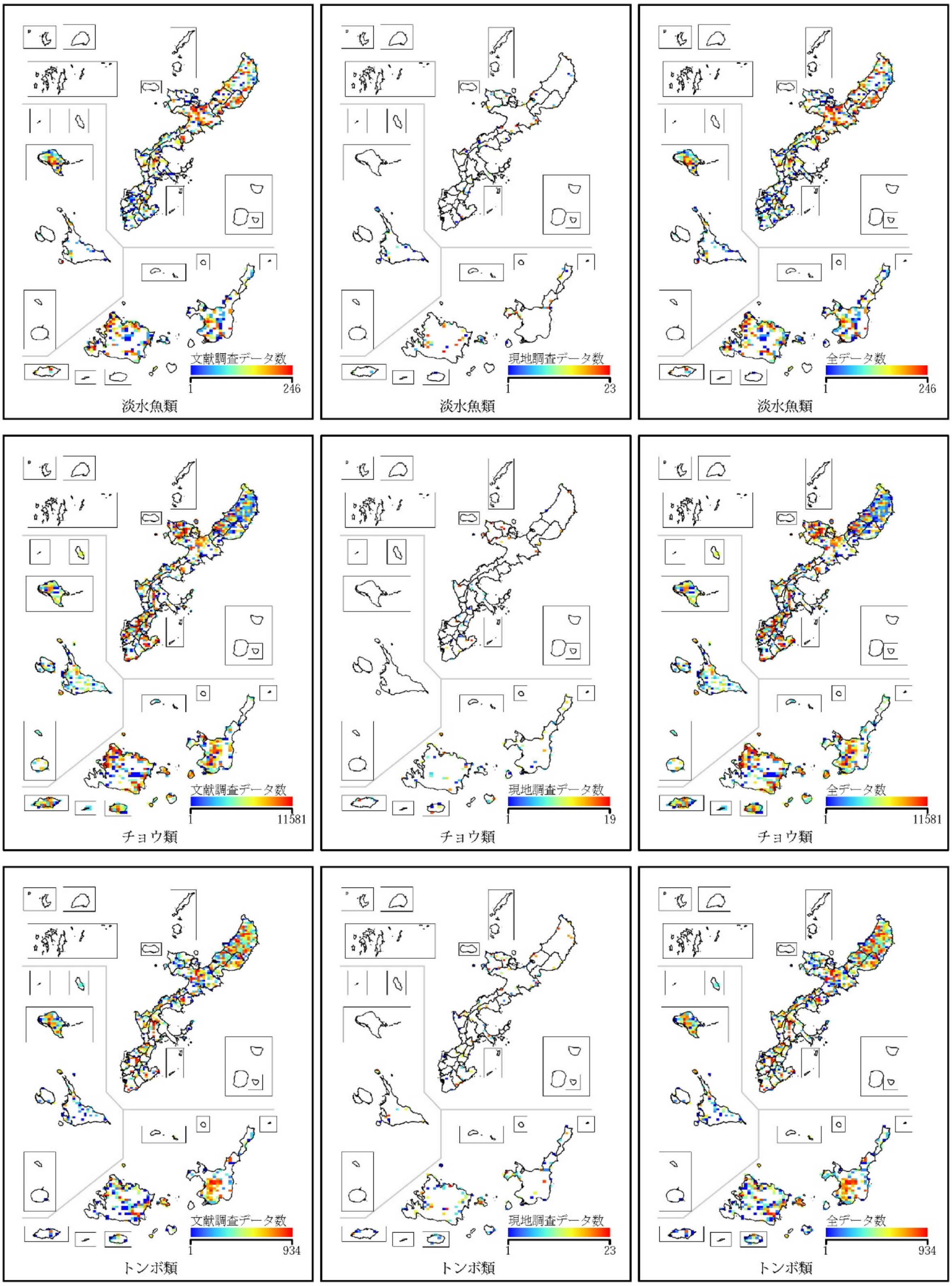


図 2－1－2（3）．データ密度分布図（陸域・3 次メッシュ単位）

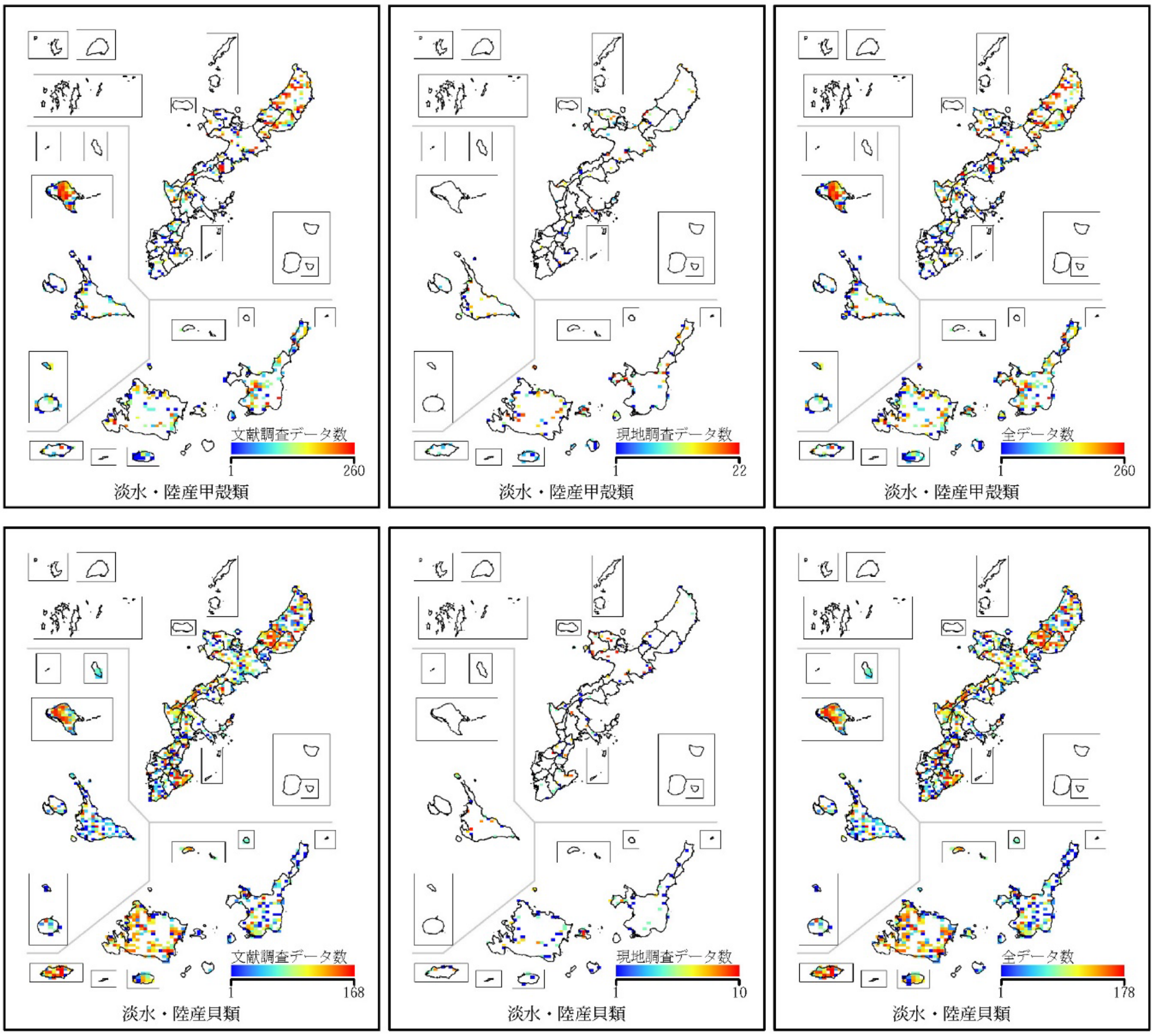


図 2−1−2（4）．データ密度分布図（陸域・3 次メッシュ単位）

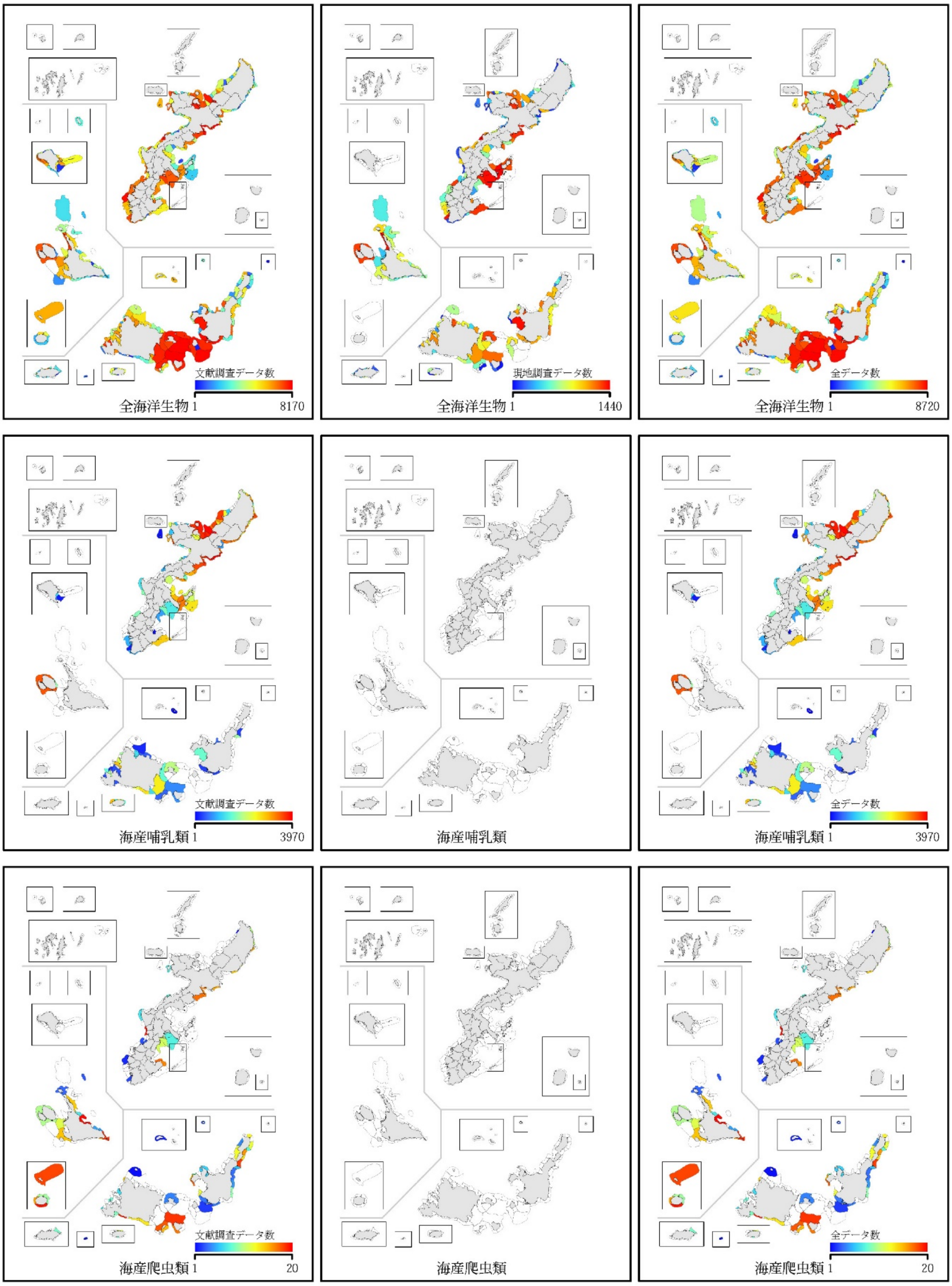


図 2−1−3（1）．データ密度分布図（海域・海域区分単位）

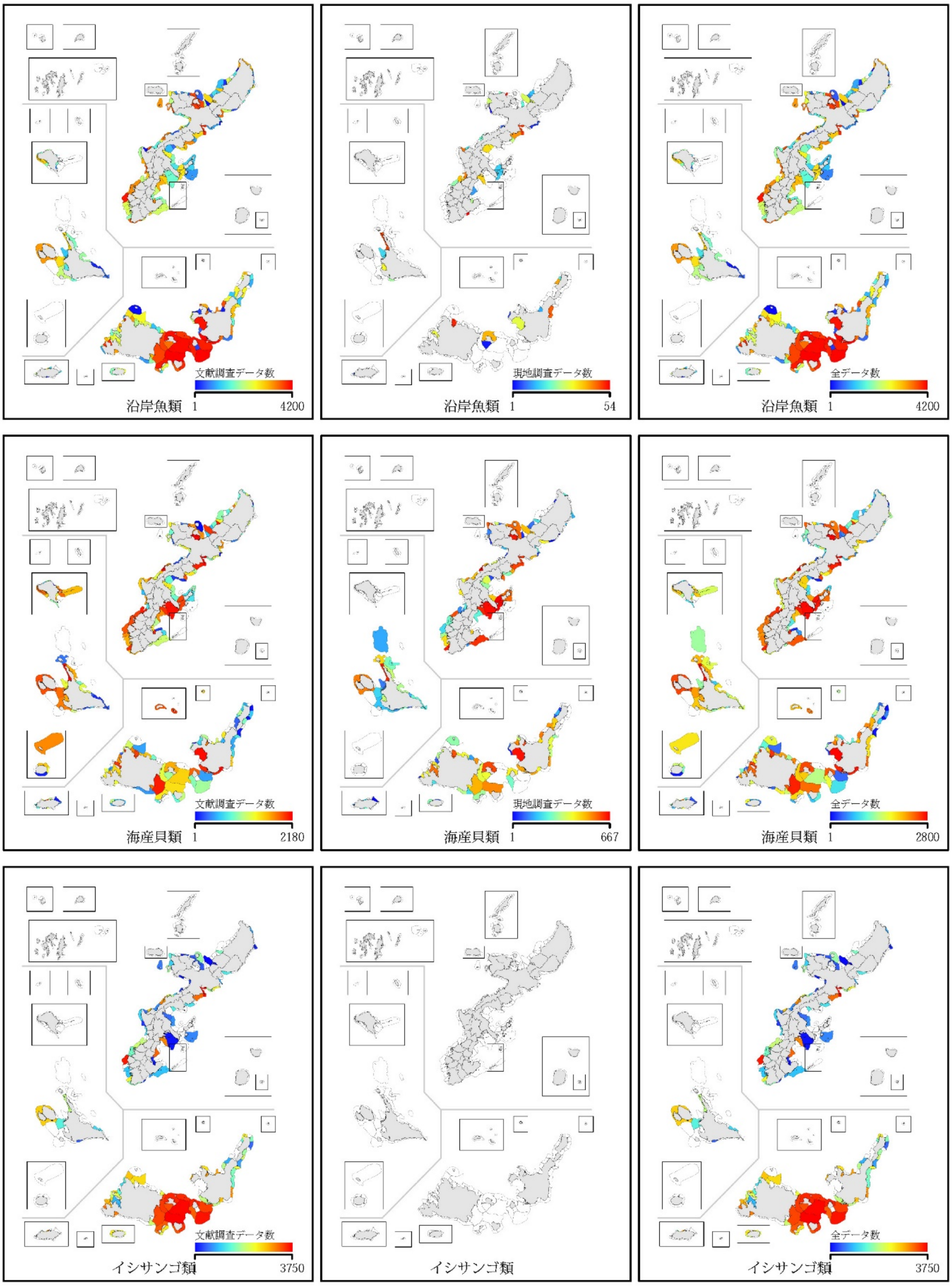


図 2－1－3（2）．データ密度分布図（海域・海域区分単位）

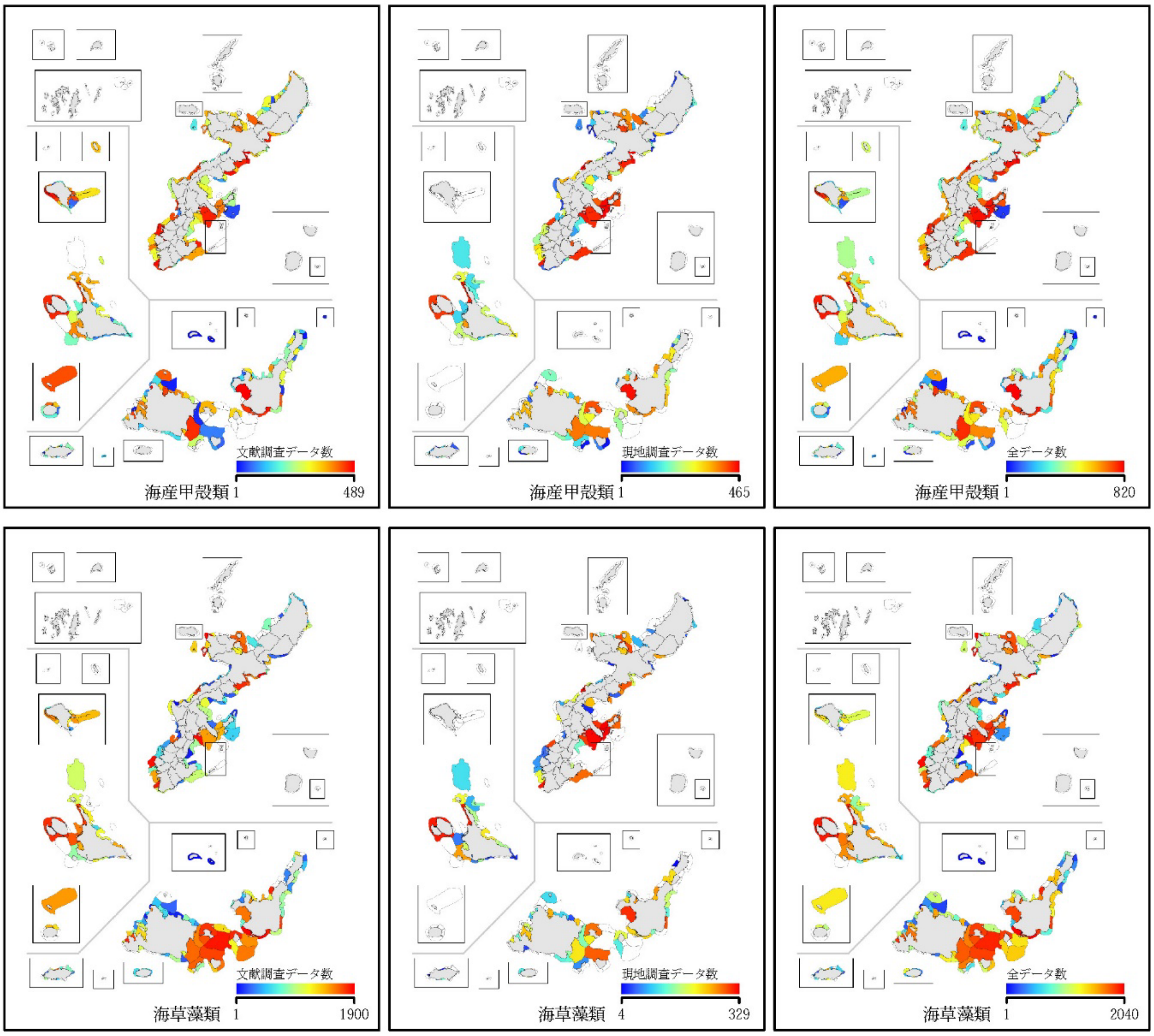


図 2－1－3（3）．データ密度分布図（海域・海域区分単位）

⑨ バグチェック

分布データのバイアスがある程度緩和された後、種ごとの分布図を作成し、種の分布域を記載した文献情報（図鑑データなど）をもとに、データ中の過誤を精査した。分布データを検証する際には、２つの過誤に着目した：a）本来分布しない地点のはずなのに、分布していることになっている（commission error）; b）分布している地点のはずなのに、分布がないことになっている（omission error）。commission error については分布データを削除し、omission error の場合は、分布情報の探索をさらに進めて分布データの充足を図った。

さらに種分布データには、外来種や誤同定された情報も含まれる。したがって、様々

な文献を基に作成された「沖縄県対策外来種リスト」と、国立環境研究所の「侵入生物データベース」に記載されている種のうち、史前帰化種を含め国外外来種とみなされる種を外来種と定義し、解析用データから削除した。また史前帰化が疑われる種（例えばナズナ、ハコベ、ホトケノザ、ドブネズミなど）も外来種とみなした。

国内移入種の場合、島間で在来か移入か異なる。例えば八重山諸島では在来だが沖縄諸島では移入種という生物も多い。このように各島に分布する種について、在来種と移入種を識別するには、前述した外来種リストは十分でない。したがって、島ごとの在来種のチェックリストを、以下の文献に基づいて別途作成した。維管束植物は初島・天野(1977)、島袋(1997)、哺乳類は阿部・石井・金子・前出・三浦・米田（2005)、爬虫類・両生類は前之園(2007)、淡水魚類は吉郷 (2014)、チョウ類は Hirao et al. (2015)。

なお、鳥類は、沖縄県のある島に分布している種は、他の島でも分布している可能性が高いため、島レベルの種チェックリストは用いずに、沖縄県での迷鳥を除いたものを在来種と定義した。迷鳥の定義は、池長・五百沢(1996)、日本鳥学会（2012)、沖縄野鳥研究会 (2002)に基づいた。なお、維管束植物の海草類、爬虫類のウミヘビ・ウミガメ類などの一部の海洋生物については、陸域のデータ解析と海域のデータ解析の両方に含めた。

種のチェックリストは島ごとの記載であるため、3 次メッシュで整備している分布データに、そのまま適用することはできない。実際、チェックリストによって、島の定義が異なる、例えば、久米島という表記で久米島の周辺離島も含む場合、あるいは、久米島、奥武島、オーハ島と周辺離島を細かく区分している場合などがある。そこで、チェックリストごとに各島と 3 次メッシュの対応表を作成した。その上で、各島の種のチェックリストに基づいて移入種を定義し、在来種以外の種を確認して解析用データから削除した。ただし、ある島で観察データとして記載されている種が、島のチェックリストからは漏れている場合がある。あるいは、周辺離島を含む同じ諸島内の別の島に分布していると記載された種もある。例えば沖縄島と橋でつながっている島などで、自然移住した可能性が高い種もある。このような種の分布データは慎重に検証した上で、解析用データにそのまま残した。また、沖縄の在来種と本土や海外から持ち込まれた外来種の双方が生息している場合もある。例えばギンブナ・ミナミメダカなどは外来種とみなし、解析用データから削除した。ただし、在来種のリュウキュウイノシシと外来種のニホンイノシシも双方が生息しているが、データ上リュウキュウイノシシとなっている分布データは解析用データに残し、イノシシとしか表記されていないものは削除した。ま

た保全を目的に再導入したリュウキュウアユは、本来沖縄島に分布していた在来種として解析用データに残した。

以上のデータをクリーニングする作業により、種分布データのマスターファイルについて、種分布モデリングを適用できる状態にまで整備した。

（３）環境データの収集と編集

陸域の生物と海域の生物種について、後述する分布モデリングを行うために、陸域と海域それぞれで環境データを収集、編集した。環境データは以下の通り、当該メッシュのデータが欠損している場合は、周辺のデータから統計分析ソフト「R」を用いて内挿した。一部のデータについては ArcGIS を用いて 3 次メッシュごとの面積計算を行った。陸域と海域に共通した環境データである緯度と経度は、3 次メッシュの中心として算出、編集した。陸地面積、森林面積、内水面面積は、国土数値情報土地利用 3 次メッシュデータ<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/datalist/KsjTmplt-L03-b.html>から収集した。標高と標高の標準偏差、ラプラシアン（地形の凹凸の指標）、平均傾斜角、海岸までの距離は、国土交通省国土数値情報標高・傾斜度 3 次メッシュデータ<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-G04-a.html>から収集した。なお、海岸までの距離は、3 次メッシュ中心の緯度経度から海岸線までの距離とした。表層土壌の陽イオン交換容量、有機炭素量、土壌 pH を、SoilGrid<http://soilgrids.org/>から収集した。地質は国土交通省の「50 万分の 1 土地分類基本調査 GIS データ」<http://nrb-www.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download/index.html>の表層地質図から収集した。全天日射量の年平均値と日照時間の年合計値は、気象庁メッシュ気候値 2000<http://data.sokki.jmbsc.or.jp/cdrom/mesh_climatic_data/documents/kaisetsu_pdf/kaisetsu_.pdf>から収集した。Bioclim の全 19 変数は、気象庁メッシュ気候値 2000 に記載されている月ごとの降水量、日最高気温の年平均値、日平均気温の平均値、日最低気温の平均値を用いて生成した。なお Bioclim とは、生物の分布生息にとって重要と考えられる気候変数のことである。

海域面積は、国土数値情報土地利用 3 次メッシュデータ<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/datalist/KsjTmplt-L03-b.html>から収集した。平均水深、最深水深、最浅水深は日本海洋データセンター J-EGG500（日本周辺 500m メッシュ海底地形データ）から収集した。表層海水温の年平均値、表層海水温の標準偏差、表層塩分濃度の年平均値は、NOAA WORLD OCEAN DATABASE 2013 から収集した。内湾度は、国土交通省国土数

値情報海岸線データをもとに 5km、10km、15km、20km の 4 スケールで計算して編集した。サンゴ礁面積とサンゴ礁の全体面積、藻場面積、藻場の全体面積、干潟面積、干潟の全体面積は、環境省生物多様性センター自然環境調査 Web-GIS の第 5 回海辺調査データを用いて計算し編集した。なおサンゴ礁の全体面積は、当該 3 次メッシュに含まれるサンゴ礁について、他の 3 次メッシュを含めひとつながりのサンゴ礁である場合、それらを含めた全体面積と定義されている。海岸線長、海浜（砂浜と礫浜）の長さ、海崖の長さ、人工海岸の長さは、環境省生物多様性センター自然環境調査 Web-GIS の沿岸海域変化状況調査から収集した。河口までの距離は、国土数値情報河川データ<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-W05.html>を用いて 3 次メッシュ中心の緯度経度から河口までの距離を算出し編集した。最寄河川の集水面積は、国土数値情報流域メッシュデータ<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-W07.html>を用いて、面積を計算した。

（４）種の空間分布の予測と生物多様性パターンの定量（分布モデリング）

エントロピー最大化法（Maxent アルゴリズム）に基づいた種分布モデルを、分布データに適用して、種の分布予測を行った。分布モデリングソフト（Maxent）は<http://biodiversityinformatics.amnh.org/open_source/Maxent/>からダウンロードし、Java を別途にインストールし使用した。Maxent による種分布モデリングでは、（3）で収集、編集した陸域 40、海域 29 の環境変数をラスター化して用いた（図 2−1−4、図 2−1−5）。

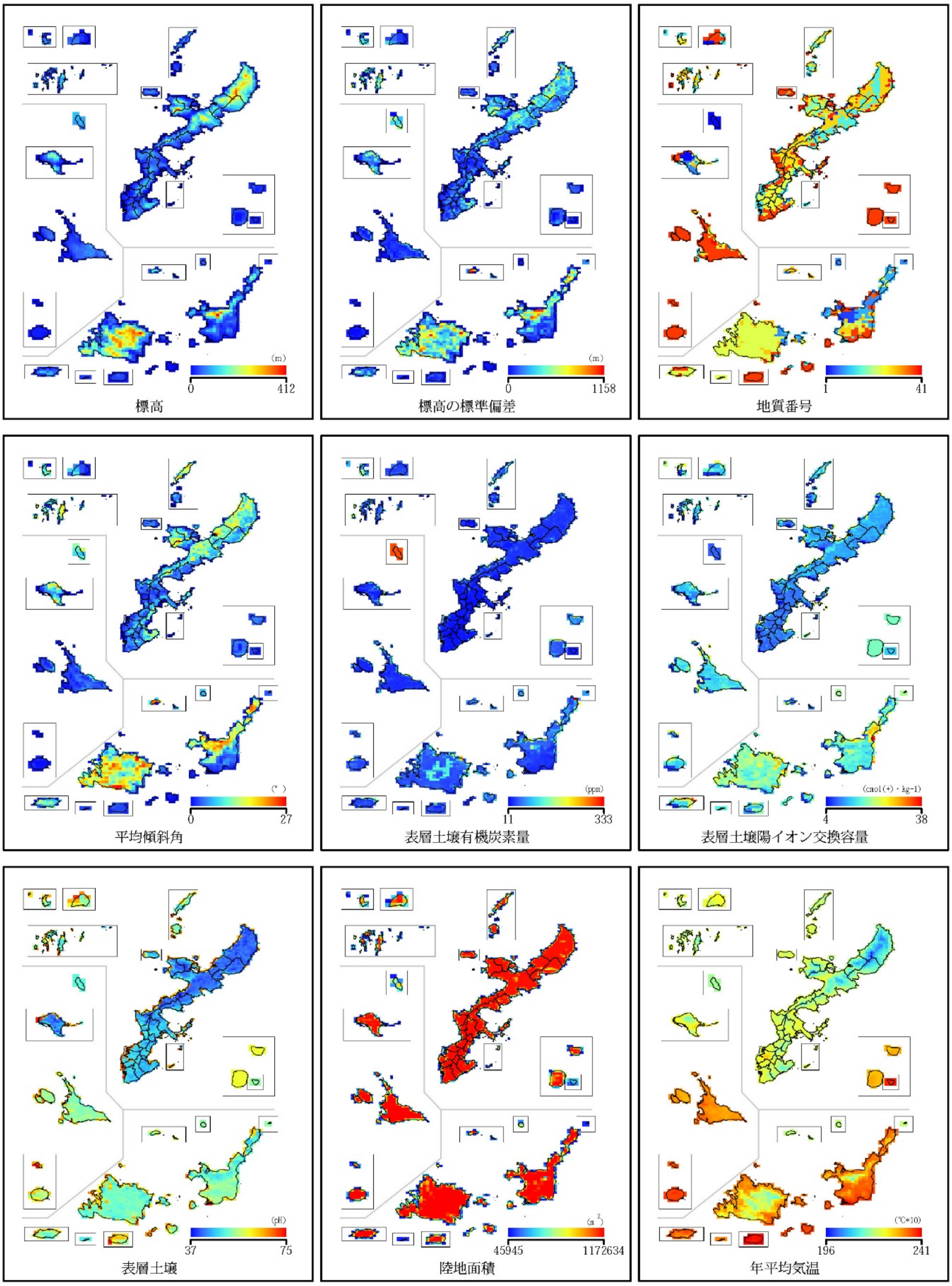


図２−１−４（1）．推定に用いた環境データ（陸域）

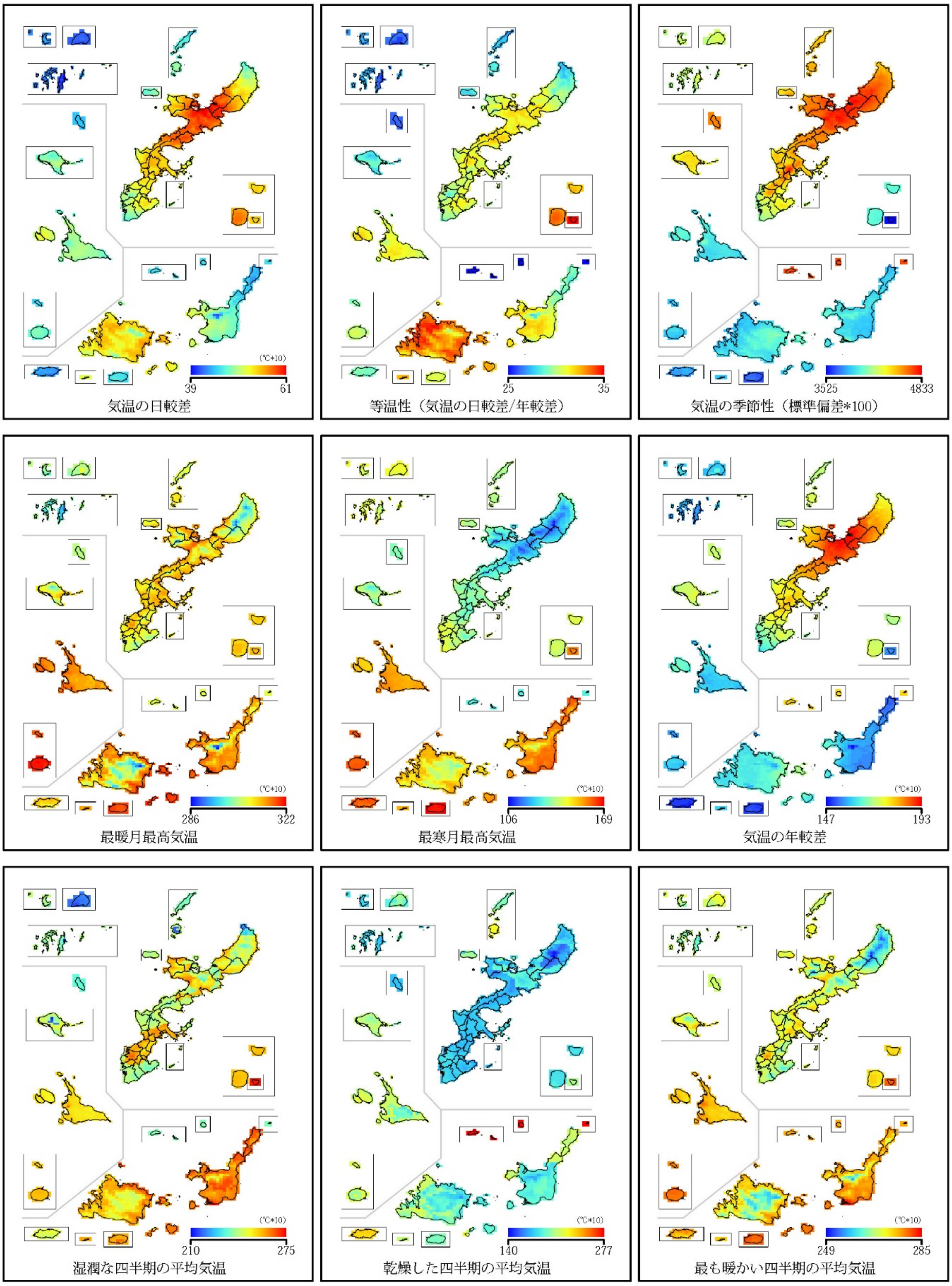


図 2−1−4（2）．推定に用いた環境データ（陸域）

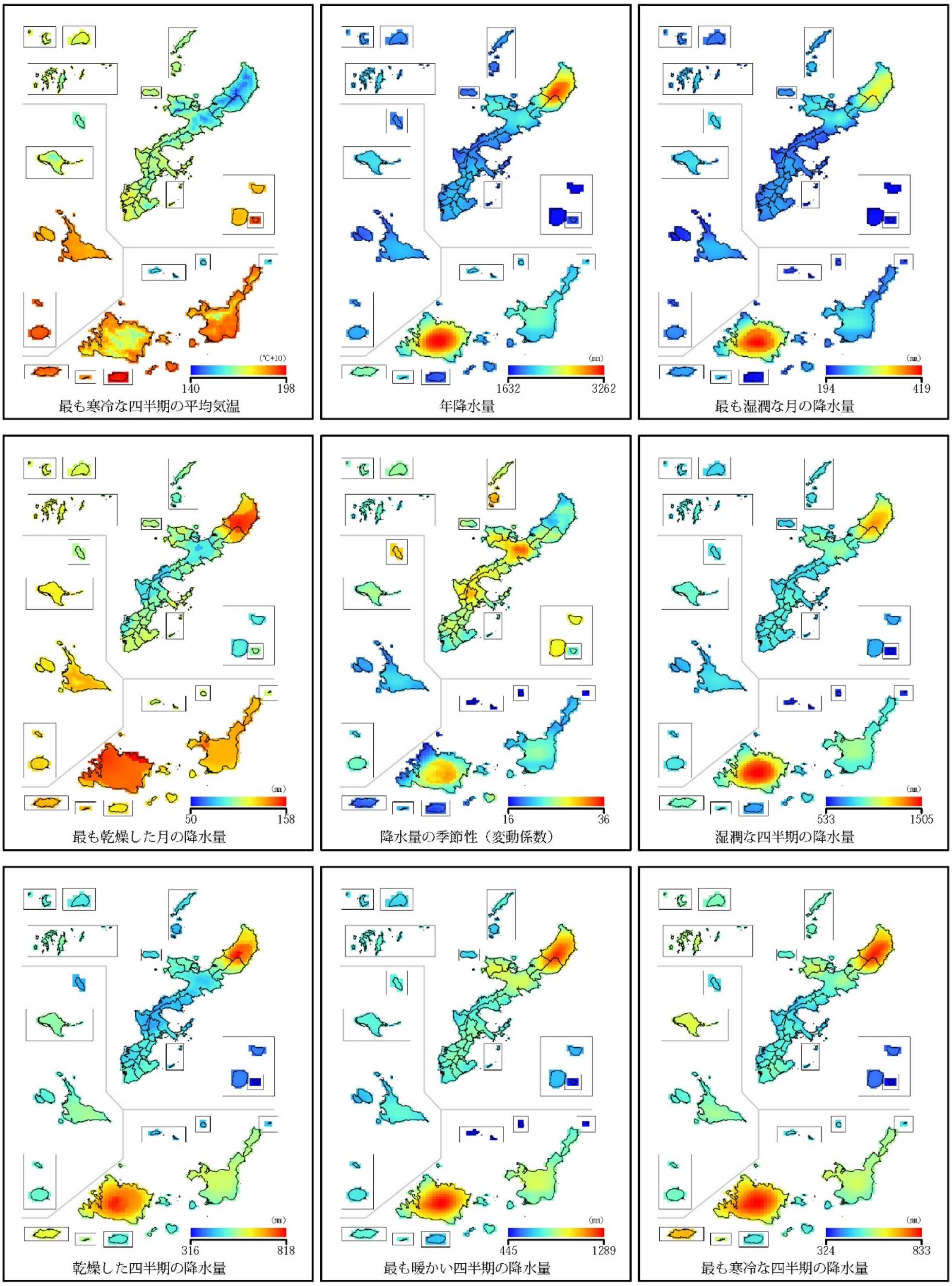


図２−１−４（3）．推定に用いた環境データ（陸域）

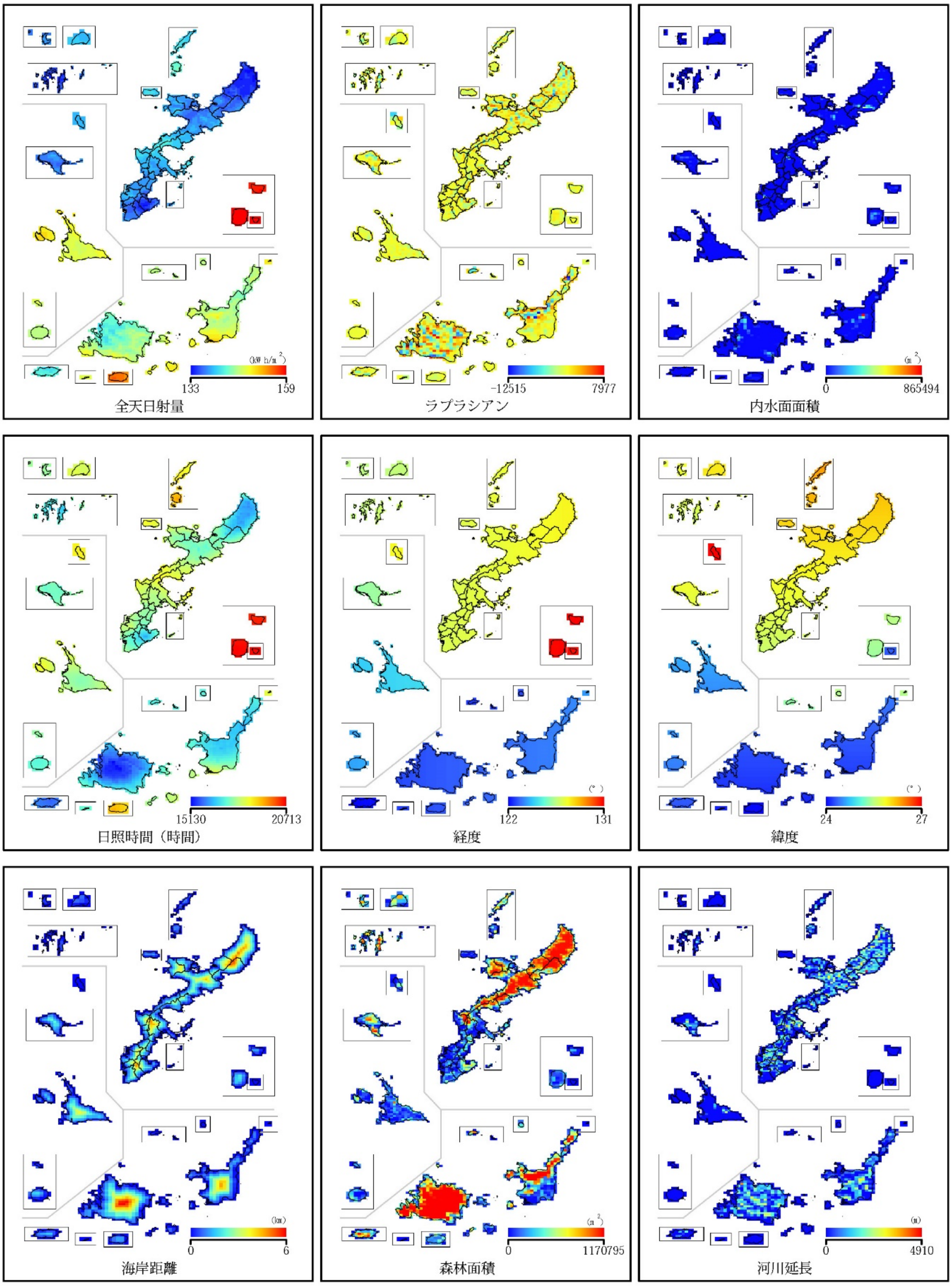


図２−１−４（4）．推定に用いた環境データ（陸域）

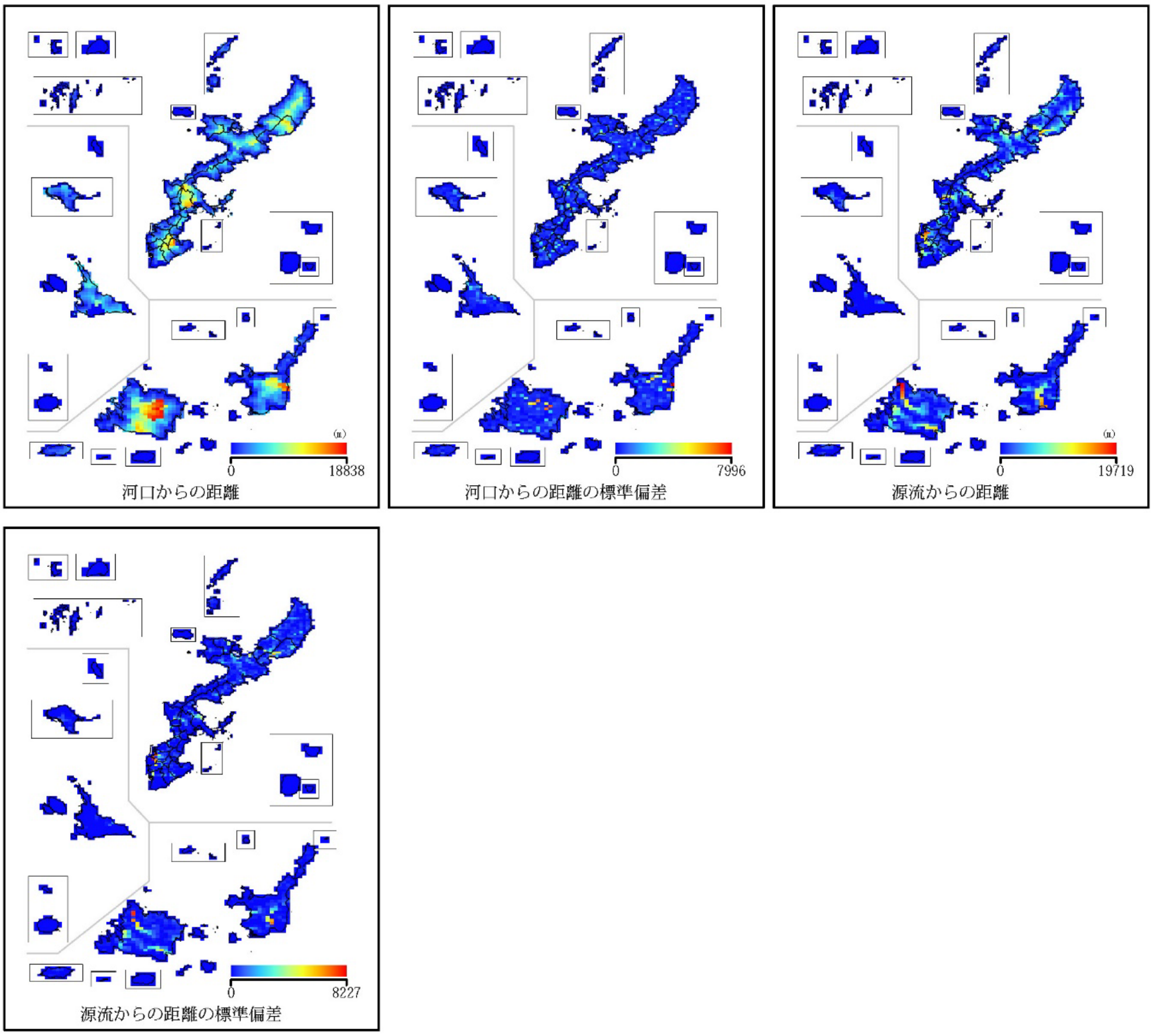


図 2−1−4（5）．推定に用いた環境データ（陸域）

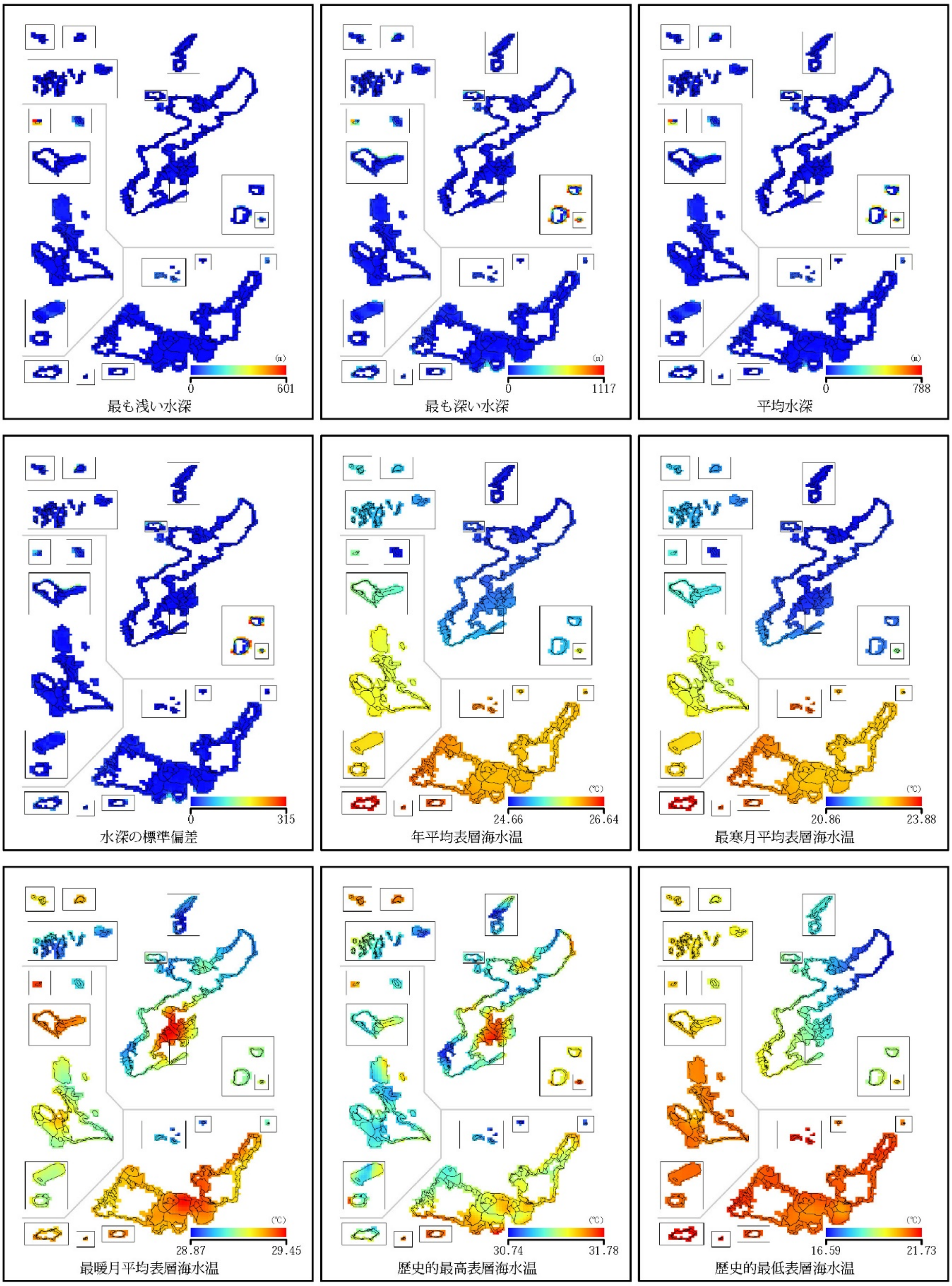


図２−１−５（1）．推定に用いた環境データ（海域）

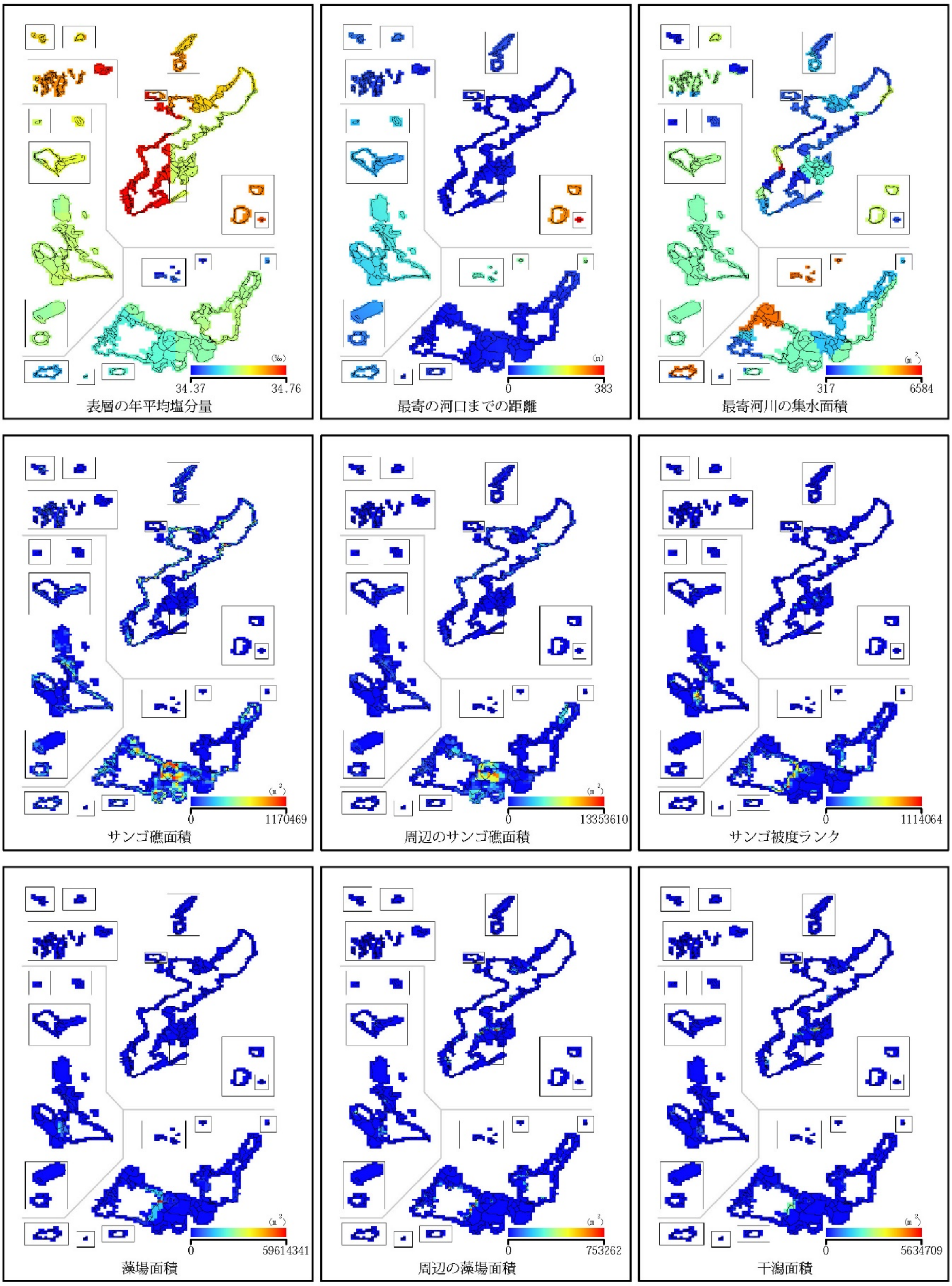


図２−１−５（2）．推定に用いた環境データ（海域）

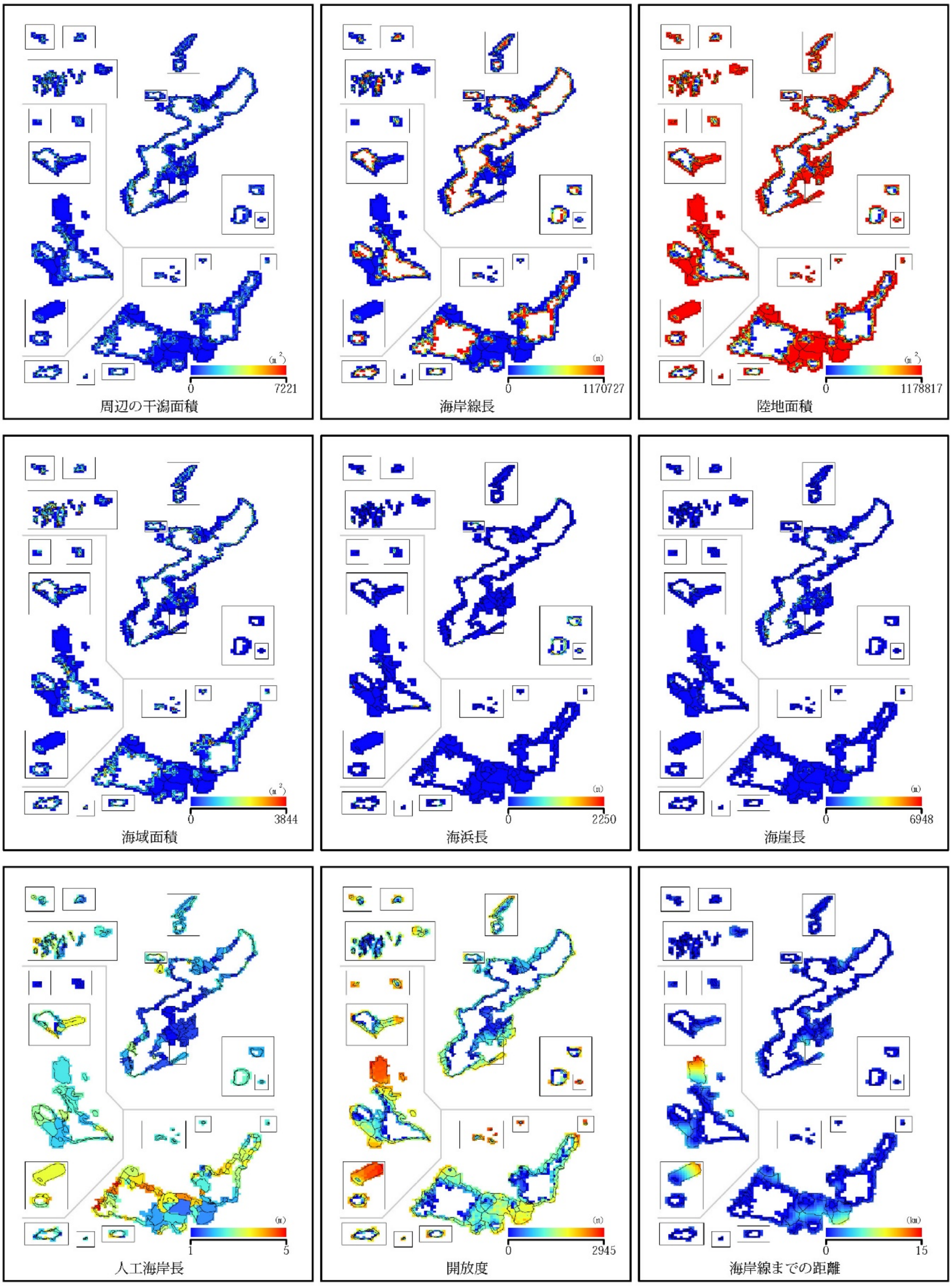


図 2－1－5（3）．推定に用いた環境データ（海域）

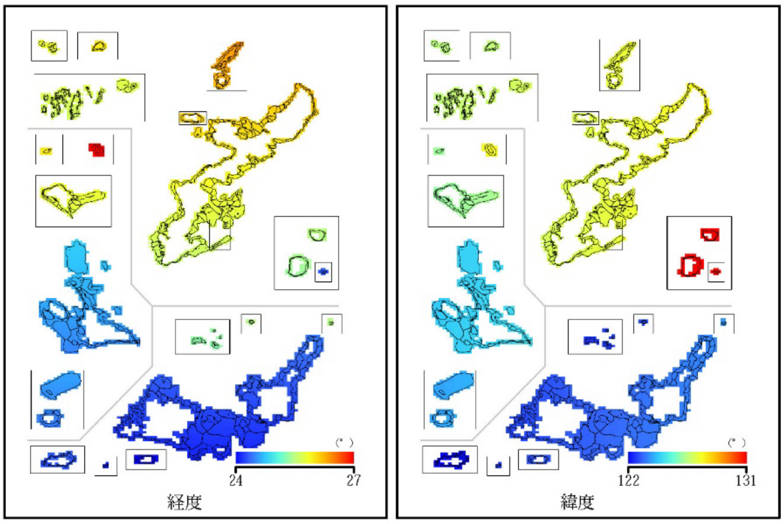


図２−１−５（４）．推定に用いた環境データ（海域）

ラスター化の手順は以下の通りである。

① 各メッシュの緯度と経度の組み合わせを作成する

↓

② 緯度と経度の組み合わせに３次メッシュの番号（ID）を割り当てる

↓

③ ラスター変換用の緯度経度に結合する

↓

④ 分布モデリングで使用する環境データのラスターを作成し、測地系を定義する

↓

③ ラスターファイルをひとつにまとめる

図２−１−６．環境データのラスター化の手順

また、Maxent の分析プロセスは以下の通りである。

① R を用いて沖縄県における環境データ（ラスター形式）と種分布データ（csv 形式）を読み込む

↓

② 分類群毎に 3 次メッシュレベルの種分布データと環境データを抽出する

↓

③ 学名とメッシュ番号に基づいて重複データを削除し、種レベルの分布メッシュ数が 5 メッシュ以上の種と 4 メッシュ以下の種を区分する

↓

④ 種ごとの分布データ数を計算する

図 2－1－7．Maxent アルゴリズムによる分析プロセス

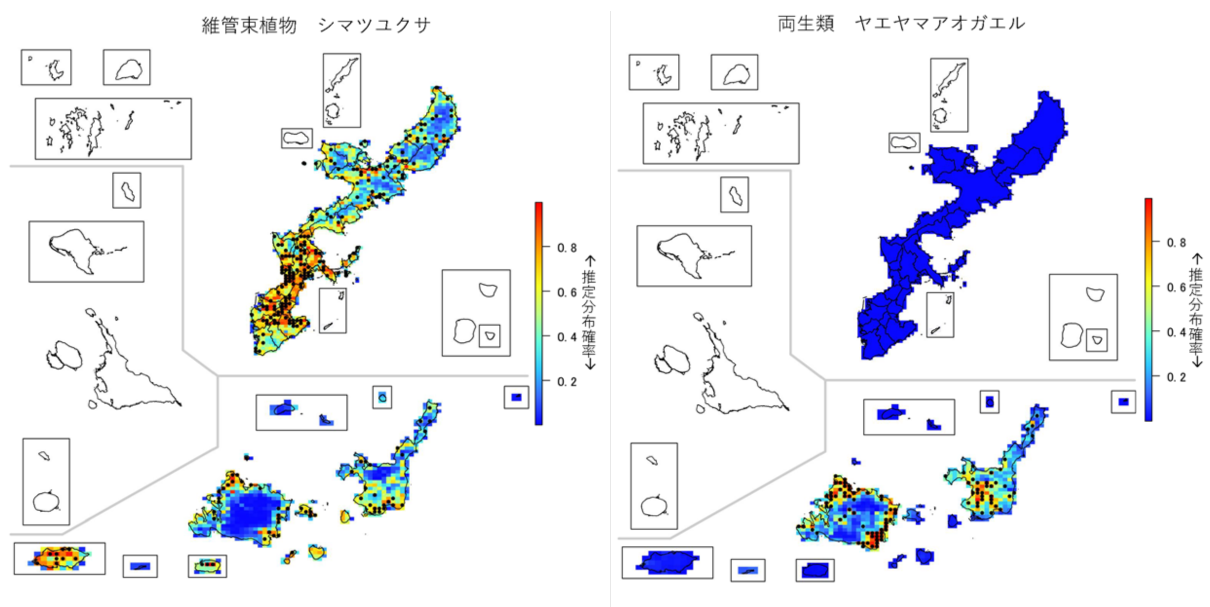
これらにより、Maxent による分布モデルを適用する種と、適用しない種を識別した。なお、図 2－1－7 の③のプロセスは空間的データの偏り（データバイアス）を緩和する意図があり、後述する Maxent の実行においても、同じメッシュにおける重複データは削除した設定（GUI におけるチェック項目の一つ）で分析している。

なお、Maxent はデフォルトの設定で計算を行った。すなわちバックグラウンドの数は 10,000 個、同じメッシュ内で重複する在データを削除し、最適化アルゴリズムの反復回数の最大値は 500 回に設定し、観測値の分布限界より外側の環境空間の領域を外挿して計算した。

Maxent による計算結果（各メッシュにおける種の分布確率に相当する）は、logistic value（ 0 から 1 の値）として算出される。logistic value は Maxent の計算結果の生値 (raw value)をロジスティック関数で変換した値（生値は環境変数に対して指数関数的に増加するため、変換する必要がある）であり、その数値が大きいほど、分布推定を行った種が分布する可能性が高いと解釈される。各メッシュにおける種の分布（在・不在）を予測するため、 0 から 1 の連続値をとる logistic value を種毎の閾値に基づいてバイナリー（二進数； 0 ・ 1 ）化した。各種の閾値は、Maximum training sensitivity plus specificity threshold に基づき、感度（sensitivity）と特異度（specificity）の和が最大になるように設定した。これは、予測の過誤を最小化する概念に基づいている。感度（sensitivity）とは、種が存在すると推定されたメッシュで、実際の分布データでその種が観測されているメッシュの割合で、特異度（specificity）とは、種が存在しないと推定されたメッシュで、実際の分布データでその種が観測されていないメッシュの割合である。これらは、omission error（本来分布している地点のはずなのに、分布がないと推

定されている）と commission error（本来分布がない地点のはずなのに、分布がある推定している）の過誤を最小化する意図があり、Maxent の logistic value の閾値として一般的に用いられる。

以上の分布予測に基づいて、各種（県内全域で合計 9,506 種）の潜在的な分布パターンを地図化した。種分布予測（約 1 x 1km スケール）の結果の例を図 2－1－8 に示す。なお、分布データが 4 点以下の種（局在種）は、種分布予測は行わず、観察データに基づいて分布データがあるメッシュの分布確率を 1 として、それ以外を 0 として分布域を地図化した。そして、生物分類群ごとに、3 次メッシュレベルでの種数マップを作成した。最終的に、生物分類群毎に種の空間分布予測の結果を重ね合わせて、種多様性に基づいた生物多様性地図を作成した（図 2－1－9、図 2－1－10）。なお、海域は海域を区分する圏域に複数の 3 次メッシュが含まれるため、圏域内の推定出現種を合計した種数に基づいて種数を地図化した。



※小黒点は文献調査及び現地調査において存在が確認された地域

図 2－1－8．種分布予測結果の例（シマツユクサ及びヤエヤマアオガエル）

＜種分布予測結果に関する留意事項＞

・本予測は、沖縄県における生物種の確認地点と環境データを統計的機械学習で分析した種毎の分布確率を総和した結果に基づいている。なお、種分布の予測は、種の分布データの空間的な偏り（データの空間バイアス）にも影響される。したがって、調査情報が少ない陸域のメッシュや海域区では、過少な予測種数となっている可能性もある。

・陸域のうち海域を含むメッシュでは、陸地面積の比率が種分布の予測に影響を与える可能性もある。

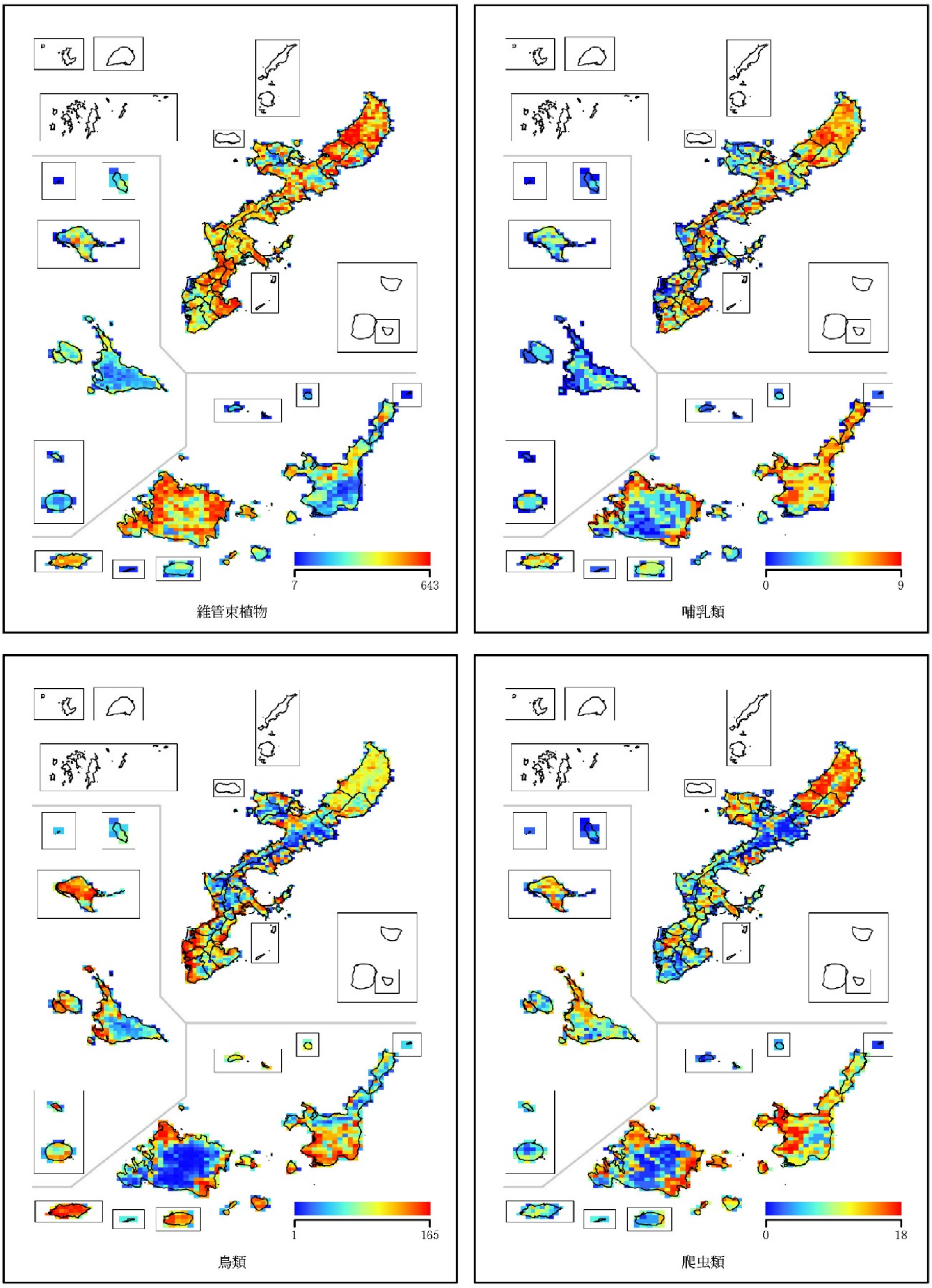


図 2－1－9（1）．分類群ごとの種多様性パターン（陸域）

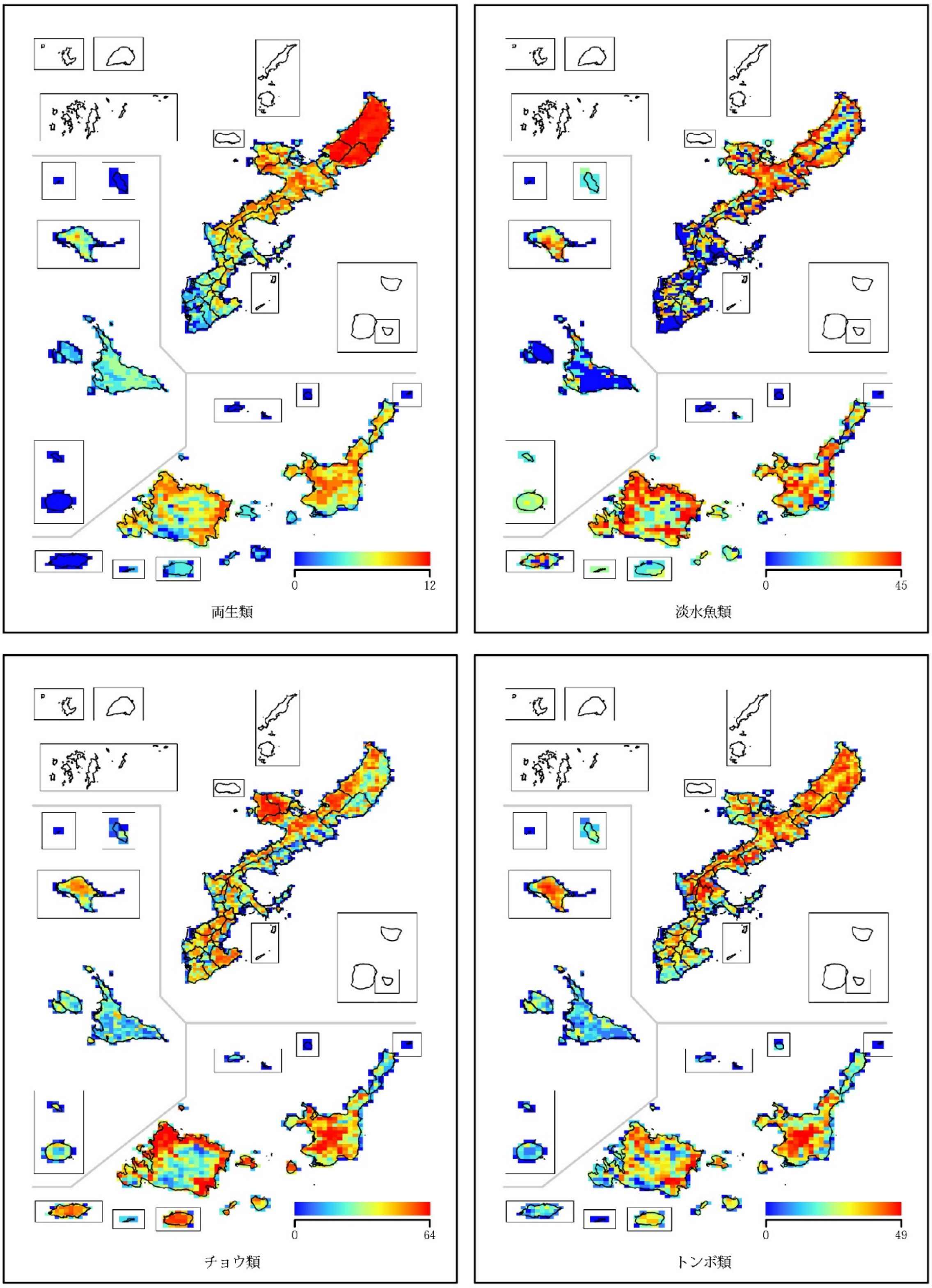


図 2−1−9（2）．分類群ごとの種多様性パターン（陸域）

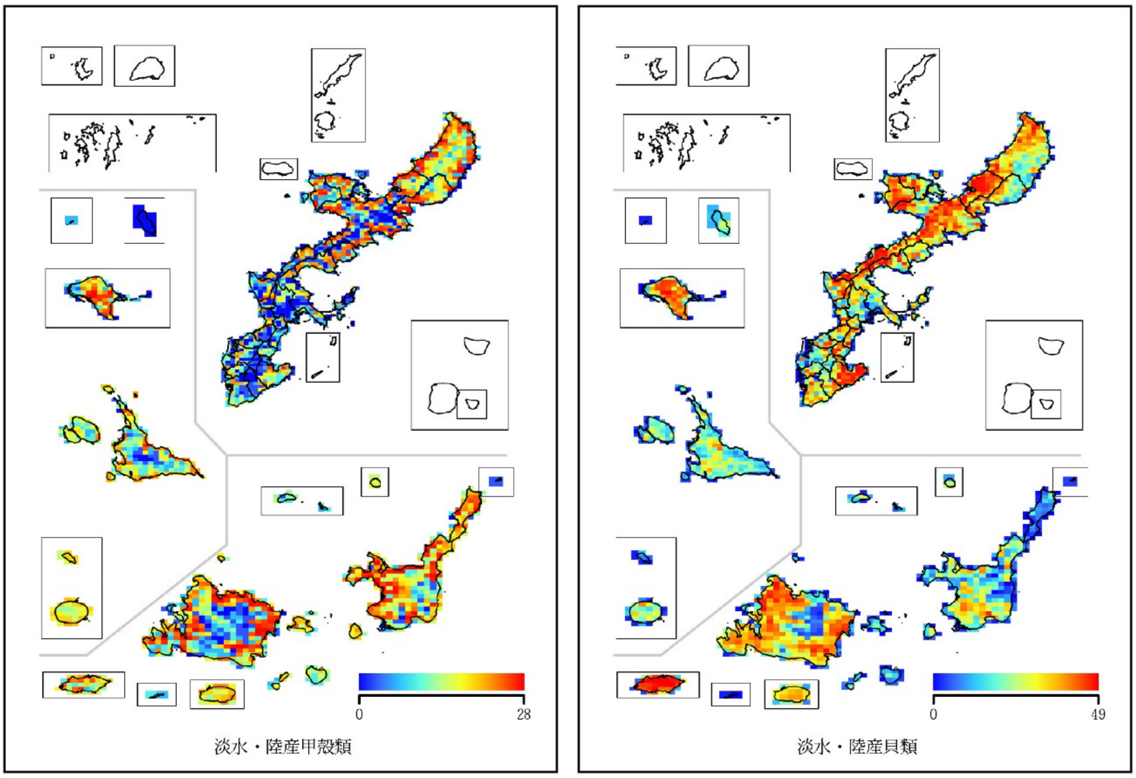


図 2−1−9（3）．分類群ごとの種多様性パターン（陸域）

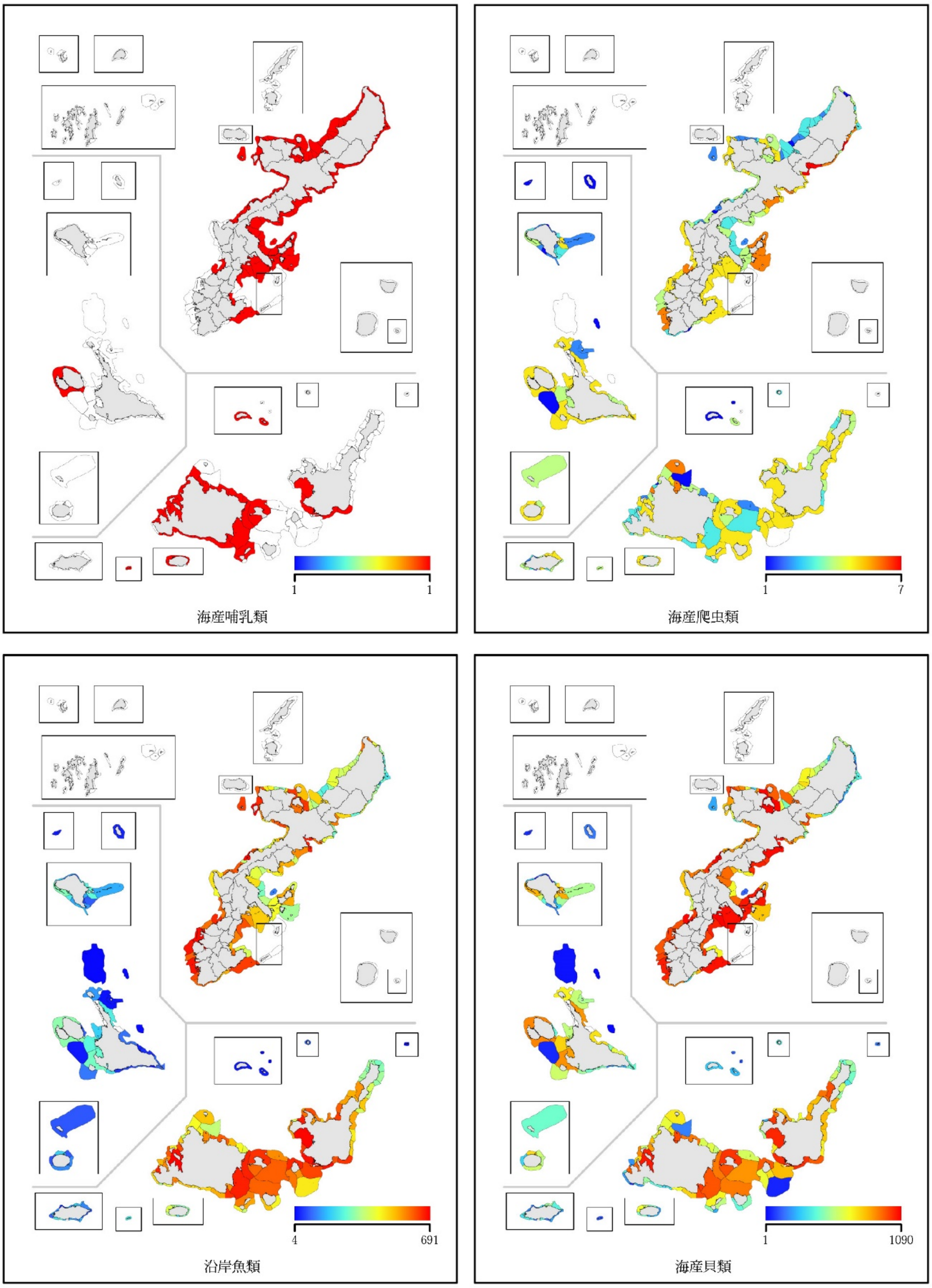
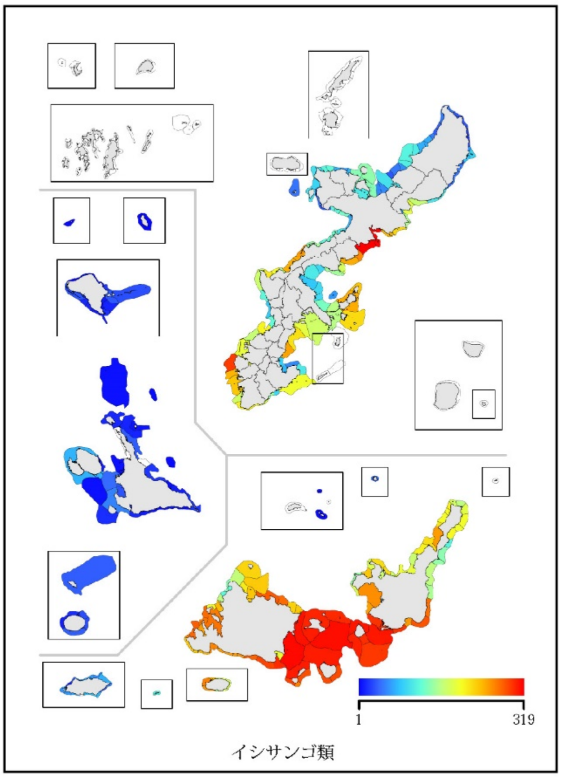
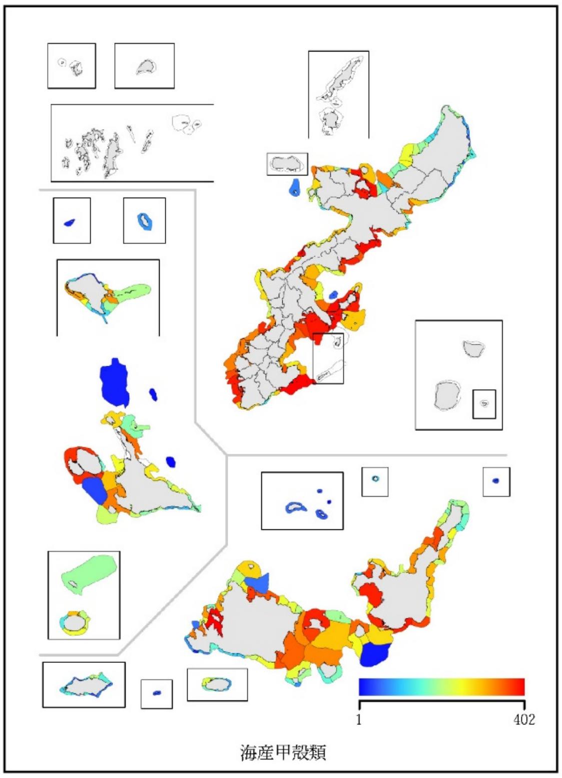


図 2－1－10（1）．分類群ごとの種多様性パターン（海域）





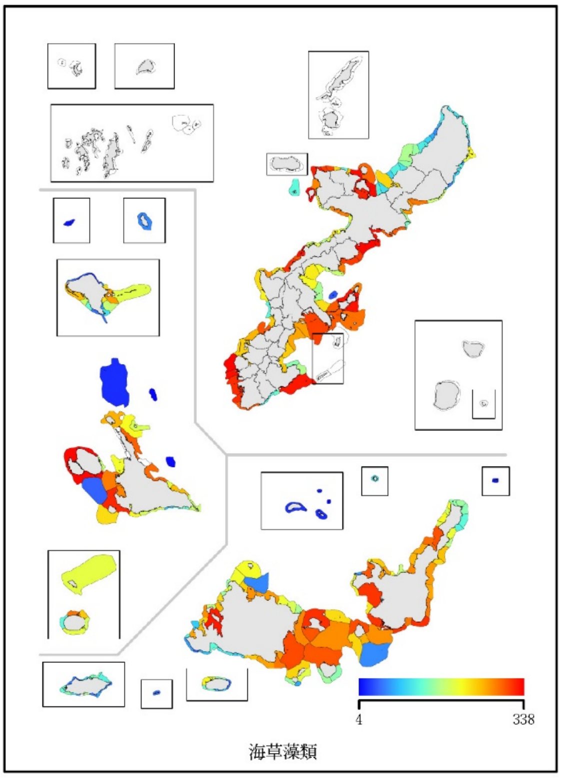


図 2−1−10（2）．分類群ごとの種多様性パターン（海域）

2．生物文化

（1）目的

沖縄の人々は、自然の中で、自然とともに暮らしてきた。その中で、自分たちの周りの動植物に方言名をつけ、様々な形で利用してきた。これらの方言名や利用法は、暮らしに活かされる知識と知恵として先祖代々引き継がれてきたものであり、島の人々の文化である。このように動植物とつながった文化をここでは生物文化と称することとする。なお、ここでいう「生物文化」の概念は、ユネスコが定義する「生物文化多様性」につながる概念である。

「生物多様性」の保全を考える場合、生物多様性条約の目的に謳われているように、その持続的利用も考慮する必要がある。ここで自然（生物）と人（文化）との関わりの重要性が浮かび上がってくる。

本指針では、生物多様性と文化多様性のつながりとして生物文化を位置づける。生物文化は各島、各地域で異なる多様な文化であり、生物多様性に生物文化を加えることによって、地域の人々の自然利用や自然観などの手がかりを得ることができる。これらを通じて、各地域での適切な生物多様性保全と持続的な利用の検討に寄与することが期待される。

ここでは、動植物の方言とその利用について、文献に記録されている資料を抜き出し、選別し、環境カルテに記載した。

（2）方法

文献調査は以下の方法で実施した。

動植物の方言や利用法は字（あざ）ごとで異なる場合が多いため、まず、宮古・久米島地域の市町村内の字ごとに発刊された字誌を中心に文献調査を行い、字特有の生物文化に関する項目を抜き出した。字誌が発刊されてない地域や、字誌は発刊されているものの生物文化に関する内容が見られない地域については、市町村誌(宮古・久米島地域内)の調査を実施した。それでも情報が不足する地域については、宮古・久米島の民俗学的情報に関する専門書も調査対象とした。調査は、上記の字誌等に加えて、市町村誌、専門書等の 137 冊の文献を対象にした（第 4 章－5．参考文献を参照）。

なお、対象とする生物文化に関する記載は字単位のもので野生生物に関わるものに限った。広く他地域にも見られる一般的な内容や農畜産に関する記載は、基本的には対象外と

した。

文献調査によって得られた項目は、基本的には文化庁編『民族文化財の手びき』(昭和54年4月10日 第1刷発行)に従って整理分類した。ただし、生物文化に焦点を当てるため、薪、環境、景観、ササ（漁毒)、罠、イザリといった、生物を暮らしに利用する分類項目が上位にくるように分類記号の変更を行った。 (表2－2－1参照)。

表2－2－1．記載内容の分類

分類記号※	記載の内容	備考
A	薪、環境、景観	生物多様性と深い繋がりがある
B	ササ、罠、イザリなど(特殊なもの)	
C	衣	染め織り、装身具、身に着ける物(ジーファなど)
D	食	子どもが日常的に食べた植物の実も含める
E	住	建材、屋敷囲
F	民族知識	生物知識、生物季節の知識、生息場所の知識、スク漁の詳しいもの等
G	生業(交通、運搬も含む)	
H	遊び(子ども)、娯楽、競技	
J	人の一生、人生儀礼	
K	行事(芸能も含める)	
M	信仰、魔除け、忌避	
N	社会生活	
P	医療(薬草など)	
Q	伝承、俚諺	

※分類記号のＡ、Ｂ、Ｃ・・・は優先順位であり、生物多様性との関連性の強い内容をカルテに記載した。

（３）調査結果

文献調査を通じて、総数 1,768 個の宮古･久米島地域内の生物文化に関する情報を得た。表２−２−２に分類ごとの情報数を示す。「P：医療」に関する情報が 251 個と最も多く、次いで、「K：行事(芸能も含める)」に関する情報が 228 個、「D：食」に関する情報が 200 個と多かった。

表２−２−２．記載内容毎の収集した情報数

分類記号	記載内容	陸域	海域	合計
A	薪、環境、景観	97	21	118
B	ササ、罠、イザリなど(特殊なもの)	40	53	93
C	衣	164	0	164
D	食	162	38	200
E	住	158	2	160
F	民族知識	70	6	76
G	生業(交通、運搬も含む)	87	42	129
H	遊び(子ども)、娯楽、競技	50	4	54
J	人の一生、人生儀礼	116	0	116
K	行事(芸能も含める)	223	5	228
M	信仰、魔除け、忌避	68	1	69
N	社会生活	21	4	25
P	医療(薬草など)	242	9	251
Q	伝承、俚諺	80	5	85
合計		1,578	190	1,768

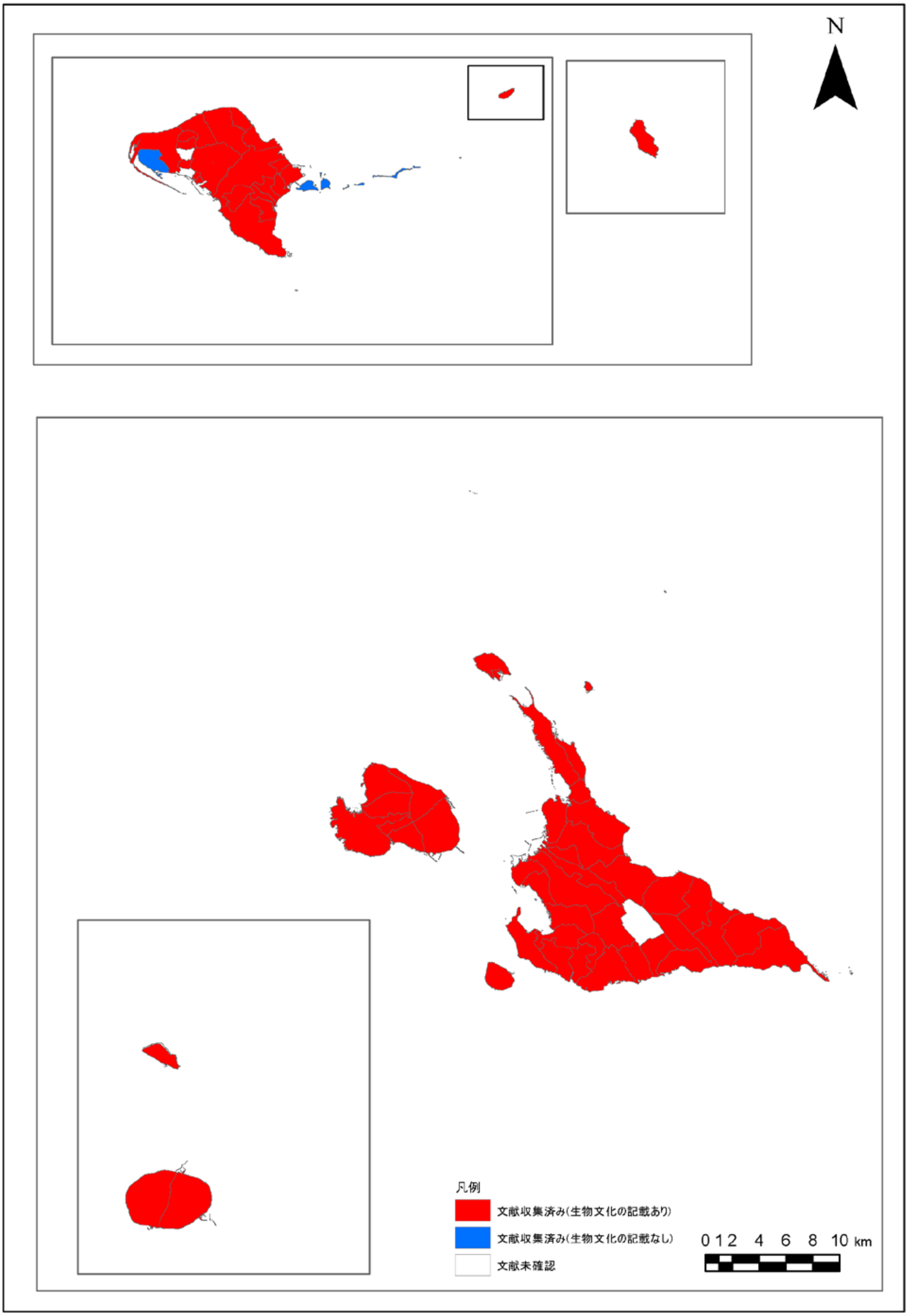


図 2－2－1．文献の収集・整理状況(陸域)

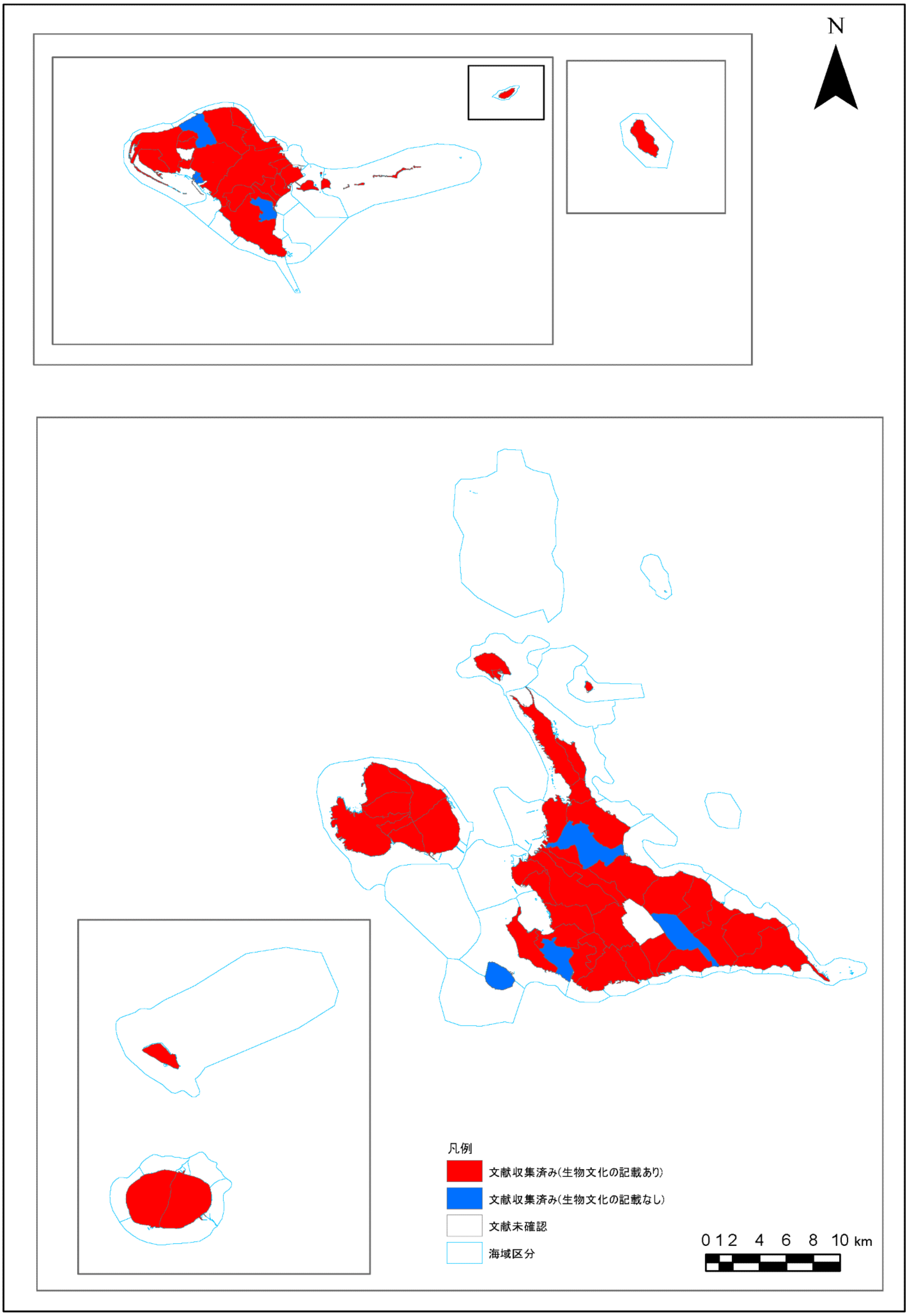


図 2−2−2．文献の収集・整理状況(海域)

3．自然環境の利活用

（1）目的

県内では、豊かで特徴的な自然環境を活用して、様々なエコツアーや観光等が行われている。ここでは、自然環境を利用した観光の拠点や、自然環境の持続的利用に配慮した保全利用協定が結ばれている地域についての情報を GIS 上に整理し、各地域の環境カルテに記載した。参考文献等は第４章に示す。

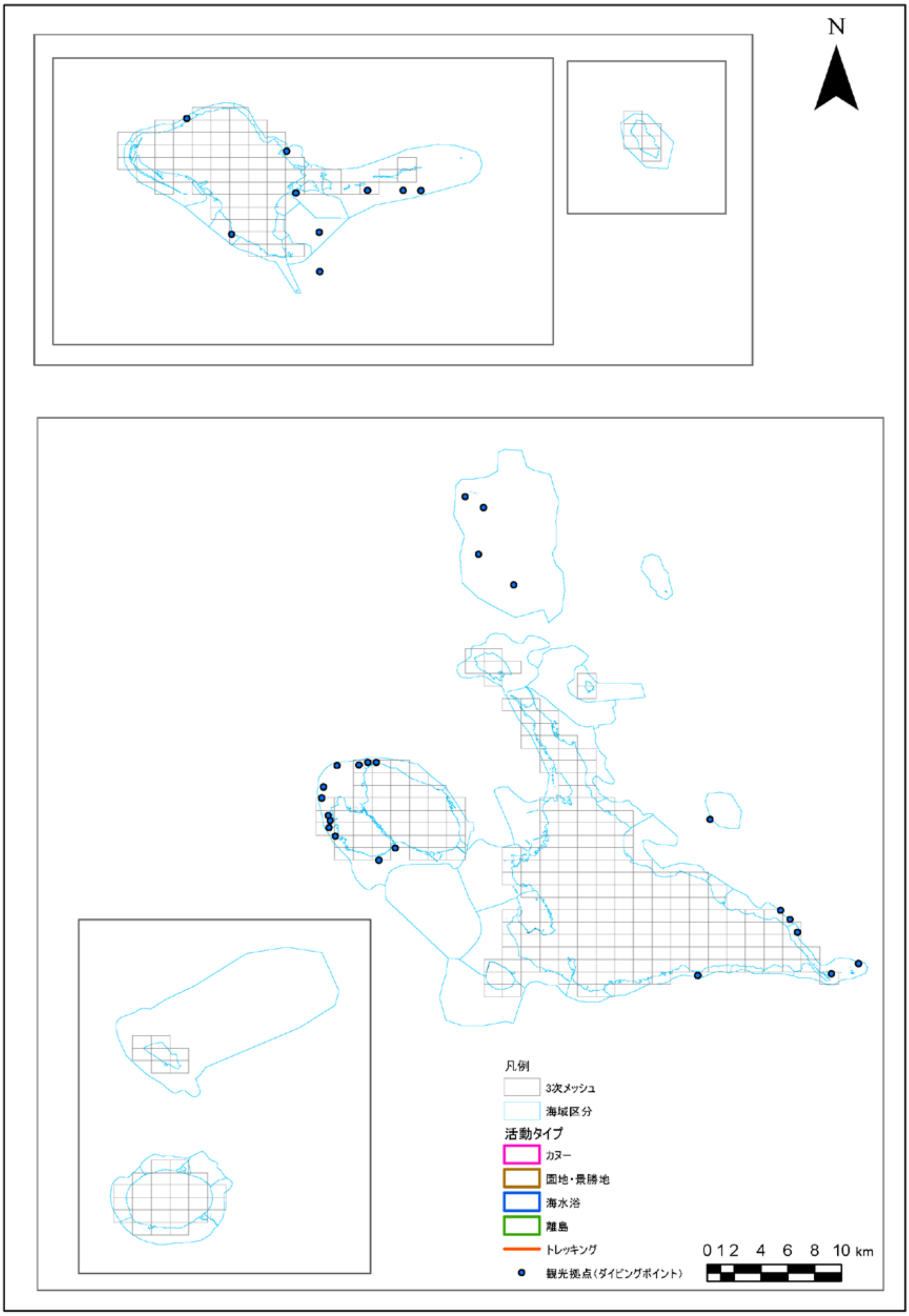
（2）自然環境の利活用

１）観光拠点

観光拠点については、「平成 21 年度　持続可能な観光地づくり支援事業（調査研究）報告書」の情報を整理した。また、ダイビングポイントについて、「美ら島－沖縄県観光情報ファイル－2010 年 1 月（財）沖縄観光コンベンションビューロー」より分布を整理した。

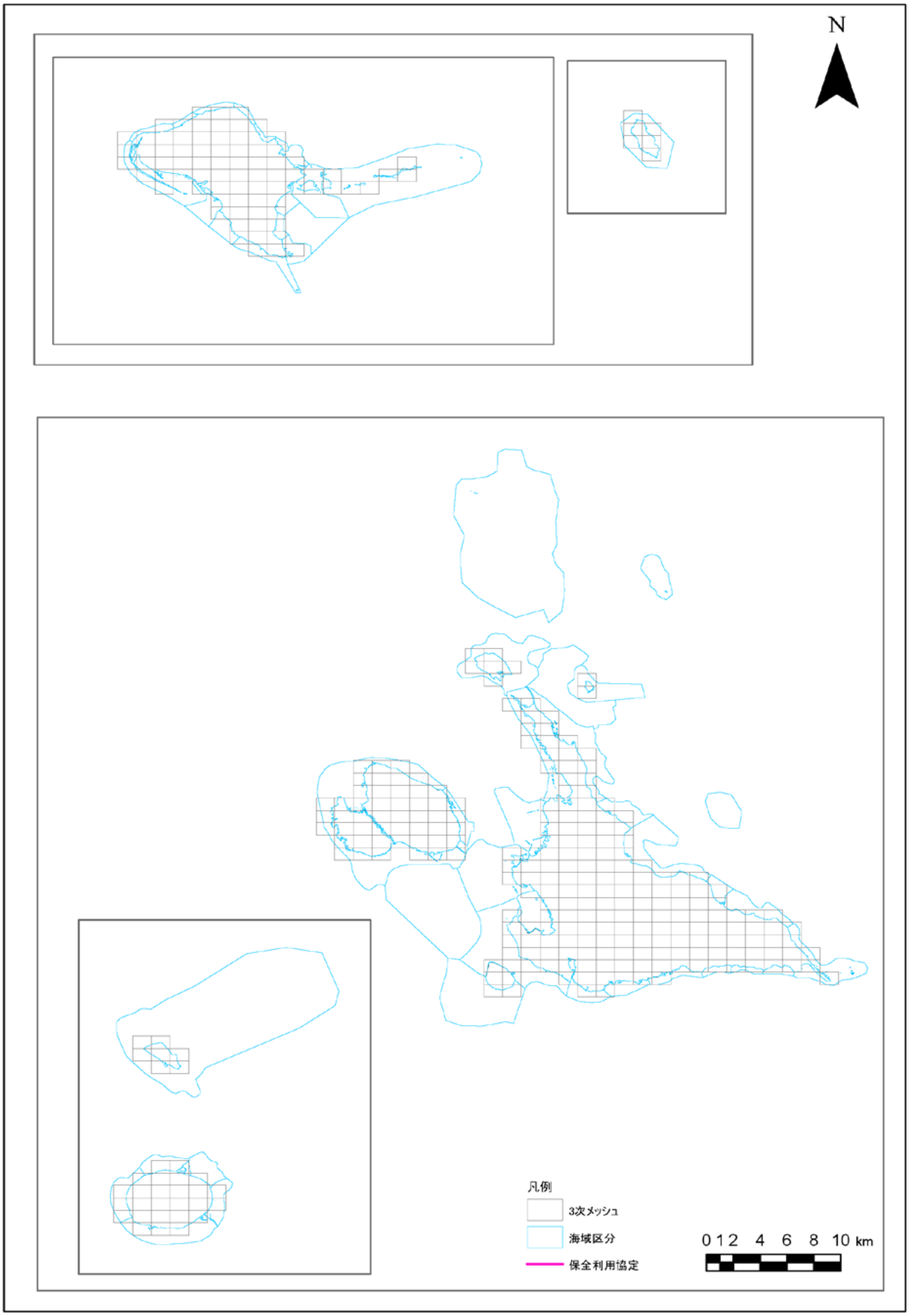
２）保全利用協定

保全利用協定については、「県知事認定　保全利用協定について」<http://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html> に示された協定及び位置を整理した。



使用データ
沖縄県, 2020, 平成 31 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書
沖縄県, 2021, 令和 2 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書
参考資料
沖縄県観光企画課, 2010, 平成 21 年度 持続可能な観光地づくり支援事業（調査研究）実施報告書, 沖縄県
財団法人沖縄観光コンベンションビューロー, 2010, 美ら島－沖縄県観光情報ファイルー, 財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

図 2－3－1．観光拠点分布図



参考資料
沖縄県公式ホームページ，県知事認定保全利用協定について
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html>

図 2－3－2．保全利用協定分布図

４．自然環境及び社会環境

（１）目的

生物多様性の保全と持続的な利用を推進するためには、各地域の生物多様性を生み出す背景となる自然環境を理解し、生物多様性に影響を与える人為的な条件についても把握する必要がある。このことをふまえ、各地域の自然環境及び社会環境に関する情報を収集し、GIS 上で整理した。関連する参考文献等は第４章に示した。

収集した情報は項目ごとに図面化した。これらの情報は要約した上で各地域の環境カルテに記載した。また、これらの一部は生物多様性の評価や保全優先度、総合評価ランクを算出するための情報として使用した。

本指針では、既存文献等に記載のないものに関しては、新たに図面を作成した。なお、図面作成にあたり使用した参考文献等は第 4 章に示した。

（２）生物多様性の情報

本指針のために新たに解析し作成した生物多様性に関する図面は、以下のとおりである。

１）陸域

a）地形・地質・土壌

特異な地形地質分布図については、沖縄県環境利用ガイド（環境特性地図集）（平成 4 年 3 月）の特異な地形・地質図において、亜熱帯から熱帯地域に特有な地形（鍾乳洞、滝、カルスト地形等）、地質（鉱山、岩石・地層の標準露頭、化石山地等）、自然現象（湧水・津波石）として選定されたものであり、本図より転記して図面を作成した（図 2－4－1）。

２）海域

a）地形・海岸線

海底地質分類図については、サンゴ礁分布図公開システム（環境省ウェブサイト）より提供を受けた GIS データを用いて図面を作成した（図 2－4－2）。調査は、平成 20 年に実施されたものである。

海岸線分類図については、平成 27 年頃の空中写真を参照し、また一部は現地踏査

等で補足し、平成 29 年度に海岸区分を行って図面を作成した（図 2−4−3）。

海岸区域は、「第 5 回自然環境保全基礎調査海辺調査総合報告書（環境庁自然保護局）1988」の海岸区分を参考に、下記の分類とした。

・自然海岸：人工によって改変されないで自然の状態を保持している海岸

・半自然海岸：道路、護岸、テトラポット等の人工構築物で海岸の一部に人工が加えられているが、潮間帯においては自然の状態を保持している海岸

・人工海岸：港湾・埋立・浚渫・干拓等の土木工事により著しく人工的に改変された海岸

b）藻場・干潟・サンゴ群集

藻場・干潟・サンゴ群集分布図については、「第 4 回自然環境保全基礎調査（環境庁自然保護局）1989～92」「第 5 回自然環境保全基礎調査（環境庁自然保護局）1996～97」の GIS データより図面を作成した（図 2−4−4）。

c）砂浜分布

砂浜分布図については、「沖縄ビーチ大全 505（富山義則）2014」「ウミガメ類生息実態調査報告書Ⅲ（沖縄県教育委員会）2001」を参考に図面を作成した（図 2−4−5）。砂浜海岸は、人工ビーチも含めて、その多くがウミガメの産卵地になる可能性があるものとして整理を行ったものである。

d）SPSS

当該海域区分内で実施された SPSS 調査「平成 21～23 年度サンゴ礁資源情報整備事業（スポットチェックデータ）」「平成 28 年度赤土流出防止海域モニタリング調査委託業務」「平成 31 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務」、「令和 2 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務」のデータのうち、当該海域区分における最低値～最大値の値を整理して、図面を作成した（図 2−4−6、図 2−4−7）。

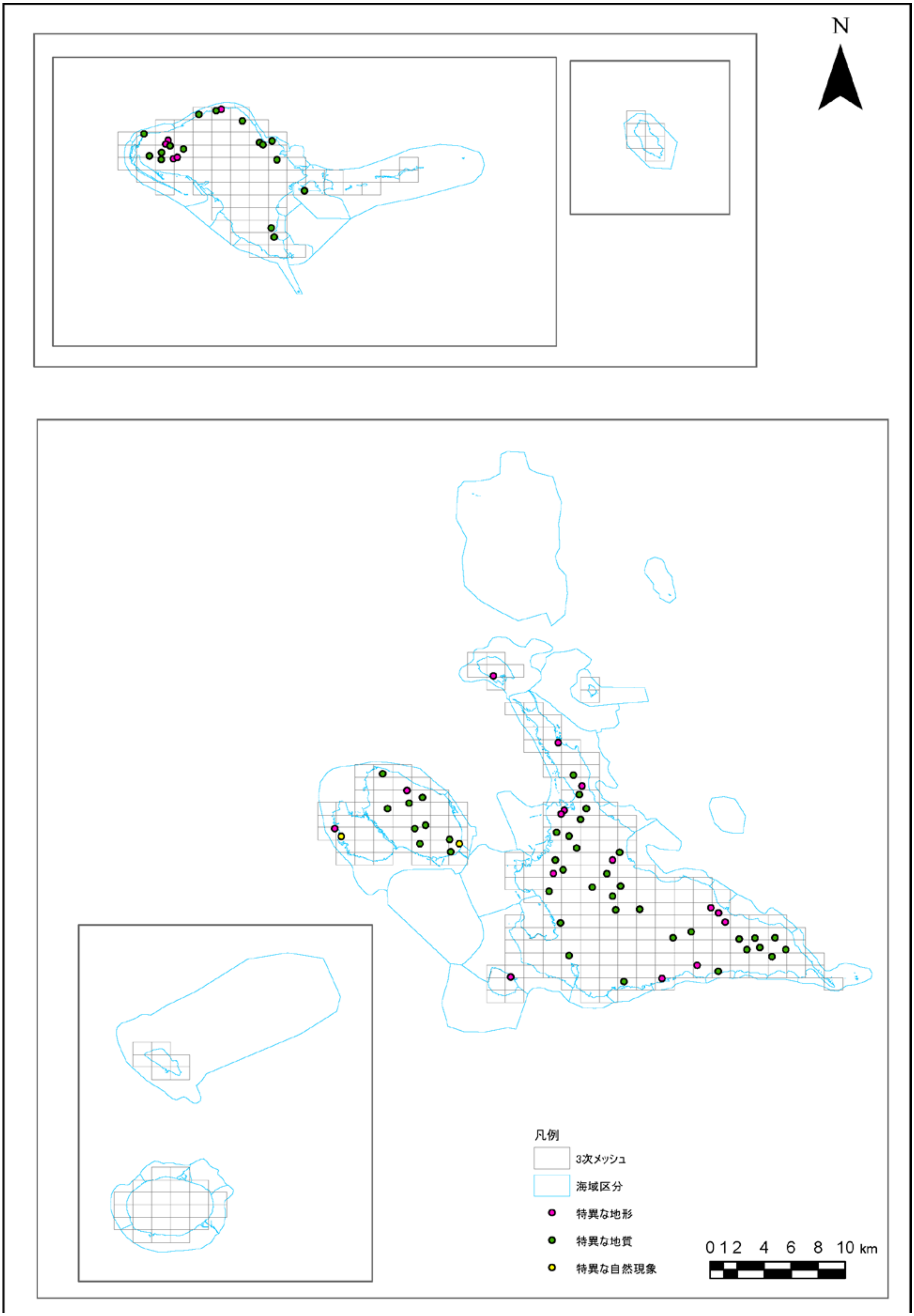


図２−４−１．特異な地形・地質分布図

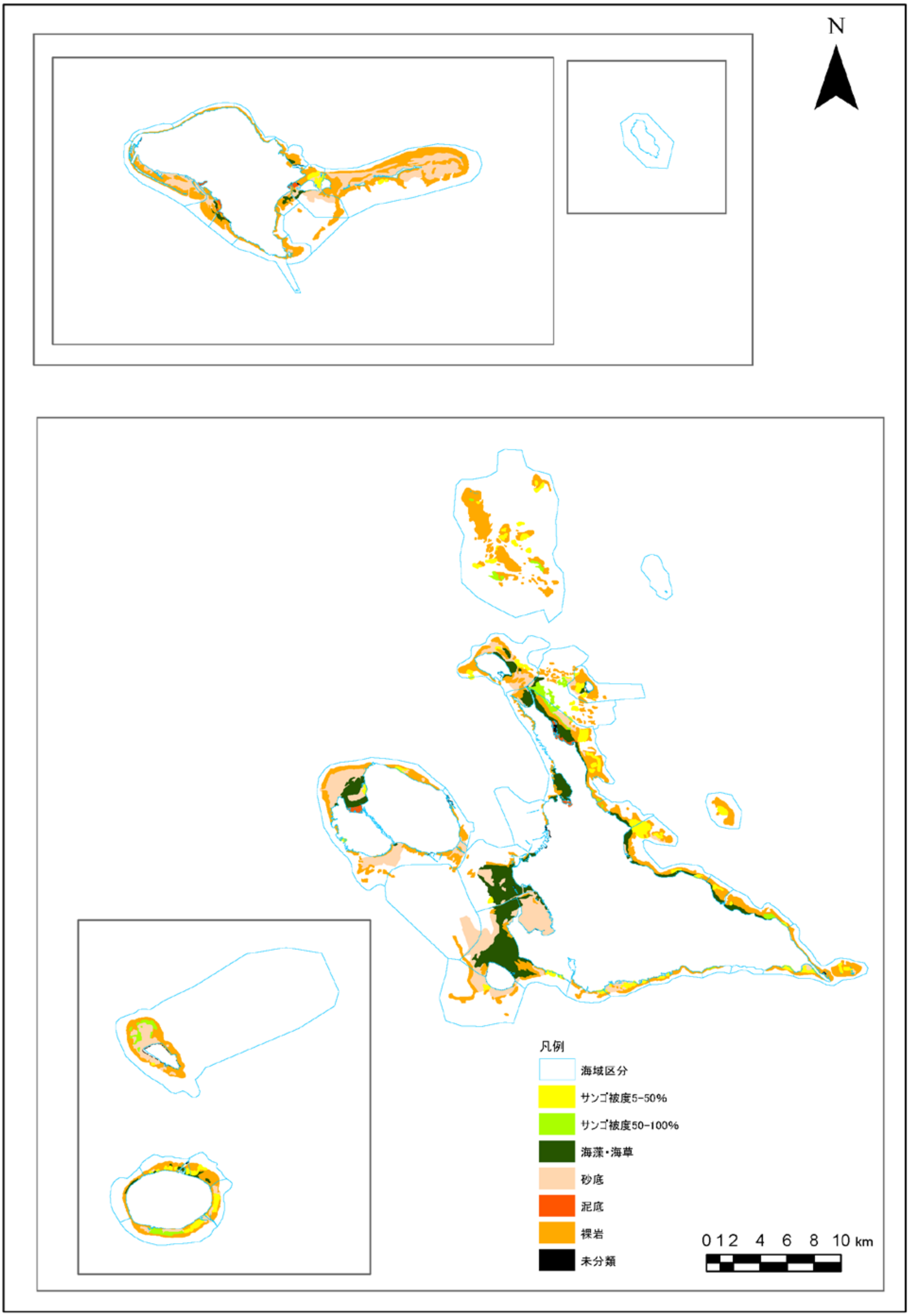


図 2－4－2．海底地質分類図

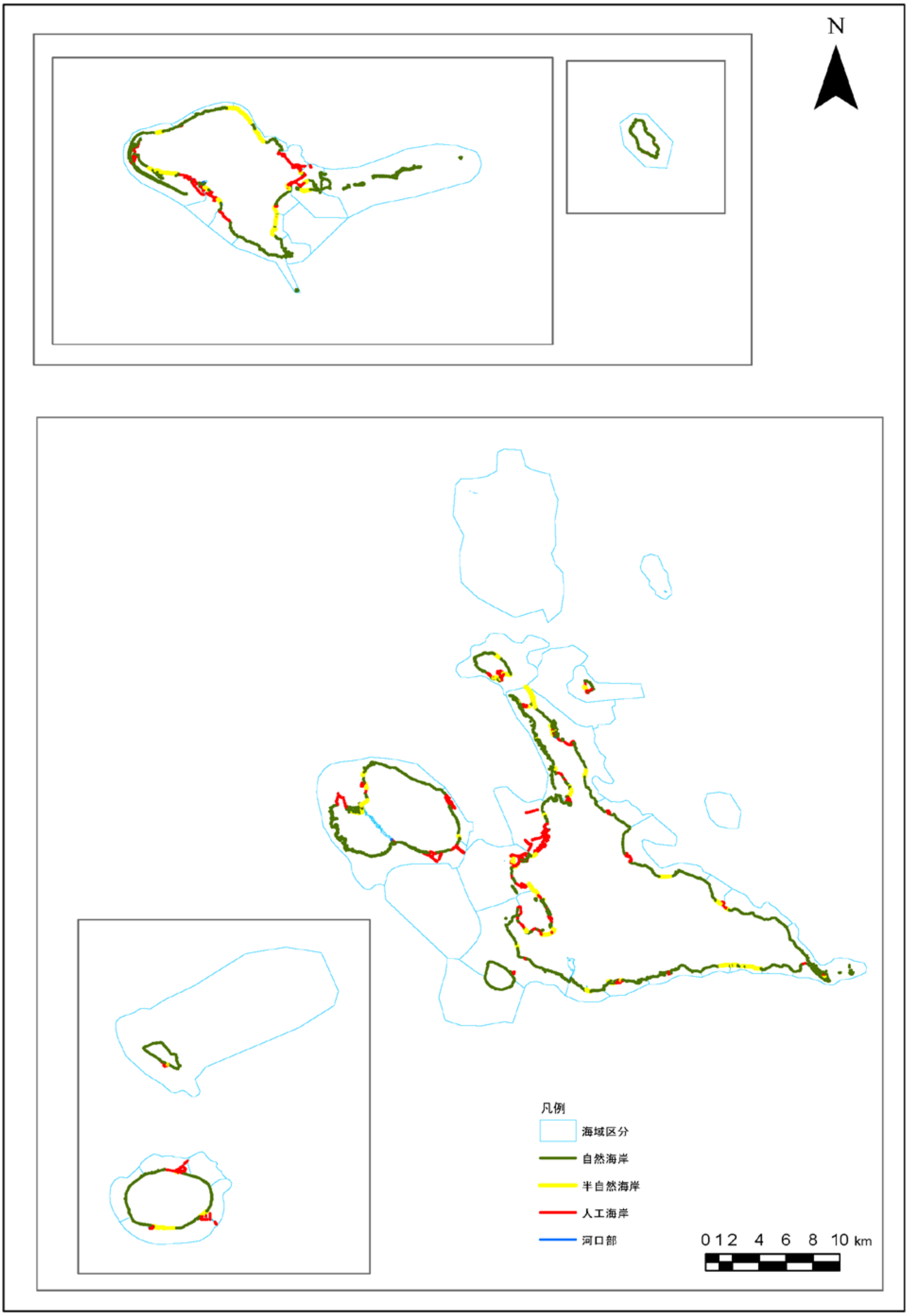


図 2－4－3．海岸線分類図

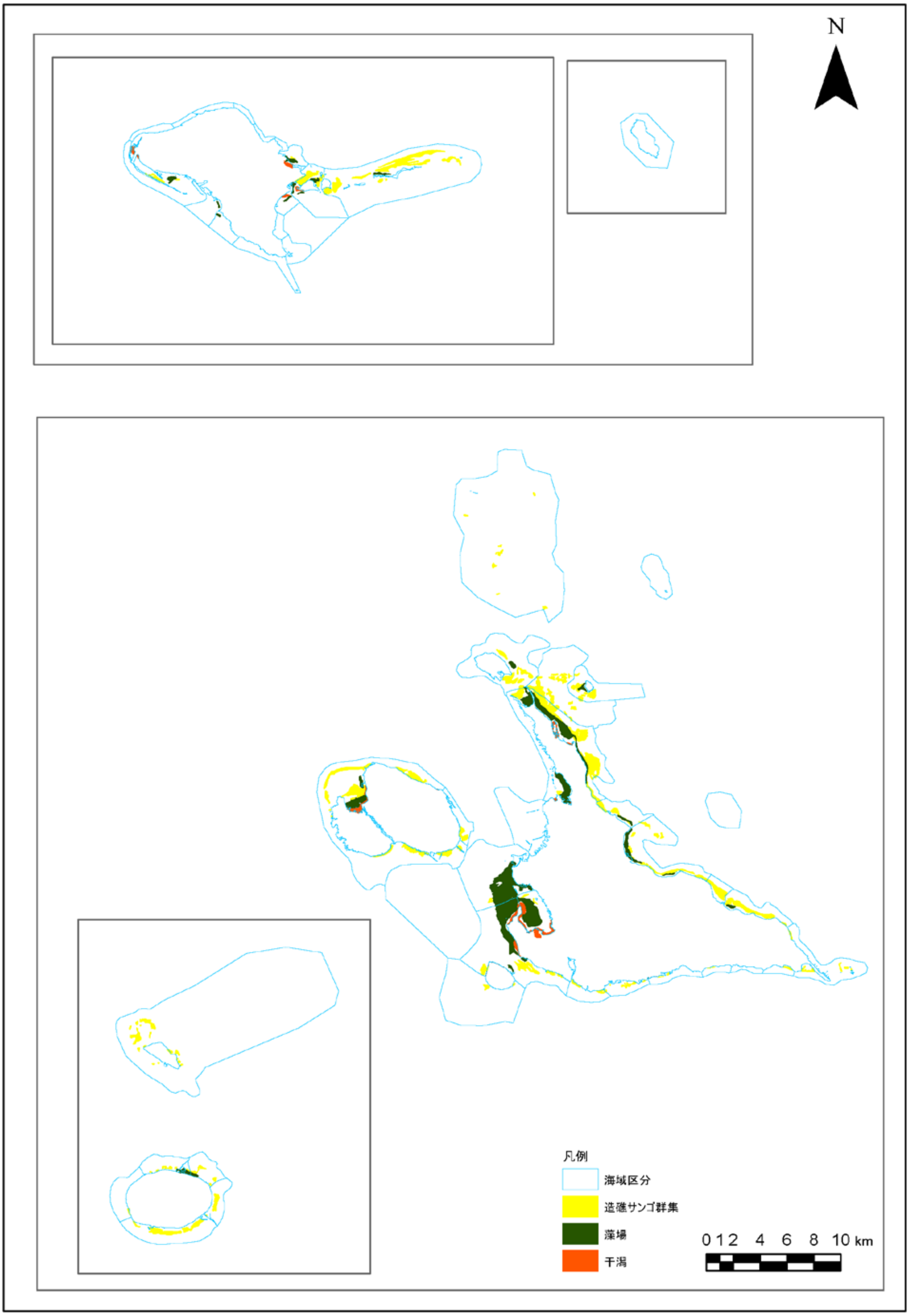


図 2−4−4．藻場・干潟・サンゴ群集分布図

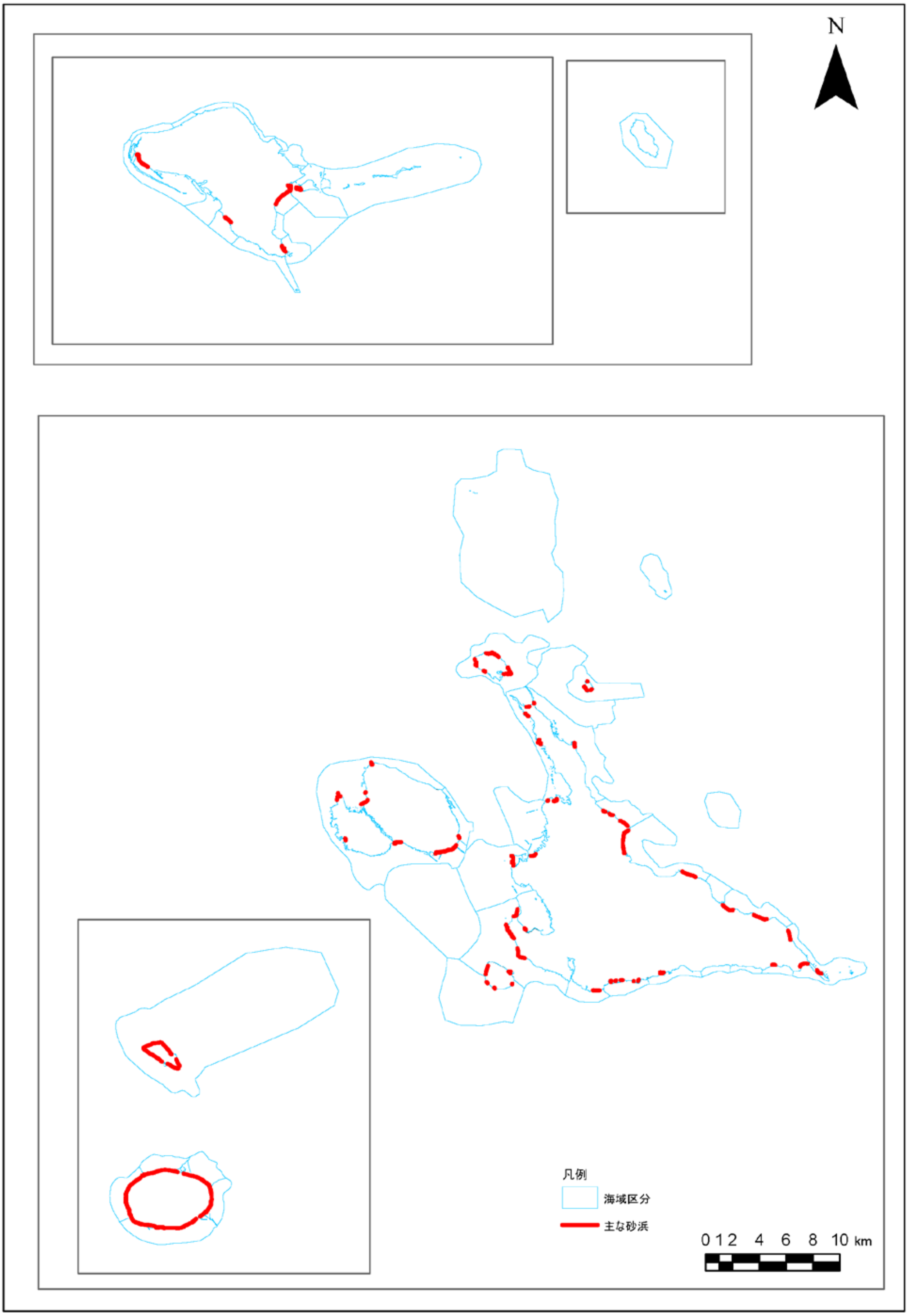


図 2－4－5．砂浜分布図

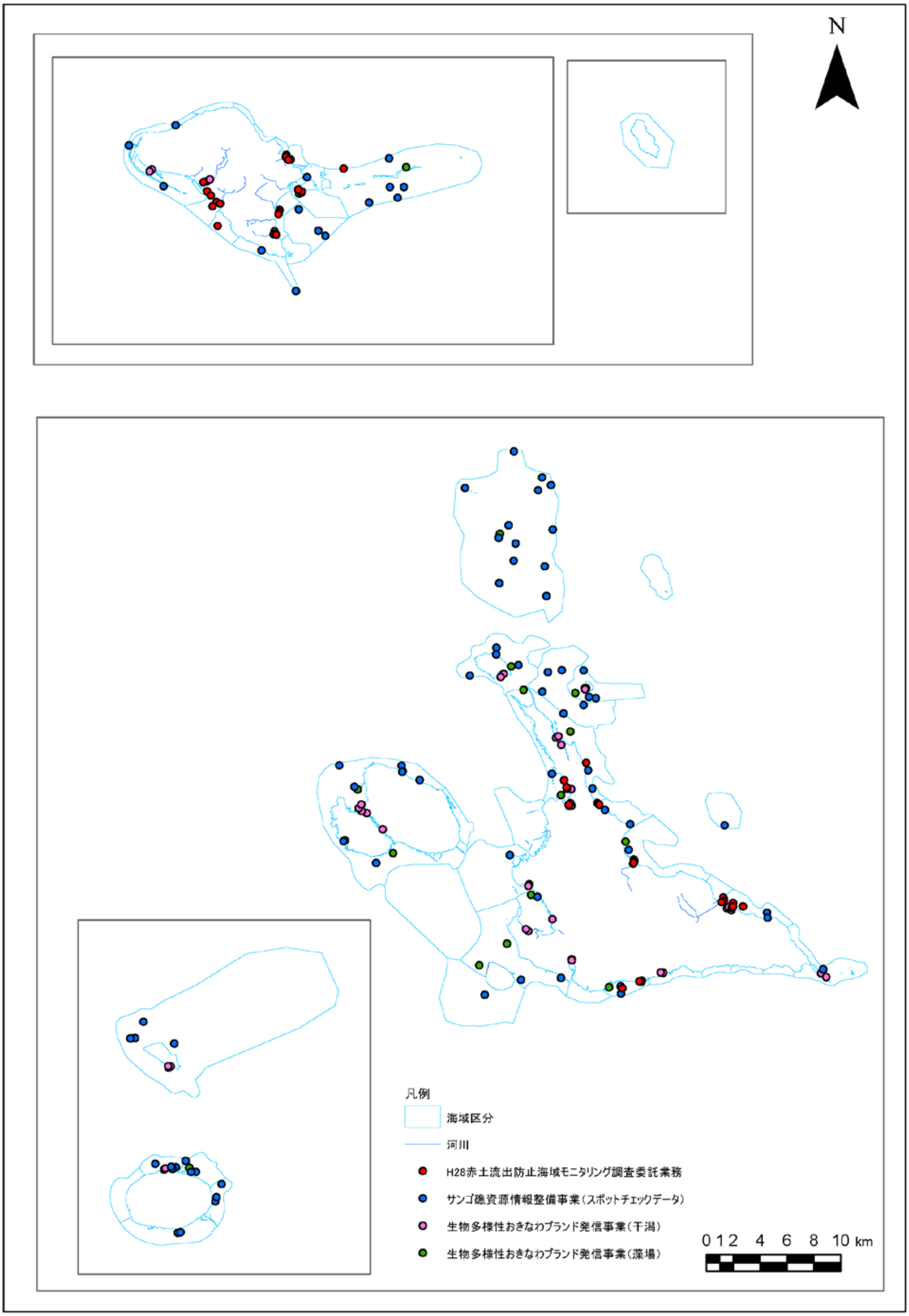


図 2－4－6．SPSS 調査位置図

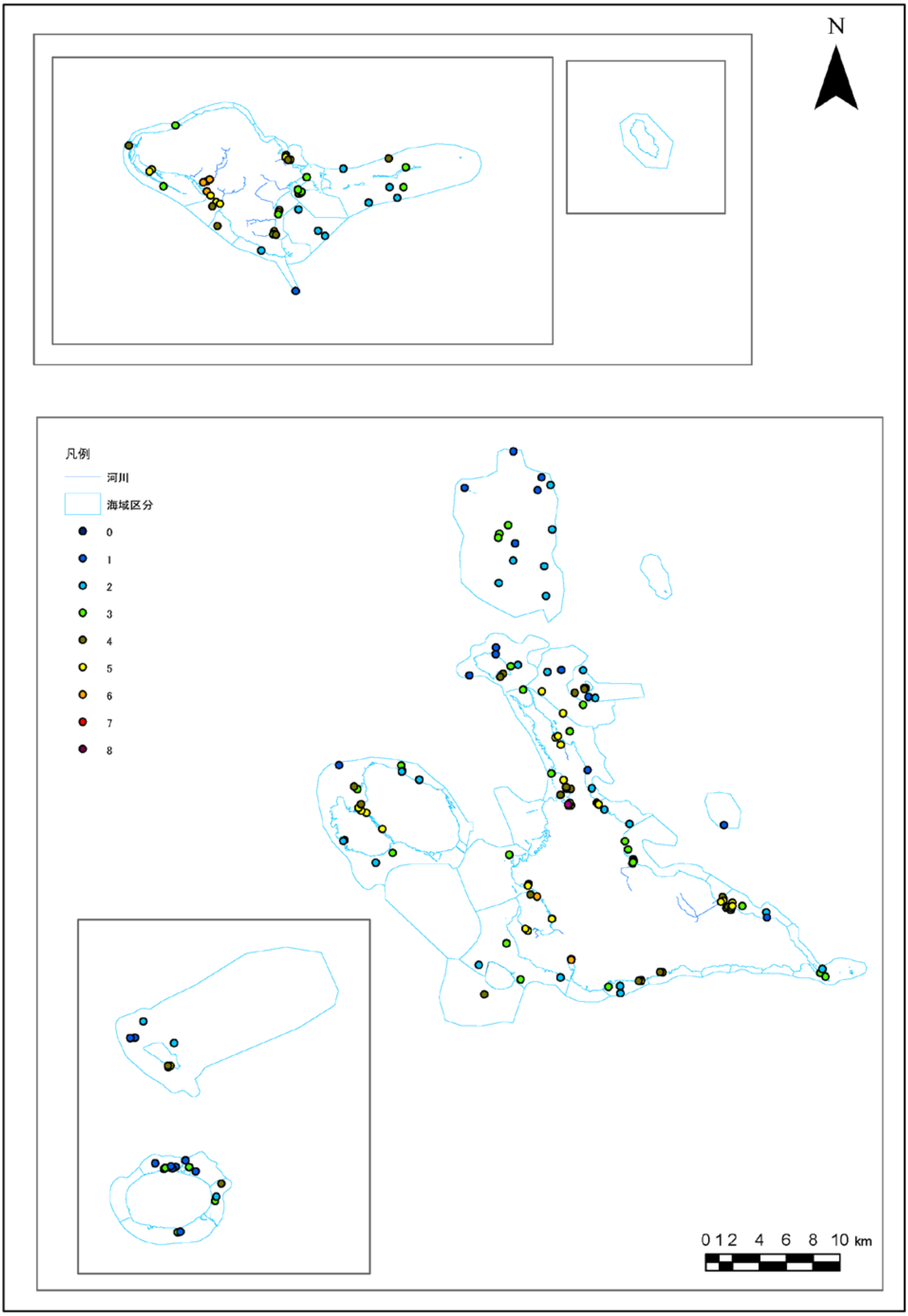


図 2−4−7．SPSS ランク分布図

（３）その他の情報

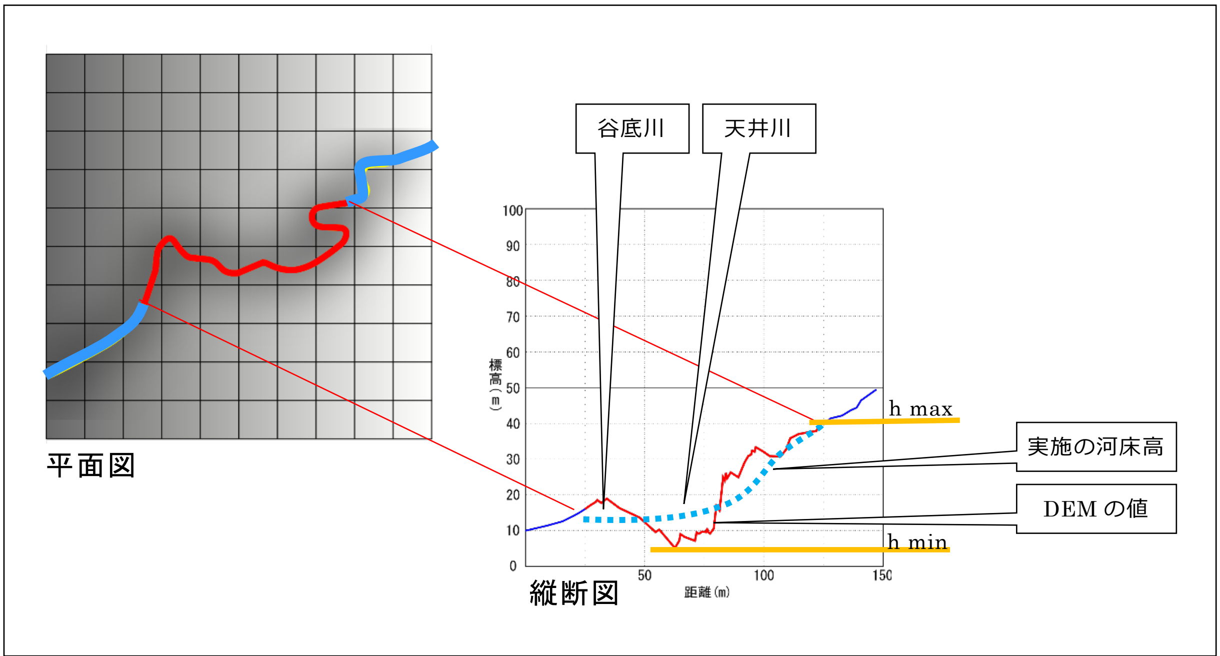
本指針のために新たに調査または解析して作成したその他（法規制、土地利用、海域利用、河川）に関する図面は、以下のとおりである。

1）陸域

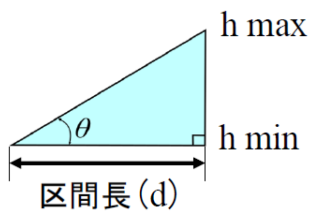
a）河川

河床勾配区分図については、「国土数値情報　河川データ（国土交通省国土政策局国土情報課）平成 19 年度」、「国土数値情報　湖沼データ（国土交通省国土政策局国土情報課）平成 17 年度」、「基盤地図情報（数値標高モデル）10m メッシュ DEM」を用いて、河川区間を中下流域（0～1/60）、上流域（1/60～）、湖沼に区分し、マップを作成した。

まず、河川を 100m ピッチに区分し、その区間ごとに DEM データの標高から区間の最大値(hmax)及び最小値(hmin)を取得した。次に、各区間の最大値(hmax)及び最小値(hmin)の差分を区間長で除することで河川勾配を計算した。このため、周辺に山地や断崖等が迫っている個所、谷底に河川が流れているような個所においては DEM データの標高と実際の河床標高とに誤差が生じている可能性がある。



【参考図　DEM データからの標高抽出イメージ】



$$勾配 = \frac{1}{\left(\frac{d}{h\,max - h\,min}\right)}$$

【参考図　角度計算のイメージ】

また、湖沼に該当する区分を含む場合には、対象区間を湖沼に区分した。

なお、GIS による自動抽出ができなかった区間(no data)があった。河口部等 DEM データ外で区間標高が抽出できない場所については標高 0m、また区間が短いまたは合流部等により自動抽出ができなかった区間については、DEM データを読み取りそれぞれの標高を手入力した。更に、多くの河川の河口部付近において、海面標高と河岸標高等の差異から、区間が急勾配と判別されてしまったことから、現地状況を確認の上、必要に応じて手作業で中下流の区分に修正した。

森林内を流れる渓流環境分布図については、河川勾配区分図と「1/50,000 現存植生図（環境省自然環境局生物多様性センター）平成 5 年度」を用いて、上流域とされた区間のうち、両岸が森林となる区間を抽出し、図面を作成した。

河川区間（100m ピッチ）ごとに区間の両側全てが森林に接している上流域の区間について、「森林内を流れる渓流環境」と判定した。

ここで森林とは、自然植生、代償植生、植林など含むすべての樹林とした。ただし、一定バッファ内が水域であった場合には、植生図で確認し目視で状況を判断した。

図 2－4－8．河川勾配区分図

図 2−4−9．森林内を流れる渓流環境分布図

2）海域

a）法規制等

ラムサール条約湿地は、ラムサール条約と条約湿地（環境省ウェブサイト　https://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/2-3.html）に示された各湿地の位置図を入力し、図面を作成した。

図 2−4−10．ラムサール条約湿地分布図

Column

サンゴ礁の最後のフロンティア：海底洞窟環境の生物

［文・写真：藤田喜久（沖縄県立芸術大学準教授）］

近年、「地球最後のフロンティア（未開拓の領域）」として深海環境が脚光を浴びている。深海は、太陽の光の届かない暗黒の世界であり、また、極度の高水圧・低温・低酸素の過酷な環境である。最近では有人潜水調査船や ROV（遠隔操作型無人潜水機）などの発達によって、水深 6000 メートル以深の超深海までもが調査研究できるようになり、特殊環境に暮らす興味深い生物の鮮明な映像を見ることができる。

一方、沖縄のサンゴ礁の浅海域は、造礁サンゴ類(有藻性サンゴ類)が海底を覆い、周辺には色とりどりの魚類や生物たちがひしめいている。しかし、この賑やかなサンゴ礁の浅海域にも、「フロンティア」は存在する。それが「海底洞窟」である。海底洞窟は、入り口（洞口）が狭く、内部構造も複雑なため、潜水調査船や ROV の潜入が困難であり、基本的に人間による潜水調査によって研究が進められている。

琉球列島には、石灰岩で構成される島や地域が随所にあり、数多くの洞窟の存在が知られている。こうした洞窟が、海水中に没したものが海底洞窟である。鍾乳洞などの「石灰洞（鍾乳洞など)」は、陸上の石灰岩が溶食されてできるものであるため、海中に石灰洞がある場合、そこはかつて陸上であったことを示す（図 1)。

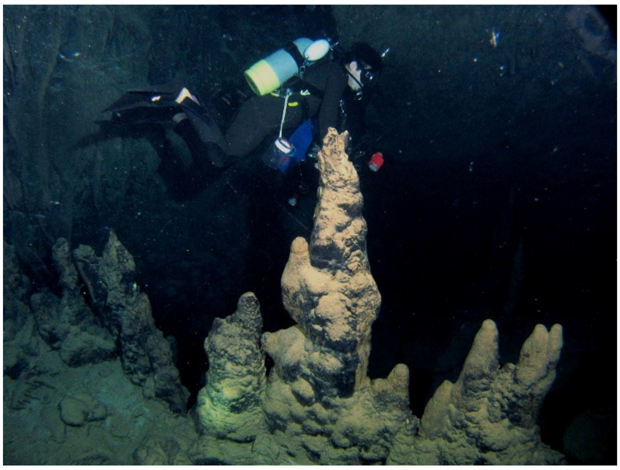


図 1．海底洞窟

海底洞窟は、外海と洞口部のみで接続された閉鎖的環境であり、洞口付近を除いては、完全な暗黒環境であり、場合によっては貧栄養かつ塩分・水温変化を伴う特殊な海洋環境である。海底洞窟には、こうした環境に適応的な形態（眼が退化・縮小する、体の色素が減少・欠落する、体が矮小化するなど）を有する動物、地理的に特殊な分布パタンを示す動物（海底洞窟がある地域にのみ飛び石状に分布する種やテーチス海遺存種)、系統的起源が古く“生きた化石”と見なされる動物などの興味深い種の存在が知られ、独特の動物群集を形成しているとされる。

近年、筆者（ら）は、琉球列島における海底洞窟の調査研究プロジェクトを進めており、海綿動物、軟体動物、節足動物、棘皮動物などで多数の未記載種（＝新種)・日本初記録種・希少種を次々と発見している。例えば、伊江島の海底洞窟から新種記載されたイエジマガマガザミ

（図 2）は、眼が小さく、歩脚も細長い特徴を持っており、洞窟の最も奥部の淡水の影響を受ける場所（アンキアラインと呼ばれる環境）のみに生息している。また、宮古諸島下地島の海底洞窟から記録されたイラウモエビ（図 3）は、下地島の他にはハワイ諸島、ツバル、シナイ半島（紅海）に飛び石状に分布することが知られており、生物地理学的に興味深い種である。さらに、2018 年に新種記載されたドウクツモザイククモヒトデ（棘皮動物）（図 4）は、近い仲間（同属他種）が全て深海に生息している海と海底洞窟環境の密な関係を示す一例であると考えられている。これらの発見は、いずれも筆者が研究を開始した 2013 年以降の調査によるものであり、沖縄の海底洞窟の生物多様性について、未だ調査不十分であることを顕著に示している。

図 2．イエジマガマガザミ

海底洞窟は、その閉鎖性ゆえに人間にとっても非常に危険な世界であり、高度な潜水技術を必要とする。しかし、そこに暮らす魅力的な動物たちは、研究者たちの好奇心を引きつけて止まない。海底洞窟は、人の生身の体で挑むことのできる沖縄サンゴ礁海域の最後のフロンティアなのである。

図 3．イラウモエビ

図 4．ドウクツモザイククモヒトデ

5．保全優先度と総合評価

5．1　保全優先度の検討

（１）空間的保全優先地域特定の手順

生物多様性の保全政策やそれを推進するアクションプランは、システム化保全計画の枠組で議論されるようになった。この背景には、自然史研究において、生物の地理分布、系統、機能特性に関する情報が蓄積され、生物多様性に関する大規模なデータが蓄積され、そのようなビッグデータを分析する統計数理学的手法が発展したことがある。システム化保全計画の特徴は、生物多様性の保全を社会経済的な制約も含めて検討する点にある。実際の保護区設置では土地利用に法的規制をかけるため、土地所有者やその土地で経済活動を行う人々との間で利害問題が発生する。したがって「どこに、どのような保護区を配置するのか?」という問題を考える場合、保護区設置に伴う利害関係を調整し、かつ、その経済的コストを最小にする必要がある。自然保護を巡る論争は保護と開発の二項対立になりがちだが、システム化保全計画のアプローチは、両者のトレードオフ関係を分析し、利害関係者に様々な選択肢を提供することで価値論争を最少化し、科学的根拠に基づいた合理的な意思決定を支援する。

システム化保全計画の基本的な特徴と手順は以下の６つである。

１）　保全計画で対象にする生物多様性のサロゲート（代替指標）を定義し、種分布や生態系機能などについて空間明示的データを収集する。

２）　明確で定量的な保全目標を検討する。

３）　現状の保護区ネットワークが、保全目標をどの程度満たしているのかを検証する。

４）　保全目標を達成するために必要な、保護区の配置計画（保護区の新設や再配置）を空間明示的に分析する。

５）　保全優先地域として特定された場所で、実際に適用する保全計画を検討する。

６）　保護区ネットワークにおける生物多様性の永続的な維持を促進するために、長期的モニタリングや適応的管理と併せて、保護区の管理メカニズムを整える。

特に、4）保全優先地域の空間分析を目的として、現在様々なアルゴリズム・分析手法が提案されている。その中でも、Zonation は、汎用性の高さ、および計算アルゴリズムとアウトプットの明瞭さから広く普及している（Moilanen 2007；Lehtomäki and

Moilanen 2013）。なお、本節のシステム化保全計画法の概念とそれに関わるアルゴリズムの解説は久保田ほか（2017）の総説によっており、詳細な解説はそちらを参照していただきたい。また、本指針における解析プロセスの解説として、久保田ほか（2019）も参照していただきたい。

（２）空間的保全優先度の計算アルゴリズム

種ごとの分布情報と分布モデリングによって予測された結果に基づいた生物多様性地図によって、種数の多い地域（ホットスポット）を把握できる。種数の多い区画は、限られた面積で数多くの種数を捕捉できる。したがって、種数のホットスポットは、効率的に生物多様性を保全できる保全上重要な地域と見なすことができる。しかし、種の空間分布のパターンは､分類群や種間で大きく異なり､特異的な環境に局在する種も数多く存在する。実際、種多様性が低い区画に局在する種も少なくない。よって、種多様性の高い区画を、一義的に保全重要地域として見なすアプローチは、保全計画において十分ではない。よって、生物種を保護区ごとに相補的にカバーし、できる限り多くの種について、なるべく大きな分布面積を確保し、種のメタ個体群構造を健全に保つような保全計画が有効である。空間的な区画単位の保全優先度は、区画ごとの種の捕捉機能や全体の種多様性を捕捉する上での相対的貢献度の高さによって評価することができる。

空間的保全優先地域のランク付けの分析には、Zonation アルゴリズムを用いた。Zonation では、生物多様性損失が最も少ない保全単位を逐次的に除いていく計算方法を採用している。これにより、最大被覆問題および保全利益の最大化問題を分析できる（Moilanen 2007）。最適化によって保全優先地域を特定する手法では、保全目標を満たす保全単位の組み合わせがバイナリー値（0/1）として出力されることが多い。このため、全ての保全単位の優先順位を詳細に定量できない弱点があった。一方、Zonation アルゴリズムは、保全上の重要度を相対的な連続値として得ることができ、保全計画を検討する上での情報量が多い。つまり、Zonation による出力結果を分析することで、事前に定めた保全目標の妥当性や実効性を再評価することができる。内包された分析オプションの１つである Core Area Zonation（CAZ）は、地理的希少種の分布範囲の損失を最小化するように保全単位を逐次的に除くアルゴリズムである。別のオプションである Additive Benefit Function（ABF）は、ユーザの定義する関数に基づき、逐次的な除去過程で生じる生態学的価値の損失を計算し、損失が最も小さい地域から除去する。具体的には、除去過程で減少する種ごとの残存分布面積によって、種ごとの生態学的な価値の減少を計算し、保全単

位内に分布する種を合計した値を、その保全単位を除去した場合の生態学的価値の損失とする。CAZ は地理的希少種の保全を最優先にするのに対し、ABF は地理的希少種を優先すると同時に、分析対象の全種の分布域をより多く捕捉することを目的としたアルゴリズムである。

（３）保全ユニットの定義

保全ユニット（優先順位付けを行う最小単位）について、陸域では、生物分布データの解像度（約 1 ㎞グリッドセル）をそのまま用いた。一方、海域については、海域区分を保全ユニットとして用いた。

海域区分単位での保全優先付けは、Zonation のプランニングユニット（planning unit；PU）と呼ばれるオプションで実行することができる。PU を使った解析では、通常の Zonation 分析と同じく、多様性損失の値はグリッドセル（ラスターのピクセル）ごとに計算される。しかし、その後で多様性損失値は PU ごとに集約され、PU 単位で除去が行われる（同じ PU に属するグリッドセルは同時に除去される）。多様性損失と同時にコストも集約される。コストを指定しない（グリッド間で均一コストを仮定する）場合には、PU 内のグリッドセル数がコストと見なされる。つまり、2 つの PU 間で多様性価値（損失）が等しい場合には、面積の小さい PU の優先度が高くなる。グループ単位で除去するグリッドセルを決定するという点では、後述するマスクレイヤとやや似ている。しかし、PU 分析では、PU 内の多様性情報に基づいて、除去する PU を決定する点でマスクレイヤとは異なっている（マスクレイヤは、ユーザーがあらかじめ除去するグループの順番を指定する）。尚、PU はマスクレイヤと併用可能である。

PU 分析の出力は、グリッドセル単位の優先順位を事後的に平均化する場合と似た結果を返すかもしれない。しかし、PU を組み込むことで、保全ユニット間での生息地属性や生物データ数などの諸条件の違いを予め考慮して優先順位付けを行うことが可能になる。これには、

１） 海域内に希少種が分布していたり多様性ホットスポットが含まれていれば、それは海域の重要性として考慮される（景観全体の保全パフォーマンスに照らして評価される）。

２） 一つのユニットを削った際の残存分布を考慮して、次に削除するユニットが計算される（プランニングユニット間の相補性が保証される）。

３） 海域のランキングが除去規則に従って客観的に生成されるので、事後的な集約方法の一長一短に悩まされなくて済む。

といったメリットがある。

ただし、このように大面積の保全ユニットに情報を集約化してしまうと、グリッドセル単位の優先度が平均化されるため、全体的な保全パフォーマンス（面積効率）は下がる、というデメリットもある。

（４）生物分類群ごとの空間的保全地域ランク付け

Zonation アルゴリズムには、空間的保全優先度のランク付けに関して様々なオプションが実装されている。本プロジェクトでは、種の重み付けや空間スケールを制御して、陸域の 10 生物分類群（維管束植物、陸産哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、チョウ類、トンボ類、淡水および陸産貝類、淡水および陸産甲殻類）と海域 7 分類群（海産爬虫類、沿岸魚類、海産貝類、イシサンゴ類、海産甲殻類、海草藻類、海産哺乳類）それぞれについて、空間的保全優先地域ランク付けを行った（図 2－5－1、図 2－5－2）。

Zonation アルゴリズムにおいて、種の希少性は地理分布面積によって暗示的に評価される。しかし、種によっては地理的分布と絶滅危惧度は必ずしも対応しない。Zonation の種ごとの重み付け機能では、種の保全重要度を明示的に考慮できる。具体的には、種の保全上の重みが、除去規則の関数にパラメータとして組み込まれる。利益関数法（ABF）の場合、サイト i を除去した際の種 j の分布損失ΔVj に種の重みパラメータ wj を乗じることによって、種の分布域損失が重みづけされる。Core-area-Zonation アルゴリズム（CAZ）では、サイト i 内の種 j の残存分布割合 qij が、wj で重みづけされる。いずれの場合も、種の重みは、「ある保全目標の下、種 A は他の種と比べて何倍重要である」というように、直感的に解釈することができる。この種の重みには、保全計画者や政策の意思決定者の主観が部分的に含まれることになる。主観的な重みづけは生物学的な正当化が難しく、仮に全ての種に均等な重みを与えたとしても（wj = 1; ∀j）、それも生物分類群や種の特異性（種間の進化履歴、分類学的不確実性、分布データの信頼度、絶滅確率等の違い）を全て無視した重みづけの一種であることを注意すべきである。

種ごとの絶滅リスクは、一部の分類群ではレッドデータブックに情報が集約されている。そこで、レッドデータブックにおける種ごとの保全上の重要度に基づいて種を重みづけして、沖縄県内の約 1 x 1km の地域ごとの保全優先度を分析した。なお、種レベルの重み（SPW）は、レッドデータおきなわ第 3 版に基づき、以下のように定義した（表 2－5－1）。

表 2－5－1．種レベルの重みの定義

レッドデータおきなわ（第 3 版）カテゴリー	種の重み
絶滅危惧 IA 類（CR）	8
絶滅危惧 IB 類（EN）	6
絶滅危惧 II 類（VU）	4
準絶滅危惧（NT）	2
情報不足（DD）	2
絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	1
リストに記載されていない種（普通種）	1

※1 情報不足（DD）は、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種であり、より上位のカテゴリーに移行すべき種を含む可能性があるが、確実な情報がある種により重みを付けるべきという考え方もある。したがって、今回の分析では、情報不足（DD）は過大過小評価にならないように準絶滅危惧（NT）と同等の重みとした。また、絶滅のおそれのある地域個体群（LP）は、種レベルの評価を行うこととしたため、種の重みをつけないこととした。
※2 本解析では亜種変種は種レベルに統合しており、同一種内で複数の亜種変種が含まれる場合には、過大評価にならないように最も下位のカテゴリーの重みづけを採用した。

この定義では、普通種を 1 として、レッドリストのランクが高くなるにしたがって段階的に大きな重みがかかるようになっている。なお、絶滅種（EX）および野生絶滅種（EW）は解析に含まれていない。

実際の保全計画に投下できる経済的コストには制約があるので、希少種や絶滅危惧種に保全エフォートを優先的に投じることは、生物多様性の損失リスクを効率的に回避するために重要である。具体的には、CAZ による空間的区画のリムーバルでは、種分布の残存面積を各種毎の保全重要度の重みで割った値で計算することで、絶滅危惧度の高い種ほど残存面積が小さく評価され、保全優先度が高いと判断される。ABF では、種の保全重要度を種ごとの生態学的損失の計算に掛け合わせる。これにより、絶滅危惧度の大きい種が分布する空間的区画が除外された場合に、生態学的損失が大きいと評価される。

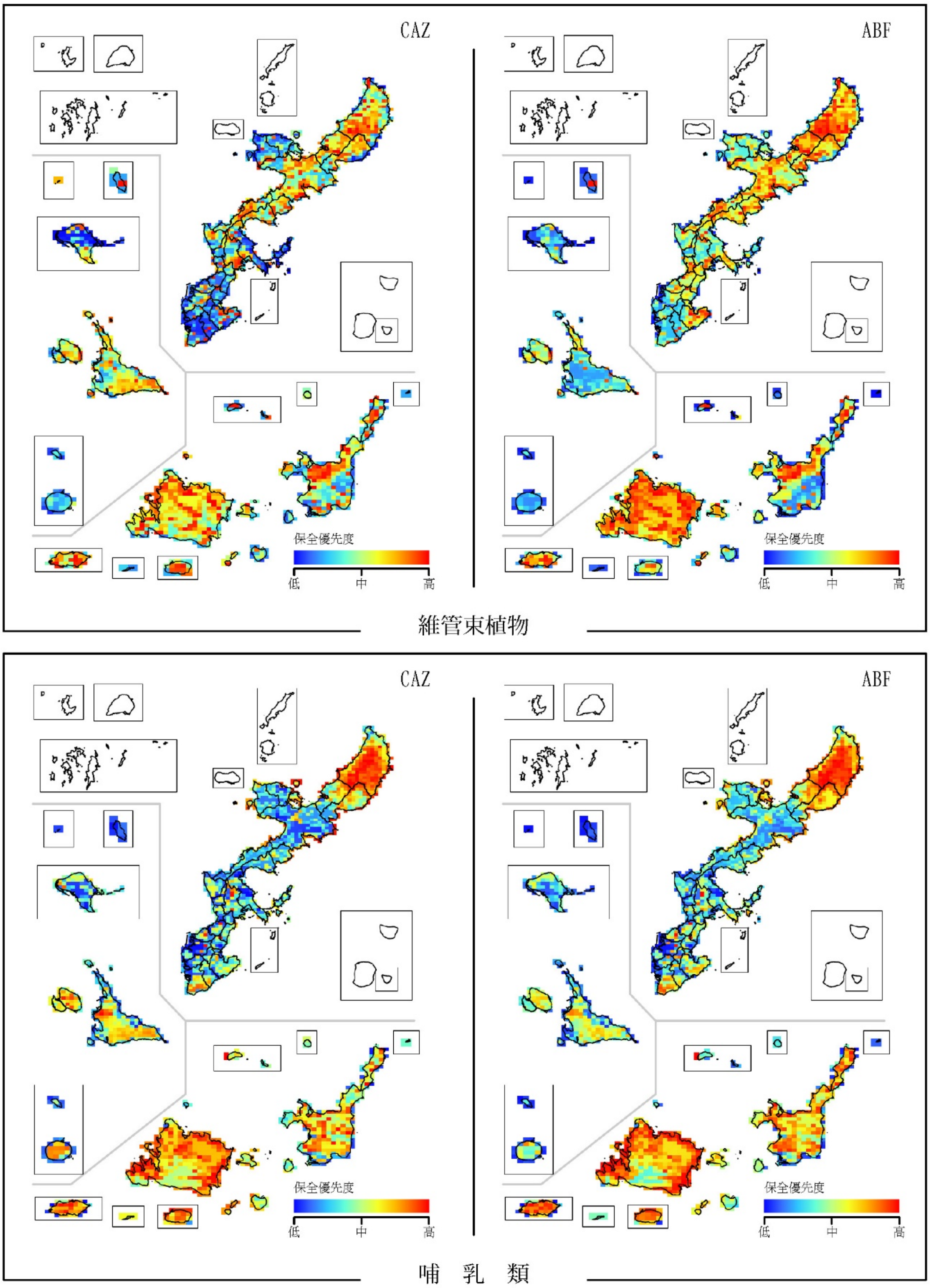


図 2－5－1（1）．生物分類群ごとの保全優先度（陸域）

※CAZ は希少性から見た保全優先度、ABF は種多様性から見た保全優先度

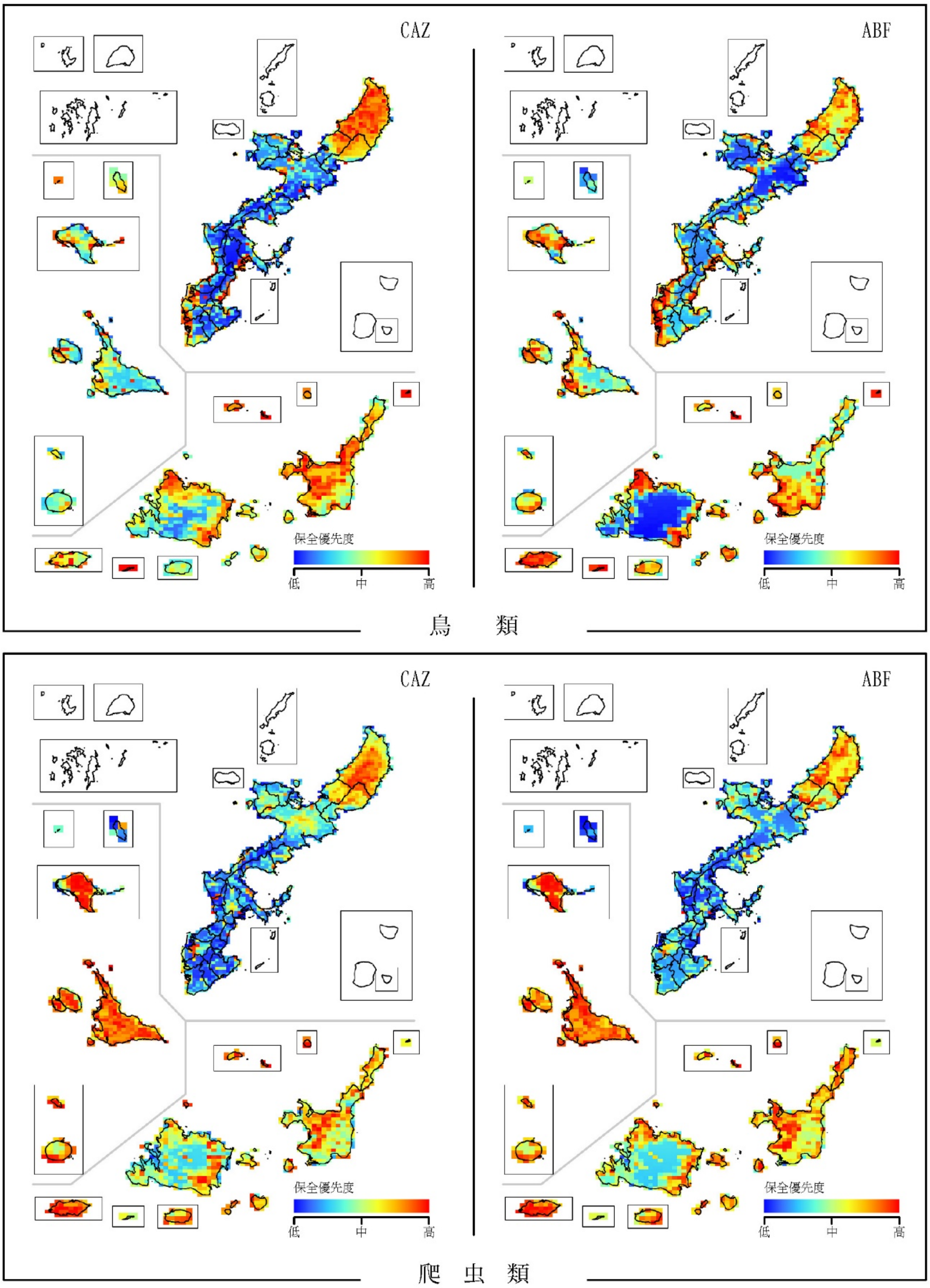


図 2－5－1（2）．生物分類群ごとの保全優先度（陸域）

※CAZ は希少性から見た保全優先度、ABF は種多様性から見た保全優先度

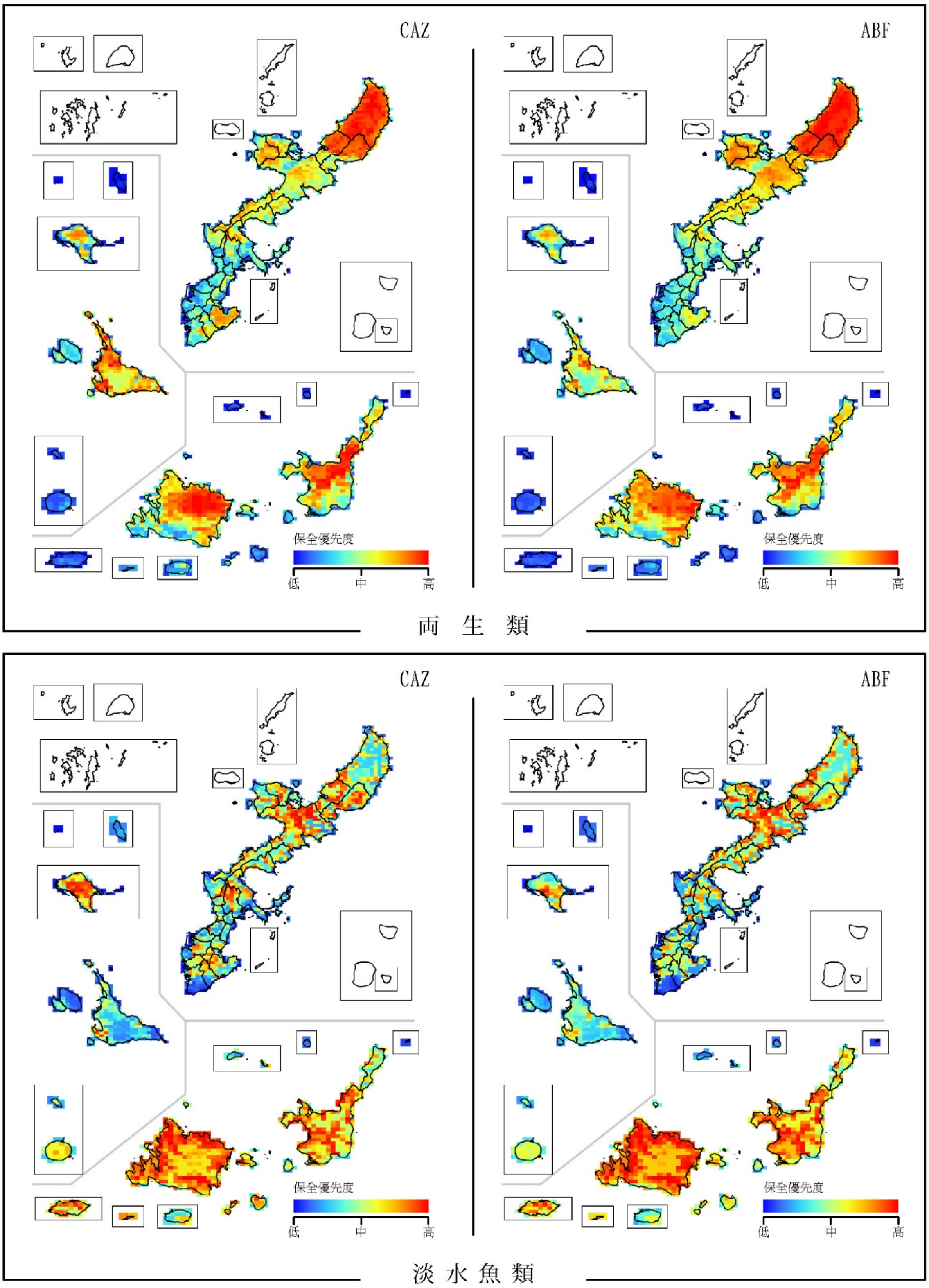


図 2－5－1（3）．生物分類群ごとの保全優先度（陸域）

※CAZ は希少性から見た保全優先度、ABF は種多様性から見た保全優先度

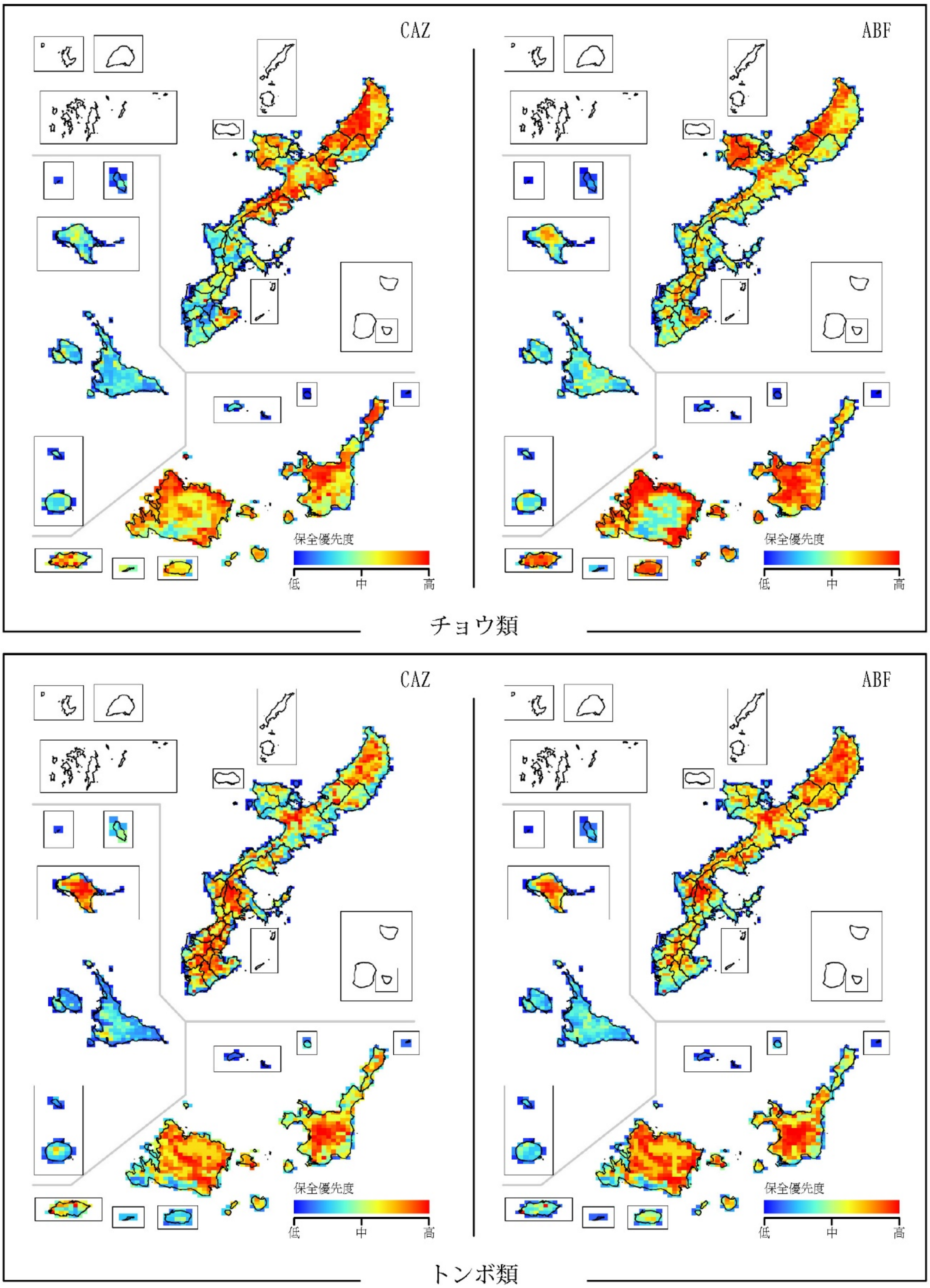
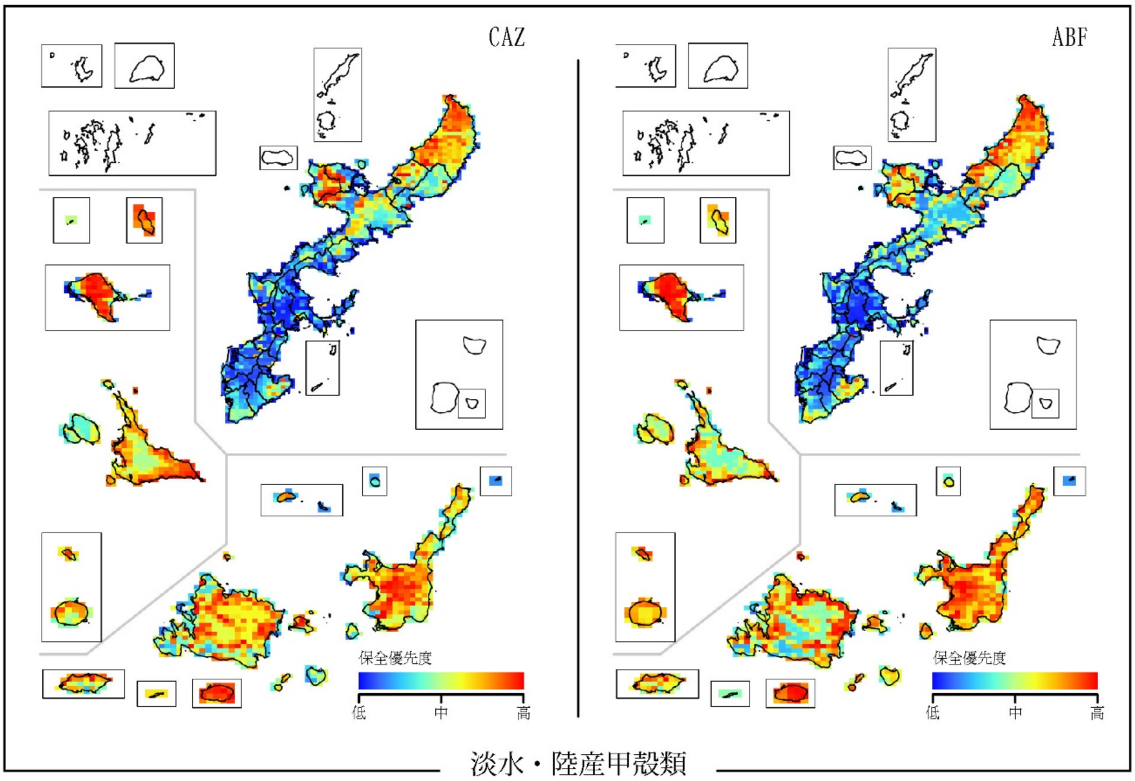


図２−５−１（4）．生物分類群ごとの保全優先度（陸域）

※CAZ は希少性から見た保全優先度、ABF は種多様性から見た保全優先度



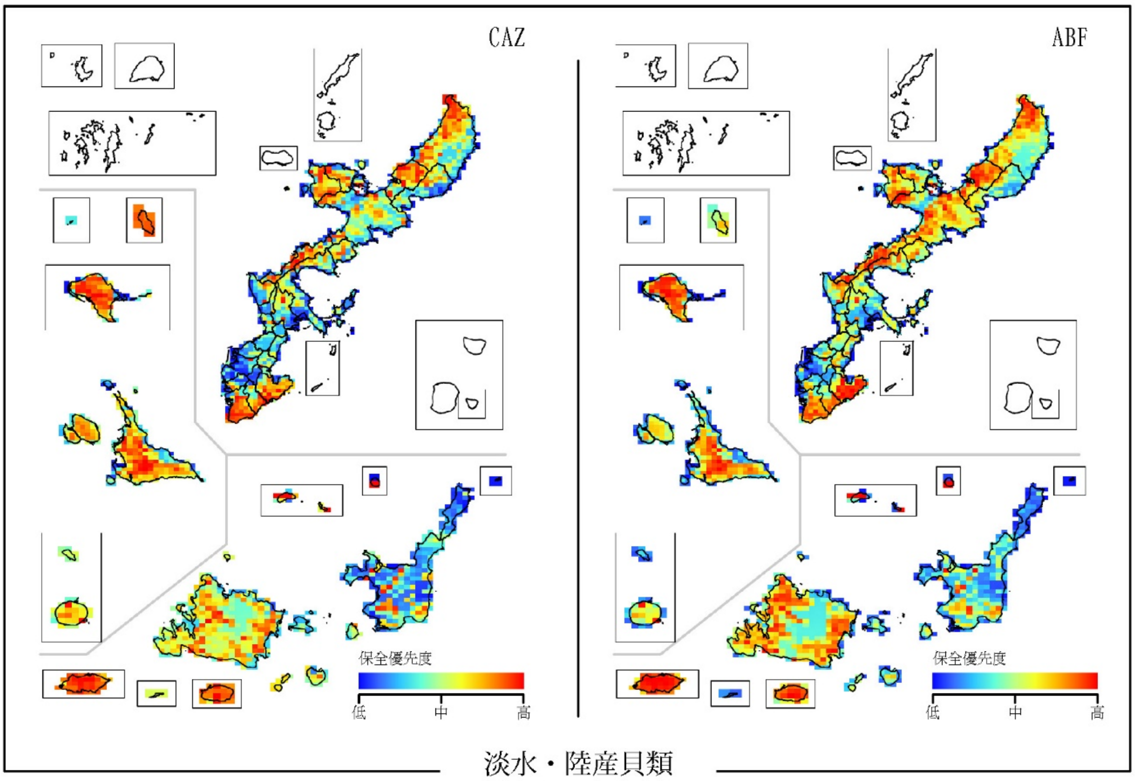
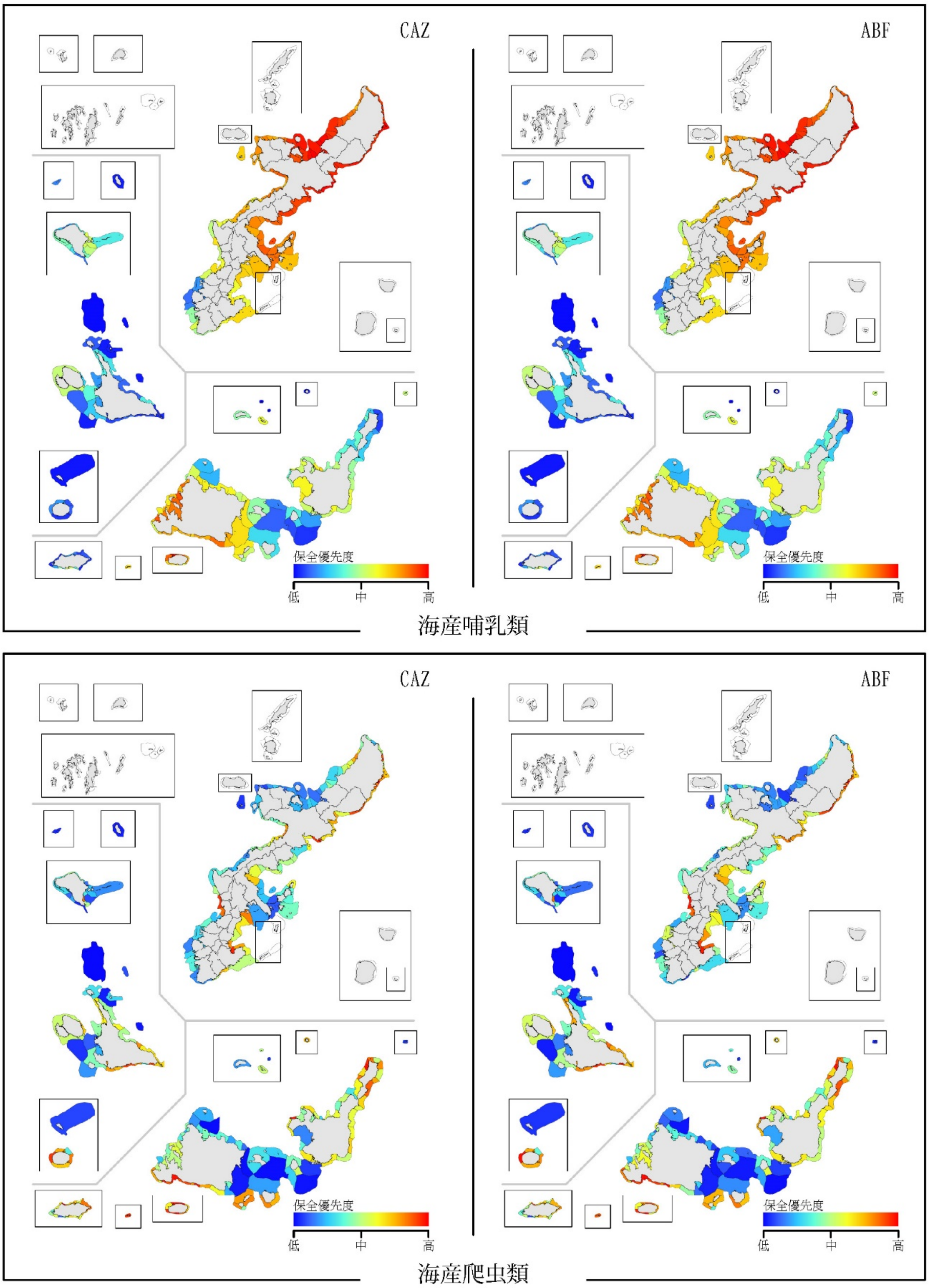


図 2－5－1（5）．生物分類群ごとの保全優先度（陸域）

※CAZ は希少性から見た保全優先度、ABF は種多様性から見た保全優先度



２－５－２（1）．生物分類群ごとの保全優先度（海域）

※CAZ は希少性から見た保全優先度、ABF は種多様性から見た保全優先度

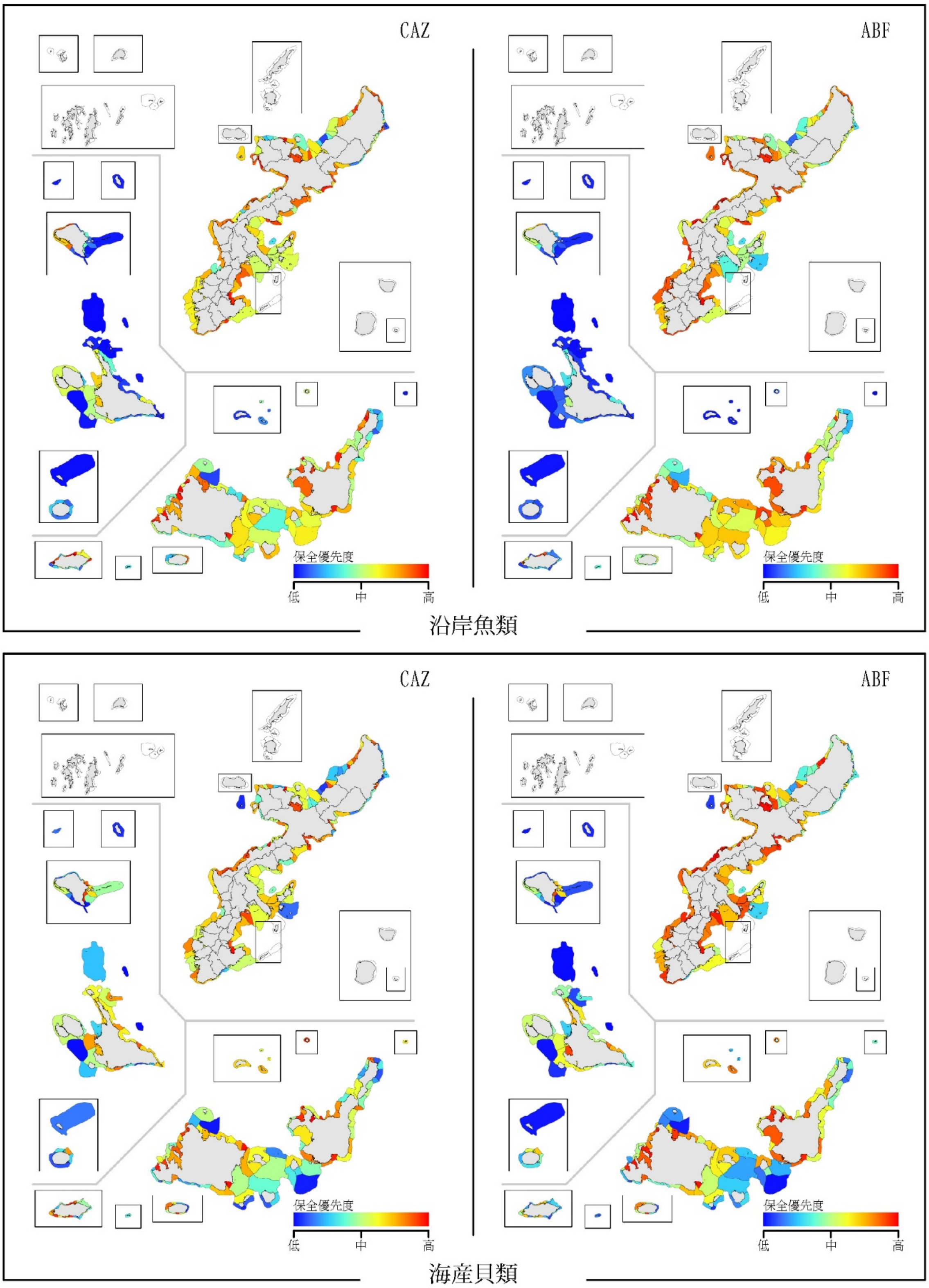
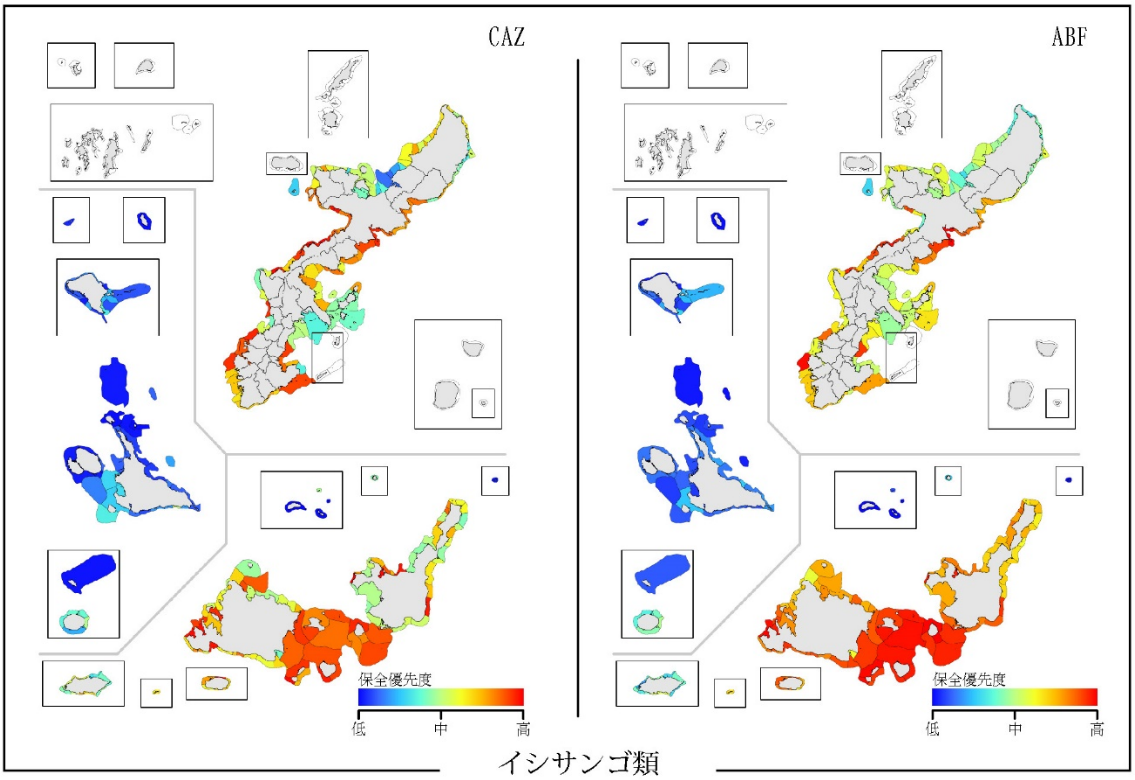


図２−５−２（2）．生物分類群ごとの保全優先度（海域）

※CAZ は希少性から見た保全優先度、ABF は種多様性から見た保全優先度



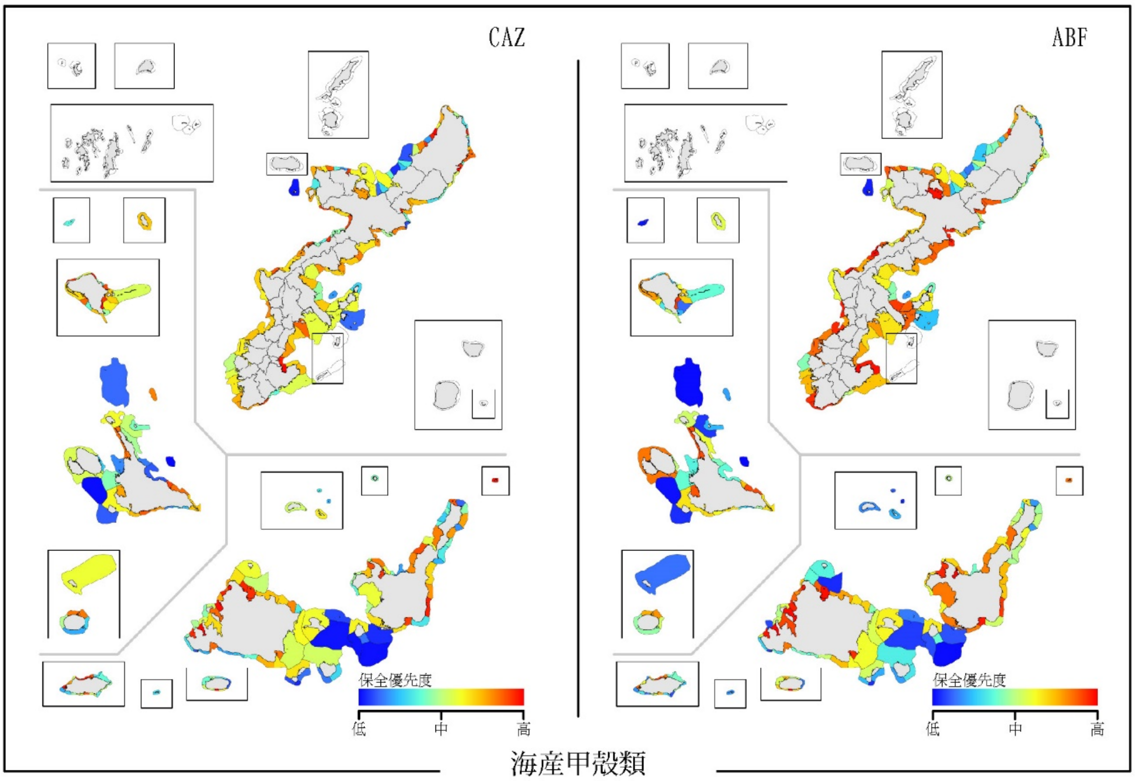


図 2－5－2（3）．生物分類群ごとの保全優先度（海域）

※CAZ は希少性から見た保全優先度、ABF は種多様性から見た保全優先度

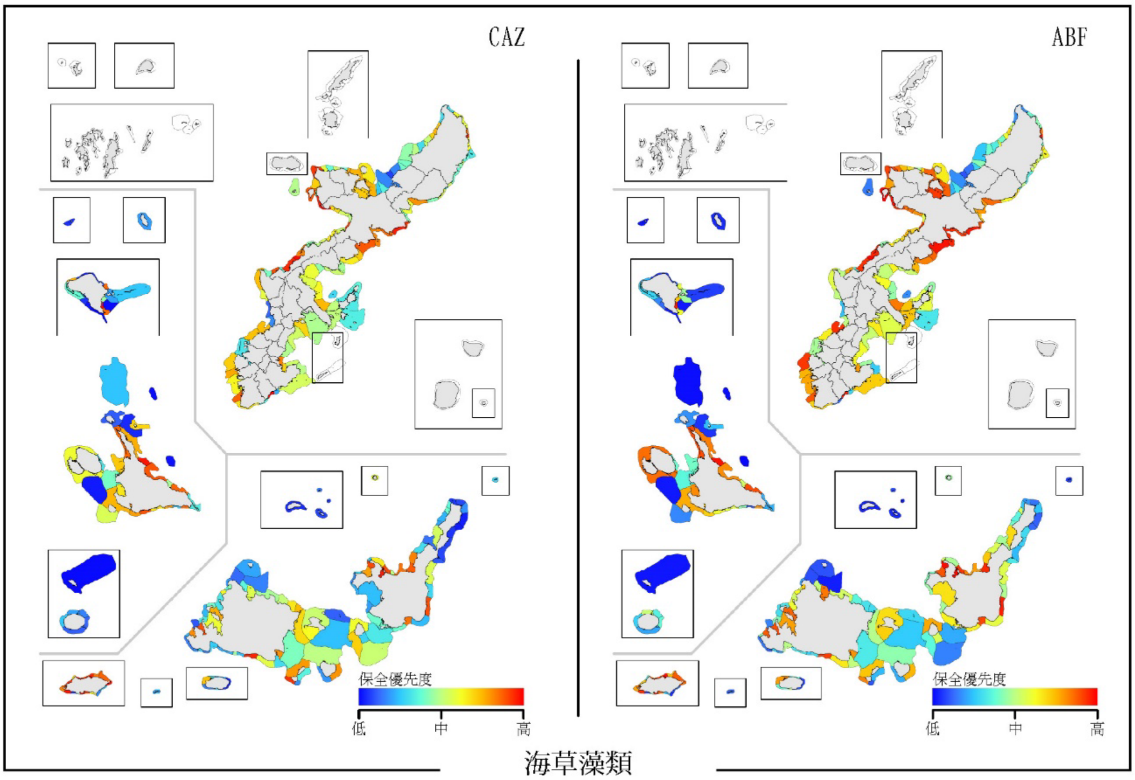


図 2−5−2（4）．生物分類群ごとの保全優先度（海域）

※CAZ は希少性から見た保全優先度、ABF は種多様性から見た保全優先度

（５）生物分類群を統合した保全優先度

様々な生物分類群の多様性パターンを把握することは、各分類群の多様性の起源や維持プロセスの存続可能性に関する保全ベースラインを特定する上で重要である。したがって、生物分類群ごとの保全優先地域のランク付け分析は、個々の分類群の生物多様性の形成機構を捕捉した分類群レベルの保全計画に貢献する。例えば、哺乳類には哺乳類の多様性を保全するための計画が、爬虫類には爬虫類の多様性を保全するための計画が個別に検討されることが理想である。一方で、保全実務上は、あらゆる生物分類群をそれぞれ個別に100%保全することは不可能であり、対象地域（例えば沖縄県）の全てを保全地域に指定できるわけではない。このような制約のため、限られた保全リソース（空間）の中で、なるべく多くの分類群の生物種を効率的に保全する現実的な保全計画を考案する必要がある。

保全優先地域の分析には、特定の生物分類群の多様性が代替指標（サロゲート）として用いられる。しかし、生物の分布には種特異性や分類群特異性があるので、サロゲートの適用可能性には限界がある。さらに、サロゲート生物と他の生物の分布に空間的な不一致がある場合、サロゲートに基づく保全地域の選定は他の生物の存続可能性の損失につながる可能性もある。この問題に対する解決策として、なるべく多くの生物群の空間情報を集めて、空間的保全優先地域分析に用いる多分類群アプローチが推奨される。

（６）集約化重みづけによる保全優先度の計算方法

複数の生物分類群の空間分布情報を統合して扱う場合、各分類群の解析上の扱いに注意を払う必要がある。なぜなら、生物多様性保全では保全上の重要生物が、客観的あるいは主観的に定義されている場合が少なくない。例えば、地域の固有生物や、レッドリストに記載された種は、保全政策のシンボルとして重要視される。また、単純に複数の分類群の種を総和した場合には、種数の多い分類群が、解析結果に対して強い影響力を持つことになる。必然的に高次消費者や大型動物は、解析上軽視されることになる。したがって、全ての種を同等と見なした分析は、保全計画的には必ずしも妥当でない場合がある。

前述したように、Zonation には、生物分類群や種の保全上の重みを、除去規則の関数にパラメータとして明示的に組み込んでいる。種の重みづけは、絶滅危惧ランクを含めて 2 つ以上の項目で定義することもできる（例えば、固有性、進化的固有度）。その場合、最終的な種の重み(*SPW*)は、*k* 個の重み（*sw*）の積として定義される。

$$SPWj = swj^{(1)} * swj^{(2)} \cdots * swj^{(k)}$$

この式に基づき、分類群ごとの集約化した重みを考慮することができる。各分類群は、生態系機能やサービスへの役割が異なるという意味において、保全利益の観点においても等価ではない。保全計画では、特定の分類群（例えば、植物やサンゴのような生態系の基盤となる分類群や、高次捕食者のようなアンブレラ効果が期待できる分類群）を重視したい局面があるかもしれない。それらは分類群 l の重み（TW_1）として、m 個の重み（tw）の和として定義できる。

$$TWl = twl^{(1)} + twl^{(2)} \cdots twl^{(m)}$$

ここでも、分類群の重みは任意に与えられる。例えば、両生類の重みを 1 として、哺乳類の生態系サービスを保全上重要視したい場合､哺乳類の重みを 1 より大きくすれば良い。

分類群間の種数の違いにも注意を払う必要がある。分類群間の種数差が大きい場合、各分類群の種の重みをそのまま用いると、種数の多い分類群のデータ上の特徴が空間的優先順位付けに強く反映されることになる。これを避けたい場合、分類群の種数(N_l)で重み全体を基準化することによって、分類群間の影響力を均等化できる。分類群の重みと種数補正を含めて集約化した種の重みづけは以下で定義される。

$$Aggregated.SPW_j^{(1)} = (SPW_j * TW_l)/N_l$$

分類群レベルの重みは、全分類群均等な重みを与えた（TW ＝ 1)。そのうえで、各分類群の重みを均等にするために、分類群の種数で重みを補正した。

全分類群を統合した場合の保全優先度の分布を図 2－5－3 に示す。

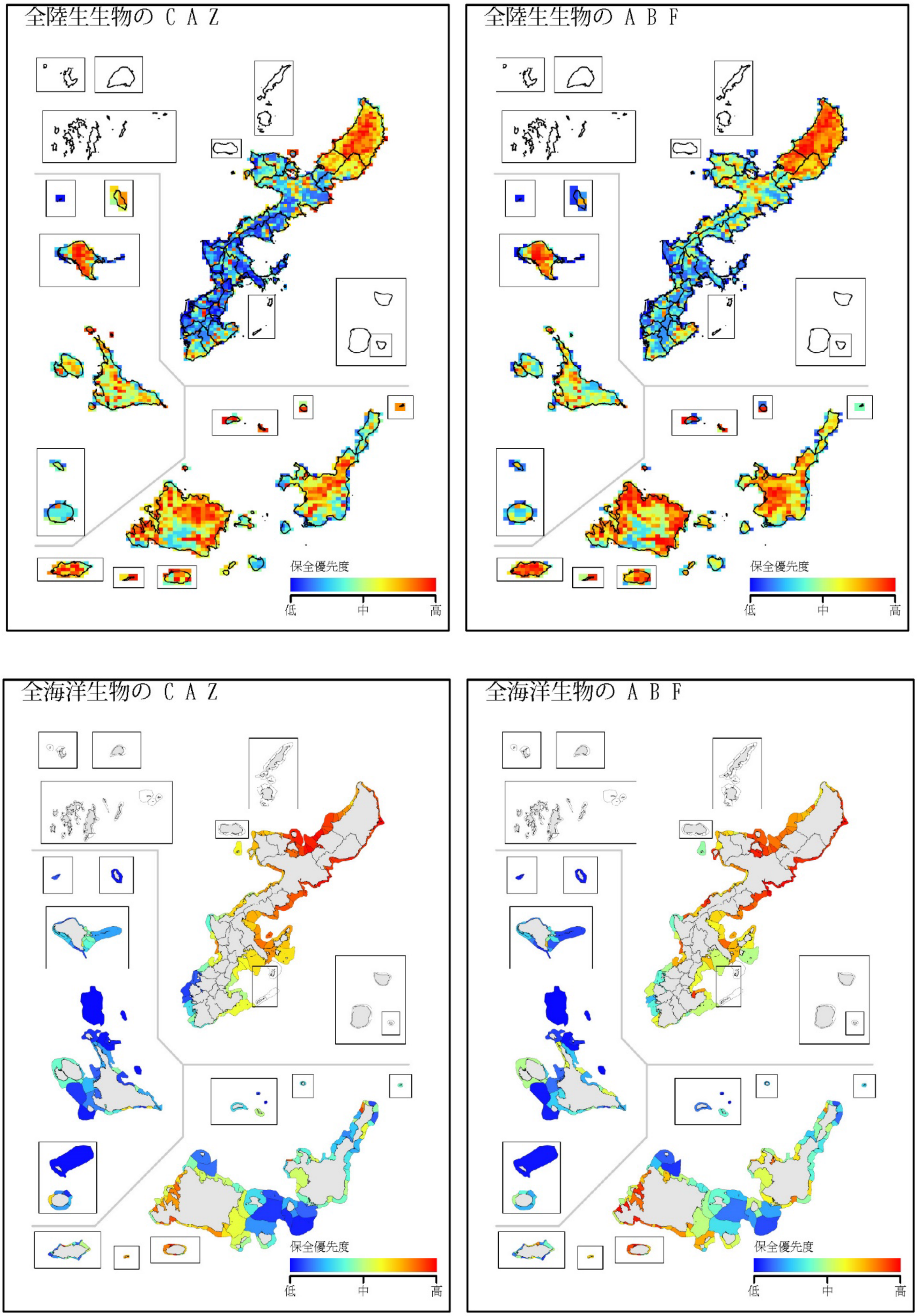


図 2－5－3．全分類群統合保全優先度

※CAZ は希少性から見た保全優先度、ABF は種多様性から見た保全優先度

※本図の分析結果の特徴に関しては、元データとなる種分布予測結果に関する留意事項
（第２章－１(4)「種の空間分布の予測と生物多様性パターンの定量」に記載）も参照のこと

５．２　総合評価ランクの検討

（１）土地利用や保全現況を考慮した総合評価

保全計画の対象地域には、土地利用の履歴や自然度の異なる生息地が含まれており、保全現況も異なるのが一般的である。それらの場所は、生物の分布状況だけでなく、期待される保全利益（生態系機能や生態系サービスの供給効果）や、それを発揮・維持するための土地利用計画も異なるはずである。例えば、原生的な自然が残っている場所は、保護のコアエリアとして適しているし、市街地では緑地管理によるレクリエーション効果の向上などが主な課題になるだろう。また、保全現況（保護区による法的規制）は、実現可能性の高い保全計画を検討する上で必須の情報である。現在の保全現況は、必ずしも生物多様性保全に対して最適化されていないだろう。しかし、それらを明示的に保全優先地域分析に組み込むことにより、現状の保全計画の実効性やパフォーマンスを把握し、改善策を考えるための根拠を提示することが可能になる。

生物多様性保全の観点から見た土地利用や景観構造の階層性は、マスクレイヤ（Mask layer）として Zonation 分析に組み込んで、保全優先度のランク付けを段階的に行うことができる。具体的には、保全優先度のランク付けを行う地域とその順番をマスクレイヤによって制御する。これによって、マスクレベルの低い地域から先にランク付けされ、最もマスクレベルの高い地域が最後にランキングされる。例えば、現況からみて、原生的な地域→自然度の高い地域→準自然地域→居住地域といった階層性があった場合、それらをマスクレイヤとして図 2－5－4 のような階段状の保全パフォーマンス曲線を描くことができる。

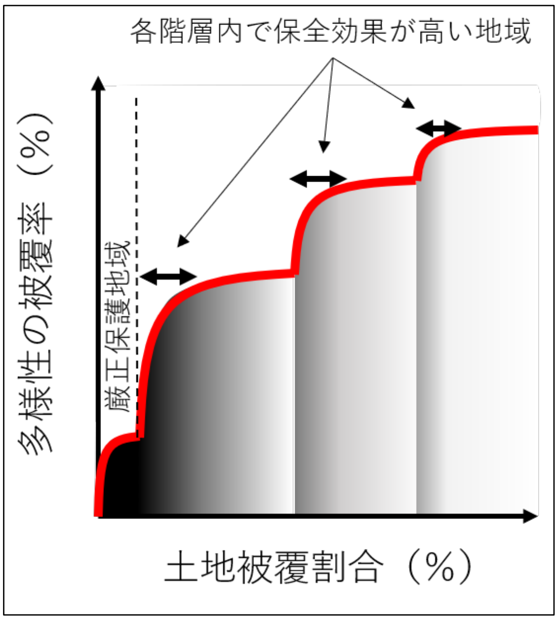


図 2－5－4．マスクレイヤを用いた階層的な空間的保全優先地域分析のイメージ

図 2－5－4 の左側ほど、生物多様性保全上の重要度が高い。ここで重要なのは、階層ごとに保全優先順位が生成される点である。特に、各階層でパフォーマンス曲線の傾きが急になっている箇所（矢印）は、少ない面積で高い保全効果が得られる地域である。このような情報は、各階層において、どこに、どのような保全アクションを適用すれば良いかを検討する際に有益である。

（2）沖縄県の生物多様性保全の総合評価

本プロジェクトで構築した生物分布情報には、陸域 10 分類群（維管束植物、陸産哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、チョウ類、トンボ類、淡水および陸産貝類、淡水および陸産甲殻類）と海域 7 分類群（海産爬虫類、沿岸魚類、海産貝類、イシサンゴ類、海産甲殻類、海藻草類、海産哺乳類）が含まれている。本指針では、陸域において、全分類群の潜在的種分布情報を用いて、前述の分類群別の集約化重みづけ（Aggregated weighting）を行った上で、マスクレイヤ（Mask layer）を伴う空間的保全優先順位付け分析を行った。

更に、階層ごとの保全目標に照らした保全指針を決定するために、保全優先順位付け結果（連続値）の事後分類を行い、総合評価タイプ（ABF、CAZ）、総合評価ランク（ABF）を設定した。総合評価タイプはマスクレイヤの段階毎に保全優先順位を付けたものであり、総合評価ランクは保全優先度や総合評価タイプを元に、前指針（「自然環

境の保全に関する指針」）と同様の陸域 5 ランク、海域 4 ランクに整理したものである。

➢ マスクレイヤの定義

階層的な保全優先度のランク付けを行うために、陸域は土地利用及び現存植生の情報を用いて原生的自然地域、自然地域、混在地域、農業地域等、都市集落地域の 5 段階のマスクレイヤを整備した。なお、海域については、陸域の土地利用にあたる情報がないことからマスクレイヤを設定しなかった。陸域におけるマスクレイヤの定義とマスクランクは以下の通りである。

表 2－5－2．マスクレイヤの定義（陸域）

マスクレイヤ	原生的な 自然地域	自然地域	混在地域	農業地域	都市集落地域
条件 （植生及び 土地利用）	自然植生 50%以上	自然植生 50%未満且つ森林地域 50%以上	左右に該当しない地域	耕作地等面積 50%以上	市街地等面積 5%以上
マスクランク （略称）	1 （原生）	2 （自然）	3 （混在）	4 （農業）	5 （都市）

➢ 保全優先度スコアの事後分類（総合評価タイプの作成）

陸域について、土地利用や植生の現況に照らした保全指針を構築するために、Zonation による保全優先順位付け解析の結果（0- 1 の連続値）を事後分類し、総合評価タイプを決定した。総合評価タイプの計算には、マスクレイヤ（土地利用等による類型区分）を用いた Zonation の出力結果（3 次メッシュレベル）を用いた。陸域については、マスクランクと、ランク内での種分布の捕捉割合に基づき、1 ㎞グリッドセルレベルで総合評価ランクを決定した。なお、海域については海域利用区分や海域自然度を現段階で定義することが困難なため、マスクレイヤを設定せずに総合評価タイプ及び総合評価ランクを計算した。以下に、総合評価タイプの事後分類法について解説する。

陸域のマスクレイヤ内の分類には、Zonation の出力する種分布の捕捉割合を用いた。Zonation では、アルゴリズム上で保護面積を逐次的に除去していく際、種の分布範囲の消失を追跡することができる。これは、パフォーマンス曲線と呼ばれ、土地損失とそこに含まれる生物分布の損失割合の関係性を記述することができる。パフォーマンス曲線の傾きは面積当たりの保全効率を表しており、傾きの変換点は保全重要地域を区分けするための目安になる。パフォーマンス曲線は種ごとに出力されるため、全種を集約した代表値を決める必要がある（最小値、平均値、中央値、重み付き平均）。本プロジェクトでは以下

の理由により、種間の重み付き平均をパフォーマンス曲線の代表値として用いた：１）全体的な保全パフォーマンスをできる限り高めたい、２）種間の保全価値の不均等性を考慮したい。

パフォーマンス曲線に基づいて、マスクランク内の１㎞グリッドセルを分類する手順は以下である。１）全体のパフォーマンス曲線から、対象とするマスクランクに該当する部分を取り出す。２）取り出した部分曲線の両端を結ぶ直線（*l* = *ax* + *by* + *c*）を定義する。３）直線 *l* と部分曲線上の点（*xi*, *yi*）との垂直距離を計算する $d = |ax_i + by_i + c| / \sqrt{a^2 + b^2}$。４）直線 *l* との垂直距離が最大となる点を求める。この点が、保全効率の変換点である（図２−５−５)。この点の右側部分を、そのマスクランク内での最重要地域と定義した。この点の左側部分の分割方法には様々なオプションが考えられる（分割しないオプションも含まれる)。方法論的には、曲線の飽和点で区切るのが理想的かもしれない。しかしながら、沖縄県の陸生生物の場合、パフォーマンス曲線に飽和点が見られなかったため、この方法は採用できなかった。よって、点の左側部分を３等分し、マスクランク内を４つの段階に区分した：最重要地域、地域１、地域２、地域３。ここでの「地域＃」の分類は便宜的なものなので、出力結果を見ながら再統合を検討する必要がある。なお、海域では自然度や利用区分によるマスクレイヤは用いていないので、階段状の保全パフォーマンス曲線にはならない。したがって、海域全域を通した単一のパフォーマンス曲線に基づいて、変曲点の右側部分を総合評価ランクＩとし、変曲点の左側部分を均等分割して総合評価ランクⅡ～Ⅳを割り振った。

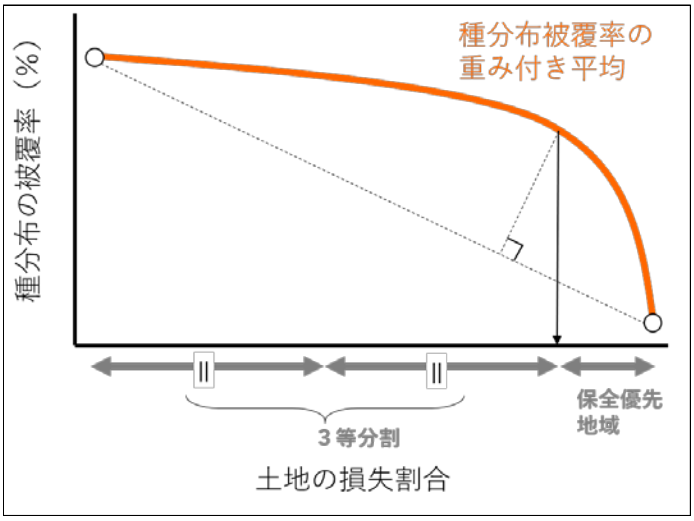


図２−５−５．総合評価タイプの定義のための各マスクレイヤ内での保全優先地域の分類

マスクランク内を４つの段階に分けた結果から、総合評価タイプ（陸域 20 タイプ）を設定した（表２−５−３、図２−５−６)。

表 2－5－3．自然度に基づく陸域の総合評価タイプに含まれる 3 次メッシュ数

【暫定版】

総合評価タイプ（20 タイプ）		3 次メッシュ数		総合評価ランク（5 ランク）
マスクランク	マスクランク内での優先順位	CAZ	ABF	
1（原生）	1	6	0	Ⅰ
	2	9	6	Ⅰ
	3	6	6	Ⅱ
	4	12	21	Ⅱ
2（自然）	1	39	28	Ⅰ
	2	11	10	Ⅱ
	3	7	13	Ⅱ
	4	2	8	Ⅲ
3（混在）	1	50	45	Ⅱ
	2	4	3	Ⅲ
	3	0	4	Ⅲ
	4	0	2	Ⅳ
4（農業）	1	172	172	Ⅲ
	2	16	17	Ⅳ
	3	2	3	Ⅳ
	4	3	1	Ⅴ
5（都市）	1	16	16	Ⅳ
	2	0	0	Ⅳ
	3	0	0	Ⅴ
	4	0	0	Ⅴ

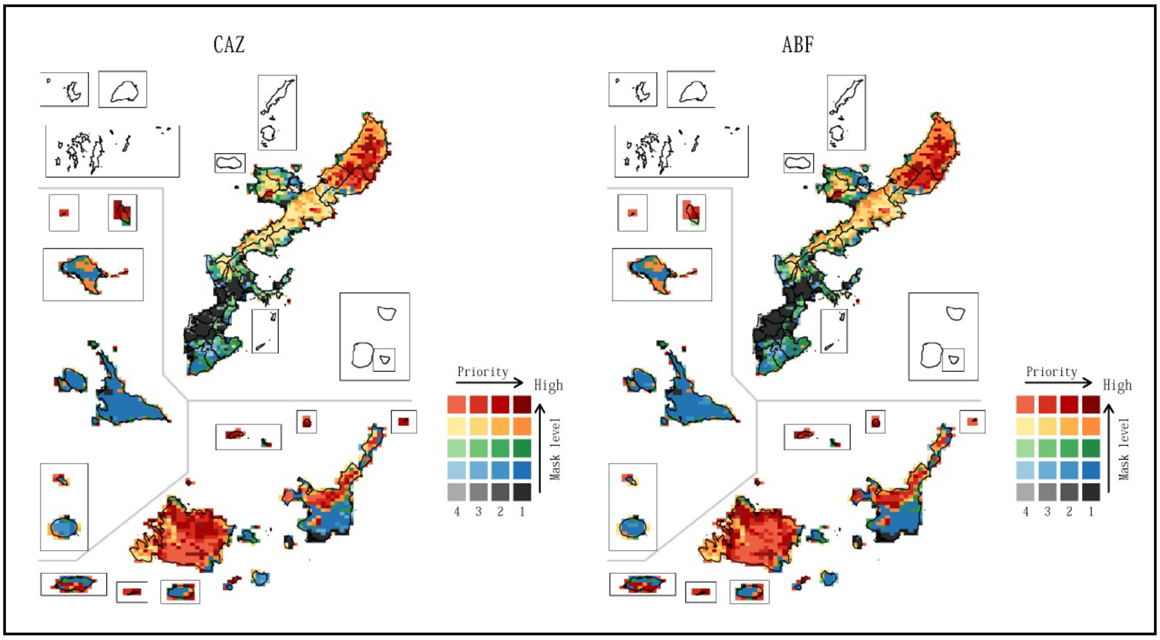


図 2－5－6．自然度に基づく陸域の総合評価タイプ【暫定版】

※CAZ は希少性から見た保全優先度、ABF は種多様性から見た保全優先度
※凡例の Mask Level はマスクランクを示し、Priority はマスクランク内での優先順位を示す
※本図の分析結果の特徴に関しては、元データとなる種分布予測結果に関する留意事項
（第 2 章－1 (4)「種の空間分布の予測と生物多様性パターンの定量」に記載）も参照のこと

➢ 保全優先度スコアの事後分類（総合評価ランクの作成）

保全優先度及び総合評価タイプを元に、平成 10 年の「自然環境の保全に関する指針」（沖縄県 1998）を踏襲し、陸域で５つ（陸域における自然環境の保全に関する指針）、海域で４つ（沿岸域における自然環境の保全に関する指針）の総合評価ランクにカテゴリ分けした（表 2－5－4)。ただし、海域の総合評価ランクについては今後検討する余地があるため、本暫定版においては陸域の総合評価ランクのみを掲載した。

表 2－5－4．陸域の総合評価ランクのカテゴリ一覧【暫定版】

総合評価ランク	説明	マスクランク	空間的保全優先順位付けとの対応（ABF）
I	生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が極めて高い区域	1、2	マスク１の上位 18% マスク２の上位 28%
II	生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が高い区域	1，2，3	マスク１の下位 82% マスク２の中位 24% マスク３の上位 4%
III	生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が中程度の区域	2，3，4	マスク２の下位 47% マスク３の中位 4% マスク４の上位 5%
IV	自然環境の保全及び向上を図る区域	3，4，5	マスク３の下位 92% マスク４の中位 53% マスク５の上位 100%
V	自然環境の保全及び向上を積極的に図る区域	4，5	マスク４の下位 42% マスク５の下位 0%

総合評価ランクの分類結果は、前指針と同様に１つに絞り込むこととして、ＡＢＦのみを掲載することとした。分類結果を図 2－5－7 に示す。

更に、施策への反映を見据えて、総合評価タイプ及び総合評価ランクの位置づけについて表 2－5－5 に整理した。

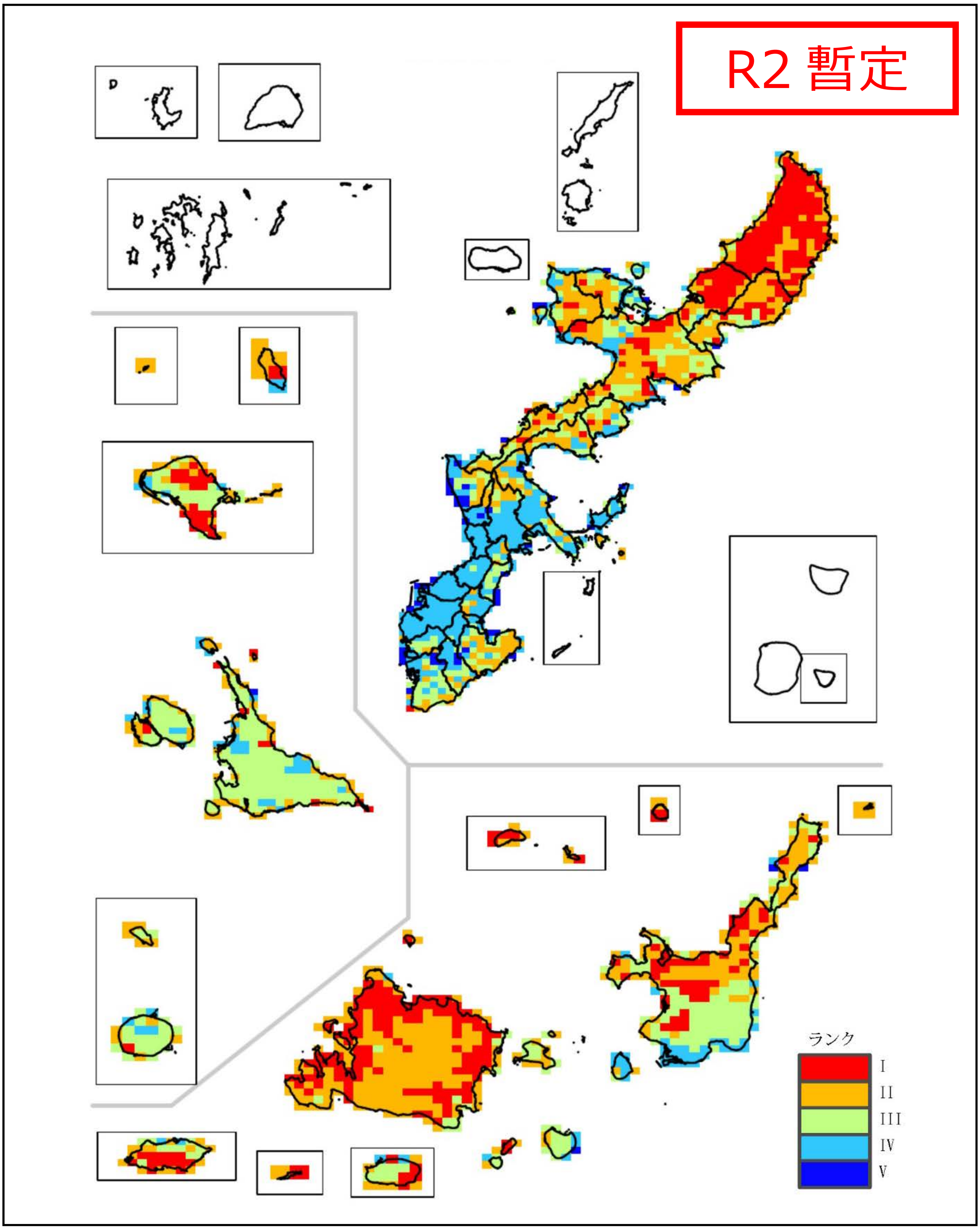


図 2－5－7．陸域の総合評価ランク【暫定版】

※本図の分析結果の特徴に関しては、元データとなる種分布予測結果に関する留意事項（第２章－１(4)「種の空間分布の予測と生物多様性パターンの定量」に記載）も参照のこと
※低ランクでも生物多様性保全上重要な種や分類群が存在する場合があることに留意が必要

表 2－5－5．自然度に基づく陸域の総合評価タイプと総合評価ランクの位置づけ【暫定版】

陸域総合評価ランク（5ランク）		陸域総合評価タイプ（20タイプ）				
		1.原生的な自然地域	2.自然地域	3.混在地域	4.農業地域	5.都市集落地域
評価ランクI	生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が極めて高い区域	原生的な自然が広がる本地域において、生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が極めて高い区域	森林等の自然環境が広がる本地域において、生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が極めて高い区域			
	原生_1，2　自然_1	原生_1，2	自然_1			
評価ランクII	生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が高い区域	原生的な自然が広がる本地域において、生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が高い区域	森林等の自然環境が広がる本地域において、生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が高い区域	多様な環境が混在する本地域において、生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が高い区域		
	原生_3，4　自然_2，3　混在_1	原生_3，4	自然_2，3	混在_1		
評価ランクIII	生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が中程度の区域		森林等の自然環境が広がる本地域において、生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が中程度の区域	多様な環境が混在する本地域において、生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が中程度の区域	農地等が広がる本地域において、生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が中程度の区域	
	自然_4　混在_2，3　農業_1		自然_4	混在_2，3	農業_1	
評価ランクIV	自然環境の保全及び向上を図る区域			多様な環境が混在する地域としては、生物多様性が低く、緑地や湿地など自然環境の保全及び向上を図る区域	農地等が広がる本地域において、生物多様性はやや低く、緑地や河川、湿地など自然環境の保全及び向上を図る区域	都市集落が広がる本地域において、生物多様性が高く、緑地や河川、湿地など自然環境の保全及び向上を図る区域
	混在_4　農業_2，3　都市_1，2，3			混在_4	農業_2，3	都市_1，2
評価ランクV	自然環境の保全及び向上を積極的に図る区域				農地等が広がる本地域において、本地域は生物多様性が低く、緑地や河川、湿地など自然環境の保全及び向上を積極的に図る区域	都市集落が広がる本地域において、本地域は生物多様性が低く、緑地や河川、湿地など自然環境の保全及び向上を積極的に図る区域
	農業_4　都市_3，4				農業_4	都市_3，4

５．３　今後の分析計画と制限事項

沖縄島、八重山、宮古・久米島については、検討委員会やワーキンググループ等での検討を経て、分析手法を確立してきた。ただし、次年度に沖縄島周辺諸島などのデータが追加され、沖縄島データ＋八重山データ＋宮古・久米島データ＋周辺諸島データといった形でデータを入れ子的に付加しながら、分析手法と解析を進めていくことになる。そのため、宮古・久米島の保全優先度や総合評価ランクについても、他地域での解析の進捗にあわせ、プロジェクト終了時（令和３年度末を予定）まで更新される。

よって、本指針の最終版の発行（令和３年度末を予定）までは「自然環境の保全に関する指針」（沖縄県 1998～2000）を参照いただきたい。

６．環境配慮方針

（１）目的

環境配慮方針は、各環境カルテの記載内容のうち、特に配慮すべき情報を概要的にとりまとめ、各地域での保全・再生等の取組を促進するために、環境配慮の方向性を示すことを目的としたものである。

（２）記載方法

環境配慮方針の記載については、県全体で同質の記載になるよう、下記の記載条件を GIS データから自動判別し作成した。

（陸域の記載条件）

①総合評価ランク（タイプ）

②特に留意すべき分類群（保全優先度の高い分類群）

③保護区等の設置状況（国立公園、鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、天然記念物等）

④特異な自然環境（自然林、渓流環境、マングローブ林、特異な地形地質の分布）

⑤重要種の分布（種の保存法、天然記念物、絶滅危惧種、特定植物群落）

（海域の記載条件）

①総合評価ランク（タイプ）

②特に留意すべき分類群（保全優先度の高い分類群）

③保護区等の設置状況（国立公園、鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地等）

④特異な自然環境（自然海岸、重要サンゴ群集（沖縄県、WWF）、特異な地形地質、ウミガメ産卵箇所）

⑤重要種の分布（種の保存法、天然記念物、絶滅危惧種）

（３）環境配慮方針の作成例

環境配慮方針の一例を参考に示す。

なお、保全優先度や総合評価ランクは「第 2 章-5．3．今後の分析計画と制限事項」で示したように令和 3 年度末に最終版の公表を行うことから、それまでの間、環境配慮方針は「自然環境の保全に関する指針」（沖縄県　1998～2000）を参照いただきたい。

（陸域の環境配慮方針例）

原生的な自然が広がる本地域において、生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が高い区域である。
特に哺乳類、爬虫類、両生類については、種多様性及び希少性、いずれの観点からも保全優先度が高い。
大径木が生育する自然林、森林内を流れる渓流環境、亜熱帯の感潮域に特徴的なマングローブ林が分布している。
天然記念物指定の動物など法令による保護種が生息・生育する可能性がある。レッドデータに記載された絶滅危惧種が生息・生育する可能性があり、保全上重要な特定植物群落が分布しており、保全への配慮が求められる。

（海域の環境配慮方針例）

自然海域が広がる本地域において、生物多様性の維持を図る上で、保全優先度が高い区域である。
特に沿岸魚、海草藻類については、種多様性及び希少性、いずれの観点からも保全優先度が高い。
陸から海が連続する自然海岸が一部に残されている。沖縄県選定の重要なサンゴ礁海域、ウミガメ類が産卵のために上陸する可能性のある砂浜が分布しており、これら沿岸環境の保全への取組が求められる。
天然記念物指定の動物など法令による保護種が生息・生育する可能性がある。レッドデータに記載された絶滅危惧種が生息・生育する可能性があり、保全への配慮が求められる。

第３章　環境カルテ

１．目的

生物多様性の保全・利用に活用できるように、各地域の総合評価ランク及び各種環境情報を環境カルテとしてとりまとめた。

環境カルテは当該地域の環境条件や留意事項について概略的かつ網羅的に把握することを目的に作成し、自然環境の保護施策、開発事業における保全措置、利用時の情報源としての利活用を期待するものである。

２．作成方法

（１）環境カルテの作成方法

環境カルテは、様々な GIS 環境データ等より、各３次メッシュ・海域区分の情報をカルテ様式に出力する形で作成した。ただし、追記事項欄については、環境技術者により各地域の重要な自然資源・環境条件等を手作業で記載した。

前指針のカルテを可能な限り踏襲することとしたが、生物多様性への配慮の考え方や、生物文化を追加するなど、下記の方針に基づき改善・改良する方針とした。

１）GIS データから基本部分を自動作成（作業性、統一性、正確性、将来の更新性高い）
２）前指針の記載項目は、最新の地図が入手できないものを除いて継承
３）環境の分類（地形分類、土地利用等）は、面積や延長等について定量的に記載
４）生物多様性の解析結果から、推定分布種数、保全優先度、総合評価ランク等を記載
５）生物文化に関する情報を掲載（郷土誌等から先人の知識・知恵等に関する文章を抽出）
６）自然の利活用に関する項目・情報（観光資源、保全利用協定等）を記載
７）３次メッシュ単位・海域区分単位での環境配慮方針を記載
８）重要な動植物の分布情報については、別途非公開カルテとして作成予定

具体的な作成内容については、（３）陸域カルテ項目及び（４）海域環境カルテに示す。

環境カルテに使用したデータ及び参考文献は第４章に一覧を示した。なお、環境影響評

価等に用いるより詳細な環境情報については、沖縄県地図情報システム（沖縄県）、EADAS（環境省）などを参照されたい。

（２）陸域カルテの様式

図面番号	1-1	作成年月日	1-2	平面図 (6.0*7.37cm)
2次メッシュコード	1-3	3次メッシュコード	1-4	
総合評価※暫定	1-5		1-5	
市町村名	1-6			
町丁・字等	1-7			

生物多様性	地形・地質	2-1 2-1-1　地形分類、表層土壌、表層地質 2-1-2　特異な地形・地質
	植物	2-2 2-2-1　現存植生 2-2-2　特定植物群落 2-2-3　マングローブ林 2-2-4　維管束植物種数
	動物	2-3 2-3-1　動物種数

保全優先度 (高A⇔E低) ※暫定	分析方法	日本全体 6分類群統合	沖縄県 10分類群統合	植物	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	淡水魚類	ﾁｮｳ類	ﾄﾝﾎﾞ類	陸産・淡水 貝類	陸産・淡水 甲殻類
	ABF(種多様性)	2-4											
	CAZ(希少性)	2-4											

	生物文化の例(郷土誌等より)	文献名称	記載頁	著者
生物文化 (郷土誌等より)	3-1			
	3-1			

自然環境の利活用	観光拠点	4-1
	保全利用協定	4-2
その他	法規制等	5-1
	土地利用	5-2 5-2-1　土地利用の現況 5-2-2　農業振興地域 5-2-3　米軍基地
	河川	5-3 5-3-1　河川の分布 5-3-2　河床勾配と渓流環境 5-3-3　ダム、湖沼
	追記事項	5-4
環境配慮方針 ※暫定	6-1	

※本カルテは「暫定結果」であり、今後他地域のデータが追加され、全地域で分析・評価した「最終結果」が出そろうまで、記載されたランク等は変化する。その分析方法や評価方法についても調整が必要となる可能性もある。よって「最終結果」が出る令和4年（予定）までは、前指針（自然環境の保全に関する指針）を参照のこと。

（３）陸域カルテ項目

1）カルテ上段

1-1　図面番号：本指針で設定した図面番号。

1-2　作成年月日：本カルテの作成日。

1-3　2 次メッシュコード：総務省にて定められている標準地域メッシュ・位置を示すコードで、1 辺の長さは約 10km。

1-4　3 次メッシュコード：総務省にて定められている標準地域メッシュ・位置を示すコードで、1 辺の長さは約 1km。本カルテは、各 3 次メッシュの環境情報を示したものである。

1-5　総合評価ランク　当該 3 次メッシュの総合評価ランク及びタイプ。沖縄島の生物多様性を保全するために優先すべき「保全優先度」及び「現存植生・土地利用の状況」から設定した自然環境保全を考えるためのカテゴリー（5 ランク）及びタイプ（20 タイプ）。

※詳細は、第 2 章－ 5 を参照

1-6　市町村名：当該 3 次メッシュに含まれる全市町村名。

1-7　町丁・字等：当該 3 次メッシュに含まれる町丁・字等。

2）生物多様性

2-1　地形・地質

2-1-1　地形分類、表層土壌、表層地質：当該 3 次メッシュに分布する地形分類、表層土壌、表層地質。上位 3 位までの分類名称と当該 3 次メッシュ全体に対する面積割合を示した。

※分布図及び凡例は、沖縄県地図情報システムを参照のこと

2-1-2　特異な地形・地質：当該 3 次メッシュに分布する特異な地形・地質。亜熱帯から熱帯地域に特有なもの、特異なもの、貴重な遺物を包含するなどの観点から選定されている。

2-2　植物

2-2-1　現存植生：当該 3 次メッシュに分布する現存植生。当該 3 次メッシュ全体に１％以上分布する分類名称と面積割合を示した。

※植生図は、環境省自然環境調査 WEB-GIS 参照のこと。

2-2-2　特定植物群落：当該３次メッシュに分布する特定植物群落。特定植物群落は、自然環境保全基礎調査（環境省）において、「特定植物群落選定基準」に該当する植物群落を指す。

※分布図は、環境省自然環境調査 WEB-GIS 参照のこと。

2-2-3　マングローブ林：当該 3 次メッシュに分布するマングローブ林（平成 19 年頃）の有無と地区名。

2-2-4　維管束植物種数：当該 3 次メッシュに、生育が推定される在来の維管束植物の種数及び改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ第３版）に掲載された絶滅危惧種（準絶滅危惧種含む）の種数。

※生育の推定方法及び推定種数に関する留意事項は、「第２章評価手法等　１．生物多様性」を参照

2-3　動物

2-3-1　動物種数：当該 3 次メッシュに、生育が推定される在来の動物の種数及び天然記念物種、国内希少野生動植物種、改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）に掲載された絶滅危惧種（準絶滅危惧種含む）の種数。

なお、宮古・久米島地域に生息が推定される哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、チョウ類、トンボ類、淡水・陸生貝類、淡水甲殻類のうち、当該 3 次メッシュに生息が推定される種数を抽出したものである。他の分類群は確認事例があっても生息が推定される種数には含んでいない。

※生息の推定方法及び推定種数に関する留意事項は、「第２章評価手法等　１．生物多様性」を参照

2-4　保全優先度：当該３次メッシュの各種保全優先度ランク。保全優先度は、動植物の推定分布情報から分析した生物多様性を保全するために優先すべき 3 次メッシュをランキングし、それをＡ～Ｅの５ランクに区分したもの。Ａが最も高く、Ｂ，Ｃ，Ｄと続き、Ｅが最も低い。

日本全体 6 分類群統合は、日本全体の分布情報から分析した全分類群の保全優先度ランク。沖縄県 10 分類群統合は、沖縄県の分布情報から分析した全分類群の保全優先度ランク。各分類群の、沖縄県の分布情報から分析した分類群毎の保全優先度ランクのうち、ABF（Additive Benefit Function）は、種の絶滅率を最小にする指標（多様性の維持）であり、CAZ（Core Area Zonation）は、希少種の保全を優先する指標（希少種の保全）となっている。

※詳細は、「第２章評価手法等　５．保全優先度と総合評価」を参照

3）生物文化

3-1　生物文化の例：文献調査や聞き取り調査結果より抽出された各字における生物文化に関する情報より、当該３次メッシュ内にかかる情報を最大２例抽出したもの。

抽出方法は、基本的には、分類記号の A、B、C…の順で優先順位が高いものとし、上位から２つの記載を抽出することとした。ただし、様々な情報をカルテに記載できるよう、同一の分類記号の情報はなるべく１つまでとした。

（再掲）表２−２−１．記載内容の分類

分類記号※	記載の内容	備考
A	薪、環境、景観	生物多様性と深い繋がりがある
B	ササ、罠、イザリなど(特殊なもの)	
C	衣	染め織り、装身具、身に着ける物(ジーファなど)
D	食	子どもが日常的に食べた植物の実も含める
E	住	建材、屋敷囲
F	民族知識	生物知識、生物季節の知識、生息場所の知識、スク漁の詳しいもの等
G	生業(交通、運搬も含む)	
H	遊び(子ども)、娯楽、競技	
J	人の一生、人生儀礼	
K	行事(芸能も含める)	
M	信仰、魔除け、忌避	
N	社会生活	
P	医療(薬草など)	
Q	伝承、俚諺	

環境カルテへの記載にあたっては基本的に文献の原文を尊重したが、文字数が多いものについては、一部を省略して１情報あたり 150 文字程度とした。また、原文のままでは内容が著しく理解しづらいと判断される場合には、最小限の補足を加えた。外来語や和名などのカタカナと区別するため、動植物方言は【　】、その他の方言は<　>を付けて強調する処理を行い、和名の記載が無い場合、動植物方言名について可能な範囲で{　}で和名を追記した。なお、表２−２−１に示した分類を[　]付けで文頭に付した。

※文献調査及び聞き書き調査は、「第２章評価手法等　２．生物文化」を参照

4）自然の利活用

4-1　観光拠点：当該３次メッシュに含まれる主に自然環境を核とした観光拠点。

4-2　保全利用協定：エコツアーに関わる事業者が、利用する自然環境の「保全」と「持続的な利用」を目的として、自主的に策定する自主ルールを策定している県知事認定保全利用協定エリアのうち、当該 3 次メッシュに含まれるもの。

5）その他

5-1　法規制等

5-1-1　法規制等：当該３次メッシュに含まれる地域森林計画対象民有林、保安林、地すべり防止区域、砂防指定地、急傾斜崩壊危険区域、国立公園、国定公園、県立自然公園、自然公園、自然環境保全地域、生息地等保護区、鳥獣保護区、ラムサール条約湿地、天然記念物等。当該３次メッシュ全体に対する面積割合を示した。

※詳細は「第２章評価手法等　４．自然環境及び社会環境」、分布図は沖縄県地図情報システム参照のこと。

5-2　土地利用

5-2-1　土地利用の現況：当該 3 次メッシュの土地利用の現況。当該 3 次メッシュ全体に１％以上分布する分類名称と面積割合を示した。

※詳細は「第２章評価手法等　４．自然環境及び社会環境」、分布図は沖縄県地図情報システム参照のこと。

5-2-2　農業振興地域：当該３次メッシュに含まれる農業振興地域・農用地区域。当該３次メッシュ全体に対する面積割合を示した。

※分布図は沖縄県地図情報システム参照のこと。

5-2-3　米軍基地：当該３次メッシュに含まれる米軍基地の名称。

5-3　河川

5-3-1　河川の分布：当該 3 次メッシュに含まれる河川の名称と延長。

5-3-2　河床勾配と渓流環境：当該 3 次メッシュに含まれる河川のうち、河床勾配から区分した下流～中流域・上流域の各延長割合、当該 3 次メッシュに含まれる渓流環境の延長割合。下流～中流域は 1/60 以下、上流域は 1/60 以上の河床勾配として分類した。渓流環境は上流域で森林内を流れる区間を抽出した。

5-3-3　ダム、湖沼：当該 3 次メッシュに含まれるダム等の名称。

5-4　追記事項：上記に含まれない各３次メッシュ内の重要な自然資源（国県市町村指定の名勝（自然資源として重要なもの）、市町村指定の天然記念物、重要湿地、社寺・御嶽林、保全上重要な洞穴、探鳥地、森林公園、森林を伴う都市公園等）を抽出し、または環境条件を勘案して追加した情報（環境技術者による手作業で記載）。

6）環境配慮方針

6-1　環境配慮方針：上記した総合評価ランク、分類群毎の保全優先度、保護区等の設置状況、生態系に関する状況、重要種の分布等より、当該３次メッシュで行うべき環境配慮の方向性。

（４）海域カルテの様式

図面番号	1-1	作成年月日	1-2	平面図 (6.02*5.0cm)
総合評価ランク※暫定	1-3		1-3	
市町村名	1-4			
海域区分の範囲	1-5			

生物多様性	地形・地質・海岸線	2-1 2-1-1　海底地質分類 2-1-2　海岸線	
	藻場・干潟サンゴ礁	2-2 2-2-1　生サンゴの被度（礁原） 2-2-2　生サンゴの被度（礁縁） 2-2-3　藻場、干潟 2-2-4　重要なサンゴ礁海域	藻場・干潟・サンゴ礁 写真 (4.21*6.08cm)
	植物（海草藻類）	2-3 2-3-1　海草藻類種数	
	動物	2-4 2-4-1　動物種数 2-4-2　ウミガメ産卵地	藻場・干潟・サンゴ礁 写真 (4.21*6.08cm)
	SPSS（赤土堆積量）	2-5	

保全優先度 (高A⇔E低) ※暫定	分析方法	沖縄県 7分類群統	海産哺乳類	海産爬虫類	沿岸魚類	海産甲殻類	海産貝類	海草藻類	ｲｼｻﾝｺﾞ類
	ABF(種多様性)	2-6							
	CAZ(希少性)	2-6							

	生物文化の例（郷土誌等より）	文献名称	記載頁	著者
生物文化 (郷土誌より)	3-1			
	3-1			

自然環境の利活用	観光拠点	4-1
	保全利用協定	4-2
その他	法規制等	5-1 5-1-1　保護区等 5-1-2　海岸保全区域
	海域利用	5-2
	河川	5-3
	追記事項	5-4
環境配慮方針 ※暫定	6-1	

※本カルテは「暫定結果」であり、今後他地域のデータが追加され、全地域で分析・評価した「最終結果」が出そろうまで、記載されたランク等は変化する。その分析方法や評価方法についても調整が必要となる可能性もある。よって「最終結果」が出る令和4年（予定）までは、前指針（自然環境の保全に関する指針）を参照のこと。

（５）海域カルテ項目

1）カルテ上段

1-1　図面番号：本指針で設定した海域区分番号。海域区分は、平成 21～23 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書（沖縄県自然保護課）を参考にした。

1-2　作成年月日：本カルテの作成日。

1-3　総合評価ランク　当該 3 次メッシュの総合評価ランク及びタイプ。沖縄島の生物多様性を保全するために優先すべき「保全優先度」及び「海岸の自然度」から設定した自然環境保全を考えるためのカテゴリー（4 ランク）。なお、海域の総合評価ランクについては今後検討する余地があるため、本暫定版では記載していない。

※詳細は、「第２章評価手法等　５．保全優先度と総合評価」を参照

1-4　市町村名：当該海域区分に含まれる市町村名。

1-5　海域区分の範囲：当該海域区分の両端に位置する町丁・字名。

2）生物多様性

2-1 地形・地質・海岸線

2-1-1 海底地質分類：当該海域区分の浅海域の面積と、分布する海底地質分類。浅海域に１％以上分布する分類名称と面積割合を示した。

2-1-2　海岸線：自然海岸、半自然海岸、人工海岸等について平成 27 年頃の空中写真等を参考に分類したもの。

※詳細、分布図は「第２章評価手法等　４．自然環境及び社会環境」参照のこと。

2-2　藻場・干潟・サンゴ礁

2-2-1　生サンゴの被度（礁原）：サンゴ礁分布図での礁原（浅海域）の面積、サンゴの各被度ランクの面積割合。

2-2-2　生サンゴの被度（礁縁）：サンゴ礁資源情報整備事業（沖縄県）において、マンタ法調査で記録された礁縁の延長及び各被度ランクの延長割合。

2-2-3　藻場、干潟：藻場分布図、干潟分布図での藻場・干潟の面積及び浅海域全体に対する面積割合。

2-2-4　重要なサンゴ礁海域：当該海域区分に含まれる重要なサンゴ礁海域の名称。重要なサンゴ礁海域は、「守るべき」「守りたい」「守りうる」の観点から、特に優先的に保全を図るべき区域を沖縄県が 2002~2006 年に選定したもの。

2-3　植物

2-3-1　海草藻類種数：当該海域区分に、生育が推定される在来の海草藻類の種数及び改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ第３版）に掲載された絶滅危惧種（準絶滅危惧種含む）の種数。

※生育の推定方法及び推定種数に関する留意事項は、第２章　評価手法等　１．生物多様性の評価手法」参照

2-4　動物

2-4-1　動物種数：当該海域区分に、生息が推定される在来の動物の種数及び天然記念物種、国内希少野生動植物種、改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）に掲載された絶滅危惧種（準絶滅危惧種含む）の種数。

なお、県内に生息が推定される海産爬虫類、沿岸魚類、海産貝類、イシサンゴ類、海産甲殻類のうち、当該海域区分に生息が推定される種数を抽出したものである。他の分類群は確認事例があっても生息が推定される種数には含んでいない。

※生息の推定方法及び推定種数に関する留意事項は、第２章　評価手法等　１．生物多様性の評価手法」参照

2-4-2　ウミガメ産卵地：当該海域区分に接する主な砂浜海岸を指す。主な砂浜海岸は、人工ビーチも含めて、その多くがウミガメの産卵地になる可能性があることから、砂浜海岸の有無を示した。

2-5　SPSS：当該海域区分内で実施された SPSS 調査（平成 21～23 年度サンゴ礁資源情報整備事業（スポットチェックデータ）、平成 28 年度赤土流出防止海域モニタリング調査委託業務、平成 31～令和２年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務）のデータのうち、当該海域区分における最低値～最大値の値。SPSS（Suspended Particles in Sea Sediment：海域底質中の懸濁物質含量）は、海域における赤土堆積量を評価する指標とされる。

表３−２−１．SPSS ランク

SPSS（kg/㎥）			底質状況その他参考事項
下限	ランク	上限	
	1	＜0.4	水中で砂をかき混ぜてもほとんど濁らない。 白砂がひろがり生物活動はあまり見られない。
0.4≦	2	＜1	水中で砂をかき混ぜても懸濁物質の舞い上がりを確認しにくい。 白砂がひろがり生物活動はあまり見られない。
1≦	3	＜5	水中で砂をかき混ぜると懸濁物質の舞い上がりが確認できる。 生き生きとしたサンゴ礁生態系が見られる。
5≦	4	＜10	見た目ではわからないが、水中で砂をかき混ぜると懸濁物質で海が濁る。 生き生きとしたサンゴ礁生態系が見られる。透明度良好。
10≦	5ａ	＜30	注意して見ると、底質表層に懸濁物質の存在がわかる。 生き生きとしたサンゴ礁生態系の SPSS 上限ランク。
30≦	5ｂ	＜50	底質表層にホコリ状の懸濁物質がかぶさる。 透明度が悪くなりサンゴ被度に悪影響が出始める。
50≦	6	＜200	一見して赤土等の堆積がわかる。底質撹拌で赤土等が色濃く懸濁。 ランク 6 以上は、明らかに人為的な赤土等の流出による汚染があると判断。
200≦	7	＜400	干潟では靴底の模様がくっきり。赤土等の堆積が著しいがまだ砂を確認できる。 樹枝状ミドリイシ類の大きな群体は見られず、塊状のサンゴの出現割合増加。
400≦	8		立つと足がめり込む。見た目は泥そのもので砂を確認できない。 赤土汚染耐性のある塊状サンゴが砂漠のサボテンのように点在。

2-6　保全優先度：当該海域区分の各種保全優先度ランク。保全優先度は、動植物の推定分布情報から分析した生物多様性を保全するために優先すべき３次メッシュをランキングし、それをＡ～Ｅの 5 ランクに区分したもの。Ａが最も高く、Ｂ，Ｃ，Ｄと続き、Ｅが最も低い。

沖縄県全分類群統合は、沖縄県の分布情報から分析した全分類群の保全優先度ランク。各分類群については、沖縄県の分布情報から分析した分類群毎の保全優先度ランク。

・ABF（Additive Benefit Function）は、種の絶滅率を最小にする指標（多様性の維持）。

・CAZ（Core Area Zonation）は、希少種を優先する指標（希少種の保全）。

※詳細は、「第２章評価手法等　５．保全優先度と総合評価」を参照

2-7　写真：当該海域区分において現地調査等で撮影した写真（藻場、干潟、サンゴ礁、海岸景観等）。モニタリングサイト 1000 のロゴマークがある写真は、環境省生物多様性センターが実施するモニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査より引用した。

3）生物文化

3-1　生物文化の例：文献調査や聞き取り調査結果より抽出された各字における生物文化に関する情報より、当該3次メッシュ内にかかる情報を最大2例抽出したもの。

抽出方法は、基本的には、分類記号の A、B、C…の順で優先順位が高いものとし、上位から2つの記載を抽出することとした。ただし、様々な情報をカルテに記載できるよう、同一の分類記号の情報はなるべく1つまでとした。

（再掲）表2－2－1．記載内容の分類

分類記号※	記載の内容	備考
A	薪、環境、景観	生物多様性と深い繋がりがある
B	ササ、罠、イザリなど(特殊なもの)	
C	衣	染め織り、装身具、身に着ける物(ジーファなど)
D	食	子どもが日常的に食べた植物の実も含める
E	住	建材、屋敷囲
F	民族知識	生物知識、生物季節の知識、生息場所の知識、スク漁の詳しいもの等
G	生業(交通、運搬も含む)	
H	遊び(子ども)、娯楽、競技	
J	人の一生、人生儀礼	
K	行事(芸能も含める)	
M	信仰、魔除け、忌避	
N	社会生活	
P	医療(薬草など)	
Q	伝承、俚諺	

環境カルテへの記載にあたっては基本的に文献の原文を尊重したが、文字数が多いものについては、一部を省略して1情報あたり150文字程度とした。また、原文のままでは内容が著しく理解しづらいと判断される場合には、最小限の補足を加えた。外来語や和名などのカタカナと区別するため、動植物方言は【　】、その他の方言は<　>を付けて強調する処理を行い、和名の記載が無い場合、動植物方言名について可能な範囲で{　}で和名を追記した。なお、表2-2-1に示した分類を[　]付けで文頭に付した。

※文献調査及び聞き書き調査は、「第2章評価手法等　2．生物文化」を参照

4）自然の利活用

4-1　観光拠点：当該海域区分に含まれる主に自然環境を核とした観光拠点、ダイビングポイント。

4-2　保全利用協定：エコツアーに関わる事業者が、利用する自然環境の「保全」と「持続的な利用」を目的として、自主的に策定する自主ルールを策定している県知事認定保全利用協定エリアのうち、当該海域区分に含まれるもの。

5）その他

5-1　法規制等

5-1-1　法規制等：当該海域区分に含まれる国立公園、国定公園、県立自然公園、自然環境保全地域、鳥獣保護区、ラムサール条約湿地、天然記念物、保護水面等。当該海域区分全体に対する面積割合を示した。

※詳細は「第２章　評価手法等　４．自然環境及び社会環境」、分布図は沖縄県地図情報システム参照のこと。

5-1-2　海岸保全区域：当該海域区分に含まれる海岸保全区域の延長。

※詳細は「第２章　評価手法等　４．自然環境及び社会環境」、分布図は沖縄県地図情報システム参照のこと。

5-2　海域利用：当該海域区分に含まれる漁業権区域の名称及び漁業協同組合が設定している魚類の産卵保護区。

5-3　河川：当該海域区分に流入する河川の名称と河川数。

5-4　追記事項：上記に含まれない各３次メッシュ内の重要な自然資源（水産業、レクリエーション活動、岩礁群、海岸や藻場・干潟・サンゴ礁の現況等）を抽出し、または環境条件を勘案して追加した情報（環境技術者による手作業）。

6）環境配慮方針

6-1　環境配慮方針：上記した総合評価ランク、分類群毎の保全優先度、保護区等の設置状況、生態系に関する状況、重要種の分布等より、当該海域区分で行うべき環境配慮の方向性。なお、海域の総合評価ランクに関わる部分については、本暫定版では記載していない。

３．環境カルテ（陸域）

各地域での生物多様性や生物文化等の解析結果に基づき、宮古・久米島の陸域に関しては、3 次メッシュ毎に合計 355 の環境カルテを作成した。

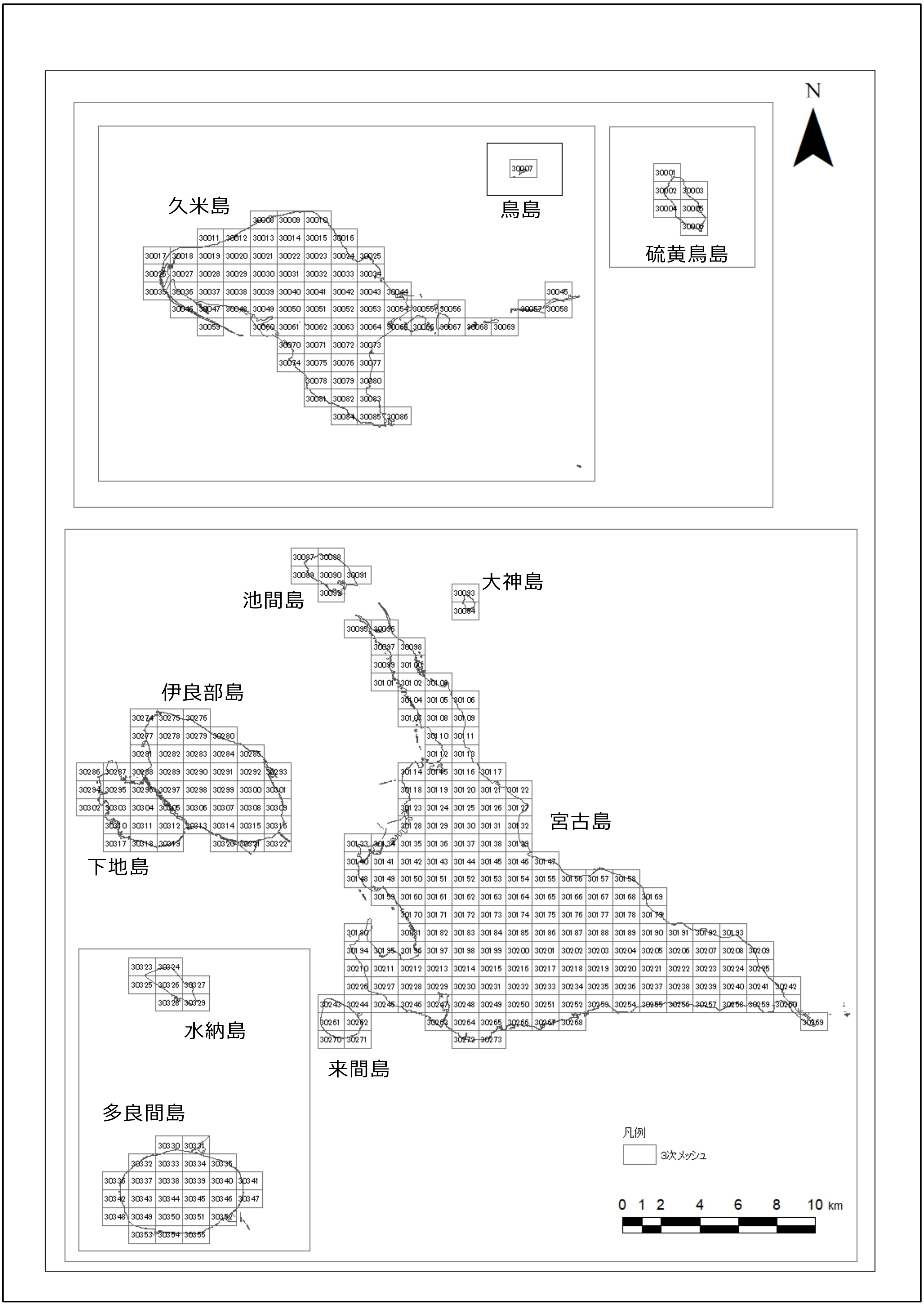


図 3－3－1．環境カルテ（陸域）の図面番号

環境カルテ（陸域）

環境カルテ（暫定版）は、下記のウェブサイトより閲覧できます。

生物多様性おきなわブランド発信事業公式サイト「オキナワイキモノラボ」

https://biodiversity.okinawa/

４．環境カルテ（海域）

各地域での生物多様性や生物文化等の解析結果に基づき、宮古・久米島の海域に関しては、海域区分毎に合計 52 の環境カルテを作成した。

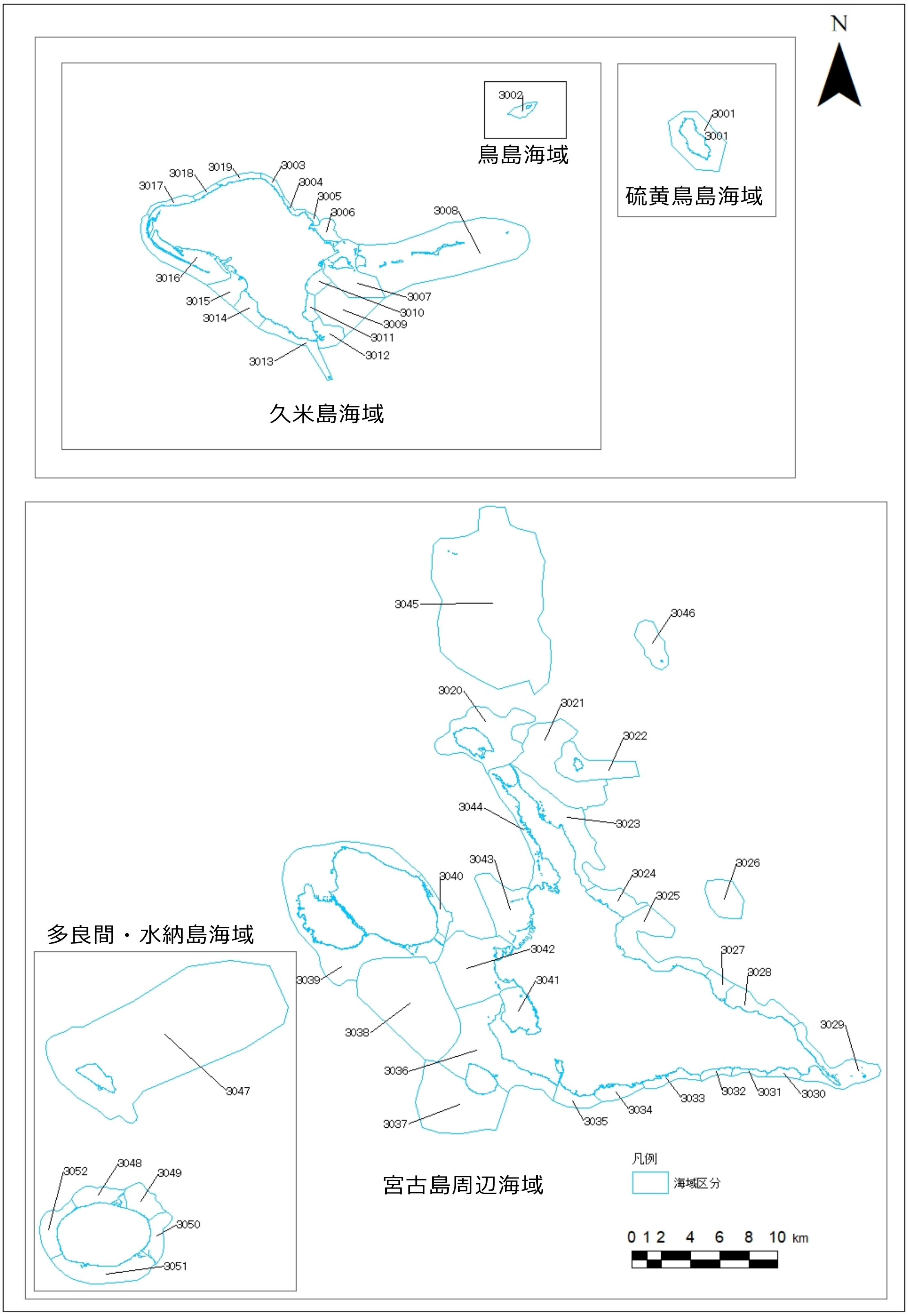


図 3－4－1.　環境カルテ（海域）の図面番号

環境カルテ（海域）

環境カルテ（暫定版）は、以下のウェブサイトで閲覧できます。

生物多様性おきなわブランド発信事業公式サイト「オキナワイキモノラボ」

https://biodiversity.okinawa/

第４章　参考資料

1．生物多様性保全利用指針検討委員会名簿（令和３年３月現在）

（50 音順）

氏名（敬称略）	所属・役職	備考
久保田　康裕	琉球大学理学部　教授	
当山　昌直	沖縄国際大学南島文化研究所　特別研究員	
藤田　喜久	沖縄県立芸術大学全学教育センター　准教授	
宮城　邦治	沖縄国際大学　名誉教授	委員長
盛口　満	沖縄大学人文学部　教授	

2．委員会における検討過程

平成 28 年 11 月 28 日	平成 28 年度第 1 回検討委員会開催
平成 29 年 3 月 23 日	平成 28 年度第 2 回検討委員会開催
平成 29 年 11 月 22 日	平成 29 年度第 1 回検討委員会開催
平成 30 年 3 月 12 日	平成 29 年度第 2 回検討委員会開催
平成 30 年 7 月 3 日	生物文化に関する第 1 回 WG（ワーキンググループ）開催
平成 30 年 7 月 19 日	解析に関する第 1 回 WG 開催
平成 30 年 10 月 1 日	生物文化に関する第 2 回 WG 開催
平成 30 年 10 月 4 日	解析に関する第 2 回 WG 開催
平成 30 年 12 月 18 日	平成 30 年度第 1 回検討委員会開催
平成 31 年 3 月 12 日	平成 30 年度第 2 回検討委員会開催
令和元年 7 月 31 日	平成 31 年度第 1 回検討委員会開催
令和 2 年 3 月 4 日	平成 31 年度第 2 回検討委員会開催
令和 2 年 7 月 28 日	令和 2 年度第 1 回検討委員会開催
令和 3 年 3 月 10 日	令和 2 年度第 2 回検討委員会開催

3．生物多様性保全利用指針 OKINAWA に関するホームページ

生物多様性保全利用指針の内容については、下記ホームページにて公表している。ホームページ上では、本指針以外にも、本指針の普及を目的として、本県に生息する生物の画像や自然環境に関する映像等を掲載している。

オキナワイキモノラボ　<http://www.biodiversity.okinawa/>

４．用語集

本指針に関連する用語を以下に解説した。()内は用語が使われている章を示す。

なお、作成にあたっては、書籍、論文、報告書、官公庁のウェブサイト（沖縄県、環境省、国土地理院等)、環境用語に詳しいウェブサイト（EIC ネット)、各種団体のウェブサイト等を参考にした。これらの情報源は５．参考文献に掲載した。各説明文末尾の[数字]は参考文献番号を示す。

あ行

アンブレラ種（第２章－1）

地域の食物連鎖のピラミッドの最高位に位置する消費者のこと。アンブレラ種を保全することで、その生息に必要な他の種も保全することができる。例として、西表島におけるイリオモテヤマネコなど。[1]

維管束植物（第２章－1）

維管束と呼ばれる通道組織を有する植物の総称。被子植物、裸子植物、シダ植物が含まれ、コケ植物などは含まれない。[1]

インフォーマント（第２章－2）

研究対象となる社会、文化の一員であり、調査者が知りたい事柄に精通し、概念、言語、世界観、具体的事例などに関して口述で詳細な表現ができる情報提供者のこと。本指針作成にあたっては、生物文化の聞き取り対象として、地域に長年住み、生物の方言や活用法に詳しい年配の方を主なインフォーマントとした。[2]

インベントリー調査（第２章－1）

インベントリーとは生物学においては、地域に分布する動植物の種の目録や分布図などのこと。このような目録を作成するための調査がインベントリー調査であり、目視や採捕等によって生物の存在を確認し、文献資料と比較して特定の種であることを同定した上で出現種の一覧を作成する。[1]

エントロピー最大化法（第２章－1）

必要な全ての情報が揃っていない場合に、観測や測定などで値が確定している部分を拘束条件として、全ての情報を統計学的に推定する際の手法のひとつ。すでに得ている制限条件を満たしつつ得ていない情報は最も確率が高いと考えられる推定値を選ぶ。本指針作成にあたっては、生物調査等による生息データから生息域を推定する際に使われている。[3]

沖縄２１世紀ビジョン（第１章）

平成 22 年に策定された県政の基本構想のこと。県民の参画と協働のもとに、将来（概ね 2030年）のあるべき沖縄の姿を描き、その実現に向けた取り組みの方向性と、県民や行政の役割などを明らかにした。自然環境保全に関しては、めざすべき将来像のひとつとして「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島」があり、「沖縄グリーン・イニシアティブ」として自然環境の持続的な利活用の推進が示されている。[4]

沖縄県環境管理計画（第 1 章）

沖縄県における環境問題と、それを解決するための総合的な施策が示された計画のこと。平成 5 年に策定された。本指針の前身である「自然環境の保全に関する指針」は、同計画における自然環境を保全する施策のひとつと位置づけられている。[5]

沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）（第 1 章、第 2 章－4,5）

沖縄県内を対象とした、絶滅のおそれのある動植物種の生育・生息状況等を明らかにした資料のこと。環境省や国際自然保護連合（IUCN）が作成した継続的な調査研究データを参考に、地域性の視点から独自の規準を交えて作成している。1996 年に初版、2005～2006 年に改訂第 2 版、2017～2018 年に改訂第 3 版が公表された。第 3 版では動物 991 種、植物 938 種、菌類 85 種が掲載されており、危機の状況や情報量によって 8 つのカテゴリーに分類されている。[6]

か行

海域区分（第 1 章、第 2 章－1、第 2 章－ 5 、第 3 章）

海域を何らかの目的、条件によって区切ったそれぞれのこと。本指針においては、前指針である「自然環境の保全に関する指針」における海域区分及びサンゴ礁資源情報整備事業（沖縄県環境生活部自然保護課、平成 21～23 年度）における海域区分を参考に、一部修正を加えたものを環境カルテ（海域）の作成単位とした。サンゴ礁自然情報整備事業における海域区分は、岬、水路、礁原（礁嶺）などの地形が半閉鎖的な系を形成していることに注目し、それらを一つの生態学的な単位として捉えたものであり、陸域の流域に相当する。本指針の海域区分も基本的に同様の考え方に基づいて設定した。[7]

外来種（第 2 章－1）

何らかの人の活動によって、本来の生息地域の外にもたらされた生物種のこと。本来生息していた生きもの（在来種）にとって脅威となる場合は侵略的外来種と呼ばれる。本県における侵略的外来種として、ネズミやハブの駆除を目的として導入されたマングース（フイリマングース）が有名である。一方で、米（イネ）や多くの野菜、家畜なども元をただせば外来種であり、社会的、文化的に定着している場合も多い。[8]

河床勾配（第 2 章－4）

川の流れる方向の川底の傾きのこと。山間部では急になり、平野部では穏やかになる。[9]

国内希少野生動植物種（第 3 章）

国内に生息・生育する絶滅危惧種のうち、特に人為的な影響で数が減っており、種の保存法で指定された種のこと。令和 3 年 1 月現在、395 種が指定されている。沖縄県に生息する種では、ヤンバルクイナ、イリオモテヤマネコ、イボイモリ、ヤンバルテナガコガネ、ヒメタニワタリなどが指定されている。[10]

固有種（固有亜種）（第 1 章、第 2 章－1）

分布が特定の地域に限定される種や亜種のこと。この場合、特定の地域には、国レベル、都道府県レベル、地域レベルなどさまざまなとらえ方がある。たとえば、ヤンバルクイナは、日本の固有種であるだけでなく、沖縄県沖縄島、やんばる地域の固有種である。[11]

さ行

在来種（第 2 章－1）

本来の地域に自然分布する種のこと。[12]

サロゲート（第２章－1）

ある地域の生物多様性を代替的に表す指標のこと。生態系の基盤分類群、分布情報が豊富な生物分類群、保全上重要な分類群が一般的に用いられる。本指針においては、陸域の 10 分類群、海域の 7 分類群をサロゲートとした。[13]

ジオコーディング（第２章－1）

住所や場所の名前といった位置を表す情報を、緯度経度情報に変換する処理のこと。この処理を行うことで、GIS（地理情報システム）上で位置の検索や分析等が可能になる。[14]

シノニム（第２章－1）

同じ種に付けられた複数の学名（標準学名）のこと。シノニムのうち、最も古い学名が有効だという原則がある（先取権）。ある種について有効な学名は 1 つだけなのにも関わらずシノニムが生まれる過程としては、すでに新種記載されているのを知らずに改めて記載してしまった場合や、分類体系の見直しで属名が変更された場合などがある。

象徴種（第２章－1）

特徴的な容姿や馴染み深さなどから、地域の象徴となって人々の環境保全・保護の関心を高めることが期待される種のこと。本県における例として、イリオモテヤマネコ、ジュゴンなど。

生態系サービス（第１章）

人々が生態系から得られる恵みのこと。2000 年代初めに UNEP（国連環境計画）が行った「ミレニアム生態系評価」では、供給サービス（食料や水、原材料など）、調整サービス（自然災害の緩和、水質浄化など）、文化的サービス（レクリエーションや観光など）、基盤サービス（土壌、酸素、栄養分など）の 4 つに分類される。[15]

生物多様性（第１章）

生物が長い歴史の中で獲得した、様々な姿形や生活様式といった生物間の違いのこと。遺伝的多様性、種の多様性、生態系の多様性という 3 つのレベルで捉えられる。遺伝的多様性とは、種が同じでも持っている遺伝子が異なることを指す。種の多様性とは、様々な生物種が存在する状態を指す。生態系の多様性は、様々な生物の相互作用から構成される様々な生態系が存在することを指す。[1]

生物多様性おきなわ戦略（第１章）

平成 25 年に策定された、沖縄の生物多様性の保全と持続可能な利用を図るための基本計画のこと。戦略では目標達成に向けた 5 つの基本施策（1.生物多様性の損失を止める 、2.生物多様性を保全・維持し、回復する 、3.自然からの恵みを賢明に利用する、4.生物多様性に対する認識を向上させる、5.生物多様性の保全に関する取組に県民参加を促す）を展開していくこととなっており、そのための行動計画、推進体制が示されている。[16]

生物多様性条約（第１章、第２章－1）

生物多様性の保全と持続可能な利用、遺伝資源による利益の公正な配分を目的とした条約のこと。1992 年にブラジルのリオで開催された国連環境開発会議（地球サミット）において署名が開始され、1993 年に発効した。生物多様性の保全だけでなく、持続的な利用を明記していることが特徴である。2018 年現在、194 カ国、EU、パレスチナが締結しており、日本は 1993 年に締結している。[17]

生物多様性条約第 10 回締約国会議（CBD-COP10）（第１章）

生物多様性条約の10回目となる国際会議のこと。2010年10月に名古屋市で開催され、2020年を目標とした「愛知目標」を含む新戦略計画2011－2020が採択された。愛知目標は20項目からなり、数値目標を含む具体的なものである。例えば「少なくとも陸域17%、海域10%が保護地域などにより保全される」という目標があり、多くの国が国家戦略を改訂した。[17]

生物文化（第2章－2）

動植物とつながった文化のこと。地域毎に動植物に付けられた方言名や、動植物の利活用方法などが含まれる。本指針では、生物多様性と文化多様性のつながりとして生物文化を位置づけ、県内各地の生物文化について文献調査及び聞き取り調査を実施し、環境カルテに記載した。生物文化多様性につながる概念だが、本指針の生物文化は個別の生物の方言名と利用に注目している、特に野生生物に関連するものを重視して抽出しているなどの独自性がある。

生物文化多様性（第2章－2）

自然と人間（文化）が互いを活かしながら存在する相互作用関係に注目し、それを一体的に保全しようとする分野横断的な考え方のこと。ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）と生物多様性条約事務局によって生物多様性と文化多様性をつなぐ共同プログラムが発足し、生物多様性条約締結国第10回会議（CBD-COP10）で正式に位置づけられている。[18]

絶滅危惧種（第1章、第2章－1）

様々な要因により個体数が減少し、絶滅のおそれがある種や亜種のこと。沖縄県内の絶滅危惧種は、「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）」にまとめられている。[6]

全天日射量（第2章－1）

天空の全方向からの太陽放射（全天日射）を、水平面で受けた単位面積あたりの全天日射エネルギー量のこと。[19]

た行

天然記念物（第3章）

学術上貴重で、わが国の自然を記念するものとして国や自治体に指定された動物、植物、地質・鉱物、それらに富む天然保護区域などのこと。令和2年現在、沖縄県内には国指定が55件、県指定が50件、市町村指定が124件ある。例として、カンムリワシ（国指定特別天然記念物）、クロイワトカゲモドキ（県指定天然記念物）、大浦のマングローブ林（名護市指定天然記念物）などがある。[20]

は行

ハビタット（第2章－1）

ある生物の種が生息・生育する環境のこと。地形などの物理的な側面と、大きな木の陰などの生物的な側面によって特徴づけられる。

ビッグデータ（第1章）

これまでの単一データベースシステムで管理可能なデータではなく、様々な種類、形式が含まれた大量のデータのこと。情報通信技術（ICT）の進展により、このようなデータの生成・収集・蓄積等が容易に可能になってきており、自然環境保全においてもその活用事例が増えつつある。[21]

標準学名（第 2 章－1）
ラテン語で表した正式な生物の名称のこと。

保全利用協定（沖縄県）（第 2 章－3）
エコツアーに関わる事業者が、利用する自然環境の保全と持続的な利用を目的として、自主的に策定する自主ルールのこと。その内容が適切なものであれば、沖縄県知事がこれを適当なものとして認定することができる。令和 2 年現在、6 地区の協定が認定を受けており、主な協定項目は自然環境への配慮、安全管理、地域への配慮である。[22]

ま行

マングローブ（第 2 章－1）
熱帯、亜熱帯の汽水域の河口部などに生育する植物群落の総称。マングローブを構成する植物種は、高塩分に対処する仕組みを持ち、湿地に適応した特徴的な根や種子などを持つ。沖縄県内にはメヒルギ、オヒルギなど 7 種のマングローブ植物が生育する。[1]

モニタリングサイト 1000（第 3 章）
環境省生物多様性センターが実施している生態系の長期的なモニタリングのこと。日本全国の 1000 ヶ所程度での長期モニタリングによって、生態系や自然環境の変化、生物種の減少等の問題を早期に把握することを目的としている。「森林・草原」「里地」「沿岸・浅海域」など生態系ごとにサイトが設置されており、サンゴ礁のモニタリングも行われている。本指針の環境カルテ（海域）に掲載した写真の一部は、モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査で得られたものである。[23]

ら行

ラプラシアン（第 2 章－1）
地形面の凹凸を表す指標として用いられる値。

レッドリスト（第 2 章－1,5）
専門家の検討により選定された、絶滅の恐れがある野生生物の種のリストのこと。国際的には国際自然保護連合 (IUCN)が作成しており、国内では環境省、水産庁のほか、地方公共団体や NPO などが作成している。[24]

わ行

和名（第 2 章－1）
生物につけられた日本名のこと。各地域で使っている地方名と日本全国で共通な標準和名がある。例えば、同じ魚について、ハマサキノオクサンは八重山地域での地方名であり、トガリエビスは標準和名である。[25]

英数字

Bioclim（第 2 章－1）
生物の分布生息にとって重要と考えられる気候変数のこと。種分布モデルなどの生態学的モデルで使用されることが多い。毎月の気温と降水量を元に算出される 19 の変数がある。[26]

Darwin core（第 2 章－1）
生物標本や観察結果など、生物多様性の情報を記録、共有するために用いられる国際的な形式のこと。Biodiversity Information Standards (TDWG)によって提案されている。[27]

GIS（第 1 章）

Geographic Information System（地理情報システム）の略。地理的情報（例：GPS 受信機で取得した位置情報）を持ったデータを管理・加工したり、地図上に分かりやすく表示したり、高度な分析を行ったりできる。身近な例として、スマートフォンのナビゲーション機能も GIS の活用例である。本指針作成にあたっては、生物多様性の解析や環境カルテの作成に活用されている。[28]

SPSS（第 2 章－4）

Content of Suspended Particles in Sea Sediment の略で、海底の底質に含まれる懸濁物質含量のこと。1970 年代の開発工事等によって沖縄の海には大量の赤土が流れこみ、沿岸海域の環境に大きな悪影響を与えた。SPSS 法はこのような赤土汚染の状況をモニタリングするために、1980 年代に沖縄県衛生環境研究所によって開発された。特別な器具や高度な分析を要しない簡便な手法であること、サンゴの健全な生息等の指標として使用できることなどから、県内沿岸域の環境調査において広範に用いられている。[29]

3 次メッシュ（第 1 章、第 2 章－1）

日本全国を緯度経度でメッシュ（網目状）に区画したものを標準地域メッシュと呼び、各種統計の集計単位などとして活用されている。1 次メッシュ、2 次メッシュ、3 次メッシュの 3 段階に分けられる。3 次メッシュは 2 次メッシュ（およそ 10km×10km）を縦横に 10 等分したものであり、距離にしておよそ 1km×1km。ただし、各メッシュの東西方向の長さは緯度によって異なり、北海道と比較して沖縄では約 1.3 倍の長さである。本指針では、環境カルテ（陸域）を 3 次メッシュ単位で作成しており、生物多様性の情報等、多くのデータを 3 次メッシュ単位で整理している。[30]

５．参考文献

本指針での生物多様性の解析、生物文化の抽出等に関して情報源とした文献、データベース、ウェブサイト等を以下に示す。

（１）生物多様性解析に関する引用文献

第２章－１及び第２章―５で解析手法を示した生物多様性解析について、引用文献を以下に示す。

１．久保田康裕，楠本聞太郎，藤沼潤一，塩野貴之．2017．生物多様性の保全科学:システム化保全計画の概念と手法の概要．日本生態学会誌 67: 267-286.

２．米倉浩司，梶田忠．2003．BG Plants 和名－学名インデックス（YList），<http://ylist.info>

３．日本鳥学会．2012．日本鳥類目録改訂第７版．日本鳥学会，東京.

４．日本爬虫両棲類学会．2015．日本産爬虫両生類標準和名．<http://zoo.zool.kyoto- u.ac.jp/herp/wamei.html>

５．中坊徹次（編）．2013．日本産魚類検索 全種の同定 第三版．東海大学出版会，秦野.

６．西平守孝, Veron J. 1995．日本の造礁サンゴ類．海游舎，東京.

７．国土交通省. 2007．国土交通省河川環境データベース(河川水辺の国勢調査) <http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/>

８．JODC. 2013. <http://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/JODC_J-DOSS>

９．Wieczorek J., Bloom D., Guralnick FR., Blum S., Doring M., Giovanni R. Tim Robertson4, David Vieglais 2012. Darwin Core: An Evolving Community-Developed Biodiversity Data Standard. PLoS ONE 7: e29715. doi:10.1371/journal.pone.0029715

10．初島住彦，天野鉄夫. 1994．琉球植物目録．沖縄生物学会.

11．島袋敬一．1997．琉球列島維管束植物集覧．九州大学出版会.

12．阿部永，石井信夫，金子之史，前出喜四雄，三浦慎悟，米田政明．2005．日本の哺乳類（改訂版）．東海大学出版会，東京.

13．前之園唯史，戸田守. 2007. 琉球列島における両生爬虫類の分布．Akamata 18: 28-46.

14．吉郷英範, Motomura H., Dewa S., Furuta K., Matsuura K. 2014．琉球列島産陸水性魚類相および文献目録. Fauna Ryukyuana 9: 1-153.

15. Hirao T., Kubota Y., Murakami M. 2015. Geographical patterns of butterfly species diversity in the subtropical Ryukyu Islands: the importance of a unidirectional filter between two source islands. Journal of Biogeography 42: 1418-1430.

16. McWhirter, D. W., 池長裕史, 五百沢日丸. 1996. 最近の生息状況と参考記録を含めた沖縄県産鳥類目録. 沖縄県立博物館紀要 22: 33-152.

17. 沖縄野鳥研究会. 2002. 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.

18. Moilanen A. 2007. Landscape Zonation, benefit functions and target-based planning: Unifying reserve selection strategies. Biological Conservation 134: 571-579.

19. Lehtomäki J. & Moilanen A. 2013. Methods and workflow for spatial conservation prioritization using Zonation. Environmental Modelling & Software, 47: 128-137.

20. Lehtomäki J., Kusumoto B., Shiono T., Tanaka T., Kubota Y., Moilanen A. 2018. Spatial conservation prioritization for the East Asian islands: A balanced representation of multitaxon biogeography in a protected area network. Diversity and Distributions.

21. Kubota Y., Hirao T., Fujii S., Shiono T., Kusumoto B. 2014. Beta diversity of woody plants in the Japanese archipelago: the roles of geohistorical and ecological processes. Journal of Biogeography 41: 1267-1276.

22. Kubota Y., Shiono T., Kusumoto B. 2015. Role of climate and geohistorical factors in driving plant richness patterns and endemicity on the east Asian continental islands. Ecography 38: 639-648.

23. Kubota Y., Kusumoto B., Shiono T., Tanaka T. 2017. Phylogenetic properties of Tertiary relict flora in the East Asian continental islands: imprint of climatic niche conservatism and in situ diversification. Ecography 40: 436-447.

24. Kusumoto B., Shiono T., Konoshima M., Yoshimoto A., Tanaka T., Kubota Y. 2017. How well are biodiversity drivers reflected in protected areas? A representativeness assessment of the geohistorical gradients that shaped endemic flora in Japan. Ecological Research 32: 299-311.

24. Ladle, R.J. & Whittaker, R.J. 2011. Conservation Biogeography. John Wiley & Sons, Ltd., Publication, Oxford.

25. Hortal J., de Bello F., Diniz-Filho J.A.F., Lewinsohn T.M., Lobo J.M., Ladle R.J. 2015. Seven shortfalls that beset large-Scale knowledge of biodiversity. Annual Review of Ecology, Evolution, and Systematics 46:523-549.

26. Millien-Parra, V. & Jaeger, J.J. 1999. Island biogeography of the Japanese terrestrial mammal assemblages: an example of a relict fauna. Journal of Biogeography, 26, 959–972.

27. Mittermeier, R.A., Turner, W.R., Larsen, F.W., Brooks, T.M. & Gascon, C. 2011. Global biodiversity conservation: the critical role of hotspots. Biodiversity hotspots (ed. by F.E. Zachos & J.C. Habel). 3–22. Springer Berlin Heidelberg.

28. 久保田康裕，楠本聞太郎，藤沼潤一，塩野貴之，鈴木亮，福島新，小澤宏之，宮良工．2019. 生物多様性地域戦略を空間的保全優先度分析で具現化する：沖縄県の生物多様性保全利用指針OKINAWA 作成の事例．日本生態学会誌 69: 239-250.

（２）生物分布情報に関する参考文献等

第２章－１で解析手法を示した生物分類群の空間分布情報について、情報源を表４－５－１に示す。

表４－５－１（1）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
(株)沖縄環境保全研究所. 2014. 石垣新川川河口漁場環境調査業務報告書. 資料編2: 1-52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	318	76	328	13	0		○	
Global Biodiversity Information Facility	0	0	1049	679	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	○		
2020. サンゴ礁生物多様性調査海藻･海草類データ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1265	0	0	○		
1998. ジュゴン. 海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査報告書: 253p	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		○
2004. ジュゴンと藻場の広域的調査 平成13年～15年度結果概要: 31p	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
2006. ジュゴンと藻場の広域的調査 平成13年～17年度結果概要: 44p	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
2016. ジュゴンと地域社会との共生推進の取組 平成18～27年度結果概要: 47p	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
ジュゴンと地域社会との共生推進の取組(平成28年度結果概要について): 7p	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
ジュゴンと地域社会との共生推進の取組(平成29年度結果概要について): 8p	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
ジュゴンと地域社会との共生推進の取組(平成30年度結果概要について): 9p	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
2014. シュワブ(Ｈ２４)水域生物等調査 調査報告書: 1-518	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	119	0	0	○		
2012. 粟国空港環境影響調査及び事後調査計画作成業務委託報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	53	13	0	10	0	0	0			
2015. 一人一枚写真発表. 九州両生爬虫類研究会誌. 6: 54-59	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
2014. 沖縄県指定伊良部鳥獣保護区、狩俣･島尻鳥獣保護区、仲里鳥獣保護区及び具志川鳥獣保護区における鳥獣等生息状況調査報告書: 1-125	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
2015. 沖縄県指定具志川鳥獣保護区更新計画書: 1-5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
2015. 沖縄県指定佐手鳥獣保護区佐手特別保護地区指定計画書: 1-5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
2013. 沖縄県指定山田鳥獣保護区及び屋嘉比島鳥獣保護区における鳥獣の生息実態調査業務報告書	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
2015. 沖縄県指定狩俣･島尻鳥獣保護区更新計画書: 1-5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
2015. 沖縄県指定西銘岳鳥獣保護区西銘岳特別保護地区指定計画書: 1-5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
2015. 沖縄県指定仲里鳥獣保護区更新計画書: 1-5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
2015. 沖縄県指定名護岳鳥獣保護区名護岳特別保護地区指定計画書: 1-5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
2015. 沖縄県指定与那覇岳鳥獣保護区与那覇岳特別保護地区指定計画書(案): 1-8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
2001. 海域自然環境保全基礎調査 重要沿岸域生物調査報告書(平成13年全国版): 1-189	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0			○
環境省･モニタリングサイト 1000 プロジェクト	0	6164	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
2006. 県指定比謝川鳥獣保護区比謝川特別保護地区指定計画書: 1-6	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
2006. 県指定末吉鳥獣保護区末吉特別保護地区指定計画書: 1-5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
2009. 県立自然公園新規指定調査(宮古郡多良間村)報告書	23	0	0	8	0	0	0	0	3	12	0	0	0	42	0			○
西表島生態系保護地域見直し調査	0	0	0	0	0	379	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
2011. 多板綱･腹足綱･掘足綱･頭足綱目録. 琉球大学資料館(風樹館)収蔵資料目録 第6号：琉球大学資料館(風樹館)多板綱･腹足綱･掘足綱･頭足綱標 本目録. 6: 3-236	0	0	0	0	0	0	0	0	180	0	0	2696	0	0	0	○	○	○
2004. 大保鳥獣保護区更新計画書: 1-6	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
2008. 第７回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査(藻場調査)報告書: 1-242	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	130	0	0	○	○	○
2005. 渡名喜県立自然公園西森園地環境調査業務委託報告書	2	0	2	10	0	0	0	0	6	2	0	0	0	11	0			
2010. 二枚貝目録. 琉球大学資料館(風樹館)収蔵資料目録 第2号：琉球大学資料館(風樹館)二枚貝類標本目録(2)3-124. 2: 3-124	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	1945	0	0	0	○	○	○
名和文献干潟貝類データ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2728	0	0	0	○	○	○
2020. 令和元年度ジュゴンと地域社会との共生推進委託業務: 17p	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
Akihito, Katsusuke Meguro. 2000. Review of the gobiid genus *Cristatogobius* found in Japan with description of a new species. Ichthyological Research. 47(3): 249-261	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0		○	
Anker, Arthur. 2014. On the presence of the anchialine shrimp *Calliasmata pholidota* Holthuis, 1973 (Crustacea Decapoda Caridea Barbouriidae) in Shimoji Island, Ryukyu Islands, Japan. Fauna Ryukyuana. 17: 7-11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0			○
Arie Y, Fujimoto T, Kouzuma T, kobayashi M. 3.底生生物･魚類調査. Bulletin of Fukuoka Fisheries and Marine Technology Research Center: (3-1)-(3-5)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0	○		
Ayako Shoji, Jun Yokoyama, Masakado Kawata. 2007. Molecular phylogeny and genetic divergence of the introduced populations of Japanese guppies, Poecilia reticulata. Conservation Genetics. 8: 261-271	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
DANIEL L. GEIGER, TAKENORI SASAKI. 2009. New Scissurellidae and Anatomidae from Manazuru, Sagami Bay, and Okinawa, Japan (Mollusca: Gastropoda: Vetigastropoda). Molluscan Research. 29: 1-16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	○		
David A. Weese, Fujita Y, Hidaka M, Scott R. Santos. 2012. THE LONG AND SHORT OF IT: GENETIC VARIATION AND POPULATION STRUCTURE OF THE ANCHIALINE ATYID SHRIMP *CARIDINA RUBELLA* ON MIYAKO-JIMA, JAPAN. Journal of Crustacean Biology. 32(1): 109-117	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0			○
DAVID A. WEESE, Fujita Y, SCOTT R. SANTOS. 2013. Multiple Colonizations Lead to Cryptic Biodiversity in an Island Ecosystem: Comparative Phylogeography of Anchialine Shrimp Species in the Ryukyu Archipelago, Japan. THE BIOLOGICAL BULLETIN. 225(1): 24-41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	2	0		○	○
David A. Weese, Yoshihisa Fujita , Scott R. Santos. 2016. Looking for needles in a haystack Molecular identification of anchialine crustacean larvae (Decapoda Caridea) from the Shiokawa Spring, Okinawa Island, Ryukyu Islands, Japan. Journal of Crustaccan Biology. 36(1): 61-67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	○		
Douglass F. Hoese, Gerald R. Allen. 2011. A review of the amphidromous species of the *Glossogobius celebius* complex, with description of three new species. Cybium. 35(4): 269-284	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
Fabienn Ziadi-Kunzuli and K. Tachihara. 2016. Female defence polygyny and plasticity in the mating system of the demersal triggerfish *Rhinecanthus aculeatus* (Pisces:Balistidae) from Okinawa Island. Marine Biology. 163: 27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
Fabienne Kunzli, Katsunori Tachihara. 2012. Validation of age and growth of Picasso Triggerfish (Balistidae: *Rhinecanthus aculeatus*) from Okinawa Island, Japan, using sectioned vertebrae and dorsal spines. Journal of Oceanography. 68: 817-829	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○		
Fautin, Daphne G. 2013. Hexacorallians of the World	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	○		
Fujino Takahiro, Shokita Shigemitsu. 1975. Report on some new atyid shrimps (Crustacea, Decapoda, Caridea) from the Ryukyu Islands. 琉球大学理工学部紀要.理学編. 18: 93-113	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0		○	○
Fujita Y, Paul F. clark. 2010. The larval development of *Chirostylus stellaris* Osawa, 2007 (Crustacea: Anomura: Chirostylidae) described from laboratory reared material. Crustacean Research. 39: 55-66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
Fujita Y, Peter J. F. Davie, Peter K. L. Ng. 2015. A new stygobitic prawn of the genus *Macrobrachium* Spence Bate, 1864, from anchialine caves in Christmas Island, Indian Ocean; with a rediagnosis of M. miyakoense Komai & Fujita, 2005 (Crustacea: Decapoda: Caridea: Palaemonidae). RAFFLES BULLETIN OF ZOOLOGY. 63: 610-625	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0			○
Hajime Matsubara, Yuki Kubara, Hiroka Yoshikawa, Daisuke Iwata, Masaharu Shimizu, Yoshifumi Horie, Takuto Imai, Yuta Fukuoka, Ken-ichi Watanabe, Hidemasa Shione. 2013. Gonadal histology of wild giant mottled eel *Anguilla marmorata* in Okinawa, Japan. Biogeography. 15: 55-62	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Harumi SAKAI, Mitsuaki SATO. 1982. First Records of Five Teleostean Fishes and Three Second Records of Gobiid Fishes from Japan, Collected in Rivers on the Ryukyu Islands. 北海道大學水產學部研究彙報. 33(2): 79-88	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	○	○	
Hideo Ohba, Shinya Matsuda, Ryuji Asami, Yasufumi Iryu. 2016. Recent Dasycladales (Chlorophyta) in Okinawa Jima in the Central Ryukyus. WILEY: 1-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	○		

表４−５−１（2）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
HIDETOSHI OTA. 2003. A New Subspecies of the Agamid Lizard, *Japalura polygonata* (Hallowell, 1861) (Reptilia: Squamata), from Yonagunijima Island of the Yaeyama Group, Ryukyu Archipelago. Current Herpetology. 22(2): 61-71	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
HIDETOSHI OTA. 1990. The Tree Gecko, *Hemiphyllodactylus typus typus* (Lacertilia: Gekkonidae): an Addition to the Herpetofauna of Japan. Japanese Journal of Herpetology. 13(3): 87-90	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
Hidetoshi Sakayama, Makoto M. Watanabe, Hisayoshi Nozaki. 2006. Morphology, molecular phylogeny and taxonomy of *Nitella comptonii* (Charales, Characeae). Phycologia. 45(4): 417-421	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	○		○
Higa T, Fujita Y, Shokita S. 2005. Complete larval development of a scyllarine lobster, *Galearctus kitanoviriosus* (Harada, 1962) (Decapoda: Scyllaridae: Scyllarinae), reared under laboratory conditions. Crustacean Research. 34: 1-26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
Hiromori Shimabukuro,Masako Kawane,Masami Hamaguchi. 2012. New record of *Sargassum denticarpum* Ajisaka (Fucales, Phaeophyceae) from Iriomote Island (Ryukyu Archipelago, Japan). Botanica Marina. 55: 209-215	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0		○	
Hiroshi Senou, Tetsuo Yoshino, Muneo Okiyama. 1987. A Review of the Mullets with a Keel on the Back, *Liza carinata* Complex (Pisces: Mugilidae). PUBLICATIONS OF THE SETO MARINE BIOLOGICAL LABORATORY. 32(4-6): 303-321	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	○	○	
I-Shiung Chen, Toshiyuki Suzuki, Hiroshi Senou. 2008. A NEW SPECIES OF GOBIID FISH, *LUCIOGOBIUS* FROM RYUKYUS, JAPAN (TELEOSTEI: GOBIIDAE). 16(4): 250-254	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Imai, H., Kashiwagi, F., Cheng, J. H., Chen, T. I., Tachihara, K. & Yoshino, T. 2009. Genetic and morphological evidence of hybridization between *Nematalosa japonica* and *N. come* (Clupeiformes: Clupeidae) off Okinawa Island, Ryukyu Archipelago, Japan. Fisheries Science. 75: 343-350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	○		
Ishikawa, T., T. Shimose and K. Tachihara. 2013. Life history of an invasive and unexploited population of *Nile tilapia* (Oreochromis niloticus) and geographical variation across its native and non-native ranges. Environmental Biology of Fishes. 96: 603-601	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
Kanak, M.K. and K. Tachihara. 2008. Reproductive biology of common silver biddy *Gerres oyena* in Okinawa Island of southern Japan. Fisheries Science. 74: 265-275	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	○		
Katsunori TACHIHARA, Emi OBARA. 2003. 沖縄島源河川におけるカワスズメの年齢と成長. SUISANZOSHOKU. 51(3): 307-313	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Katsunori TACHIHARA, Emi OBARA. 2003. 直達 発生型魚類カワスズメの卵内発生と稚魚への形態変化の過程. SUISANZOSHOKU. 51(3): 295-306	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Katsushi Sakai, Y. Hirano. 2006. Three new species of Upogebiidae (Thalassinidea) from Iriomote Island, Ryukyus, Japan. Crustaceana. 79(8): 977-991	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0		○	
Katsutoshi Watanabe, Kei'ichiroh Iguchi, Kazumi Hosoya, Mutsumi Nishida. 2000. Ichthyological Research. 47(1): 43-50	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Kawakami, T. and K. Tachihara. 2011. Dispersal of land-locked larval Ryukyu-ayu, *Plecoglossus altivelis ryukyuensis*, in the Fukuji Reservoir, Okinawa Island. Cybium. 35: 337-343	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Ken Maeda, Katsunori Tachihara. 2010. Diel and Seasonal Occurrence Patterns of Drifting Fish Larvae in the Teima Stream, Okinawa Island. Pacific Science. 64(2): 161-176	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Ken Maeda, Katsunori Tachihara. 2004. Instream distributions and feeding habits of two species of sleeper, *Eleotris acanthopoma* and *Eleotris fusca*, in the Teima River, Okinawa Island. Ichthyological Research. 51: 233-240	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Ken Maeda, Katsunori Tachihara. 2005. Recruitment of amphidromous sleepers *Eleotris acanthopoma*, *Eleotris melanosoma*, and *Eleotris fusca* into the Teima River, Okinawa Island. Ichthyological Research. 52: 325-335	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Kensuke Ichihara, Shogo Arai, Masayuki Uchimura, Etienne J.Fay, Hiroki Ebata, Masanori Hiraoka, Satoshi Shimada. 2009. New species of freshwater Ulva, *Ulva limnetica* (Ulvales, Ulvophyceae) from the Ryukyu Islands, Japan. Phycological Research. 57: 94-103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0		○	
Koeda, K, K. Tsuzaki, N. Hayashida and K. Tachihara. 2014. First records of two rare snappers, *Lutjanus madras* and *L. dodecacanthoides*, from Okinawan waters. Fauna Ryukyuana. ISSN2187-6657: 1-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
Koeda, K., T. Fukagawa, T. Ishihara and K. Tachihara. 2013. Reproductive biology of noctanal reef fish *Pempheris adusta* (Pempheridae) in Okinawa Island, Japan. Galaxea, Journal of Coral Reef Studies: 221-228	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	○		
Koeda, K., T. Yoshino and K. Tachihara. 2013. *Pempheris ufuagari* sp. nov., a new species in the genus Pempheris (Perciformes, Pempheridae) from the oceanic islands of Japan. Zootaxa. 3609: 231-238	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0			
Koeda, K., T. Yoshino, H. Imai and K. Tachihara. 2010. Description of new Japanese and northernmost records of a pemphrid fish, *Pempheris vanicolensis*, from Iriomote Island, southern Ryukyu Archipelago. Biogeograhy. 12: 77-82	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
Koeda, Keita, Taiki Ishihara, Takanobu Fukagawa and Katsunori Tachihara. 2016. Life cycle differences between two species of genus Pempheris based on age determination around Okinawa-jima Island. Ichthyological Reseach. 63: 519-528	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	○		
Koichi Shibukawa, Gerald R. Allen. 2007. Review of the cheek-spine goby genus Gladiogobius, (Actinopterygii, Perciformes, Gobiidae), with descriptions of two new species from the Indo-West Pacific. Bulletin of the National Science Museum. Series A(Zoology). 33(4): 193-206	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		○	
Koichi Shibukawa, Toshiyuki Suzuki, Hiroshi Senou, Korechika Yano. 2005. Records of Three Shrimp-goby Species (Teleostei, Perciformes, Gobiidae) from the Ryukyu Archipelago, Japan. Bulletin of the National Science Museum. Series A(Zoology). 31(4): 191-204	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0		○	
Koichi Shibukawa, Toshiyuki Suzuki. 2005. Two New Species of the Gobiid Fish Genus Eviota (Teleostei, Perciformes, Gobioidei) from the Western Pacific. Bulletin of the National Science Museum. Series A(Zoology). 31(2): 65-76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
Koichi Shibukawa, Yasuhiko Taki. 1996. A new gobiid fish, *Acanthogobius insularis*, from the Ryukyu Islands, Japan. Ichthyological Research. 43: 79-85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	○		
Kondo, M., K. Maeda, N. Yamasaki and K. Tachihara. 2012. Spawning habitat and early development of *Luciogobius ryukyuensis* (Gobiidae). Environmental Biology of Fishes. 95: 291-300	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
KOUICHI KAWAMURA, RYUJI YONEKURA, YUIKO OZAKI, OSAMU KATANO, YOSHINORI TANIGUCHI, KENJI SAITOH. 2010. The role of propagule pressure in the invasion success of bluegill sunfish, *Lepomis macrochirus*, in Japan. Molecular Ecology. 19: 5371-5388	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Kunio Hirata. 1991. 沖縄県石垣島名蔵ラグーン内外の底生動物相. (24): 121-173	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	124	0	37	0		○	
Kusuto NANJO, Hiroyoshi KOHNO, Mitsuhiko SANO. 2008. Food habits of fishes in the mangrove estuary of Urauchi River, Iriomote Island, southern Japan. Fisheries Science. 74: 1024-1033	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	65	0	0	0	0		○	

表 4－5－1（3）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数 哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	地域 沖縄島	八重山	宮古・久米島
M Takada, K Tachihara. 2009. Comparisons of age, growth, and maturity between male and female, and diploid and triploid individuals in *Carassius auratus* from Okinawa-jima Island, Japan. Aquatic Conservation: Marine and Freshwater Ecosystems. 19: 806-814	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
M.Katoh. 1989. Life history of the golden ring cowry *Cypraea annulus* (Mollusca: Gastropoda) on Okinawa Island, Japan. Marine Biology. 101: 227-234	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	○		
Maeda, K and K Tachihara. 2014. Larval fish fauna of a sandy beach and an estuary on Okinawa Island, focusing on larval habitat utilization by the suborder Gobioidei. Fisheries Science. 80: 1215-1229	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	○		
Maeshiro, R., Kusumoto, B., Fujii, S., Shiono, T., & Kubota, Y. 2013. Using tree functional diversity to evaluate management impacts in a subtropical forest. Ecosphere. 4(6): 1-7	0	0	0	0	0	1450	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
Masafumi MATSUI, Takaji MATSUI. 1982. *Hyla hallowelli* Recorded from Iriomotejima, Yaeyama group, Ryukyu Archipelago. 爬虫両棲類学雑誌. 9(3): 79-86	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
Masaru Matsuda, Hiromichi Yonekawa, Satoshi Hamaguchi. 1997. Geographic Variation and Diversity in the Mitochondrial DNA of the Medaka, *Oryzias latipes*, as Determined by Restriction Endonuclease Analysis. ZOOLOGIAL SCIENCE. 14: 517-526	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Masashi Kondo, Ken Maeda, Nozomi Yamasaki, Katsunori Tachihara. 2012. Spawning habitat and early development of *Luciogobius ryukyuensis* (Gobiidae). Environmental Biology of Fishes. 95: 291-300	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Masatsune TAKEDA, Sadayoshi MIYAKE. 1968. Six unrecorded xanthid crabs from the Ryukyu Islands preserved in the Zoological Laboratory, Kyushu University. 沖縄生物学会誌. 5(7): 1-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	○	○	
Masatsune TAKEDA. 1972. Further Notes on the Unrecorded Xanthid Crabs from the Ryukyu Islands. 沖縄生物学会誌. 9(11): 15-24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0		○	
Masaya Katoh. 1996. Seasonal variation in gonadal activity of females among four species of freshwater gobies in the *Rhinogobius brunneus* species complex in Okinawa, Japan. Ichthyological Research. 43(2): 169-174	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Masayuki Osawa, Tadafumi Maenosono. 2011. Two species of the genus Petrolisthes (Decapoda Anomura Porcellanidae) from the Ryukyu Islands, southwestern Japan, with description of a new species: 109-118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	○	○	○
Masayuki Saigusa, Yuriko Hirano, Bong Jung Kang, Kazuki Sekine, Masatsugu Hatakeyama, Takahiro Nanri, Masami Hamaguchi, Nobufumi Masunari. 2018. Classification of the Intertidal and Estuarine Upogebiid Shrimps (Crustacea Thalassinidea), and Their Settlement in the Ryukyu Islands, Japan. Research Article, J Mar Biol Oceanogr. 7(2): 1-12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	0		○	
Md. Sirajul Islam, Shigemitsu Shokita, Takashi Nagai, Tohru Naruse, Akifumi YOGI, Tetsu OSHIRO. 2002. 沖縄島漫湖饒波川のマングローブ域における大型底生生物の分布と出現量. 沖縄生物学会誌. (40): 15-31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	33	0	○		
MIKI SHIRAKIHARA, HIDEYOSHI YOSHIDA, HIROYUKI YOKOCHI, HISAO OGAWA, TARO HOSOKAWA, NAOTO HIGASHI, TOSHIO KASUYA. 2007. Current status and conservation needs of dugongs in southern Japan. 23(3): 694-706	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Misuzu Aoki, Yoko Watanabe, Hideyuki Imai, Mahito Kamada, and Keiji Wada. 2010. Interpopualtion variations in life history traits in the fiddler crab *Uca arcuata*. Journal of Crustaccan Biology. 30(4): 607-614	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
Mitsuaki Sato, Harumi Sakai, Morizumi Nakamura. 2004. *Kuhlia boninensis* (Fowler, 1907), a junior synonym of *Kuhlia munda* (De Vis, 1884) (Perciformes: Kuhliidae). Ichthyological Research. 51: 70-72	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
Mutsumi Nishida, Yasumasa Sawashi. 1987. Geographic Differences in the Number of Longitudinal Scales of the Ayu *Plecoglossus altivelis*. Nippon Suisan Gakkaishi. 53(11)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Nakabo, T., Senou, H., & Aizawa, M. 1998. New species of Pseudocalliurichthys (Teleostei: Callionymidae) from Iriomote Island, Japan. Copeia. 1998: 451-455	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		○	
Naoya Ohtsuchi, Ryuta Yoshida. 2018. First record of *Menaethius orientalis* (Sakai, 1969) (Decapoda Brachyura Epialtidae) from the Ryukyu Archipelago. Fauna Ryukyuana. 43: 1-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		○	
Naruse T, Hsi-Te Shih, Fujita Y, Jose Christopher E. Mendoza, Peter K. L. Ng. 2018. Size-associated morphological changes in *Epigrapsus notatus* (Heller, 1865) and the taxonomic status of *E. villosus* (Ng, 2003) (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Gecarcinidae). RAFFLES BULLETIN OF ZOOLOGY. 66: 208-216	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0		○	○
National Museum of Natural History (NMNH), Smithsonian Institution. NMNH Invertebrate Zoology Collections	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	○		
Nozomi Yamasaki, Katsunori Tachihara, Katsunori Tachihara. 2007. Pelagic larval duration and morphology at recruitment of *Stiphodon percnopterygionus* (Gobiidae: Sicydiinae). Raffles Bulletin of Zoology, supplement,. 14: 209-214	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Nozomi Yamasaki, Katsunori Tachihara. 2007. Eggs and larvae of *Awaous melanocephalus* (Teleostei: Gobiidae). Ichthyological Research. 54(1): 89-91	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Nozomi Yamasaki, Katsunori Tachihara. 2006. Reproductive biology and morphology of eggs and larvae of *Stiphodon percnopterygionus* (Gobiidae: Sicydiinae) collected from Okinawa Island. Ichthyological Research. 53: 13-18	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Nozomi YAMASAKI, masashi KONDO, ken MAEDA, katsunori TACHIHARA. 2011. Reproductive biology of three amphidromous gobies, *Sicyopterus japonicus*, *Awaous melanocephalus*, and *Stenogobius* sp., on Okinawa Island. Cybium. 35(4): 345-359	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
O.S.Sergeeva, T. V. Titlyanova, E. A. Titlyanov. 2007. Species composition and distribution of algae on the fringing coral reef of Sesoko Island (Ryukyu Archipelago) before and after the natural catastrophe of 1998. Russian Journal of Marine Biology. 33(1): 30-42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	479	0	0	○		
Ohta, I. and K. Tachihara. 2004. Larval development and food habits of the marbled parrotfish, *Leptoscarus vaigiensis*, associated with drifting algae. Ichthyological Research. 51: 233-240	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	53	0	0	0	0	○		
PAUL F. CLARK, Fujita Y, ALEXANDER D. BALL, PETER K. L. NG. 2012. The first zoeal stage morphology of *Crossotonotus spinipes* (De Man, 1888) and *Pseudopalicus serripes* (Alcock & Anderson, 1895), with implications for palicoid systematics (Crustacea: Brachyura: Palicoidea). Zootaxa. 3367: 191-203	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
Prince Akihito, Katsusuke Meguro. 1975. *Pandaka trimaculata*, a New Species of Dwarf Goby from Okinawa Prefecture, Japan and the Philippines. 魚類学雑誌. 22(2): 63-67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	○	○	
Prince Akihito, Katsusuke Meguro. 1975. Description of a New Gobiid Fish, *Glossogobius aureus*, with Notes on Related Species of the Genus. 魚類学雑誌. 22(3): 127-142	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
Rahman, M. H. and K. Tachihara. 2005. Age and Growth of *Sillago aeolus* in Okinawa Island, Japan. Journal of Oceanography. 61: 569-573	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	○		
Roy T. Tsuda, Shintoku Kamura. 1991. 琉球列島における緑藻サボテングサ属の種類相と地理的分布. 藻類. 39(1): 57-76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	0	0	○	○	○

表 4－5－1（4）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
Ryohei Tatsuno, Miwako Shikina, Kiyoshi Soyano, Koichi Ikeda, Tomohiro Takatani, Osamu Arakawa. 2013. Maturation-associated changes in the internal distribution of tetrodotoxin in the female goby *Yongeichthys criniger* . Toxicon. 63: 64-69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
Sadao IKEHARA, Takuya ABE, Matsuei SHIMOJANA, Yoshiharu YONASHIRO, Susumu MIYAGI. 1976. Nest site of Noguchigera or Okinawa Woodpecker(*Sapheopipo noguchii*). 沖縄生物学会誌. (14): 55-60	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
SAMMY. DE GRAVE, TIN-YAM CHAN, Fujita Y, Okuno J. 2012. Hippolytidae and Barbouriidae (Decapoda: Caridea) collected during the Ryukyu "KUMEJIMA 2009" expedition. Zootaxa. 3367: 95-102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0			○
Sancia E. T. van der Meij, Bastian T. Reijnen, James D. Reimer. 2017. Observations of coral-dwelling gall crabs (Cryptochiridae) in the intertidal zone of Odo Beach (Okinawa, Japan). Fauna Ryukyuana. 37: 7-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
Seiji MATSUMOTO, Haruhiko FUJIMOTO, Kenji TAKEHARA, Fumiyasu SATO, Mutsumi NISHIDA, Masanori KOHDA. 2007. ECOLOGY AND 1VIORPH TRAITS OF THE SWAMP EEL *MONOPTERUS ALBUS* (SYNBRANCHIFORMES: SYNBRANCHIDAE) ON THE RYUKYU ISLANDS, JAPAN. 関西自然保護機構会誌. 29(1): 5-18	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
Shigeo Kawaguchi, Satoshi Shimada, Hong Wei Wang, Michio Masuda. 2004. THE NEW GENUS *YONAGUNIA KAWAGUCHI ET MASUDA* (HALYMENIACEAE, RHODOPHYTA), BASED ON *Y. TENUIFOLIA KAWAGUCHI ET MASUDA* SP. NOV. FROM SOUTHERN JAPAN AND INCLUDING *Y. FORMOSANA (OKAMURA) KAWAGUCHI ET MASUDA* COMB. NOV. FROM SOUTHEAST ASIA. J.Phyco. 40: 180-192	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0		○	
Shimose, T. and K. Tachihara. 2005. Age, growth and maturation of the blackspot snapper *Lutjanus fulviflammus* around Okinawa Island, Japan. Fisheries Science. 71: 48-55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○		
Shin-ichiro Oka, Katsunori Tachihara. 2001. Estimation of spawning sites in the spotted flagtail, *Kuhlia marginata* , based on sperm motility. Ichthyological Research. 48: 425-427	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Shin-ichiro Oka, Katsunori Tachihara. 2008. Migratory history of the spotted flagtail, *Kuhlia marginata* . Environmental Biology of Fishes. 81: 321-327	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Suzuki, T. & H. Senou. 2013. Review of the sand-diving goby genus Parkraemeria (Perciformes: Gobiidae), with descriptions of two new species from the Ryukyu Islands. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology, supplement, 7: 53-66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○	○	
T. Ishikawa, K. Tachihara. 2011. Reproductive biology, growth, and age composition of non-native Indian glassy fish *Parambassis ranga* (Hamilton, 1822) in Haebaru Reservoir, Okinawa-jima Island, southern Japan. Journal of Applied Ichthyology. 28: 1-7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Taiki Ishihara, Katsunori Tachihara. 2008. Reproduction and early development of a freshwater pipefish *Microphis leiaspis* in Okinawa-jima Island, Japan. Ichthyological Research. 55(4): 349-355	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Taiki Ishihara, Katsunori Tachihara. 2009. The maturity and breeding season of the bellybarred pipefish *Hippichthys spicifer* , in Okinawa-jima Island rivers. Ichthyological Research. 56(4): 388-393	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	○		
Takeshi Sasaki, Tohru Naruse. 2014. Acorn-foraging activity and feeding behaviour by two species of freshwater crabs (Brachyura Potamidae) from Okinawa Island, Ryukyu Islands, Japan. Crustacean Research. 43: 31-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	○		
Takuro Shibuno, Yohei Nakamura, Masahiro Horinouchi, Mitsuhiko Sano. 2008. Habitat use patterns of fishes across the mangrove-seagrass-coral reef seascape at Ishigaki Island, southern Japan. Ichthyological Research. 55: 218-237	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	54	0	0	0	0		○	
Tatsuya Kawakami, Katsunori Tachihara. 2010. Occurrence and body size changes of drifting land-locked Ryukyu-ayu *Plecoglossus altivelis ryukyuensis* larvae in the San-numata River, Okinawa-jima Island, Japan. Ichthyological Research. 57(2): 204-208	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Tetsuo Yoshino, Hidenori Yoshigou. 1998. First records of two freshwater pipefishes of the genus Microphis (Syngnathiformes: Syngnathidae) from Japan. Ichthyological Research. 45(2): 201-204	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Tetsuo Yoshino, Hidenori Yoshigou, Hiroshi Senou. 2002. *Mesopristes iravi* , a new terapontid fish (Perciformes: Terapontidae) from rivers of Iriomote Island, the Ryukyu Islands. Ichthyological Research. 49: 234-239	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
Tetsuo Yoshino, Hirokazu Kishimoto. 2008. *Plotosus japonicus* , a New Eeltail Catfish (Siluriformes: Plotosidae) from Japan. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology, supplement,. 2: 1-11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○	○	
Tetsuo YOSHINO. 1976. Five Unrecorded Fishes from Japan, Collected from Sesoko Island, Okinawa. 沖縄生物学会誌. (14): 33-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	○		
Tetsuroh ISHIKAWA, Katsunori TACHIHARA. 2008. Age, growth and maturation of the redbelly tilapia *Tilapia zillii* introduced into the Haebaru Reservoir on Okinawa-jima Island. Fisheries Science. 74(3): 527-532	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Tetsuroh Ishikawa, Katsunori Tachihara. 2010. Life history of the nonnative convict cichlid *Amatitlania nigrofasciata* in the Haebaru Reservoir on Okinawa-jima Island, Japan. Environmental Biology of Fishes,. 88: 283-292	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Tetsuroh Ishikawa, Tamaki Shimose, Katsunori Tachihara. 2013. Life history of an invasive and unexploited population of Nile tilapia(*Oreochromis niloticus*)and geographical variation across its native and non-native ranges. Environmental Biology of Fishes. 96: 603-616	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
TIN-YAM CHAN, Fujita Y. 2012. Reef lobsters of the genus Enoplometopus A. Milne-Edwards, 1862 (Crustacea:Decapoda: Nephropidea) from the KUMEJIMA 2009 Expedition in Okinawa, with the second record of the rare species E. chacei Kensley & Child, 1986. Zootaxa. 3367: 126-133	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0			○
Tlhru, Naruse, Jhy-Yun Shy. 2004. A new species of the freshwater crab, previously assigned to *Geothelphusa miyazakii* . THE RAFFLES BULLETIN OF ZOOLOGY. 52(2): 109-116	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0		○	
Tohru Naruse, Tadafumi Maenosono, Daisuke Uyeno, Shota Samejima, Naoki Shirakawa. 2017. Records of six leucosioid crab species from the Ryukyu Archipelago, Japan. Fauna Ryukyuana. 36: 1-11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	○		
Tomoyuki Komai, Masayuki Osawa, Tadafumi Maenosono, Yoshihisa Fujita, Tohru Naruse. 2018. Records of the callianassid ghost shrimp *Lepidophthalmus tridentatus* (von Martens, 1868) (Crustacea Decapoda Axiidea Callianassidae) from the Ryukyu Islands, Japan. Fauna Ryukyuana. 42: 9-27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	0	○	○	○
Tomoyuki Komai, Tadafumi Maenosono, Masayuki Osawa. 2015. Records of three species of callianassid ghost shrimp from the genera Glypturus Stimpson, 1866 and Corallianassa Manning, 1987 (Crustacea Decapoda Axiidea) from the Ryukyu Islands, Japan, with remarks on the taxonomic s. Fauna Ryukyuana. 27: 13-59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	○	○	○
Tomoyuki Komai. 2005. A New Species of Upogebia (Crustacea Decapoda Thalassinidea Upogebiidae) from Okinawa Island,Ryukyu Islands. Species Diversity. 10(4): 259-268	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		

表 4－5－1（5）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
Uehara, M and K. Tachihara. 2015. Reproductive traits of the western. Pacific gizzard shad Nematalosa come: implications for conservation and management in a population at its distributional margin. Environmental Biology of Fishes. 98: 1-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○		
Uehara, M. and K. Tachihara. 2012. Reproductive biology of Japanese gizzard shad (Nematalosa japonica) in coastal waters around Okinawa Island, Ryukyu Archipelago, southwestern Japan. Ichthyological Research. 59: 314-322	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○		
Uehara, M., F. Kashiwagi, H. Imai and K. Tachihara. 2011. Biological traits of naturally induced hybrid individuals of two gizzard shads, *Nematalosa come* and *N. japonica*, in coastal waters around Okinawa Island, Ryukyu Archipelago, southwestern Japan. Ichthyological Research. 58: 344-349	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	○		
Winston F. Ponder, Hiroshi Fukuda, Anders Hallan. 2014. A review of the family Clenchiellidae (Mollusca:Caenogastropoda:Truncatelloidea). Zootaxa. 3872(2): 101-153	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0		○	
Worawit Maneepitaksanti, Kazuya Nagasawa. 2012. Monogeneans of Cichlidogyrus Paperna, 1960 (Dactylogyridae), gill parasites of tilapias, from Okinawa Prefecture, Japan. Biogeography. 14: 111-119	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
Yoshihisa Fujita, Masaru Mizuyama, Yusuke Yamada. 2017. *Bresilia rufioculus* Komai & Yamada, 2011 (Decapoda Caridea Bresiliidae) from a submarine cave in Shimoji-jima Island, Miyako Island Group, southern Ryukyus, Japan. Fauna Ryukyuana. 37: 31-33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			○
YOSHIHISA FUJITA,MASAYUKI OSAWA. 2005. Complete larval development ofthe rare porcellanid crab, Novorostrum decorocrus Osawa, 1998 (Crustacea: Decapoda: Anomura: Porcellanidae), reared under laboratory conditions. Journal of Natural History. 39(10): 763-778	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		○	
Yoshihisa Fujita,Shigemitsu Shokita,and Masayuki Osawa. 2002. Complete larval development of *Petrolisthes unilobatus* reared under laboratory conditions (Decapoda Anomura Porcellanidae). Journal of Crustaccan Biology. 22(3): 567-580	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
Yuichi Kameda, Atsushi Kawakita, Makoto Kato. 2007. Cryptic genetic divergence and associated morphological differentiation in the arboreal land snail *Satsuma (Luchuhadra) largillierti* (Camaenidae) endemic to the Ryukyu Archipelago, Japan. Molecular Phylogenetics and Evolution. 45: 519-533	0	0	0	0	0	0	0	0	58	0	0	0	0	0	0	○		○
Yuichi Kano, Shin Nishida, Jun Nakajima. 2012. Waterfalls drive parallel evolution in a freshwater goby. Ecology and Ecolution. 2: 1805-1817	0	0	0	0	104	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0		○	
Yukio Iwatsuki, Masayuki Kume, Tetsuo Yoshino. 2010. A New Species, *Acanthopagrus pacificus* from the Western Pacific (Pisces, Sparidae). Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology. 36(4): 115-130	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0		○	
Yuriko Hirano, Masayuki Saigusa. 2008. Description of the male of *Upogebia miyakei* from Ryukyu Islands, Japan (Decapoda Thalassinidea Upogebiidae). Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom. 88(1): 125-131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0		○	
Yusuke Fuke, Hideyuki Imai. 2018. First Japanese record of *Macrobrachium ustulatum* (Crustacea Decapoda Palaemonidae) from Okinawa-jima Island, Japan. Fauna Ryukyuana. 44: 7-15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	○	○	
Yuuki Endo, Tohru Naruse. 2016. Morphological characteristics and host species of *Gonatonotus nasutus* Chia & Ng, 2000 (Crustacea Decapoda Brachyura Pilumnidae Eumedoninae) from Japan. Fauna Ryukyuana. 33: 21-31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
Zainudin Bachok, Prosper L.Mfilinge, Makoto Tsuchiya. 2003. The diet of the mud clam *Geloina coaxans* (Mollusca, Bivalvia) as indicated by fatty acid markers in a subtropical mangrove forest of Okinawa, Japan. Journal of Experimental Marine Biology and Ecology. 292: 187-197	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○		
Aleluia Taise, 須田彰一郎. 2015. 沖縄島沿岸の底生珪藻の出現記録. 沖縄生物学会誌. (53): 23-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68	0	0	○		
Atsushi Nanami, Moritaka Nishihira. 2002. The structures and dynamics of fish communities in an Okinawan coral reef: effects of coral-based habitat structures at sites with rocky and sandy sea bottoms. Environmental biology of fishes. 63: 353-372	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	191	0	0	0	0	○		
Beringer, G. 1976. Additions to the List of Okinawa Birds. Japanese Journal of Ornithology. 25: 116-117	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Brazil, M. and P. Snetsinger. 1991. The Little Gull *Larus minutus* in Japan. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 20: 80-82	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Brazil, M., H. Ikenaga. 1987. The Amami Woodcock *Scolopax mira*: its identity and identification. Forktail. 3: 3-16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Cogswell, H. 1948. Summer Observations of Birds of Okinawa, Ryukyu Islands. Condor. 50: 16-25	0	120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Ezaki, Y and Z. Miyara. 1995. Wintering of Oriental White Storks in Yonaguni Island, the Westernmost Japan. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 27: 92-97	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
Jeane Rimber INDY, 香村 眞徳, 川越 力, 土屋 誠, 安井 肇. 2006. 沖縄産褐藻 シマオオギ *Zonaria diesingiana* の季節的消長. 水産増殖. 54(1): 101-105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	○		
Katsunori TACHIHARA, Kohei NAKAO, Keishi TOKUNAGA, Yuko TSUHAKO, Mikumi TAKADA, Tamaki SHIMOSE. 2003. Ichthyofauna in Mangrove Estuaries of the Okinawa, Miyako, Ishigaki and Iriomote Islands during August from 2000 to 2002. Bulletin of the Society of Sea Water Science, Japan. 57: 481-490	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0	0	○		
Kohno H, Abe N, Mano T. 1986. Chick mortality of the Sooty Tern *Sterna fuscata* caused by Typhoon-8211 on Nakamokami-shima, South Ryukyu, Japan. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 18: 41-50	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
McCosker John E, Hatooka Kiyotaka, Sasaki Kunio and Moyer Jack T. 1984. Japanese moray eels of the genus Uropterygius. Japanese journal of ichthyology. 31(3): 261-267	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○		
McWhirter, D. 1985. Records of Pectoral Sandpiper (*Calidris melanotos*) for Okinawa Prefecture. Strix. 4: 57-60	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
McWhirter, D. 1985. 沖縄における鳥類の繁殖観察. Japanese Journal of Ornithology. 33: 123-125	0	74	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Md.Sirajul ISLAM, 諸喜田茂充, 長井隆, Mohamed Salim, 藤田喜久, 成瀬貫. 2003. Distribution and abundance of Crustaceans in the Shira River mangrove swamp at Iriomote Island of Okinawa in Japan. 琉球大学理学部紀要. 76: 227-244	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	21	0		○	
Md.Sirajul ISLAM, 諸喜田茂充, 藤田喜久. 2000. 室内飼育下におけるワタリイシガニの幼生飼育の最適塩分. 水産増殖. 48(4): 623-630	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
Nakamura, Y., & Tsuchiya, M. 2008. Spatial and temporal patterns of seagrass habitat use by fishes at the Ryukyu Islands, Japan. Estuarine, Coastal and Shelf Science. 76(2): 345-356	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	○		
Nanjo, K., Kohno, H. & Sano, M. 2008. Food habits of fishes in the mangrove estuary of Urauchi River, Iriomote Island, southern Japan. Fisheries Science. 74: 1024-1033	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	65	0	0	0	0		○	
Naomasa Kawashima, Jack T. Moyer. 1982. 琉球列島から得られたオキスズメダイ*Pristotis jerdoni* とコハクスズメダイ*Pomacentrus vaiuli*. 魚類学雑誌. 29: 260-266	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	○	○	
NPO 法人コーラル沖縄. 2009. 中城港湾泡瀬地区第 1 区域内サンゴ移植報告について: 1-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	○		
NPO法人ホタルとサンゴの島から. 2014. 平成25年度キクザトサワヘビ生息環境等調査業務報告書: 63p	0	0	0	4	0	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0			○

表 4－5－1（6）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
NPO法人ホタルとサンゴの島から. 2015. 平成26年度キクザトサワヘビ生息環境等調査業務報告書: 73p	0	0	0	6	0	0	0	0	0	94	0	0	0	0	0			○
Seiki Katsuren, Satoshi Tanaka, Sadao Ikehara. 1977. A brief observation on the breeding site and eggs of a frog, *Rana ishikawae* (Stejneger) in Okinawa Island. ECOLOGICAL STUDIES OF NATURE CONSERVATION OF THE RYUKYU OSLANDS Ⅲ: 49-54	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
TETSUJI NAKABO. 1983. REVISION OF THE DRAGONETS (PISCES: CALLIONYMIDAE) FOUND IN THE WATERS OF JAPAN. PUBLICATIONS OF THE SETO MARINE BIOLOGICAL LABORATORY. 27(4-6): 193-259	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○		
Tetsuo Takara, Nagahisa Kuroda. 1969. 琉球における未記録種および稀種. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 5: 547-562	0	145	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
Wild Bird Society of Japan. 1986. Strix Field Note. Strix. 5: 89-98	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Wild Bird Society of Japan. 1987. Strix Field Note. Strix. 6: 110-118	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Wild Bird Society of Japan. 1989. Strix Field Note. Strix. 8: 347-349	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Wild Bird Society of Japan. 1990. Strix Field Note. Strix. 9: 265-268	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
Wild Bird Society of Japan. 1991. Strix Field Note. Strix. 10: 315-318	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
Wild Bird Society of Japan. 1993. Strix Field Note. Strix. 12: 259-264	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Wild Bird Society of Japan. 1994. Strix Field Note. Strix. 13: 265-274	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
Wild Bird Society of Japan. 1996. 野鳥情報･観察記録 1994.8-1995.7. Strix. 14: 205-211	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
WWFJ. 2009. 南西諸島生物多様性評価プロジェクト フィールド調査報告書: 1-242	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	43	0		○	
Yamashina, Y. and T. Mano. 1981. A New Species of Rail from Okinawa Island. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 13: 147-152	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
Yossi Loya, 酒井一彦. 2008. クサビライシ科サンゴの性転換. 琉球大学21世紀COEプログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」平成19年度成果発表会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	○		
Yukio Iwatsuki, Seishi Kimura, Tetsuo Yoshino. 2007. A review of the *Gerres subfasciatus* complex from the Indo-West Pacific, with three new species (Perciformes: Gerreidae). Ichthyological research. 54: 168-185	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
いであ株式会社. 2011. 平成22年度慶良間地域周辺海域海草分布調査業務報告書: 49p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	0			
カラ･カルスト地域学術調査委員会. 2007. カラ･カルスト地域における絶滅危惧種コウモリ類の生育実態調査(2007年6月)報告: 42742	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
ダグラス･マックイーター, 池長裕史, 五百沢日丸, 庄山守, 嵩原建二. 1996. 最近の生息状況と参考記録を含めた沖縄県産鳥類目録. 沖縄県立博物館紀要. 22: 33-152	0	373	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
チーム美らサンゴ. 2010. 万座周辺のサンゴ観察報告(万座、平成21年 9 月): 1-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	○		
ヤマハリゾート株式会社. 1997. (仮称)はいむるぶしゴルフ場開発計画に係る環境影響評価書 評価書: 750p	16	75	9	13	0	1807	130	43	0	0	118	23	460	0	183		○	
安座間安史, 嵩原健二, 島袋徳正. 1989. 特殊鳥類等生息調査及びノグチゲラの営巣木調査. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅱ中間報告書: 99-122	0	103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
安座間安史, 島袋徳正. 1996. 大国林道(沖縄島ヤンバル地域)における側溝落下動物一斉調査-側溝設置状況からみた小動物の落下状況の分析-. 沖縄生物教育研究会誌. (28): 3-12	0	0	24	15	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	○		
安座間安史, 島袋徳正, 嵩原健二. 1990. 辺野喜ダム･照首山周辺のノグチゲラ生息環境調査. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅲ中間報告書: 110-124	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
安座間安史, 島袋徳正. 1984. ノグチゲラの育雛活動について. 沖縄生物学会誌. (22): 79-90	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
安座間安仙, 塩川敦司, 金城孝一, 藤崎菜津子, 桑江万里子, 長嶺弘輝, 佐久川さつき, 久高潤. 2017. 沖縄県中城村久場海岸で発生した海藻による海水の赤色着色現象. 沖縄県衛生環境研究所報. (51): 73-78	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	○		
安谷屋昭, 川上勲, 久貝盛勝, 砂川信夫, 下地恵常, 下地秀男, 富国進. 1977. 大神島の自然調査[動,植物生態と地形地質]. 平良市の文化財 昭和52年度文化財要覧: 45-73	0	36	0	12	0	0	42	3	0	0	0	0	0	0	0			○
安田 富士郎, 富永 義昭. 1970. 三宅島および沖縄本島から得られたキンチャクダイ類の二新種. 魚類学雑誌. 17: 141-151	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
安田雅俊, 関伸一, 亘悠哉, 齋藤和彦, 山田文雄, 小高信彦. 2017. 絶滅危惧種オキナワトゲネズミ *Tokudaia muenninki* の分布の変遷. 哺乳類科学. 57(2): 227-234	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
安藤将吾. 2019. 沖縄本島北東海岸で見られる海草海藻群落の分布状況. 国士舘大学地理学報告. (27): 37-59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	○		
安部 直哉, 真野 徹. 1980. 日本におけるマミジロアジサシの繁殖. 山階鳥類研究所研究報告. 12: 183-192	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
安部真理子, 萩原隼人, 早川英毅, 渡辺俊樹, 日高道雄. 2006. アザミサンゴの多様性に関する研究. 琉球大学21世紀プログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」平成17年度成果発表会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	○		
安部直哉, 河野裕美, 真野徹. 1986. 仲の神島で繁殖するセグロアジサシの個体数と雛(幼鳥)数の推定. 山階鳥研報. 18(1): 28-40	1	32	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
伊藤茜, 藤田喜久, 諸喜田茂充. 2006. Complete larval development of *Macrobrachium latimanus* (Von Martens, 1868) (Decapoda: Caridea: Palaemonidae) described from laboratory-reared material. Crustacean Research. 35: 1-26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0		○	
伊藤茜, 藤田喜久, 諸喜田茂充. 2003. Redescription of the first zoeas of six Macrobrachium species (Decapoda: Caridea: Palaemonidae) occurring in Japan. Crustacean Research. 32: 55-72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	○		○
伊藤茜, 藤田喜久, 諸喜田茂充. 2005. コツノテナガエビ*Macrobrachium latimanus* (Von Martens, 1868)の卵発生と孵化. CANCER. 14: 5-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		○	
伊藤茜, 藤田喜久, 諸喜田茂充. 2003. 沖縄島におけるザラテテナガエビ *Macrobrachium australe* (Guerin Meneville, 1838)の繁殖生態と初期生活史. 琉球大学理学部紀要. 76: 211-225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○		
伊藤信義. 1986. 日本におけるクロトキの生息記録. 34: 127-143	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
伊波善勇. 1990. 恩納村の植物: 382p	0	0	0	0	0	2885	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
伊波善勇. 全沖縄県立高等学校の校庭の植物目録	0	0	0	0	0	4600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
伊波善勇. 2007. 第3章 都市の中の自然 屋敷林. 沖縄市史 第4巻 自然･地理･考古編 自然編: 290-300	0	0	0	0	0	1511	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
伊波善勇. 2007. 第3章 都市の中の自然 校庭の植物. 沖縄市史 第4巻 自然･地理･考古編 自然編: 251-281	0	0	0	0	0	1903	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
伊波善勇, 伊礼洋我, 池原直樹, 兼城洋邦, 渡嘉敷玲子. 1986. 山内谷の植物. 沖縄市自然調査報告書. 1: 52	0	0	0	0	0	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
伊良部村教育委員会. 1981. 黒浜御嶽･牧山一帯調査書 昭和56年度: 1-27	0	0	0	0	0	475	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
伊澤雅子, 前田喜四雄. 1998. 西表島で採集されたアブラコウモリ*Pipistrellus abramus*の記録. 沖縄島嶼研究. 16: 17-18	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
井口修, 西平守孝. 1994. 沖縄島から新たに記録されたシモフリシオマネキ *Uca triangularis* . 沖縄生物学会誌. (32): 39-42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
井上太之, 水谷晃, 北野忠, 南條楠土, 河野裕美. 2015. 西表島網取湾のウダラ川における魚類相および甲殻類相. 東海大学沖縄地域研究センター所報: 19-32	0	0	0	0	77	0	0	0	0	56	122	0	0	34	0		○	
井上太之, 南條楠土, 水谷晃, 北野忠, 河野裕美. 2016. 西表島網取湾のウダラ川における魚類群集構造. 魚類学雑誌. 63(2): 63-79	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	403	0	0	0	0		○	
井川桃子. 2015. 単体サンゴとホシムシの共生系における生態と生活史. 日本生態学会第62回全国大会講演要旨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
井龍 康文, 松田 伸也. 1994. フォーズリーイシモ (紅藻, サンゴモ科) およびその関連種の分類学的研究. 日本古生物学会報告. 174: 426-448	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0		○	
一般財団法人自然環境研究センター. 2018. 平成29年度クロイワトカゲモドキ類の生息状況把握等業務報告書: 116p	0	0	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		○

表 4－5－1（7）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
宇都宮妙子. 2000. 南西諸島の両生類調査記 3. 沖縄島･宮古島･与論島･奄美大島･徳之島の両生類について. 両生類誌. 4: 23-27	0	0	25	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		○
宇都宮妙子. 2000. 南西諸島の両生類調査記 4. 奄美大島･徳之島･沖縄島･西表島の両生類について. 両生類誌. 5: 12-16	0	0	13	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
宇都宮妙子. 2001. 南西諸島の両生類調査記 5. 奄美大島･徳之島･沖縄島の両生類について. 両生類誌. 6: 7-12	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宇都宮妙子. 2001. 南西諸島の両生類調査記 6. 徳之島･沖縄島･奄美大島の両生類について. 両生類誌. 7: 49-53	0	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宇都宮妙子. 2002. 南西諸島の両生類調査記 7. 奄美大島･沖縄島の両生類について. 両生類誌. 8: 35-38	0	0	18	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宇都宮妙子. 2002. 南西諸島の両生類調査記 8. 奄美大島･沖縄島の両生類について. 両生類誌. 9: 33-37	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宇都宮妙子. 2003. 南西諸島の両生類調査記 9. 沖縄島 ･奄美大島･徳之島 ･石垣島･西表島の両生類について. 両生類誌. 10: 8-18	0	0	17	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
宇都宮妙子. 1999. 南西諸島の両生類調査記 2. 沖縄島と渡嘉敷島の両生類について. 両生類誌. 3: 15-20	0	0	18	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
羽地邦雄, 砂川栄喜, 池長裕史. 2011. 沖縄県多良間島におけるナンキンオシ *Nettapus coromandelianus* の観察記録. 日本鳥学会誌. 60: 246-249	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
鵜飼貞行. 1985. 沖縄島 八重山におけるトンボ類採集記録. 琉球の昆虫. (10): 74-78	0	0	0	0	0	0	0	83	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
浦添市史編集委員会. 1986. 浦添市の植物. 浦添市史. 第6巻 資料編 5 (自然･考古･産業･歌謡)	0	0	0	0	0	1467	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
浦添市史編集委員会. 1986. 自然･考古･産業･歌謡. 浦添市史. 第六巻: 資料編 5	7	23	0	0	0	0	50	0	27	0	0	0	0	0	0	○		
延原肇, 佐久本敞, 宮良全修, 玉城常雄. 1981. 沖縄の砂浜群落の成立要因. 沖縄生物学会誌. (19): 1-16	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
延原肇, 宮良全修, 佐久本敞. 1984. 西表島南風見田浜の砂浜群落の変化. 沖縄生物学会誌. (22): 103-114	0	0	0	0	0	139	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
延原肇, 佐久本敞, 宮良全修. 1983. 沖縄の砂浜群落の変化. 沖縄生物学会誌. (21): 41-51	0	0	0	0	0	234	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
塩野貴之. 未発表データ	0	0	0	0	0	815	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
奥土春夫. ニライ社. 2000. 南大東島の自然: 1-135	0	193	0	0	0	0	11	16	0	0	0	0	0	0	0			
奥野淳見, 柳津享, 世古徹, 藤田喜久. 2012. 日本初記録のタカノツメカクレエビ(新称) Perielimenes incertus Borradaile，1915 (甲殻上綱:十脚目:テナガエビ科). 千葉県立中央博物館自然誌研究報告. 12(1): 27-31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		
奥野淳兒, 藤田喜久. 2011. Record of a pontoniine shrimp，*Cuapetes lacertae* (Bruce, 1992) (Crustacea: Decapoda: Palaemonidae) from the Ryukyu Islands，Japan，with notes on its branchial formula and intraspecific morphological variation. Biogeography. 13: 19-23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		○	
奥野淳兒, 藤田喜久. 2007. RESURRECTION OF THE GENUS LAOMENES A. H. CLARK，1919 (DECAPODA，CARIDEA，PALAEMONIDAE). Crustaceana. 80(1): 113-124	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
横川浩治. 2000. 沖縄に生息するティラピア. 伊豆海洋公園通信. 11(5): 2-5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
横田昌嗣, 阿部篤志, 佐藤宣子. 2016. 宮古諸島から新たに見つかった維管束植物. 宮古島市総合博物館紀要. (20): 121-128	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
翁長修, 東江林, 上間久美子, 宮城ゆかり, 島袋俊夫, 津波則子. 1984. 人工放棄ダムにおける植物の生態分布. 沖縄生物教育研究会誌. (17): 33-34	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
岡崎幹人. 2006. 南大東島におけるコモンヒメハネビロトンボの記録. 琉球の昆虫. (30): 55-56	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0			
岡慎一郎, 松崎章平, 宮本圭. 2014. 海洋博公園におけるヤシガニの生息状況. 沖縄生物学会誌. (52): 11-19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
岡村純. 2003. 2003年5月 石垣島におけるアサギマダラのマーキング記録. 琉球の昆虫. (23): 83	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
岡村純. 2003. ハマヤマトシジミの採集記録 1986～2003年. 琉球の昆虫. (23): 82	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0			
岡村純. 2004. 黒島におけるカワカミシロチョウの採集記録. 琉球の昆虫. (24): 68	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
岡徹. 1994. コウモリ2種を伊良部島から記録. 沖縄生物教育研究会誌. (26): 9-11	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
岡徹. 2005. 宮古における野生化クジャクの分布状況-平良市大野山林の野生化クジャクを捕獲しなくてもいいのか？-. 平良市総合博物館紀要. (10): 99-104	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
岡田博, 塚谷裕一，岡本素治. 2007. *Cayratia tenuifolia* (Wight & Arn.)Gagnep.,ブドウ科についての分類学的記述. Acta phytotaxonomica et geobotanica. 58(1): 51-55	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
岡奈理子. 2004. オオミズナギドリの繁殖島と繁殖個体数規模および海域, 表層水温との関係. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 35: 164-188	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
沖縄開発庁. 1980. 第1章 陸上動物調査(1)(主に陸上脊椎動物及び大型土壌動物). 尖閣諸島調査報告書(学術調査編): 1-45	4	54	0	6	0	0	0	0	30	0	0	7	0	0	0		○	
沖縄開発庁. 1980. 第2章 陸上動物調査(2)(主に哺乳動物). 尖閣諸島調査報告書(学術調査編): 46-86	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
沖縄開発庁. 1980. 第3章 水中動物調査(海岸動物及び陸水動物). 尖閣諸島調査報告書(学術調査編): 87-117	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	156	0	2	0		○	
沖縄開発庁沖縄総合事務局. 2000. 中城湾港(泡瀬地区)公有水面埋立事業に係る環境影響評価書: 5章	0	366	0	0	0	502	0	0	0	0	0	60	740	0	181	○		
沖縄県. 2013. 1.1 サンゴ類調査結果. 平成24年度 赤土等流出防止海域モニタリング調査委託業務報告書: 1.1-1～1.1-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	○		
沖縄県. 2013. 1.1.1 永久コドラート調査. 平成24年度 赤土等流出防止海域モニタリング調査委託業務報告書: 14-17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	○		
沖縄県. 2012. 沖縄県指定チービシ鳥獣保護区指定計画書: 1-8	0	7	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄県. 沖縄県自然環境再生指針動物分布データ	372	2340	399	489	154	1326	0	0	0	0	34	0	0	0	0	○	○	○
沖縄県. 1982. 沖縄県自然環境保全地域 指定候補地学術調査報告 知花グスク 斎場御嶽とその周辺地域: 130p	1	5	2	6	0	0	19	1	11	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県. 2016.4. 宮古広域公園整備事業～計画段階環境配慮書～. 第5章: 1-100	0	25	2	14	0	2	0	0	0	3	1	0	0	27	0			○
沖縄県. 2011. 県道平和の道線(仮称)整備事業に係る環境影響評価書: 6章	116	355	20	64	0	783	0	0	87	6	8	297	238	430	0	○		
沖縄県. 2015. 石垣新川川河口漁場環境調査業務報告書(その2). 資料編2: 1-60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	901	117	552	40	0		○	
沖縄県. 2013. 多自然型河川改修モデル事業委託報告書	9	108	14	16	30	0	0	46	30	18	18	19	184	17	0	○		
沖縄県. 2015. 平成26年度自然環境再生指針(仮称)策定事業委託業務: 213p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	4	210	0	222	0	○		
沖縄県. 2016. 平成27年度沖縄県自然環境再生モデル事業結果報告書	0	0	0	0	39	0	0	17	3	44	66	44	0	81	0	○		
沖縄県. 2002. 与那国空港拡張整備事業に係る環境影響評価書. 第6章	25	164	0	15	2	709	0	0	2	1	89	180	134	32	195		○	
沖縄県ダム事務所. 2006. 儀間川総合開発事業環境影響評価書. 第6章	2	49	5	35	19	1298	2	22	55	57	4	25	68	53	0			○
沖縄県開発建設部 河川課. 2006. 奥川及び源河川における河川生態調査業務委託報告書: 1-105	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	○		
沖縄県開発建設部 河川課. 2005. 奥川及び源河川河川生態調査業務委託報告書: 1-126	0	0	4	0	70	171	0	0	1	11	0	1	0	1	0	○		
沖縄県干潟研究会. 1975. 開発の干潟に及ぼす影響に関する研究. 鳥. (11): 3-32	0	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県環境生活部環境政策課. 2013. 資料. 環境白書: 124-240	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	○		
沖縄県環境部自然保護課. 2016. 生物多様性おきなわブランドH28年度調査	76	1059	133	174	0	5267	0	0	4	10	0	1724	908	1252	0	○		
沖縄県環境部自然保護課. 2017. 生物多様性おきなわブランドH29年度調査	73	851	133	217	279	495	390	356	222	303	519	5753	2357	4185	0	○		
沖縄県環境部自然保護課. 2018. 生物多様性おきなわブランドH30年度調査	60	629	147	197	161	0	164	174	62	236	173	3470	1562	2211	0	○	○	
沖縄県環境部自然保護課. 2019. 生物多様性おきなわブランドH31年度調査	79	659	146	211	228	5532	280	262	144	391	201	4859	2591	3262	0		○	○
沖縄県環境部自然保護課. 2020. 生物多様性おきなわブランドR2年度調査	30	419	74	171	59	6303	287	100	135	107	54	816	339	539	0			○
沖縄県環境部自然保護課. 2019. 平成30年度 ジュゴン保護対策事業報告書: 83p	218	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
沖縄県環境保健部自然保護課. 1982. 自然環境保全学術調査結果報告書 タナガーグムイとその周辺: 1-84	0	27	12	8	0	274	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県環境保健部自然保護課. 1995. 特殊鳥類等生息環境調査VIII 宮古群島湿地編: 1-81	0	554	0	0	0	97	0	0	0	0	0	6	0	8	0			○

表 4－5－1（8）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
沖縄県環境保健部自然保護課. 1997. 特殊鳥類等生息環境調査X 伊平屋島･久米島･南大東島･北大東島･湿地編: 1-168	0	672	0	0	35	140	0	114	108	39	9	6	0	18	0			○
沖縄県環境保険部自然保護課. 1996. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅸ -八重山湿地編-: 1-216	0	518	0	0	32	147	114	229	0	56	88	77	0	164	0		○	
沖縄県宮古支庁土木建築課. 2004. 伊良部大橋橋梁整備事業に係る環境影響評価書. 第6章	22	187	28	57	0	4406	169	29	0	3	265	166	134	27	90			○
沖縄県宮古支庁農林水産整備課. 2006. 県営畑地帯総合整備事業西原地区に係る環境影響評価書	0	591	12	34	0	1802	83	24	0	0	0	333	159	65	28			○
沖縄県宮古島市教育委員会. 2011. 国指定名勝「東平安名崎」保存管理計画策定報告書: 119p	0	0	8	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
沖縄県教育委員会. 1978. アサヒナキマダラセセリ調査報告. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第13集: 37p	0	0	0	0	0	750	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
沖縄県教育委員会. 2005. アマミヤマシギ生息実態調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第42集: 65p	0	554	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
沖縄県教育委員会. 2008. イボイモリ生息実態調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第44集: 47p	0	0	186	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県教育委員会. 1996. ウミガメ類生息実態調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第36集: 75p	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄県教育委員会. 1998. ウミガメ類生息実態調査報告書Ⅱ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第38集: 95p	0	0	0	33	0	166	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
沖縄県教育委員会. 2001. ウミガメ類生息実態調査報告書Ⅲ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第40集: 102p	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
沖縄県教育委員会. 1988. オカヤドカリ生息実態調査報告あまん. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第29集: 254p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	○	○	○
沖縄県教育委員会. 2006. オカヤドカリ生息実態調査報告書Ⅱ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第43集: 262p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1551	0	○	○	○
沖縄県教育委員会. 1993. キクザトサワヘビ生息実態調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第33集: 97p	0	0	13	40	1	0	0	12	3	9	0	0	0	0	0			○
沖縄県教育委員会. 2013. キシノウエトカゲ生息実態調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第46集: 208p	0	0	0	399	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
沖縄県教育委員会. 1997. クメジマボタル生息実態緊急調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第37集: 61p	0	20	9	1	0	0	0	14	67	0	0	33	0	0	0			○
沖縄県教育委員会. 1981. ケナガネズミ実態調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第22集: 65p	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県教育委員会. 1977. ケラマジカ実態調査報告Ⅱ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第11集: 148p	0	0	0	0	0	2057	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄県教育委員会. 1978. ケラマジカ実態調査報告Ⅲ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第12集: 209p	0	0	0	0	0	877	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄県教育委員会. 1979. ケラマジカ実態調査報告Ⅳ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第17集: 148p	0	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄県教育委員会. 1996. ケラマジカ保護対策緊急実態調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第35集: 201p	58	0	0	0	0	160	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄県教育委員会. 1992. ダイトウオオコウモリ保護対策緊急調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第31集: 269p	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
沖縄県教育委員会. 1976. ノグチゲラ実態調査速報(Ⅱ). 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第5集: 48p	0	4	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県教育委員会. 2003. リュウキュウヤマガメ･セマルハコガメ生息実態調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第41集: 99p	0	0	0	121	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
沖縄県教育委員会. 1975. 塩川動態調査報告 予報Ⅰ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第2集: 78p	0	0	0	0	0	1606	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県教育委員会. 1976. 塩川動態調査報告Ⅱ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第6集: 91p	2	12	0	6	11	0	21	7	0	17	5	2	0	7	0	○		
沖縄県教育委員会. 1977. 塩川動態調査報告Ⅲ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第9集: 51p	0	0	0	0	2	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	○		
沖縄県教育委員会. 1978. 沖縄県社寺･御嶽林調査報告Ⅰ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第15集: 120p	0	0	0	0	0	2621	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県教育委員会. 1979. 沖縄県社寺･御嶽林調査報告Ⅱ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第18集: 210p	0	0	0	0	0	8823	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県教育委員会. 1981. 沖縄県社寺･御嶽林調査報告Ⅳ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第21集: 316p	0	0	0	0	0	2616	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県教育委員会. 1978. 沖縄県洞穴実態調査報告Ⅰ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第14集: 137p	7	0	14	24	0	1174	0	0	72	0	0	14	0	0	0	○		
沖縄県教育委員会. 1979. 沖縄県洞穴実態調査報告Ⅱ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第16集: 156p	5	0	7	14	0	0	0	0	37	0	0	0	0	0	0	○		○
沖縄県教育委員会. 1976. 慶佐次湾のヒルギ林緊急調査報告. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第7集: 60p	0	0	0	0	0	2571	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○		
沖縄県教育委員会. 1977. 慶佐次湾のヒルギ林緊急報告Ⅱ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第10集: 88p	0	0	0	0	0	400	0	0	0	8	0	0	0	64	0	○	○	
沖縄県教育委員会. 1975. 指定候補糸満市荒崎の岩礁海岸植物群落. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第4集: 22p	0	0	0	0	0	74	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県教育委員会. 1985. 西表島等天然記念物緊急調査Ⅲ 西表島天然記念物緊急調査報告書Ⅲ 動物. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第25集: 88p	8	94	40	114	0	0	2	0	127	0	0	0	0	4	0	○	○	○
沖縄県教育委員会. 2009. 天然記念物緊急調査報告書(サンゴ礁). 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第45集: 142p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73	○		
沖縄県教育委員会. 1975. 与那覇岳周辺のイタジイ林について. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第3集: 73p	0	0	0	0	0	5944	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県水産海洋研究センター 石垣支所. 八重山海域におけるシロクラベラの分布: http://fra-seika.fra.affrc.go.jp/~dbmngr/cgi-bin/search/search_detail.cgi?RESULT_ID=3359&YEAR=2011	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0		○	
沖縄県土木建築部河川課. 2004. 2級水系河川整備基本方針及び整備計画策定業務(石垣新川川)報告書	0	144	0	0	34	610	0	33	19	22	20	15	0	51	0		○	
沖縄県土木建築部河川課. 1997. 安里川水系河川環境管理基本計画策定業務報告書(基礎資料編): 1-211	0	88	0	0	9	121	0	0	0	0	21	0	0	0	0	○		
沖縄県土木建築部河川課. 1999. 国場川･安里川河川整備計画策定業務(資料編)Ⅲ. 河川環境編: 2章	0	123	0	0	32	1061	0	12	16	9	41	36	0	138	0	○		
沖縄県土木建築部河川課. 2001. 中部地区河川整備基本方針及び整備計画策定業務 報告書【第一編比謝川水系編】: 1-49	0	33	32	6	128	593	0	215	63	75	66	40	2	101	0	○		
沖縄県土木建築部河川課. 2015. 田原川環境調査業務委託(H27) 報告書	0	101	0	0	22	96	0	25	14	20	12	37	0	40	0		○	
沖縄県土木建築部河川課. 2016. 田原川環境調査業務委託(H28) 報告書	6	80	4	15	0	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
沖縄県土木建築部河川課. 2001. 南部地区河川整備基本方針･整備計画策定業務(安謝川). 第7編	0	69	0	0	7	101	0	3	17	4	11	18	0	28	0	○		
沖縄県土木建築部河川課. 2001. 南部地区河川整備基本方針･整備計画策定業務(名蔵川). 第7編	4	126	15	21	11	25	0	12	7	30	19	14	0	30	0		○	
沖縄県土木建築部河川課. 2002. 北部･中部地区河川整備基本方針(幸地川)Ⅳ河川環境編	0	0	0	0	91	171	0	17	9	42	34	40	0	17	0	○		
沖縄県土木建築部河川課. 2002. 北部･中部地区河川整備基本方針(石川川)Ⅳ河川環境編	0	59	0	0	22	198	0	15	4	17	58	23	0	28	0	○		
沖縄県土木建築部河川課. 2002. 北部･中部地区河川整備基本方針(天願川)Ⅳ河川環境編	0	0	0	0	53	392	0	47	32	7	23	14	0	17	0	○		
沖縄県土木建築部河川課. 2002. 北部地区河川整備基本方針及び整備計画策定業務(我部祖河川)報告書	0	36	0	0	46	147	0	8	4	7	25	19	0	30	0	○		
沖縄県土木建築部河川課. 2002. 北部地区河川整備基本方針及び整備計画策定業務(汀間川)報告書	0	30	0	0	56	142	0	13	9	35	53	28	0	91	0	○		

表 4－5－1（9）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
沖縄県土木建築部河川課. 2002. 北部地区河川整備基本方針及び整備計画策定業務(満名川)報告書	0	26	0	0	27	89	0	5	5	27	27	23	0	53	0	○		
沖縄県土木建築部河川課. 2002. 北部地区河川整備基本方針及び整備計画策定業務(与那川)報告書	0	24	0	0	42	159	0	9	7	47	17	25	0	37	0	○		
沖縄県土木建築部空港課. 1993. 北大東空港環境影響評価調査 協議図書	21	384	28	35	0	283	114	56	0	0	0	0	0	14	94			
沖縄県土木建築部都市計画, モノレール課. 2011. 主要地方道南風原知念線(地域高規格道路 南部東道路)整備事業に係る環境影響評価書: 6章	137	896	68	95	27	805	0	20	287	15	2	25	1775	4	0	○		
沖縄県土木建築部都市計画課. 1998. 一般国道331号豊見城糸満バイパス建設事業: 102-140	5	299	9	16	1	0	3	4	0	0	31	20	0	56	0	○		
沖縄県土木建築部都市計画課. 1996. 沖縄都市モノレール計画事業に係る環境影響評価書. (5章): 102-145	0	1872	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県土木建築部都市計画課. 1993. 環境影響評価書 津嘉山北土地区画整理事業: 237-264	2	12	4	2	0	253	22	8	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県土木建築部南部土木事務所. 2006. 平成17年度 国場川河川整備計画調査業務委託報告書: 1-45	0	99	0	0	32	197	0	15	18	5	24	14	0	29	0	○		
沖縄県土木建築部八重山土木事務所, 株式会社沖縄環境保全研究所. 2012. 石垣空港線環境調査業務委託(その2)報告書	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所, 株式会社沖縄環境保全研究所. 2012. 平成23年度石垣空港線環境調査業務委託報告書. 第4章: 1-328	15	87	0	19	57	431	83	60	49	58	163	130	0	208	0		○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所. 2017. H28船浮港環境保全措置業務委託報告書. 第2章	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所. 2015. 小浜港環境調査業務委託報告書. 第4章	0	24	0	0	0	150	0	0	0	5	24	55	0	25	2		○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所. 2009. 石垣空港線(仮称)環境調査業務委託報告書: 90p	0	284	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所. 2011. 石垣空港線環境調査業務委託報告書	0	0	0	0	51	0	0	32	17	34	106	54	0	79	0		○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所. 2013. 船浦港(上原地区)環境調査業務委託報告書. 第3章	0	30	0	0	0	142	0	0	0	8	95	116	0	22	65		○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所. 2013. 平成25年度白浜港環境調査業務委託(竹富町白浜地内)報告書. 第3章	0	23	0	0	0	266	0	0	0	5	37	50	0	16	38		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 1999. バンナ公園自然生態調査業務委託報告書	30	0	20	27	5	1591	154	75	0	19	0	0	0	0	0		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 2014. 浦内橋環境調査業務(その1)報告書	5	28	6	9	9	0	14	1	0	10	126	73	33	113	0		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 2014. 浦内橋環境調査業務(その2)報告書	9	131	11	20	19	206	38	19	8	17	283	178	60	271	0		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 2005. 浦内橋環境調査業務委託報告書: 12p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	1	0		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 2006. 浦内橋環境調査業務委託報告書: 16p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	1	0		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 2000. 大浜海岸環境調査業務委託報告書	0	68	0	0	6	104	0	0	0	3	150	268	146	132	52		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 1999. 平成11年度「前良橋環境調査」報告書	7	48	7	11	3	227	39	10	9	8	78	49	0	48	0		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 2003. 平成13年度大浜海岸環境追跡調査業務委託報告書	0	156	0	0	13	116	0	0	0	5	183	436	117	201	50		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 2003. 平成14年度石垣新川川河川環境整備検討業務委託報告書	5	535	28	38	14	109	44	31	19	7	7	14	0	19	0		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 2005. 平成16年度 石垣港伊原間線(野呂水)環境調査業務委託報告書: 109p	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 2005. 平成17年度 石垣港伊原間線(野呂水)環境調査業務委託(その2)報告書: 67p	6	49	11	17	0	0	26	16	0	0	0	0	0	3	0		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 2006. 平成17年度 石垣港伊原間線(野呂水)環境調査業務委託(その3)報告書	0	16	0	2	0	1078	12	3	1	2	0	0	0	0	0		○	
沖縄県八重山支庁土木建築課. 2005. 平野伊原間線道路環境調査業務委託(その2)報告書. 資料編	4	13	32	6	0	0	0	0	0	50	0	0	0	51	0		○	
沖縄県八重山支庁土木建築部. 1998. 後良橋環境影響調査業務報告書: 128p	4	110	3	12	3	1574	100	18	32	7	46	119	0	41	0		○	
沖縄県八重山土木事務所. 2014. 竹富東港環境調査業務委託報告書	0	16	0	0	0	111	0	0	0	2	177	148	150	31	73		○	
沖縄県八重山土木事務所. 2010～2015. 平成21年度～平成26年度 白浜南風見線環境調査業務委託報告書	1064	1135	80	67	0	0	0	0	0	23	10	0	0	40	0		○	
沖縄県文化環境部自然保護課. 2006. 改訂･沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(菌類偏･植物編): 510	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄県北部土木事務所. 2000. 屋我地仲宗根線環境影響評価協議図書作成委託業務報告書. (5章): 81-255	41	194	28	53	0	1194	172	28	0	0	33	0	0	11	0	○		
沖縄県北部土木事務所. 2015. 屋部川水系環境調査業務委託(H26)報告書	0	29	0	0	32	249	0	9	6	14	15	12	0	12	0	○		
沖縄県北部土木事務所. 2016. 屋部川水系環境調査業務委託(H27)報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	26	0	33	0	○		
沖縄市. 2007. 倉浜衛生施設組合ごみ処理施設整備事業に係る環境影響評価書: 6章	51	69	10	17	89	170	19	73	16	22	0	1	0	1	0	○		
沖縄市総務部総務課. 2007. 第4章 基地と自然 基地の中の自然. 沖縄市史 第4巻 自然･地理･考古編 自然編: 335-339	0	5	2	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄市立郷土博物館. 1990. 生きもののくらし 植物･動物. 沖縄市の自然 身近な動植物: 16-131	0	109	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	7	0	0	○		
沖縄市立郷土博物館. 1990. 比謝川のようすと生き物. 沖縄市の自然 身近な動植物: 132-142	0	0	3	0	8	0	0	0	8	4	0	3	0	1	0	○		
沖縄自然研究会. 1979. 沖縄自然研究会調査報告 沖縄県自然環境保全地域 指定候補地学術調査報告 東平安名岬･狩俣御嶽: 1-119	4	196	14	31	0	498	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
沖縄総合事務局 北部ダム事務所. 2002. 沖縄本島北部地域における生物調査データ 哺乳類･鳥類･爬虫類･両生類･陸上昆虫類編	0	0	0	0	0	0	1404	995	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄総合事務局, 北部ダム事務所(編). 1998. 奥間川生物環境調査データ: 175p	0	0	11	14	0	546	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄総合事務局北部ダム事務所(編). 1997. 陸上植物. 大保ダム建設発生土の処分候補地に係る生物環境調査データ(陸域･海域): 3-14	0	0	0	0	0	1897	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄総合事務局北部ダム事務所. 1995. 羽地大川生物環境調査データ: 161p	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄総合事務局北部ダム事務所. 2002. 沖縄本島北部地域における生物調査データ 第2巻 哺乳類･鳥類･爬虫類･両生類･陸上昆虫類編: 1-30	0	0	197	258	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄総合事務局北部ダム事務所. 2002. 沖縄本島北部地域における生物調査データ 第1巻 陸生植物･水生植物･付着生物･プランクトン編: 1-284	0	0	0	0	0	7256	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄総合事務局北部ダム事務所. 1998. 億首川生物環境調査データ: 179p	0	0	0	13	0	462	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄総合事務局北部ダム事務所. 2002. 貝類･甲殻類･大型水生昆虫類･魚類･潮間帯生物編. 沖縄本島北部地域における生物調査データ. 第3巻	0	0	0	0	668	0	0	457	445	970	203	242	0	521	0	○		
沖縄総合事務局北部ダム事務所. 1997. 大保ダム建設発生土の処分候補地に係る生物環境調査データ(陸域･海域): 49-60	0	0	52	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄総合事務局北部ダム事務所. 1998. 大保川生物環境調査データ: 253p	0	0	13	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄総合事務局北部ダム事務所. 2002. 哺乳類･鳥類･爬虫類･両生類･陸上昆虫類編. 沖縄本島北部地域における生物調査データ. 第2巻	179	881	280	316	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄防衛局, いであ株式会社. 2014. 「シュワブ(H24)水域生物等調査」調査報告書: 3-183～3-302	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	297	○		
沖縄防衛局. 2014. シュワブ(H24)水域生物等調査報告書: 518p	142	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄防衛局. 2015. シュワブ(H25)水域生物等調査報告書: 717p	125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄防衛局. 2016. シュワブ(H26)水域生物等調査報告書	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
沖縄防衛局. 2011. 普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	81	0	0	0	0	○		
沖縄防衛局. 2012. 普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書 参考資料(平成21年度～平成22年度調査): 第2章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1403	○		
沖縄防衛局. 2011. 普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書. 資料編: 6章	1813	128	9	26	27	908	16	32	66	57	31	328	1809	375	789	○		
沖縄防衛局. 2012. 普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書の補正後の環境影響評価書: 第3章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	239	○		
恩納村. 2005. サンゴ礁の現状. 恩納村オニヒトデ対策ネットワーク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	○		
恩納村漁業協同組合. 2010. 恩納村オニヒトデ駆除報告: 4-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	○		
下謝名松栄. 1973. 八重山群島の石灰洞窟の動物相調査報告. 沖縄生物教育研究会誌. (6): 1-26	30	0	18	18	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6	0		○	
下謝名松栄. 1973. 八重山群島の石灰洞窟の動物相調査報告. 沖縄生物教育研究会誌. (6): 1-26	5	0	3	3	0	0	0	0	26	1	0	1	0	2	0		○	

表 4－5－1（10）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
下謝名松榮. 1979. 沖縄島および周辺離島の洞窟動物. 沖縄県洞穴実態調査報告書Ⅱ: 97-153	0	0	7	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		○
下謝名松榮. 1980. 先島(宮古諸島・八重山諸島)の洞窟動物. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第19集 沖縄県洞穴実態調査報告書3: 81-121	18	0	9	9	0	0	0	0	33	0	0	1	0	0	0		○	○
下瀬環, 立原一憲. 2005. 沖縄島沿岸におけるニセクロホシフエダイ稚魚の出現と形態. 沖縄生物学会誌. (43): 35-43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	○		
下村通誉, 藤田喜久, 成瀬貫. 2012. First record of the genus Thetispelecaris Gutu & Iliffe, 1998 (Crustacea: Peracarida: Bochusacea) from a submarine cave in the Pacific Ocean. Zootaxa. 3367: 69-78	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			○
下村通誉, 藤田喜久. 2017. First description of the female of *Heteromysoides simplex* Hanamura & Kase, 2001 (Mysidacea: Mysidae) collected from a submarine cave on Ie-jima Island, Ryukyu Islands, southwestern Japan. PROCEEDINGS OF THE BIOLOGICAL SOCIETY OF WASHINGTON. 130(1): 75-83	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			
下村通誉, 藤田喜久. 2017. *Halosbaena okinawaensis*, a new species of Thermosbaenacea (Crustacea) from submarine cave on Okinawa Island, Ryukyu Islands, southwestern Japan. Zootaxa. 4317(1): 155-164	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
加藤信一郎. 1991. 盛夏にオオゴマダラなどの異常集団をみる. 琉球の昆虫. (14): 31-32	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
加藤信一郎. 1987. 八重山諸島で6月に採集したチョウ. 琉球の昆虫. (11): 41-43	0	0	0	0	0	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
河内紀浩, 佐々木健志. 2002. 沖縄島北部森林域における移入食肉類(ジャワマングース・ノネコ・ノイヌ)の分布及び食性について. 沖縄生物学会誌. (40): 41-50	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
河内紀浩, 渡邉瑛樹, 前之園唯史. 2017. 宮古諸島下地島と池間島からのオガサワラヤモリの新記録. AKAMATA. (27): 41-43	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
河野裕美, 水谷晃, 村越未来, 丹尾岳斗, 小菅丈治. 2012. 仲ノ神島海鳥集団繁殖地のオカヤドカリ類. 沖縄生物学会誌. (50): 49-59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0		○	
河野裕美, 水谷晃. 2009. 琉球列島南部西表島周辺で保護回収された3羽のヒメクロウミツバメ *Oceanodroma monorhis*. 沖縄生物学会誌. (47): 33-39	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
河野裕美, 安部直哉, 真野徹. 1986. 仲の神島の海鳥類. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 18: 1-27	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
河野裕美, 水谷晃. 2015. 仲ノ神島および西表島におけるオジロワシの初越夏と繁殖海鳥類への影響. Strix:journal of field ornithology:野外鳥類学論文集. 31: 125-134	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
河野裕美, 太田英利. 1991. 海鳥繁殖地の爬虫類:八重山諸島・仲の神島の爬虫両生類相. 沖縄島嶼研究. (9): 73-89	0	6	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
花原努. 2017. 今帰仁村におけるシリケンイモリの繁殖期と水場の利用. 沖縄生物学会誌. (55): 1-10	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
花崎勝司. 1994. 沖縄島崎本部沿岸における魚類相. 沖縄生物学会誌. (32): 17-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	238	0	0	0	0	○		
花崎勝司. 2005. 沖縄島北部における魚類相I：羽地内海. 沖縄生物学会誌. (43): 75-87	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	193	0	0	0	0	○		
海老沢明彦, 杉山昭博. 1993. 名蔵湾保護水面管理事業及び沿整藻場調査結果. 平成3年度沖縄県水産試験場事業報告書: 233-254	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	210	0	0	0	0		○	○
海老沢明彦, 杉山昭博. 1992. 名蔵湾保護水面管理事業報告. 平成2年度沖縄県水産試験場事業報告書: 222-243	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	161	0	0	0	0		○	
海老沢明彦, 杉山昭博. 1991. 名蔵湾保護水面調査結果. 平成元年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	169	0	0	0	0		○	
外間現誠, 末吉幸満, 仲原秀明. 1973. 本部半島の森林植生. 沖縄県林業試験場研究報告. 16: 72-180	0	0	0	0	0	2035	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
角井敬知, 藤田喜久. 2018. *Haimormus shimojiensis*, a new genus and species of Pseudozeuxidae (Crustacea: Tanaidacea) from a submarine limestone cave in Northwestern Pacific. PeerJ. 4720: 1-15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			○
角井敬知, 藤田喜久. 2020. *Paradoxapseudes shimojiensis* sp. nov. (Crustacea: Tanaidacea: Apseudidae) from a submarine limestone cave in Japan, with notes on its chelipedal morphology and sexual system. MARINE BIOLOGY RESEARCH. 16(3): 195-207	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			○
角田羊平, 青柳克, 徳山孟伸, 才木美香, 笹井隆秀, 戸田守, 前之園唯史. 2016. 宮古島および伊良部島における稀少なヘビ 2種, ミヤコヒバァとサキシマバイカダの観察例. Akamata. 26: 25-30	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
角田羊平, 木寺法子. 2010. 沖縄島やんばる地域で目撃されたウシガエルの一例報告. Akamata. 21: 27-28	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
株式会社 倉敷環境. 2010. 産業廃棄物焼却溶融再資源化施設の整備事業に係る環境影響評価評価書: 277-427	63	98	41	40	18	230	49	41	39	10	3	2	257	5	0	○		
株式会社ニュージェック. 2012. 平成23年度カンムリワシ生息状況等調査業務報告書: 99p	0	152	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
株式会社プレック研究所. 2012. 平成23年度国指定漫湖鳥獣保護区における保全事業検討調査業務報告書: 337p	14	392	0	0	12	0	0	0	18	12	120	132	0	279	0	○		
株式会社沖縄環境科学研究所. 2011. 平成22年度平久保半島サガリバナ生息調査業務報告書: 37p	0	0	0	0	0	317	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
株式会社水圏科学コンサルタント. 2016. 平成27年度西表石垣国立公園西表島横断道モニタリング手法検討業務報告書: 56p	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
乾偉大, 桑原崇, 鈴木賀与, 川瀬成吾, 前潟光弘. 2013. 沖縄県八重山諸島で確認されたチョウ類、陸水性魚類、鳥類. 近畿大学農学部紀要. 46: 277-298	0	106	0	0	19	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0		○	
乾偉大, 桑原崇, 鈴木賀与, 川瀬成吾, 前潟光弘. 2013. 沖縄県八重山諸島で記録されたチョウ類、陸水性魚類、鳥類. 近畿大学農学部紀要. 46: 1-6	0	0	0	0	0	0	144	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
環境省. 2020. ジュゴン目撃情報	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
環境省. 2009. マングース捕獲事業	762	2462	3292	595	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境省. 2018. 国指定仲の神島鳥獣保護区 仲の神島特別保護地区計画書【指定】(環境省案): 1-10	1	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
環境省. 2015. 第 6 回, 第 7 回自然環境保全基礎調査(植生調査)	0	0	0	0	0	8799	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
環境省. 第2-6回自然環境保全基礎調査, 動植物分布調査	103	0	367	719	59	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○		
環境省. 2004. 第6回自然環境保全基礎調査鳥類繁殖分布調査	0	1362	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境省沖縄奄美地区自然保護事務所. 2005. 平成16年度カンムリワシ生息状況等調査報告書(グリーンワーカー事業): 68p	0	134	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
環境省沖縄地区自然保護事務所, 株式会社南西環境研究所. 2002. 平成13年度 やんばる地域希少野生生物保全対策事業報告書: 21p	194	132	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 財団法人自然研究センター. 2006. 平成17年度沖縄県八重山地域における特定外来生物防除事業務(オオヒキガエル)調査報告書: 63p	0	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 財団法人自然研究センター. 2008. 平成19年度沖縄県八重山地域におけるオオヒキガエル等外来生物防除事業報告書: 98p	28	0	169	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 財団法人日本生態系協会. 2008. 平成19年度石西礁湖自然再生技術手法検討調査業務報告書: 141p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	119	0	0	0	45		○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2007. 平成18年度石西礁湖サンゴ群集変動調査報告書: 145p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	216	0	26	0	228		○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2008. 平成19年度石西礁湖サンゴ群集変動調査報告書: 163p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	353	0	84	0	228		○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2009. 平成20年宮古諸島における淡水性甲殻類等の現状把握調査業務報告書: 39p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0			○
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2011. 平成22年度石西礁湖サンゴ礁保全総合調査業務報告書: 1-281	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	921	0	0	0	416		○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2012. 平成23年度西表石垣国立公園川平石崎海域公園地区利用調整検討業務報告書: 49p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	604	0	0	0	0		○	

表 4－5－1（11）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2012. 平成23年度西表石垣国立公園川平湾適正利用推進検討業務報告書: 78p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	466	107	50	31	248		○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2013. 平成24年度石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査等業務報告書: 1-148	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	437	6	10	0	207		○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2014. 平成25年度石垣島のおけるシロアゴガエル対策手法検討業務報告書: 99p	0	0	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2016. 平成27年度石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査等業務報告書: 1-73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	14	0	231		○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2017. 平成28年度石垣島におけるカンムリワシ生息状況等調査業務報告書: 75p	0	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所. 2017. 平成28年度石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査等業務報告書: 1-71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	14	0	232		○	
環境省九州地方環境事務所, アジア航測株式会社. 2014. 平成25年度国指定大東諸島鳥獣保護区における保全事業植生等把握業務報告書: 250p	0	0	0	0	0	430	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省九州地方環境事務所, 那覇自然環境事務所, いであ株式会社. 2007. 平成18年度石西礁湖自然再生技術手法検討調査業務報告書: 119p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	544	0	0	0	93		○	
環境省九州地方環境事務所, 那覇自然環境事務所, いであ株式会社. 2009. 平成20年度石西礁湖サンゴ礁保全総合調査業務報告書: 390p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	182	0	32	0	207		○	
環境省九州地方環境事務所, 那覇自然環境事務所, いであ株式会社. 2010. 平成21年度石西礁湖サンゴ礁保全総合調査業務報告書: 227p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	360	0	16	0	102		○	
環境省九州地方環境事務所, 那覇自然環境事務所, いであ株式会社. 2011. 平成22年度西表石垣国立公園指定植物点検調査業務報告書: 459p	0	0	0	0	0	6644	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
環境省九州地方環境事務所, 那覇自然環境事務所, いであ株式会社. 2011. 平成23年度西表石垣国立公園指定植物点検調査業務報告書: 418p	0	0	0	0	0	5896	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
環境省九州地方環境事務所, 那覇自然事務所, いであ株式会社. 2010. 平成21年度慶良間地域における改正自然公園法に基づく海域公園地区及び特別地域指定動植物検討調査業務報告書: 37p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0			
環境省自然環境局 生物多様性センター. 2009. 平成20年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000)サンゴ礁調査業務報告書: 1-238	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	○		
環境省自然環境局, 財団法人沖縄県環境科学センター. 2003. 平成14年度西表国立公園における海中公園計画作成に関する海域調査業務報告書: 174p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	367	13	53	0	228		○	
環境省自然環境局, 有限会社海游. 2004. 平成15年度網取湾自然環境保全対策検討調査業務報告書: 131p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	324	32	132	4	167		○	
環境省自然環境局. 2006. 平成17年度やんばる地域国立公園指定計画策定調査報告書: 18-33	121	466	64	37	0	38	42	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境省自然環境局. 2006. 平成17年度石西礁湖サンゴ群集変動調査報告書: 113p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63	0	4	0	82		○	
環境省自然環境局. 2011. 平成22年度自然環境保全地域等調査検討業務報告書 崎山湾自然環境保全地域周辺地域(網取湾). 第4章: 1-101	0	0	0	0	114	0	0	0	19	58	356	154	0	214	0		○	
環境省自然環境局生物多様性センター. 2004. 環境省モニタリングサイト1000 シギ･チドリ類調査	0	3313	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
環境省自然環境局生物多様性センター. 環境省モニタリングサイト1000 プロジェクト	0	7300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
環境省自然環境局生物多様性センター. 1983-1999. 第3－5回自然環境保全基礎調査. 動物分布調査報告書	497	0	1243	1750	430	0	15652	2432	4039	0	197	844	0	0	0	○	○	○
環境省自然環境局生物多様性センター. 1983-1988. 第3回自然環境保全基礎調査. 動物分布調査報告書	0	3646	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
環境省自然環境局生物多様性センター. 1997-2002. 第6回自然環境保全基礎調査. 鳥類繁殖分布調査報告書	96	2902	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
環境省自然保護局. 2001. 平成12年度サンゴ礁研究･モニタリング活動推進事業業務報告書: 143p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97		○	
環境省自然保護局. 2003. 平成14年度サンゴ礁研究･モニタリング活動推進事業報告書: 256p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	151		○	
環境省那覇自然環境事務所, 株式会社アーバントラフィックエンジニアリング. 2017. 平成28年度慶良間諸島国立公園におけるグリーンアノール防除業務報告書: 29p	0	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省那覇自然環境事務所, 有限会社海游. 2006. 平成17年度西表島重要湿地保全対策事業報告書: 103p	0	0	0	0	112	0	0	84	16	108	8	24	0	32	0		○	
環境省那覇自然環境事務所. 2008. 平成19年度伊部岳及び安波周辺における自然環境等調査報告書: 70p	22	292	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境省那覇自然環境事務所. 2008. 平成19年度慶良岡地域(座間味村) におけるニホンイタチの生息個体数および食性調査業務: 42p	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
環境省那覇自然環境事務所. 2009. 平成20年度西表島及び与那国島の水域及び集落周辺における希少野生生物の現状把握調査業務報告書: 110p	0	0	0	0	59	0	0	0	43	0	393	34	0	0	0		○	
環境省那覇自然環境事務所. 2010. 平成21年度イリオモテボタル緊急保全対策業務報告書: 83p	0	0	0	0	0	70	0	0	14	0	0	17	5	0	0		○	
環境省那覇自然環境事務所. 2010. 平成21年度集落周辺におけるヤンバルクイナ生息状況把握調査等業務報告書: 74p	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境省那覇自然環境事務所. 2011. 平成22年度イリオモテボタル緊急保全対策業務報告書: 72p	0	0	0	0	0	86	0	0	32	0	0	50	0	0	0		○	
環境省那覇自然環境事務所. 2011. 平成22年度ノグチゲラ生態調査総括報告書: 108p	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境省那覇自然環境事務所. 2011. 平成22年度やんばる地域における亜熱帯照葉樹林の森林環境に関する調査及び資料収集業務報告書: 212p	0	0	0	0	0	1560	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境省那覇自然環境事務所. 2011. 平成22年度沖縄島北部地域におけるウミガメ類の生息実態調査業務報告書: 56-69	0	0	0	30	0	410	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境省那覇自然環境事務所. 2011. 平成22年度八重山諸島におけるシロアゴガエル対策業務報告書: 71p	0	0	127	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
環境省那覇自然環境事務所. 2012. 平成23年度やんばる地域の亜熱帯照葉樹林における林道パトロール検討業務報告書: 138p	74	188	361	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境省那覇自然環境事務所. 2012. 平成23年度西表石垣国立公園動物生息状況等調査業務報告書: 59p	10	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
環境省那覇自然環境事務所. 2012. 平成24年度ノグチゲラ追跡調査等業務報告書(資料編): 132p	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境省那覇自然環境事務所. 2013. 平成24年度やんばる地域における住民参加型の希少種等密猟･盗掘防止検討業務報告書: 1-29	28	756	609	112	0	0	0	0	28	7	0	0	0	7	0	○		
環境省那覇自然環境事務所. 2012. 平成24年度夏期におけるやんばる地域の林道パトロール等業務報告書: 97p	210	826	3227	553	0	0	0	0	0	0	0	0	0	112	0	○		
環境省那覇自然環境事務所. 2013. 平成24年度西表石垣国立公園海域公園地区モニタリング業務報告書: 149p	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	31	83	31	107	159		○	
環境省那覇自然環境事務所. 2012. 平成24年度西表島昆虫類分布図作成業務報告書: 139p	0	0	0	0	0	0	125	269	0	0	0	0	0	0	0		○	
環境省那覇自然環境事務所. 2014. 平成25年度やんばる地域における希少種等密猟･盗掘防止のための林道パトロール業務報告書: 26-145	133	2107	1918	595	0	7	7	0	14	28	0	0	0	77	0	○		
環境省那覇自然環境事務所. 2016. 平成27年度やんばる地域における希少種等密猟･盗掘防止のための林道パトロール業務報告書: 28-209	180	3303	1782	729	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境省那覇自然環境事務所. 2017. 平成28年度タイワンスジオの行動特性をふまえたトラップ開発等業務報告書: 45p	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境庁. 1981. 第2回自然環境保全基礎調査 (植生調査)	0	0	0	0	0	879	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
環境庁. 1988. 第3回自然環境保全基礎調査 (植生調査)	0	0	0	0	0	1880	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査. 動物分布調査報告書[鳥類]	0	622	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○

表 4－5－1（12）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
環境庁. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査. 動物分布調査報告書[哺乳類]	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
環境庁. 1988. 第3回自然環境保全基礎調査動植物分布調査報告書鳥類	0	1826	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
環境庁. 1980. 日本の重要な植物群落. (南九州･沖縄版:熊本県･大分県･宮崎県･鹿児島県･沖縄県)	0	0	0	0	0	4241	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
環境庁自然保護局, 国際湿地保全連合日本委員会. 2000. 平成11年度名蔵川河口地域自然環境保全総合調査報告書: 125p	0	236	0	0	40	0	0	10	0	49	85	22	0	60	0		○	
環境庁自然保護局, 財団法人海中公園センター. 1998. 平成9年度生態系多様性地域調査(石垣島東部及び平久保半島の沿岸海域)報告書: 174p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	313	10	88	0	159		○	
環境庁自然保護局. 1990. 崎山湾自然環境保全地域調査報告書: 225p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	853	0	163	0	27		○	
環境庁自然保護局. 1989. 昭和62年度沖縄島北部地域調査報告書 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究: 1-509	8	2086	126	104	0	0	356	590	290	16	0	14	0	63	0	○		
環境庁自然保護局. 1987. 西表島マングローブ林の枯損の原因究明及び保全対策のための検討調査報告書 I : 52p	0	195	0	0	0	184	0	0	0	0	6	18	0	36	0		○	
環境庁自然保護局. 1999. 平成10年度生態系多様性地域[崎山湾自然環境保全地域]調査報告書: 140p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	148	0	0		○	
環境庁自然保護局. 1990. 平成元年度 西表島崎山半島地域調査報告書 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究: 1-317	39	33	20	21	71	0	37	116	852	87	201	33	0	233	0		○	
環境庁自然保護局生物多様性センター. 2001. 海域自然環境保全基礎調査重要海岸域生物調査報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	87	○		
関伸一. 2004. 多良間島におけるアカヒゲの秋期の渡り. 九州森林研究. 57: 246-247	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
関哲夫. 1980. 1979年5月 沖縄採集記. 琉球の昆虫. (4): 65-67	0	0	0	0	0	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
関哲夫. 1980. 1979年秋 沖縄採集記. 琉球の昆虫. (4): 68-71	0	0	0	0	0	0	82	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
丸山勝彦. 1993. 伊平屋島の哺乳類. 沖縄生物教育研究会誌. (25): 3-6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
丸山勝彦. 1993. 伊平屋島の哺乳類. 沖縄生物教育研究会誌. (25): 3-6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
丸山勝彦. 1999. 沖縄島羽地における洞窟棲コウモリ2種の前腕長、体重と精巣の大きさの季節変化. 沖縄生物学会誌. (37): 15-19	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
丸山勝彦. 1992. 沖縄県におけるヒナコウモリ科2種の新記録. 沖縄生物学会誌. (30): 55-57	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		○
丸山智朗, 藤田喜久. 2018. ウリガーテナガエビの石垣島からの初記録. Fauna Ryukyuana. 46: 5-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0		○	
丸山智朗, 福家悠介. 2018. オオバヌマエビの沖縄島からの初記録. Fauna Ryukyuana. 43: 11-17	0	0	0	0	15	0	0	0	0	24	0	0	0	3	0	○	○	
岸本高男, 比嘉ヨシ子. 1978. 沖縄産の住家性ネズミの種類構成と繁殖. 沖縄生物学会誌. (16): 1-9	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
岸野底, 四宮明彦. 2004. 奄美大島の役勝川と河内川におけるリュウキュウアユの孵化時期と体サイズ. 魚類学雑誌. 51(2): 149-156	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
岩井憲司, 仲本光男. 2001. 名蔵保護水面管理事業. 平成11年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115	0	0	0	0		○	
岩槻幸雄, 瀬能宏, 鈴木寿之. 1989. フエダイ科魚類ミナミフエダイの日本からの記録および稚魚期における近似種との区別点. 魚類学雑誌. 35(4): 469-478	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0		○	
亀崎直樹. 1985. 八重山群島新城島におけるタイマイ *Eretmochelys imbricata* (Linnaeus) の産卵場の新記録. 沖縄生物学会誌. (23): 41-42	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
亀崎直樹. 1991. 琉球列島におけるウミガメ類の産卵場の分布とその評価(予報). 沖縄生物学会誌. (29): 29-35	0	0	0	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
亀谷秋恵, 嶺井直樹, 富永篤. 2013. シリケンイモリの発生における水温の影響. 九州両生爬虫類研究会誌. 4: 66-67	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
亀田 勇一. 2007. 与論島･伊平屋島におけるシュリマイマイの記録. ちりぼたん. 37(4): 183-185	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0			
亀田勇一. 2017. シュリマイマイ類 (腹足綱: ナンバンマイマイ科) の分布と国内移入状況 (特集 沖縄県産貝類の多様性と保全). 軟体動物多様性学会. 5(1): 93-112	0	0	0	0	0	0	0	0	103	0	0	0	0	0	0	○	○	○
亀田和成, 若月元樹, 亀崎直樹. 2013. 八重山諸島黒島の摂餌海域におけるアオウミガメの個体群構造と成長速度. 沖縄生物学会誌. (51): 93-100	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
亀田和成. 2010. 八重山諸島黒島におけるヤエヤマイシガメの初記録. Akamata. 21: 23-24	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
儀間英美, 諸喜田茂充. 1980. 沖縄島与那川におけるサワガ二類の分布. 沖縄生物学会誌. (18): 9-15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	○		
宜野湾市. 2015. (仮称)西普天間住宅土地区画整理事業計画段階環境配慮書: 1-69	12	24	8	12	0	51	60	30	12	0	0	0	0	1	0	○		
宜野湾市教育委員会文化課 市史編集係. 2011. 宜野湾の海、観察会. 市史だより がちまやぁ. (23): 1-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	○		
宜野湾市教育委員会文化課. 2002. ぎのわん自然ガイド. 『宜野湾市史』 第9巻資料編8自然･解説編：1-215	0	45	12	22	10	75	12	14	12	3	9	26	0	9	0	○		
菊地正太郎, 佐野清貴. 2007. 竹富島におけるカンムリワシの観察記録. Bird Research. 3: S7-S10	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
菊地正太郎, 姚正得, 外山茂, 松本千枝子, 西海功. 2008. クロアゴヒメアオバト*Ptilinopus leclancheri* の日本初記録および亜種*P. l. taiwanus* についての検討. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 40: 13-22	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
菊地正太郎, 松本千枝子. 2005. 西表島におけるバンケンの観察記録. Strix. 23: 175-179	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
菊池多賀夫, 田村俊和, 牧田肇, 宮城豊彦. 1978. 西表島仲間川下流の沖積平野にみられる植物群落の配列とこれにかかわる地形 I . マングローブ林. 東北地理. 30(2): 71-81	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
菊池多賀夫, 田村俊和, 牧田肇, 宮城豊彦. 1980. 西表島仲間川下流の沖積平野にみられる植物群落の配列とこれにかかわる地形Ⅱ. サガリバナ林, アダン林. 東北地理. 32(4): 185-193	0	0	0	0	0	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
吉郷英範. 2014. 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録. Fauna Ryukyuana. 9: 1-153	0	0	0	0	69	0	0	0	0	0	126	0	0	0	0	○	○	○
吉郷英範, 下瀬龍, 岩崎誠. 2007. 沖縄島のコウタイ(タイワンドジョウ科). 比婆科学. 223: 37-38	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
吉郷英範, 関根正人. 屋我地(沖縄島)で確認されたアカボウズハゼ: 63	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
吉郷英範, 岩崎誠. 2001. 沖縄島で繁殖が確認された国外侵入種の魚類. 比婆科学. 201: 15-26	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
吉郷英範, 岩崎誠. 沖縄島で繁殖している *Tanichthys albonubes* (硬骨魚類；コイ科): 25-26	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
吉郷英範, 吉野哲夫. 2004. 西表島で採集された日本初記録のヒルギヌメリテンジクダイ(新称). 伊豆海洋公園通信. 15(5): 2-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○	○	
吉郷英範, 吉野哲夫. 1999. 琉球列島で採集された*Apogon lateralis* (テンジクダイ科)と *Acentrogobius caninus* (ハゼ科). 伊豆海洋公園通信. 10(9): 4-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○	○	
吉郷英範, 吉野哲夫. 1999. 西表島で採集された日本初記録のオグロオトメエイ(新称) *Himantura fai* . 魚類学雑誌. 46(1): 39-43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	○	○	
吉郷英範, 市川真幸, 吉野哲夫. 2004. 沖縄島で採集された日本初記録のハゼ科魚類ヨミノハゼ(新称). I. O. P. DIVING NEWS. 15(11)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
吉郷英範, 市川真幸, 中村慎吾. 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (Ⅳ). 比和町立自然科学博物館標本資料報告. (5): 1-51	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	567	0	0	0	0	○	○	○
吉郷英範, 中村慎吾. 2008. 庄原市立比和自然科学博物館魚類収蔵標本総合目録. 庄原市立比和自然科学博物館標本資料報告. 8: 1-112	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	532	0	0	0	0	○	○	○
吉郷英範, 中村慎吾. 2002. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録Ⅱ. 比和町立自然科学博物館標本資料報告. (3): 85-136	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	351	0	0	0	0	○	○	
吉郷英範, 中村慎吾. 2003. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録Ⅲ. 比和町立自然科学博物館標本資料報告. (4): 31-75	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	468	0	0	0	0	○	○	○
吉郷英範, 田村常雄. 沖縄島都市部におけるタナゴモドキの記録. 比婆科学. 206: 46-47	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
吉郷英範, 内藤順一, 中村慎吾. 2001. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録. 比和町立自然科学博物館標本資料報告. (2): 119-168	0	0	0	0	60	0	0	0	0	0	445	0	0	0	0	○	○	
吉郷英範, 井上朋子, 吉野哲夫. 2008. 日本記録のカワハギ科魚類コクテンハギ *Pseudomonacanthus macrurus* . 魚類学雑誌. 56(1): 59-62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○		

表４－５－１（13）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
吉郷英範, 太田格, 吉野哲夫. 2006. 日本初記録のネズッポ科魚類クシヒゲヌメリ(新称)*Eleutherochir mccaddeni* . 魚類学雑誌. 52(2): 189-193	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	○		
吉郷英範, 田村常雄, 巖道治, 泉れい. 2003. 伊良部島 (琉球列島･宮古諸島) の洞穴で確認された動物. 比婆科学. (210): 1-16	0	0	4	1	0	0	0	0	6	5	0	1	0	1	0			○
吉郷英範. 2001. ワキイシモチ、標徴の追記. 比婆科学. 201: 41-42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
吉郷英範. 2004. 南大東島で確認されたタイドプールと浅い潮下帯の魚類. 比和科学博物館研究報告. 43: 1-51	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	456	0	0	0	0			
吉郷英範. 2009. 日本の河口域とアンキアラインで確認されたテッポウエビ科エビ類 (甲殻類 エビ目): 221-273	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	○	○	○
吉郷英範. 2007. 日本の陸水域に出現するサメとエイ. 比婆科学. 223: 21-35	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	○	○	
吉郷英範. 与那国島(琉球列島)の陸水生魚類: 165-179	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	67	0	0	0	0		○	
吉郷英範. 2007. 琉球列島久米島の陸水性魚類. 比和科学博物館研究報告. 48: 25-51	0	0	0	0	47	0	0	0	0	0	98	0	0	0	0			○
吉行瑞子. 1990. 日本の哺乳動物⑤カグラコウモリ類. 日本の生物. 4(8): 74-78	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
吉行瑞子. 1990. 日本の哺乳動物7キクガシラコウモリ類(2). 日本の生物. 4(10): 74-77	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
吉村光, 北村嘉夫, 知花昌紀, 横田昌嗣, 傳田哲郎. 2016. 琉球列島固有種アカボシタツナミソウ(シソ科)の渓流環境への適応と葉形変異. 沖縄生物学会誌. (54): 1-15	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
吉田正人, 河内直子, 仲岡雅裕. 2003. 市民参加による沖縄の海草藻場のモニタリング調査. 保全生態学研究. 8(2): 119-128	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	○		
吉田 朋弘, 本村 浩之. 2015. 徳之島および沖縄島から得られたハタ科魚類ジャノメヌノサラシ *Grammistops ocellatus* Schultz, 1953. Nature of Kagoshima. 41: 53-55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
吉田直史, 玉城不二美, 渡口輝. 2007. 沖縄県牧港･嘉手納海域における魚類中の重金属及び有機塩素系化合物含有量について. 沖縄県衛生環境研究所報. 41: 199-207	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	238	0	0	0	0	○		
吉野 哲夫, 昆 健志. 1998. 日本初記録のキツネアマダイ科魚類アカオビサンゴアマダイ *Hopldatilus marcosi* . 魚類学雑誌. 45: 111-114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
吉野元, Kyle N Armstrong, 田村常雄. 2009. 沖縄県の久米島･渡嘉敷島･伊平屋島における洞窟棲小型コウモリ類. 東洋蝙蝠研究所紀要. (8): 28-32	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
吉野元, 田村常雄. 2009. 沖縄島南部の出産保育洞周辺におけるオキナワコキグガシラコウモリの選択的な環境利用. 東洋蝙蝠研究所紀要. (8): 33-36	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
吉野智生, 小高信彦, 齋藤恭子, 相澤空見子, 植野道章, 浅川満彦. 2014. 沖縄県内で採集された鳥類から得られた寄生蠕虫類の記録. 沖縄生物学会誌. (52): 1-9	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
久貝勝盛, 岡徹, 山本晃. 1982. *STERNA Linnaeus* , *ANOUS stephens* of the MIYAKO ISLANDS(宮古群島のアジサシ類). 沖縄生物教育研究会誌. (15): 11-18	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
久貝勝盛, 仲地邦博, 金子進, 砂川友弘, 砂川栄喜, 山本晃. 2010. 宮古諸島の鳥類相. 宮古島市総合博物館紀要. (14): 91-114	0	222	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
久貝勝盛, 仲地邦博, 砂川友弘, 金子進. 2011. 日本における秋のアカハラダカ渡りの現状－宮古島を中心にして-. 宮古島市総合博物館紀要. (15): 1-19	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		○
久貝勝盛, 嵩原建二, 瀬名波任. 1995. 久米島におけるワシタカ類とハヤブサ類. 沖縄県立博物館紀要. 21: 159-168	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
久貝勝盛. 2003. サシバを追う 宮古の野鳥たち: 1-287	0	540	0	0	0	130	0	0	0	0	0	10	0	15	0			○
久貝勝盛. 1997. 伊良部の鳥. 平良市総合博物館紀要. (4): 35-56	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
久貝勝盛. 1996. 下地町与那覇湾一帯の鳥類相. 平良市総合博物館紀要. (3): 85-103	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
久貝勝盛. 1981. 宮古群島のチョウ、トンボ、セミ類. 沖縄生物教育研究会誌. (14): 40-46	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0			○
久貝勝盛. 1998. 多良間島･水納島の鳥類. 平良市総合博物館紀要. (5): 39-68	0	29	0	0	0	184	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
久貝勝盛. 1995. 池間島の鳥. 平良市総合博物館紀要. (2): 79-86	0	153	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
久貝勝盛. 1996. 日本におけるサシバの秋の渡り. 沖縄県立博物館紀要. 22: 153-172	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
久貝勝盛. 2001. 来間島の鳥類. 平良市総合博物館紀要. (7): 125-156	0	160	0	0	0	232	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
久場安次. 1987. 沖縄本島における淡水紅藻について. 沖縄生物教育研究会誌. (20): 2-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	○		○
久場安次. 1987. 植生. 宜野湾市教育委員会社会教育課(編), 宜野湾市文化財調査報告書第9集: 56	0	0	0	0	0	526	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
久場安次. 1974. 石垣島海藻相の調査報告Ⅰ. 沖縄生物教育研究会誌. (7): 2-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	0	0		○	
久場安次. 1984. 大山-宇地泊海岸における海藻. 沖縄生物教育研究会誌. (17): 3-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	99	0	0	○		
久米島ホタルの会. 2010. 平成21年度キクザトサワヘビ生息環境等調査業務報告書: 95p	0	0	24	16	22	0	0	5	3	6	0	0	0	0	0			○
久米島ホタルの会. 2011. 平成22年度キクザトサワヘビ生息環境等調査業務報告書: 71p	0	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
久米島ホタルレンジャー, 久米島ホタル館. 2016. 2015年久米島ホタルレジャーの活動記録. 久米島博物館紀要. (16): 25-44	0	0	4	6	147	0	0	29	104	274	0	108	0	60	0			○
久米島ホタルレンジャー, 久米島ホタル館. 2014. 2013年久米島ホタレンジャーの活動記録と水生生物調査 ―トンボ探検隊―. 久米島博物館紀要. (14): 49-64	0	0	0	0	0	0	0	113	0	0	0	0	0	0	0			○
久保弘文, 西垣孝治, 小澤宏之. 2017. 沖縄県レッドデータブック-レッドデータおきなわ-第2回改訂に伴う稀少貝類棲息実態調査報告(2)西表島 (特集 沖縄県産貝類の多様性と保全). 軟体動物多様性学会. 5: 15-20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0		○	
久保弘文, 福田宏, 早瀬善正, 亀田勇一, 黒住耐二, 上島励. 2017. 沖縄県レッドデータブック-レッドデータおきなわ-第2回改訂に伴う稀少貝類棲息実態調査報告(3)北大東島･南大東島 (特集 沖縄県産貝類の多様性と保全). 軟体動物多様性学会. 5: 21-32	0	0	0	0	0	0	0	0	214	0	0	33	0	0	0			
久保弘文, 福田宏, 早瀬善正, 亀田勇一, 小澤宏之, 上島励. 2017. 沖縄県レッドデータブック-レッドデータおきなわ-第2回改訂に伴う稀少貝類棲息実態調査報告(1)与那国島 (特集 沖縄県産貝類の多様性と保全). 軟体動物多様性学会. 5: 1-14	0	0	0	0	0	0	0	0	183	0	0	4	0	0	0		○	
久保弘文. 2002. 宜野湾市の貝類. 宜野湾市史第9巻資料編8自然: 659-742	0	0	0	0	0	0	0	0	78	0	0	418	0	0	0	○		
久保弘文. 2014. 第3章 恩納村の動物 恩納村の貝類. 恩納村誌 第1巻 自然編. (1): 245-340	0	0	0	0	0	0	0	0	570	0	0	1771	0	0	0	○		
久保弘文. 1991. 第一章海産動植物 第五節中城海域の貝類. 中城村史第二巻 資料編1(地理･自然･政治行政･産業経済･移民). (2): 186-196	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	○		
久保田康裕. 未公開データ	0	0	0	0	0	1960	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
久保田信, 岩永節子, 大城直雅, 鳥越兼治. 2003. 沖縄島産のノコギリガキ(二枚貝綱、カキ目、イタボガキ科)とカイヤドリヒドラクラゲ(ヒドロ虫綱、軟クラゲ目、マツバクラゲ科)の共生の初記録. 沖縄生物学会誌. (41): 51-54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○		
久保田信, 小林亜玲, 岩永節子, 大城直雅, 鳥越兼治. 2005. 沖縄島およびその周囲の離島におけるカイヤドリヒドラ類(ヒドロ虫綱、軟クラゲ目)のポリプの地理的分布. 沖縄生物学会誌. (43): 65-70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	○		
久保田信, 水野信彦. 1998. 渡嘉敷川河口で発見されたオオウナギ(ウナギ目,ウナギ科)の死亡個体. 南紀生物. 40(2): 199-200	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
宮原 一, 吉野 哲夫, 仲谷 一宏. 2005. 西表島での分布が確認された日本初記録のテンジクダイ科魚類フタスジアカヒレイシモチ (新称), *Apogon rhodopterus* . 魚類学雑誌. 52: 147-151	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○	○	
宮原一, 崔允, 矢部衛, 仲谷一宏. 2002. 沖縄島で採集された日本初記録のエソ科魚類コソデエソ(新称)*Saurida micropectoralis* . 魚類学雑誌. 49: 127-131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
宮城康一, 島袋敬一, 横田昌嗣. 1986. イリオモテヤマネコの糞調査地高菱･古見地点の植生変化1. 沖縄島嶼研究. 4: 9-26	0	0	0	0	0	1555	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
宮城康一. 1992. 沖大東島の植物相と現存植生. 沖縄生物学会誌. 30: 65-70	0	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
宮城康一. 1981. 竹富町西表島の主な御嶽の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第21集 沖縄県社寺･御藤林調査報告Ⅳ: 231-246	0	0	0	0	0	4681	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
宮城康一, 横田昌嗣. 1984. イリオモテヤマネコの糞調査地高菱, 古見地点の概況. 沖縄島喚研究. 2: 9-24	0	0	0	0	0	2067	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
宮城康一, 喜屋武とせ子, 伊佐小夜子, 又吉直子, 渡慶次敬子. 1968. 沖縄南部の植生. 琉球大学生物クラブ誌. 10: 48-58	0	0	0	0	0	1203	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		

表 4－5－1（14）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
宮城康一, 新城和治, 島袋曠, 日越国昭, 宮城朝章, 真志喜丈子, 新島義龍, 天願敏男, 新納義馬. 1988. 与那覇岳天然保護区域の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集, 国頭郡天然記念物緊急調査Ⅲ: 59-84	0	0	0	0	0	1953	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宮城康一, 島袋曠. 1981. 名護市の主な御嶽の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第21集,沖縄県社寺, 御縁林調査報告Ⅳ: 11-26	0	0	0	0	0	1303	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宮城康一, 島袋曠. 1981. 沖縄県社寺, 御嶽林調査報告Ⅳ: 伊江村の主な御願所の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 21: 1-10	0	0	0	0	0	431	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
宮城康一, 日越国昭, 新納義馬, 新城和治, 新島義龍, 宮城朝章, 島袋噴, 天願敏男. 1985. 西表島仲間川天然保護区域の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第24集 西表島天然記念物緊急調査報告書Ⅱ: 1-20	0	0	0	0	0	6159	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
宮城秋乃, 青柳克. 2011. 2010年沖縄県で見られた迷蝶. 琉球の昆虫. (35): 1-4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
宮城秋乃. 2008. メスアカムラサキの交尾を観察. 琉球の昆虫. (32): 129	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宮城朝章. 1979. 那覇市内の主な社寺･御轍の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第18集, 沖縄県社寺･御森林調査報告Ⅱ: 145-168	0	0	0	0	0	1287	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宮城朝章, 真志喜丈子, 新島義龍, 島袋曠, 新城和治, 日越国昭, 宮城康一, 新納義馬. 1988. 大宜味御嶽のビロウ林. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第30集, 国頭郡天然記念物緊急調査Ⅲ: 96-116	0	0	0	0	0	110	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宮城朝章, 嵩原建二. 2000. 末吉公園の植物とオオコウモリの餌植物について. 沖縄県立博物館紀要. 26: 47-84	0	0	0	0	0	298	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宮城邦治, 三井興治. 1981. 慶留間島の陸上脊椎動物相. 沖縄生物学会誌. (19): 53-56	4	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
宮城邦治, 当山昌直. 1988. 沖縄島北部与那覇岳及びその周辺地域の哺乳類･爬虫類･両生類調査結果(中間報告). 特殊鳥類等生息環境調査中間報告書: 91-105	5	0	18	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宮城邦治. 1982. 波照間島の植生概観と動物相. 波照間島調査報告書-地域研究シリーズNo.3. (3): 105-123	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
宮島仁, 嵩原建二, 田仲謙介. 2015. 沖縄県におけるブロンズトキ*Plegadis falcinellus* の観察記録. 日本鳥学会誌. 64: 267-270	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宮島仁, 山城正邦, 田仲謙介. 2012. 沖縄県国頭郡金武町におけるヨーロッパムナグロ*Pluvialis apricaria* の日本初記録. 日本鳥学会誌. 61: 310-313	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
宮脇昭, 奥田重俊, 村上雄秀, 藤原一絵, 大野啓一, 中村幸人, 鈴木伸一. 1983. 宮古島の海岸植生. 横浜国立大学環境科学研究センター紀要. 10(1): 133-162	0	0	0	0	0	559	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
宮脇昭, 鈴木邦雄, 藤原一絵, 宮城康一. 1978. 与那国島の植生: 自然資源の保全と観光利用に関する植生学的研究. 観光資源調査報告. 6: 1-61	0	0	0	0	0	1290	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
宮脇昭. 1989. 沖縄･小笠原. 日本植生誌. 10: 580p	0	0	0	0	0	15493	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
宮脇昭, 中村幸人, 村上雄秀, 塚越優美子, 鈴木邦雄, 鈴木伸一, 仲田栄二. 1983. 西表島沿岸部の植生学的研究. 横浜国立大学環境科学研究センター紀要. 9(1): 91-137	0	0	0	0	0	1086	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
宮脇昭, 鈴木邦雄, 鈴木伸一, 中村幸人, 村上雄秀, 塚越優美子, 仲田栄二. 1983. 日本におけるマングローブの植生学的研究 1. 西表島のマングローブ林. 横浜国立大学環境科学研究センター紀要. 9(1): 77-89	0	0	0	0	0	356	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
橋本岳真, 西島信昇. 1987. マドモチウミニナ*Terebralia sulcata* (Born) の後期発生と成長. 沖縄生物学会誌. (25): 53-56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○		
玉城俊一. 1972. 八重山の鳥類調査報告(1). 沖縄生物教育研究会誌. (5): 13-17	0	169	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
玉城常雄. 1978. (続)石垣島の秋期における鳥類と渡りの動向. 沖縄生物教育研究会誌. (11): 49-58	0	189	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
玉城常雄. 1982. 石垣市街地とバンナ岳の鳥相およびその生態. 沖縄生物教育研究会誌. (15): 25-31	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
玉城常雄. 1977. 石垣島の秋期における鳥類と渡りの動向. 沖縄生物教育研究会誌. (10): 23-37	0	145	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
玉城常雄. 1979. 与那国島の鳥類(1). 沖縄生物教育研究会誌. (12): 15-23	0	370	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
金城 清昭, 本永 文彦, 木村 基文. 1999. 沖縄島におけるシモフリアイゴの着底. 日本水産学会誌. 65: 19-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	○		
金城 清昭. 1998. 沖縄島の海草藻場に着底するシロクラベラ*Choerodon schoenleinii* 仔稚魚の形態および成長にともなう分布と食性の変化. 日本水産学会誌. 64: 427-434	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○		
金城孝一, 比嘉榮三郎, 大城洋平. 2006. 沖縄県のサンゴ礁海域における栄養塩環境について. 沖縄県衛生環境研究所報. (40): 107-113	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	○		
金城常雄. 1993. 沖縄本島南部に侵入したシロガシラ*Pycnonotus sinensis* の分布域の拡大と生態的特性. 九州病害虫研究会報. 39: 119-123	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
金城清昭, 亀浜正博, 七条祐蔵, 立津茂,宮平和法,仲本光男. 1995. 宮古島ミナミクロダイ放流調査. 平成５年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	0			○
金城清昭, 七条祐蔵. 1995. 宮古島の砕波帯におけるミナミクロダイ稚魚の分布. 平成5年度沖縄県水産試験場事業報告書: 183-187	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0			○
金城清昭, 中村博幸, 仲本光男. 1998. 名蔵湾保護水面管理事業. 平成8年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0		○	
金城清昭, 仲本光男, 渡辺利明. 1997. 名蔵保護水面管理事業. 平成7年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	114	0	0	0	0		○	
金城清昭, 仲本光男. 1999. 名蔵保護水面管理事業. 平成9年度沖縄県水産試験場事業報告書: 218-224	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	161	0	0	0	0		○	
金城清昭, 仲本光男. 1996. 名蔵湾保護水面管理事業. 平成6年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0		○	
金城道男. 1994. 湿地の鳥類. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅶ－沖縄本島湿地編－	0	647	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
金城優子, 金城嵐太. 2009. タテハモドキの幼虫を見つけた. 琉球の昆虫. (33): 55	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
金城和三、前田喜四雄. 1999. 沖縄島で採集されたヤマコウモリ*Nyctalus aviator* の記録. 沖縄生物学会誌. (37): 61-64	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
金本自由生, 渡辺利明. 1981. 石垣島名蔵湾の海草藻場の生態学的研究I. 海草の分布と生態. ベントス研究会連絡誌. 21-22: 1-14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71	0	0		○	
駒井智幸, 前之園唯史, 藤田喜久. 2014. Two new species of ghost shrimp assigned to the genus Cheramus Spence Bate, 1888 (Crustacea: Decapoda: Axiidea: Callianassidae) from the Ryukyu Islands, Japan from the Ryukyu Islands, Japan. Zootaxa. 3895(4): 503-524	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	○		
駒井智幸, 長井隆, 輿儀明文, 成瀬貫, 藤田喜久, 諸喜田茂充. 2004. 日本から初めて記録されるイワガニ上科(甲殻上網:十脚目:短尾下目) 4 種の報告および 4 稀種に関する分類学的情報の補足. Natural History Research. 8(1): 33-63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0		○	○
駒井智幸, 藤田喜久, 前之園唯史. 2014. Additional record of *Rayllianassa amboinensis* (de Man, 1888) from Japan, and description of a new species from Okinawa Island, Ryukyu Islands (Crustacea: Decapoda: Axiidea: Callianassidae). Zootaxa. 3835(4): 549-563	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		
駒井智幸, 藤田喜久. 2018. A new genus and new species assigned to Macrophthalmidae (Decapoda: Brachyura: Thoracotremata) from the Ryukyu Islands, Japan. Zootaxa. 4531(1): 109-116	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		○	
駒井智幸, 藤田喜久. 2018. A new genus and new species of alpheid shrimp from a marine cave in the Ryukyu Islands, Japan, with additional record of *Salmoneus antricola* Komai, Yamada & Yunokawa, 2015 (Crustacea: Decapoda: Caridea). Zootaxa. 4369(4): 575-586	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0			
駒井智幸, 藤田喜久. 2019. A new species of the mud shrimp genus Axianassa Schmitt, 1924 (Decapoda: Gebiidea: Laomediidae) from the Ryukyu Islands, southern Japan. Zootaxa. 4658(3): 452-460	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		○	

表 4－5－1（15）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
駒井智幸, 藤田喜久. 2014. New records of the caridean shrimp genus Processa Leach, 1815 (Crustacea: Decapoda: Processidae) from Japan, with descriptions of two new species. Zootaxa. 3794(2): 263-278	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	○		
駒井智幸, 藤田喜久. 2014. 沖縄島沿岸の潮下帯砂泥域から得られた日本 初記録のチゴスナモグリ(新称)(甲殻亜門: 十脚目: アナエビ下目: スナモグリ科). Fauna Ryukyuana. 8: 1-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
駒井智幸. 2004. クシモトサンゴヤドカリはクリイロサンゴヤドカリの幼若個体. 沖縄生物学会誌. (42): 25-38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	○	○	○
具志川市. 2002. 中部北環境施設組合ごみ処理施設建設事業に係る環境影響評価書: 5章	6	49	7	10	7	545	54	39	14	16	0	15	18	1	0	○		
具志川市教育委員会. 1997. 具志川市の文化財 第4集 -兼箇段グスクの植物-: 1-40	0	0	0	0	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
熊田美里, 渡辺剛, 大庭英雄. 2009. 沖縄県宮古列島の海藻植生. みどりいし. (20): 24-33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	184	0	0			○
熊野茂, 新井章吾, 大谷修司, 香村真徳, 笠井文絵, 佐藤裕司, 洲澤譲, 田中次郎, 千原光雄, 中村武, 長谷井稔, 比嘉敦, 吉崎誠, 吉田忠生, 渡邉信. 2007. 環境省「絶滅のおそれのある種リスト」(RL)2007年度版(植物･藻類･淡水産紅藻)について. 藻類. 55(3): 207-217	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	○	○	
熊野茂, 香村真徳, 新井章吾, 佐藤裕司, 飯間雅文, 洲淳譲, 洲津多美枝, 羽生田岳昭, 三谷進. 2002. 1995年以降に確認された日本産淡水産紅藻の産地について. 藻類. 50(1): 29-36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	○	○	○
栗栖和信. 2016. 沖縄本島におけるマルバネルリマダラ(フィリピン亜種)*Euploea eunicekadu* の記録. 琉球の昆虫. (40): 103	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
栗田和紀, 角田羊平. 2010. 沖縄島におけるオキナワトカゲの分布状況. Akamata. 21: 39-43	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
桑原崇, 曽我部陽子, 山本裕太, 鳥居憲親, 鈴木賀与, 前潟光弘, 桜谷保之. 2011. 沖縄県八重山諸島で記録された両生類･爬虫類. 近畿大学農学部紀要. (44): 163-169	0	0	17	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
原佳弘. 2014. 久米島町奥武島で未記録種を採集. 琉球の昆虫. (38): 59	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0			○
原戸鉄二郎. 2014. 第3章 恩納村の動物 恩納村の鳥類. 恩納村誌 第1巻 自然編. 1: 491-507	0	184	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
原戸鉄二郎. 1986. リュウキュウツバメ *Hirundo tahitica namiyei* のモビング行動(予報). 沖縄生物学会誌. (24): 35-38	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
原田英司. 1972. 南西諸島で観察されたテッポウエビ類とハゼ類の同居関係について. 沖縄生物学会誌. 9(11): 1-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	○		○
庫本正. 1986. キクガシラコウモリにおける出産哺育群の動態. 秋吉台科学博物報告. (21): 37-50	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
戸田守, 角田羊平, 前之園唯史, 岩永節子. 2006. 渡嘉敷村前島の両生爬虫類相. 沖縄生物学会誌. (44): 53-63	0	0	7	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
戸田守, 山本麗子, 角田羊平. 2003. 伊是名村の具志川島および屋那覇島の両生爬虫類相. 沖縄生物学会誌. (41): 33-41	0	0	1	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
戸田守, 小島光明, 前田真希, 正井佐知, 坂田ゆず. 2015. 沖縄島北部におけるオキナワヤモリの交尾の観察例. Akamata. 25: 17-20	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
戸田守, 庄司直嗣. 2015. 伊江島から 2番目となるクメジマハイの標本について. Akamata. 25: 31-34	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
戸田守, 当山昌直, 小原祐二. 2002. 硫黄鳥島の爬虫両生類. 沖縄県史 資料編13 硫黄鳥島 自然環境1. (13): 161-170	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
戸田守. 2008. オキナワヤモリとミナミヤモリの識別点について(予報). Akamata. 19: 23-30	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		○
後藤健志, 田村常雄, 佐々木健志. 2014. 第3章 恩納村の動物 恩納村の陸棲哺乳類. 恩納村誌 第1巻 自然編. (1): 519-537	29	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
向井貴彦, 杉本真奈美. 2006. 日本産トビハゼのミトコンドリアDNA多型に基づく遺伝的集団構造の解析. 魚類学雑誌. 53(2): 151-158	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
向井貴彦, 西田睦. 2004. 日本産ミミズハゼにおけるミトコンドリアDNAの系 統と地理的分化. 魚類学雑誌. 51(2): 157-161	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
向山満. 1990. 森林棲コウモリを探して. 採集と飼育. 52(11): 476-481	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
幸地良仁, 大城勝. 1987. ダム建設によるヨシノボリ属魚類への影響. 沖縄生物教育研究会誌. (20): 8-23	0	0	0	0	56	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	○		
幸地良仁. 2000. 沖縄県内における淡水魚類とその生息環境の現状. 特殊鳥類等生息環境調査XI(改訂版) 湿地(水辺環境)編総括 -沖縄県内の水辺環境に生息する生物種の概要-: 79-101	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
幸地良仁. 1991. 沖縄島における陸水産移入動物の現状と問題点. 南西諸島自然保護特別事業調査報告書. 4: 55-65	0	0	0	0	209	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	○		
幸地良仁. 1995. 沖縄島の河川環境の現状と問題点. 沖縄生物学会誌. (33): 66-77	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	○		
幸地良仁. 1988. 大城ダムの魚類相とブラックバスの食害による影響. 沖縄生物教育研究会誌. (21): 45-57	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	○		
幸地良仁. 1965. 西表島から採集した異常体色のノコギリボラについて. 沖縄生物学会誌. 2(4): 50-51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
荒尾一樹. 2007. 南大東島の淡水魚類. 神奈川自然保全研究会報告書. 17: 25-26	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
荒尾一樹. 2004. 八重山諸島小浜島で採集された陸水域の魚類. 南紀生物. 46(2): 173-176	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0		○	
香村真徳. 1977. 宮古島の海藻-Ⅰ. 沖縄生物学会誌. (15): 25-34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	325	0	0			○
香村昴男, 西村昌彦. 1990. 沖縄島南部におけるハブの直接採集. 沖縄生物学会誌. (28): 43-54	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
高橋真弓. 1988. 1979年春 久米島の蝶. 琉球の昆虫. (12): 24-26	0	0	0	0	0	0	83	0	0	0	0	0	0	0	0			○
高橋真弓. 1981. 渡嘉敷島･春の蝶類. 琉球の昆虫. (5): 50-53	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0			
高橋祐衣, 宮竹貴久. 2012. 沖縄島へのオカダンゴムシの侵入とダンゴムシ類の分布. 沖縄生物学会誌. (50): 83-91	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○		
高江洲賢文. 2009. 新規造成地に発生した雑草の群落組成について. 沖縄県農業研究センター研究報告. 3: 21-27	0	0	0	0	0	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
高田未来美, 立原一憲. 2006. 沖縄島比地川水系におけるギンブナ *Carassius auratus langsdorfii* の性比と倍数性. 沖縄生物学会誌. (44): 27-34	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
高木昌興. 2000. 南大東島に生息するモズの羽色および形態の記載, 島内の分布状況と繁殖生態. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 32: 13-23	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
高良拓夫. 2000. 沖縄島新記録の輪藻類. 植物地理･分類研究. 48(2): 177	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	○		
高良鉄夫, 東清二. 1968. 西表島の蝶相について. 沖縄生物学会誌. 5(7): 15-24	0	0	0	0	0	0	191	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
高良鉄夫. 1979. 沖縄における未記録種および稀有種. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 11: 132-135	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
高良鉄夫. 1969. 尖閣列島の海鳥について. 琉球大学農学部学術報告. 16: 1-12	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
高良鉄夫. 1969. 八重山群島(琉球)産ヘビに関する若干の知見. 爬蟲兩棲類學雜誌. 3(2, 3): 19-21	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
高良鉄夫. 1954. 尖閣列島の動物相について. 琉球大学農学部学術報告: 57-74	0	11	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
国土交通省. 河川環境データベース (河川水辺の国勢調査): http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/	411	11510	3807	583	1026	0	710	1464	919	737	179	250	0	314	0	○		
国立科学博物館. 2013. 自然史標本情報検索	7	228	0	2	1218	5349	0	0	0	0	3410	0	0	0	535	○	○	○
国立大学法人琉球大学. 2014. 平成25年度国指定大東諸島鳥獣保護区における保全事業鳥獣の生息状況把握調査業務: 137p	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
黒住耐二. 1981. 慶良間列島座間味村の陸産貝類相. 沖縄生物学会誌. (19): 47-51	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	2	0	0	0			
黒住耐二, 尾川原正司. 1983. 硫黄鳥島で得た昆虫類II. チョウ類. 琉球の昆虫. (8): 7-8	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0			○
黒田長久. 1972. 琉球の春の鳥類調査(1972). 山階鳥類研究所研究報告. 6: 551-568	0	226	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
黒田長久. 1969. 琉球諸島冬季の鳥獣と鳥獣行政. 鳥. (6): 1-24	0	139	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
黒田長禮. 1973. 日本産ガン･カモ科鳥類の渡来地表 追加Ⅲ. Japanese Journal of Ornithology. 23: 17-22	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
黒田長禮. 1940. 翼手目. 日本哺乳類圖説: 204-299	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
今井秀行. 2008. 石垣島で採集された日本初記録のドブガイモドキ(二枚貝綱:イシガイ科). 沖縄生物学会誌. (46): 65-70	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		○	

表４－５－１（16）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
今井敦, 野村明, 五百澤日丸, 池長裕史. 2011. 沖縄県与那国島におけるクロエリヒタキ *Hypothymis azurea* の日本初記録. 日本鳥学会誌. 60: 110-113	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
今井忍, 東原句美, 片山涼子, 藤野恵佳, 秋山由子, 中村あづ紗, 前潟光弘, 桜谷保之. 2012. 2011年3月の沖縄県八重山諸島の調査で記録された両生類, 爬虫類, 鳥類, 哺乳類. 近畿大学農学部紀要. 45: 143-156	3	61	8	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
今泉吉典. 1970. 日本哺乳動物図説. 1: 197-280	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
昆健志, 吉野哲夫. 1999. イザリウオ科魚類ロケットイザリウオ (新称) *Antemarius analis* の日本からの記録および命名者の取り扱い. 魚類学雑誌. 46: 101-103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
昆健志, 桜井雄, 吉野哲夫. 1998. 沖縄島中城村浜漁港における台風13号による打ち上げ魚類. 沖縄生物学会誌. (36): 37-50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0	0	○		
昆健志, 桜井雄, 武井直行. 2003. 沖縄県名護市楚久地先で確認されたハゼ亜目魚類トカゲハゼ *Scartelaos histophorus* . 沖縄生物学会誌. (41): 25-32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
佐々木ミチ, 立原一憲. 2001. 沖縄島残波におけるデバスズメダイ*Chromis viridis* の繁殖生態. 沖縄生物学会誌. (39): 37-47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
佐々木健志. 2004. 西原町の昆虫･クモ類および琉大構内の哺乳類. 西原町史付属刊行物 西原町の自然～動物･人と自然の関わり～: 35-60	0	0	0	0	0	0	65	19	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐々木健志. 2007. 第2章 残された自然 沖縄市の哺乳類. 沖縄市史 第4巻 自然･地理･考古編 自然編: 76-90	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐々木健志. 1995. 沖縄島から採集されたタイワンスジオ *Elaphe taeniura taeniura* (有鱗目:ナミヘビ科)の幼蛇. 沖縄生物学会誌. (33): 65-67	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐渡山安常. 1979. 1977年沖縄島中部の蝶類. 琉球の昆虫. (3): 21-25	0	0	0	0	0	0	148	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐渡山安常. 1978. 与勝諸島宮城島で採集した蝶類. 琉球の昆虫. (2): 74	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤紘, 仲田栄二, 幸喜善福. 1975. 沖縄における緑化材料としての在来草種の適性に関する基礎的研究(I)緑化材料として可能性のある在来草種の検討. 琉球大学農学部学術報告. 22: 745-760	0	0	0	0	0	209	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保. 1995. 久米島の小動物. 久米島総合調査報告書: 26-64	0	0	0	0	55	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0			○
佐藤寛之, 吉野哲夫, 太田英利. 1997. 沖縄県内の島嶼におけるスッポン (*Pelodiscus sinensis*) (爬虫綱、カメ目)の起源と分布の現状について. 沖縄生物学会誌. (35): 19-26	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
佐藤宣子. 2009. サキシマエノキ *Celtis biondii* Pamp. var. insularis Hatusima, nom. nud. の果実と花の宮古島での記録. 宮古島市総合博物館紀要. (13): 97-100	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
佐藤大義. 2019. 沖縄島新記録のシマノハテマゴコロガイ (二枚貝綱：チリハギ科): 11-13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○		
佐藤智映, 佐藤文保. 2016. 久米島におけるサワガニ類の流程分布と環境条件. 久米島博物館紀要. (16): 5-24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0			○
佐藤智映, 佐藤文保. 2017. 久米島のサワガニ類の流程分布と環境条件、およびビオトープ案. 久米島博物館紀要. (17): 43-52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	0	0	0	3	0			○
佐藤文保, 比屋根満. 2007. 第3章 都市の中の自然 比謝川の水生昆虫と水生小動物. 沖縄市史 第4巻 自然･地理･考古編 自然編: 309-324	0	0	4	0	6	0	0	27	0	3	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保, 佐藤智映. 2011. ブルーギルがいる池、いない池の生きもの調査について. 久米島自然文化センター紀要. (11): 37-46	0	0	6	0	43	0	0	196	29	24	0	6	0	6	0			○
佐藤文保. 1988. アサギマダラ *Parantica sita* Kollarの幼虫の沖縄島北部での記録. 琉球の昆虫. (12): 60-62	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保. 1988. オキナワサラサヤンマ*Oligoaeshna kunigamiensis* (Ishida)の若虫(ヤゴ)発見場所について. 琉球の昆虫. (12): 96-99	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保. 1988. カラスヤンマ*Chlorogomphus brunneus brunneus* Ogumaの産卵場所と産卵行動の観察の一例. 琉球の昆虫. (12): 58-59	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保. 2003. クメジマボタルとキクザトサワヘビの久米島での分布状況と周辺の環境について. 久米島自然文化センター紀要. (3): 25-37	0	0	0	78	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
佐藤文保. 1988. 伊是名島の昆虫の記録. 琉球の昆虫. (12): 27-28	0	0	0	0	0	0	13	7	0	0	0	0	0	0	0			
佐藤文保. 1988. 沖縄市瑞慶山ダムの昆虫(1). 琉球の昆虫. (12): 91-93	0	0	0	0	0	0	18	14	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保. 1988. 沖縄市立郷土博物館で、展示、保存された昆虫の採集目録. 琉球の昆虫. (13): 102-115	0	0	0	0	0	0	97	51	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
佐藤文保. 1988. 沖縄島のトンボの記録(1). 琉球の昆虫. (12): 74-79	0	0	0	0	0	0	0	121	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保. 1988. 沖縄島のトンボの記録(2). 琉球の昆虫. (13): 1-100	0	0	0	0	0	0	0	851	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保. 2000. 沖縄島の河川環境と水生昆虫. 特殊鳥類等生息環境調査XI(改訂版) 湿地(水辺環境)編総括 -沖縄県内の水辺環境に生息する生物種の概要-: 131-208	0	37	41	9	87	0	0	267	63	84	0	16	0	14	0	○		
佐藤文保. 1988. 沖縄島の蝶の採集記録. 琉球の昆虫. (12): 80-85	0	0	0	0	0	0	133	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保. 2002. 宜野湾市の昆虫類. 宜野湾市史第9巻資料編8自然: 441-572	0	0	0	0	0	0	473	274	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保. 2002. 宜野湾市の両生･爬虫類. 宜野湾市史第9巻資料編8自然: 393-440	0	0	158	205	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保. 2014. 久米島で再捕獲、宮城県蔵王町から1833km移動したアサギマダラの記録. 琉球の昆虫. (38): 49	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0			○
佐藤文保. 2005. 久米島で新たに発見された昆虫類. 久米島自然文化センター紀要. (5): 47-52	0	0	0	0	0	0	24	28	0	0	0	0	0	0	0			○
佐藤文保. 2006. 久米島で発見されたトンボ2006. 久米島自然文化センター紀要. (6): 49-50	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0			○
佐藤文保. 2005. 久米島に侵入した自然界のエイリアン(移入種)の記録. 久米島自然文化センター紀要. (5): 27-35	0	0	120	216	336	0	0	0	24	0	8	0	0	0	0			○
佐藤文保. 1995. 久米島の小動物. 久米島総合調査報告書 自然･歴史･民俗･考古･美術工芸･建築1994年: 26-64	0	189	38	39	0	0	220	167	54	82	0	12	0	11	0			○
佐藤文保. 2017. 久米島ホタル館のトンボの記録－2000年-2016年－. 久米島博物館紀要. (17): 13-42	0	0	0	0	0	0	0	279	0	0	0	0	0	0	0			○
佐藤文保. 2005. 久米島ホタル館周辺(浦地川下流域)の魚類と甲殻類、および久米島の淡水魚類について. 久米島自然文化センター紀要. (5): 67-75	0	0	0	0	179	0	0	0	0	168	14	0	0	66	0			○
佐藤文保. 2012. 久米島ホタル館周辺のチョウ類. 久米島博物館紀要. (12): 1-18	0	0	0	0	0	0	133	0	0	0	0	0	0	0	0			○
佐藤文保. 1988. 具志川市栄野比 野外センター予定地の昆虫と動物の記録. 琉球の昆虫. (12): 1-23	0	0	0	0	0	0	39	23	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保. 1986. 私たちの知る沖縄島のチョウとトンボ-特に名護市幸地を中心に-. あじまぁ 名護博物館紀要. (2): 157-213	0	0	0	0	0	0	457	289	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐藤文保. 1984. 西表島･石垣島12月の蝶採集報告. 琉球の昆虫. (9): 73-76	0	0	0	0	0	0	114	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
佐藤文保. 2007. 第2章 残された自然 沖縄市全域の昆虫の記録. 沖縄市史 第4巻 自然･地理･考古編 自然編: 195-244	0	0	0	0	0	0	249	139	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐伯智史, 西垣孝治, 前之園唯史. 2010. 西表島と石垣島より採集されたハマベンケイガニ(甲殻亜門:十脚目:短尾下目:ベンケイガニ科)の記録. 沖縄生物学会誌. (48): 35-43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	○	○	
佐敷町史編集委員会. 1989. Ⅲ佐敷町の陸棲動物 蝶の日周活動. 佐敷町史 三 自然: 375-381	0	0	0	0	0	0	75	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
佐敷町史編集委員会. 1989. Ⅲ佐敷町の陸棲動物 林内落葉下の陸棲貝類の死殻. 佐敷町史 三 自然: 335-345	0	0	0	0	0	0	0	0	48	0	0	0	0	0	0	○		
佐敷町史編集委員会. 1989. Ⅳ佐敷町の水棲動物 海岸調査. 佐敷町史 三 自然: 556-567	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	29	0	○		
佐敷町史編集委員会. 1989. Ⅳ佐敷町の水棲動物 佐敷町の沿岸魚類. 佐敷町史 三 自然: 457-493	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	228	0	0	0	0	○		
佐敷町史編集委員会. 1989. Ⅳ佐敷町の水棲動物 佐敷町産河川生物(甲殻類･魚類). 佐敷町史 三 自然: 495-500	0	0	0	0	14	0	0	0	0	22	0	0	0	11	0	○		
佐敷町史編集委員会. 1989. Ⅳ佐敷町の水棲動物 佐敷町内汽水域の甲殻類と魚類. 佐敷町史 三 自然: 501-506	0	0	0	0	7	0	0	0	0	2	22	0	0	12	0	○		
佐野光彦, 望月賢二. 1984. 日本産キス類の再検討. 魚類学雑誌. 31(2): 136-149	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	○	○	
砂川博秋 鴨川正道. 2008. 宮古島におけるクロマダラソテツシジミの発生. 宮古島市総合博物館紀要. (12): 81-85	0	0	0	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0	0	0			○

表 4－5－1（17）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
砂川博秋. 2008. クロマダラソテツシジミの斑紋異常型について. 宮古島市総合博物館紀要. (12): 86-87	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0			○
砂川博秋. 2007. 宮古諸島･宮古島と来間島のチョウ-1999年～2006年の調査-. 宮古島市総合博物館紀要. (11): 79-88	0	0	0	0	0	0	204	0	0	0	0	0	0	0	0			○
斎藤俊郎, 岸本浩和. 2003. 西表島産ツムギハゼの成長にともなう毒性と食性の変化. 東海大学紀要海洋学部. 56: 27-37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		○	
斎藤敏郎, 今給黎盛行, 岸本浩和. 2002. ツムギハゼ受精卵および親魚の毒性. 海･人･自然(東海大博研報). 4: 79-85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		○	
細将貴. 2002. ヤエヤマアオガエル卵塊の9月初旬の観察例. 爬虫両棲類学会報. 1: 5-6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
細谷 誠一. 2014. トカゲハゼ:沖縄島中城湾における泥質干潟生態系の保全. 魚類学雑誌. 61: 109-114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	○		
細谷誠一, 鹿谷法一, 土屋誠. 1993. シオマネキ*Uca arcuata* の沖縄島からの記録. 沖縄生物学会誌. (31): 41-45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	○		
財団法人 日本野鳥の会八重山支部. 2004. 平成15年度カンムリワシ生息状況等調査報告書(グリーンワーカー事業): 93p	0	191	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
財団法人沖縄県環境科学センター. 2000. 平成11年度西表国立公園集団施設地区維持管理状況等調査業務報告書: 102p	0	0	0	46	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
財団法人海中公園センター. 1999. 平成10年度生態系多様性地域調査(西表国立公園海中公園地区)報告書: 97p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	191	12	79	0	196		○	
財団法人自然環境研究センター. 2009. 平成22年度イシガキニイニイ生息確認調査業務報告書: 58p	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
財団法人日本野鳥の会. 1993. 平成4年度 環境庁委託調査特殊鳥類調査: 60p	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
坂口勇, 波平智成. 2006. 沖縄の発電所におけるフジツボの付着と成長. Sessile Organisms. 23(1): 17-23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
笹井隆秀, 大嶋大地. 2010. 座間味島におけるオキナワトカゲの再発見. Akamata. 21: 33-35	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
笹木大地, 木村清志. 2011. 沖縄県と鹿児島県で採集された日本初記録のトウゴロウイワシ科魚類ミナミギンイソイワシ(新称)*Hypoatherina temminckii* . 魚類学雑誌. 58(1): 87-91	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	○	○	
三井興治, 池原貞雄. 1983. オキナワトゲネズミ*Tokudaia osimensis muenninki* (Johnson) の日周活動. 沖縄生物学会誌. (21): 7-12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
三井興治, 池原貞雄. 1979. 与那覇岳とその周辺におけるネズミ類･食虫類の分布. 沖縄生物学会誌. (17): 7-13	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
三浦重光. 2014. 久米島のサシバ ―平成25年度のサシバの渡り―. 久米島博物館紀要. (14): 11-30	0	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
三浦正治, 山田裕, 野村浩貴, 道津光生, 太田雅隆, 清野通康. 2013. 火力･原子力発電所の環境影響評価に係る海域生態系影響予測手順の提案. 海生研研報. (17): 1-56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	○		
三宅貞祥, 嶺井久勝. 1965. A new fresh-water crab, *Potamon (Geothelphusa) tenuimanus* . 九州大学農学部学藝雑誌. 21(4): 377-382	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○		
三宅武. 2014. アオタテハモドキの食草ヒメクマツヅラ. 琉球の昆虫. (38): 57	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
三田 哲也, 浜崎 活幸, 原田 靖子, 團 重樹, 北田 修一. 2018. 与那国島沿岸域におけるオカヤドカリ類の分布. Cancer. 27: 51-53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0		○	
三島 冬嗣. 1968. 改訂4版日本鳥類目録以後の知見. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 5: 397-410	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
山岸高旺. 1969. 沖縄産の淡水藻類. 藻類. 17(1): 11-12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	○		
山岸豊. 2010. サンゴのモニタリング記録:第4回コドラート調査. ニライ地区のサンゴを見守る会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
山崎敬. 1993. 沖縄からのナス属の1新種オキナワヒヨドリジョウゴ. 植物研究雑誌. 68: 339-341	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
山崎敬. 1992. 琉球からのサダソウ属の1新種. 植物研究雑誌. 67: 15-18	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
山崎仁也. 2008. 石垣島における小動物の轢死の現状. 沖縄生物学会誌. (46): 79-87	0	5	33	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0		○	
山城史雄. 2004. 糸満市におけるカワカミシロチョウの記録. 琉球の昆虫. (24): 68	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
山城甚英. 1987. 沖縄県瀬底島におけるオカヤドカリ類の分布と宿貝利用. 沖縄生物学会誌. (25): 35-42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	○		
山城篤, 金城直樹, 宮城智浩, 指導教諭 大城勝. 1996. 羽地内海におけるトビハゼ類の生態分布調査. 沖縄生物教育研究会誌. (28): 33-34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	○		
山城利恵子. 1975. 屋我地干潟の生物. 鳥. (11): 52-58	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
山盛直. 1973. 熱帯農学研究施設用地内の森林植生(資料). 琉球大学農学部学術報告. 20: 423-439	0	0	0	0	0	91	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
山本正幸. 1972. 台湾･沖縄における鳥類. 香川生物. 5: 41-44	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
山里清, エリア スワルデイ, サイーダ サルタナ. 2008. 高緯度における幼生産出型サンゴの生殖周期. 日本サンゴ礁学会誌. 10: 1-11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	○		
山里清, 潮田照雄. 1983. ハナヤサイサンゴの生殖周期. 動物学雑誌. 92(4): 649-649	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
山﨑仁也, 横田昌嗣, 知念美香, 仲宗根忠樹, 比嘉清文, 加島幹男. 2016. 鳩間島･新城(上地･下地)島･黒島の植物相(FLORA). 鳩間島･新城島･黒島総合調査報告書 沖縄県立博物館･美術館 別刷: 13-67	0	0	0	0	0	1246	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
山﨑仁也, 松村雅史, 吉田和久, 力身恭二, 目黒賢児. 2016. 鳩間島･新城(上地)島･黒島の動物相(FAUNA)～昆虫相を中心に～. 鳩間島･新城島･黒島総合調査報告書 沖縄県立博物館･美術館 別刷: 69-79	6	0	0	8	0	0	34	1	0	1	0	0	0	8	0		○	
姉崎悟. 2015. 大東諸島北大東島で 2013 年 7 月に確認した鳥類. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 46: 127-140	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
指村奈穂子. 未公開データ	0	0	0	0	0	131	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
糸満市土地開発公社. 1995. 糸満市南浜地先公有水面埋立事業に係る環境影響評価書. (5章): 1-168	5	313	9	16	1	270	3	4	0	0	44	2	173	18	64	○		
寺田考紀, 西村昌彦, 香村昂男. 2011. 沖縄県産アカマタの繁殖に関する資料. 沖縄県衛生環境研究報. 45: 95~102	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		○
寺田考紀. 2011. 沖縄島に定着したタイワンハブ･サキシマハブ･タイワンスジオの生息状況と対策. 爬虫両棲類学会報. 2: 161-168	0	0	0	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
寺田仁志, 川西基博, 杉村康司. 2016. 沖縄県伊是名島の巨大化･大規模化したウコンイソマツ群落を含む隆起サンゴ礁上植生について. 鹿児島県立博物館研究報告. (35): 91-104	0	0	0	0	0	175	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
寺田仁志, 大屋哲. 2012. 沖縄県久高島の隆起珊瑚礁上植生について. 鹿児島県立博物館研究報告. (31): 5-30	0	0	0	0	0	563	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
持田浩治. 2015. 慶良間諸島外地島におけるアオカナヘビの初分布記録. Akamata. 25: 35	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
鹿谷麻夕. 2000. 沖縄島東海岸の砂浜潮間帯におけるナミノコガイ *Donax cuneatus* の加入と繁殖パターン. 沖縄生物学会誌. (38): 33-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	○		
鹿野雄一, 中島淳, 水谷宏, 仲里裕子, 仲里長浩, 揖善継, 黄亮亮, 西田伸, 橋口康之. 2012. 西表島におけるドジョウの危機的生息状況と遺伝的特異性. 魚類学雑誌. 59(1): 37-43	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
篠原士郎. 1973. 琉球諸島におけるクロイワヒダリマキマイマイ *Satsuma (coniglobus) yaeyamaensis* (Pilsbry) の特異な分布について. 沖縄生物学会誌. 10(12): 61-62	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0		○	○
若松昭伸. 1977. 春の西表島採集観察記. 琉球の昆虫. (1): 59-60	0	0	0	0	0	0	39	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
酒井 治己, 佐藤 光昭. 1982. 琉球列島の河川から得られた日本初記録の魚類5種と2番めの記録のハゼ科魚類3種. 北海道大學水産學部研究彙報. 33: 79-88	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	○	○	
酒井治己, 中村守純. 1979. 石垣島の渓流から得られたボウズハゼ亜科の2新種. 魚類学雑誌. 26(1): 43-54	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	

表４−５−１（18）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
酒井理. 2015. 沖縄島周辺におけるオガサワラヤモリの新たな分布地と花外蜜腺からの採蜜行動. Akamata. 25: 5-8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
秋田雄一, 海老沢明彦. 2013. フエフキダイ科魚類の生態的特性の経年変化. 平成24年度沖縄県水産海洋研究センター事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	0		○	
所崎聡, 所崎香織, 砂川栄喜. 2002. 沖縄県におけるバライロムクドリ Sturnus roseus の初記録. 日本鳥学会誌. 51: 122-124	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
緒喜田茂充, 藤田喜久, 長井隆, 伊藤茜, 川原剛, 野甫斉. 2003. 石垣島名蔵川マングローブ域と流入河川における甲殻類の生態分布と現存量. 平成14年度内閣府委託調査研究マングローブに関する調査研究報告書: 97-111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	117	0		○	
諸喜田茂光. 1971. オカガニの放卵習性について. 沖縄生物学会誌. 7(9): 27-32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	3	0		○	
諸喜田茂光, 藤田喜久, 長井隆, 川上新. 2002. 宜野湾市の甲殻類. 宜野湾市史第9巻資料編8自然: 629-658	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	0	0	0	116	0	○		
諸喜田茂充, 伊野波盛仁. 1971. 沖縄産アユの種苗生産に関する研究-1. 昭和44年度琉球水産研究所事業報告書: 70-74	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
諸喜田茂充, 西島信昇, 伊野波盛仁. 1975. 沖縄産アユの産卵生態－アユ保護の必要性－. 沖縄生物学会誌. (13): 12-17	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
諸喜田茂充, 長井隆, 藤田喜久, 成瀬貫, 伊藤茜, 長松俊貴, 山崎貴之, 新城光悦, 永田有. 2002. マングローブ域の甲殻類の生態分布と生活史 大浦川マングローブ域と流入河川における甲殻類の生態分布と現存量. マングローブに関する調査研究報告書: 73-86	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	64	0	○		
諸喜田茂充. 2002. 硫黄鳥島の甲殻類. 沖縄県史 資料編13 硫黄鳥島 自然環境1. (13): 211-218	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0			○
諸喜田茂充. 1966. ミナミテナガエビの生態及び幼生変態について. 沖縄生物学会誌. 3(5): 13-21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	○		
諸喜田茂充. 1975. 琉球列島の陸水エビ類の分布と種分化について-1a. 琉球大学理工学部紀要. 理学編. (18): 115-125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	0	0	0	0	0	○		
諸喜田茂充, 藤田喜久, 成瀬貫. 2004. 西原町の甲殻類と魚類. 西原町史付属刊行物 西原町の自然～動物, 人と自然の関わり～: 61-78	0	0	0	0	75	0	0	0	0	26	28	0	0	30	0	○		
勝屋潤. 1982. 八重山諸島の蝶. 琉球の昆虫. (6): 69-72	0	0	0	0	0	0	141	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
勝山輝男. 2006. 沖縄本島でトックリスゲ*Carex rhynchachaenium* を見出す. 植物地理･分類研究. 54: 154-156	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
勝連盛輝, 寺田考紀, 鶴田恭久. 2006. 沖縄本島南部で捕獲された外来種サキシマハブの計測値. 沖縄県衛生環境研究所報. 40: 187-191	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
勝連盛輝, 西村昌彦, 香村昴男. 1996. 沖縄諸島において本来の分布地とは異なる地域で採集されたヘビ. 沖縄生物学会誌. (34): 1-7	0	0	0	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小笠原ko, 池原貞雄. 1977. ノグチゲラの生態,行動学的観察及びその保護. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 9: 143-158	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小宮丈治, 三宅貞祥. 1992. ハナダタミヤドカリ(新称)*Dardanus imbricatus* (H. MILNE EDWARDS, 1848)の沖縄島からの記録. Researches on Crustacea. 21: 121-123	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
小原祐二, 戸田守, 当山昌直. 2002. 硫黄鳥島の哺乳類. 沖縄県史 資料編13 硫黄鳥島 自然環境1. (13): 143-150	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
小原祐二. 2016. 野外におけるオキナワミナミサワガニによるシリケンイモリの摂食例. Akamata. 26: 1-2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小高信彦, 佐藤大樹, 外山雅大, 榎木勉, 山下香菜, 長尾博文. 2006. *ノグチゲラ Sapheopipo noguchii* の営巣木内部における硬さ変異. 九州森林研究. 59: 194-196	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小高信彦, 澤志泰正. 2004. ヤンバルクイナのロードキル. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 35: 134-143	0	113	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小崎沙織. 2010. 酸性化海水がサンゴの石灰化および骨格の微量元素比に与える影響. 東京大学大学院新領域創成科学研究科. 環境学研究系自然環境学専攻. 地球海洋環境学分野. 2009 年度. 修士論文: 1-45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	○		
小枝 圭太, 藤井 琢磨, 吉野 哲夫. 2014. 沖縄島で採集された日本初記録のヒカリキンメダイ科オオヒカリキンメ*Photoblepharon palpebratum* . 魚類学雑誌. 61: 27-31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
小枝圭太, 吉野哲夫, 立原一憲. 2012. 沖縄島から採集されたツマグロハタンポ*Pempheris japonica* の初記録および南限記録とその稚魚の成長過程. 日本生物地理学会. 67: 65-73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○		
小松恵. 1985. 沖縄島 石垣島 西表島のテングチョウの記録. 琉球の昆虫. (10): 73	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
小針統, 杉本智, 四宮明彦, 河合渓, 西村知. 2012. 奄美大島役勝川におけるリュウキュウアユ仔魚の餌環境. 水産増殖. 60(1): 53-58	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小菅丈治. 2009. 石垣島名蔵湾に棲息するホシムシアケボノガイ(新称)(ブンブクヤドリガイ科), 日本初記録. Venus. 68: 67-70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0		○	
小菅丈治, 佐々木健志. 2002. アオグロハシリグモによるタイワンサワガニの捕食. 沖縄生物学会誌. (40): 51-52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0		○	
小菅丈治, 和田恵次. 1992. 沖縄島中城湾から記録されたナカグスクオサガニ(新称) *Macrophthalmus quadratus* (スナガニ科):日本新記録. 沖縄生物学会誌. (30): 61-64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
小菅丈治、久保弘文, 西川輝昭. 2003. ユムシ類の巣孔に棲む二枚貝ナタマメケボリガイの琉球列島における分布と生態. 沖縄生物学会誌. (41): 7-13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	○	○	
小菅丈治. 2005. クサビライシ類に着生するイトカケガイ科の一種 *Epitonium ulu* Pilsbry の与那国島からの記録. ちりぼたん. 35(4): 119-120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
小菅丈治. 2000. タイワンベンケイガニによるタママイマイ捕食の一例. 沖縄生物学会誌. (38): 73-74	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0		○	
小菅丈治. 1992. 沖縄島羽地内海に生息するチゴガニの記録:南限近くに分布する個体群の生態的特性について. 沖縄生物学会誌. (30): 45-53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	○		
小菅丈治. 2010. 飼育下におけるヤエヤマヤマガニの成長と食性. 沖縄生物学会誌. (48): 101-106	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0		○	
小菅丈治. 1999. 西表島におけるシマカノコの成長. 沖縄生物学会誌. (37): 21-27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		○	
小菅丈治. 2011. 西表島後良川におけるチゴガニの分布. 沖縄生物学会誌. (49): 1-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0		○	
小菅丈治. 2014. 石垣島におけるカワラピンノ(甲殻亜門: 十脚目: 短尾下目: カクレガニ科)のカワラガイ(軟体動物門: 二枚貝綱: ザルガイ科)への寄生状況. 沖縄生物学会誌. (52): 59-64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	0		○	
小菅丈治. 2009. 石垣島におけるハサミカクレガニの生態 ―特に複数の動物門に属する無脊椎動物の巣孔内に生息する習性―. 沖縄生物学会誌. (47): 3-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0		○	
小菅丈治. 2005. 石垣島におけるミナミメナガオサガニに着生するオサガニヤドリガイの個体数と殻長組成の季節変化. 沖縄生物学会誌. (43): 21-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0		○	
小菅丈治. 2006. 石垣島宮良川河口に出現したキバウミニナ. 沖縄生物学会誌. (44): 35-37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		○	
小菅丈治. 2002. 与那国島に移入された陸産貝類. 沖縄生物学会誌. (40): 53-55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		○	
小浜継雄, 原口大. 2012. 2004年沖縄島南部におけるフタオチョウの記録. 琉球の昆虫. (36): 60	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄, 原口大. 2015. 沖縄島南城市久手堅でフタオチョウを再確認(2012年3月). 琉球の昆虫. (39): 213	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄, 砂川博秋. 2015. 10日間で個体数が激減した宮古島のジャコウアゲハ. 琉球の昆虫. (39): 214	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0			○
小浜継雄, 長田勝. 2014. 沖縄島恩納村のチョウ相. 琉球の昆虫. (38): 206-219	0	0	0	0	0	0	640	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄, 長田勝, 嵩原建二, 比嘉実野. 2016. 読谷村長田川上流域で確認したトンボ. 琉球の昆虫. (40): 8-10	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄, 長田勝, 比嘉正一, 比嘉実野. 2012. 恩納村のコノハチョウの記録. 琉球の昆虫. (36): 62-65	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄, 長田勝. 2012. 慶良間諸島阿嘉島と慶留間島のトンボ. 琉球の昆虫. (36): 32-34	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0			

表 4－5－1（19）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数 哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	地域 沖縄島	八重山	宮古・久米島
小浜継雄, 比嘉実野. 2015. 沖縄諸島伊平屋島のトンボ2014年9月の記録. 琉球の昆虫. (39): 62-65	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0			
小浜継雄, 長田勝. 2014. 第3章 恩納村の動物 恩納村の昆虫相. 恩納村誌 第1巻 自然編: 341-426	0	0	0	0	0	0	230	148	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄. 2012. 粟国島で12月に確認したチョウの記録. 琉球の昆虫. (36): 56-57	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0			
小浜継雄. 2004. 粟国島のトンボ類の記録. 琉球の昆虫. (24): 41	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0			
小浜継雄. 2007. 粟国島未記録のトンボ4種. 琉球の昆虫. (31): 89-90	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0			
小浜継雄. 1985. 沖縄県産トンボ類目録. 琉球の昆虫. (10): 30-41	0	0	0	0	0	0	0	135	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄. 2014. 沖縄諸島粟国島のトンボ相. 琉球の昆虫. (38): 166－168	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0			
小浜継雄. 2016. 沖縄諸島伊江島のトンボ2015年10月の記録. 琉球の昆虫. (40): 4-5	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0			
小浜継雄. 2015. 沖縄諸島伊平屋島･野甫島のチョウ2014年9月の記録. 琉球の昆虫. (39): 206-207	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0			
小浜継雄. 2016. 沖縄諸島宮城島でウミアカトンボを目撃. 琉球の昆虫. (40): 12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄. 2014. 沖縄諸島水納島で確認したチョウ(2013年). 琉球の昆虫. (38): 63-65	0	0	0	0	0	0	60	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄. 2015. 沖縄島のチョウ2011年－2014年の記録. 琉球の昆虫. (39): 199-206	0	0	0	0	0	0	589	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄. 2014. 沖縄島恩納村でスナアカネを採集. 琉球の昆虫. (38): 165	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄. 2016. 沖縄島糸満市でスナアカネ1♂を目撃. 琉球の昆虫. (40): 12-13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄. 2012. 久米島で2011年9月に採集したアジアイトトンボ. 琉球の昆虫. (36): 36	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0			○
小浜継雄. 1978. 久米島のトンボ類. 琉球の昆虫. (2): 48-50	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0			○
小浜継雄. 2016. 宮古諸島伊良部島のトンボ1995年8月の記録. 琉球の昆虫. (40): 3	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0			○
小浜継雄. 2008. 慶良間諸島座間味島のトンボ. 琉球の昆虫. (32): 20-22	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0			
小浜継雄. 1999. 黒島でマルバネルリマダラを採集. 琉球の昆虫. (20): 53	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
小浜継雄. 2007. 座間味島のオオシオカラトンボの記録. 琉球の昆虫. (31): 89	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0			
小浜継雄. 1999. 那覇市でスジグロカバマダラを採集. 琉球の昆虫. (20): 50	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄. 2016. 那覇市金城ダムでシオカラトンボを目撃. 琉球の昆虫. (40): 11-12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄. 1988. 南大東島のトンボ. 琉球の昆虫. (13): 132-133	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0			
小浜継雄. 2012. 八重山諸島パナリ下地島. 琉球の昆虫. (36): 57-58	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
小浜継雄. 2003. 八重山諸島黒島のトンボ類. 琉球の昆虫. (23): 81	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0		○	
小浜継雄. 2016. 八重山諸島小浜島のトンボ1999年の記録. 琉球の昆虫. (40): 2	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0		○	
小浜継雄. 2012. 八重山諸島小浜島のトンボ2011年6月の記録. 琉球の昆虫. (36): 30-32	0	0	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	0		○	
小浜継雄. 2016. 八重山諸島波照間島のトンボ1996年6月の記録. 琉球の昆虫. (40): 1	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0		○	
小浜継雄. 1978. リュウキュウハグロトンボの日周活動と生殖行動. 沖縄生物学会誌. (16): 23-27	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
小浜継雄, 砂川博秋. 1981. 宮古島のトンボ類. 琉球の昆虫. (5): 62-64	0	0	0	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0			○
小柳恭二, 田村常雄, 辻明子, 長岡浩子, 前田喜四雄. 2013. 石垣島における洞穴棲コウモリ類三種の季節的ねぐらの分布-2001年から2004年の記録-. 東洋蝙蝠研究所紀要. (9): 1-19	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
小林峻, 伊澤雅子, 傳田哲郎. 2009. オキナワウスカワマイマイの花粉食. Venus. 68: 55-62	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○		
小林峻, 井澤雅子, 傳田哲郎. 2010. オガサワラヤモリのゲットウにおける採蜜行動. Akamata. 21: 1-6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
小林大純. 2018. 沖縄島の地下水域から得られたヘリトリオカガニ. Fauna Ryukyuana. 42: 1-4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7	0	0	0	1	0	○		○
小澤 宏之, 長井 隆, 比嘉 進, 玉城 重則, 宮良 工, 香村 眞徳. 2016. 羽地内海の主要干潟における貝類の生息状況. 財団法人沖縄県環境科学センター報. (7): 71-76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	○		
小澤宏之, 長井隆, 比嘉進, 玉城重則, 宮良工, 香村眞徳. 2005. 羽地内海の主要干潟における貝類の生息状況: 71-76	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	367	0	0	0	○		
松井安俊, 松井英子. 1991. 冬の沖縄 石垣 竹富 各島でのアカタテハの生態調査から. 琉球の昆虫. (14): 1-3	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
松井晋, 小林さやか, 高木昌興. 2011. 南大東島におけるズグロカモメ *Larus saundersi* の記録. 日本鳥学会誌. 60: 262-265	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
松井晋, 池田広志, 成瀬貫, 浅沼清, 高木昌興. 2007. 南大東島における淡水産コエビ類3種の初記録. 沖縄生物学会誌. (45): 33-37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0			
松浦啓一. 1988-1989. 北太平洋から初記録のカワハギ科魚類セッパリハギ(新称). 魚類学雑誌. 35: 482-483	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
松岡孝典, 小澤拓也, 田中次郎, 南雲保. 2012. 沖縄県宮古諸島伊良部島産海藻クサビガタハウチワに着生する珪藻類. 日本歯科大学紀要. 41: 49-55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	0	0			○
松川康夫, 中田薫, 市川忠史, 下田徹. 1999. 沖縄におけるサンゴ4種の核酸比. 中央水産研究所研究報告. (14): 1-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	○		
松川涼子, 徳田里枝子, 当山昌直. 1995. 与那国島の側溝に見られた動物の死骸について. 沖縄生物教育研究会誌. (27): 9-22	0	0	20	5	0	0	0	0	105	0	0	0	0	20	0		○	
松田春菜, 上野大輔, 長澤和也. 2010. 沖縄県産フタツアナスカシカシパンから得られたハナゴウナ科カシパンヤドリニナ属(新称)の1新種. Venus. 69: 17-23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○		
松本重陽. 2014. 沖縄本島北部におけるホリイコシジミの記録. 琉球の昆虫. (38): 51-52	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
松本重陽. 2015. 海上を飛ぶカラスヤンマを目撃. 琉球の昆虫. (39): 68	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
松本千枝子, 安渓遊地, 山下博由, 鈴木寿之, 富田京一, 名和純, 奥田夏樹. 2005西表島浦内川河口域の生物多様性と伝統的自然資源利用の総合調査. プロ･ナトゥーラ･ファンド第14期 助成成果報告書(2005): 69-79	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	56	0	0	0		○	
松本千枝子, 奥田夏樹, 伊谷行, 有山啓之. 2006西表島浦内川河口域の生物多様性と伝統的自然資源利用の総合調査. プロ･ナトゥーラ･ファンド第15期 助成成果報告書(2006): 11-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0		○	
松本千枝子, 奥田夏樹, 伊谷行, 有山啓之. 2006. 2006西表島浦内川河口域の生物多様性と伝統的自然資源利用の総合調査. プロ･ナトゥーラ･ファンド第15期 助成成果報告書(2006): 11-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	52	0	16	0		○	
松本瑠偉, 内田詮三, 戸田実, 仲谷一宏. 2006. オオメジロザメ *Carcharhinus leucas* の日本の周辺海域および淡水域からの記録. 魚類学雑誌. 53(2): 181-187	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	○	○	
焼田理一郎, 佐藤民樹, 岡崎幹人. 2007. 南大東島でアジアイトトンボを採集. 琉球の昆虫. (31): 88	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0			
焼田理一郎, 小浜継雄. 2002. 沖縄県産トンボ類分布資料. 琉球の昆虫. (21): 1-22	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
焼田理一郎, 小浜継雄. 1999. 沖縄県産トンボ類分布資料･補遺. 琉球の昆虫. (20): 25-35	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
焼田理一郎, 小浜継雄. 2007. 糸満市(沖縄島)でコフキトンボを採集. 琉球の昆虫. (31): 85	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎, 渡辺賢一. 2007. 沖縄県におけるアオモンイトトンボ同色型♀の観察･採集例. 琉球の昆虫. (31): 83	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
焼田理一郎, 渡辺賢一. 2005. 渡名喜島のチョウの記録. 琉球の昆虫. (27): 23	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0			
焼田理一郎, 片野茂樹. 2011. 沖縄島におけるオセアニアハネビロトンボの記録(テンジクハネビロトンボの記録の訂正). 琉球の昆虫. (35): 67	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 1999. 1998年 沖縄島のアジアイトトンボについて. 琉球の昆虫. (20): 54	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2008. 2007年秋季の飛来アカトンボ. 琉球の昆虫. (32): 23	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0		○	
焼田理一郎. 2014. アサギマダラマーキング個体の再捕獲データ. 琉球の昆虫. (38): 43	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2003. オオギンヤンマの11月の記録. 琉球の昆虫. (22): 55	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2006. オキナワトゲオトンボの翅端斑異常について. 琉球の昆虫. (28): 1-14	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 1993. コモンヒメハネビロトンボの12月の記録. 琉球の昆虫. (15): 28	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2003. ヒメイトトンボ白粉型の記録. 琉球の昆虫. (23): 49	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 1998. 伊平屋島7月のトンボ. 琉球の昆虫. (18): 36-37	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0			
焼田理一郎. 2003. 伊平屋島のリュウキュウルリモントンボの記録. 琉球の昆虫. (23): 49	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0			
焼田理一郎. 2011. 沖縄県の離島における目撃記録しかなかったトンボの採集記録. 琉球の昆虫. (35): 71	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0		○	
焼田理一郎. 1998. 沖縄島、名護市でベニモンアゲハを採集. 琉球の昆虫. (19): 43	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		

表４－５－１（20）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
焼田理一郎. 2007. 沖縄島･伊平屋島でアオモンイトトンボ同色型♀を採集. 琉球の昆虫. (31): 87	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2012. 沖縄島で確認されたアジアイトトンボについて(2011年). 琉球の昆虫. (36): 37	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2013. 沖縄島で確認されたアジアイトトンボについて(2012年). 琉球の昆虫. (37): 32	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2014. 沖縄島で確認されたアジアイトトンボについて(2013年). 琉球の昆虫. (38): 162	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2017. 沖縄島で確認されたアジアイトトンボについて(2016年). 琉球の昆虫. (41): 163	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2007. 沖縄島にコモンヒメハネビロトンボ定着か？. 琉球の昆虫. (31): 82	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2014. 沖縄島のウミアカトンボの記録(2013年). 琉球の昆虫. (38): 163	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2012. 沖縄島のウミアカトンボの記録. 琉球の昆虫. (36): 39	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2004. 沖縄島のオオギンヤンマの記録(2000～2002年). 琉球の昆虫. (25): 51	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2006. 沖縄島のオキナワトゲオトンボ(*Rhipidolestes okinawanus*). 琉球の昆虫. (29): 44-49	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2010. 恩納村でオキナワサラサヤンマを採集. 琉球の昆虫. (34): 42	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2011. 恩納村でオニヤンマを採集. 琉球の昆虫. (35): 69	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2011. 恩納村でコフキトンボを採集. 琉球の昆虫. (35): 70	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2004. 小浜島で採集したトンボ. 琉球の昆虫. (24): 71	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0		○	
焼田理一郎. 1998. 石垣島及び西表島のタイワンアサギマダラの記録. 琉球の昆虫. (18): 38	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
焼田理一郎. 2009. 石垣島及び与那国島のアカトンボ属トンボの記録(2008年). 琉球の昆虫. (33): 14	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		○	
焼田理一郎. 2007. 那覇のリュウキュウハグロトンボの記録. 琉球の昆虫. (31): 87	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2014. 那覇市でホリイコシジミを確認. 琉球の昆虫. (38): 53	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 1999. 那覇市の注目すべきトンボ数種の記録. 琉球の昆虫. (20): 51	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2004. 南風原町でコフキトンボを採集. 琉球の昆虫. (25): 51	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2009. 波照間島のトンボの記録. 琉球の昆虫. (33): 11-13	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0		○	
焼田理一郎. 2016. 本部町･南城市でスナアカネを採集(2015年). 琉球の昆虫. (40): 15	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
焼田理一郎. 2003. 与那国島でコモンヒメハネビロトンボを採集. 琉球の昆虫. (22): 37	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		○	
焼田理一郎. 1993. 与那国島の2月の蝶類採集記録. 琉球の昆虫. (15): 27	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
焼田理一郎. 2003. 与那国島のヒメキトンボについて. 琉球の昆虫. (22): 36-37	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0		○	
焼田理一郎, 林茂. 2010. 渡嘉敷島から未記録のトンボ3種の記録. 琉球の昆虫. (34): 44	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0			
照屋寛孝, 山本郁雄. 1972. 鳥獣保護区調査報告. 鳥. (10): 57-61	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
上間行哲, 仲宗根由英. 1988. 与那嶺海岸におけるオカヤドカリ類の生態調査. 沖縄生物教育研究会誌. (21): 71-73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	○		
上原匡人, 今井秀行, 岩本健輔, 太田格, 海老沢明彦, 吉野哲夫, 立原一憲. 2015. ドロクイ属2種の分布および生息環境. 魚類学雑誌. 62: 13-28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0	0	0	○		
上杉兼司, 滝田真一. 1987. ヤエヤマムラサキの新食草の記録. 琉球の昆虫. (11): 21	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
上杉兼司, 湊和雄. 1987. 南西諸島における春期のヒメアカタテハの生態. 琉球の昆虫. (11): 1-6	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
上杉兼司. 1984. 琉球列島の蝶類相Ⅰ. 波照間島の蝶類相とその特徴. 沖縄生物学会誌. (22): 47-56	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
上田恵介. 2005. 西表島のアカメガシワ*Mallotus japonicus*果実を採食する鳥. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 36: 133-135	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
上門清春. 1991. 古宇利島の倍脚類と陸産貝類について. 沖縄県立博物館総合調査報告書Ⅷ 古宇利島: 7-14	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	○		
上野大輔, 角井敬知, 長澤和也. 2013. ススキハダカ(条鰭綱ハダカイワシ目ハダカイワシ科)漂着個体から得られた琉球列島初記録のメドゥーサノカンザシ(新称) *Cardiodectes medusaeus* (Wilson, 1908) (カイアシ亜綱管口目ペンネラ科. 沖縄生物学会誌. (51): 67-72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
城間恒宏, 太田英利. 2004. 宮古諸島における外来性の両生･爬虫類の分布と生息状況. 平良市総合博物館紀要. (9): 57-66	0	0	11	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
城間恒宏. 2016. ニホンイタチによるダイトウヒメハルゼミの捕食事例. 沖縄生物学会誌. (54): 47-49	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
城間侔, 新城安哲. 1986. 沖縄本島の林における捕獲器を用いたハブ*Trimeresurus flavoviridis* の密度推定. 沖縄生物学会誌. (24): 43-47	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新井良一, 平野宏. 1974. 日本から初記録のヒレナマズについて. 魚類学雑誌. 21(2): 53-60	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
新垣光功, 土屋誠. 1993. コウダカカラマツガイの活動パターンと帰家行動. 沖縄生物学会誌. (31): 53-61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○		
新垣秀雄. 1971. 伊部岳周辺の探鳥. 鳥. (8): 16-22	0	130	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新垣秀雄. 1971. 伊平屋島及び野甫島の鳥類相. 鳥. (9): 20-30	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
新垣秀雄. 1972. 恩納村の鳥類相. 鳥. (10): 37-42	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新垣秀雄. 1972. 嘉津宇岳周辺の報告. 鳥. (10): 44-46	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新垣秀雄. 1971. 宮古島嘉手苅湾の鳥類相. 鳥. (9): 31-38	0	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
新垣秀雄. 1972. 具志川市の報告. 鳥. (10): 43-44	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新垣秀雄. 1970. 与那覇岳周辺の探鳥. 鳥. (7): 8-19	0	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新垣裕治, 宮良工, 宮本真琴, 伊芸元. 2016. 沖縄県屋我地島の饒平名干潟に分布拡大する国内移入種であるヒルギダマシ(*Avicennia marina*)に関する研究 -干潟生態系へ与える影響について-. 名桜大学総合研究. 25: 25-32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	9	0	○		
新垣裕治. 1998. 沖縄産ナガウニ類に内部寄生する巻貝、ウチヤドリニナ *Robillardia cernica* . 沖縄生物学会誌. (36): 29-32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○		
新城安哲. 1983. 仲之神島の蝶. 琉球の昆虫. (7): 109	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
新城和治, 宮城康一, 新島義龍, 日越国昭, 新納義馬. 1983. 西表島ウブンドルのヤエヤマヤシ群落. 沖縄県天然記念物調査シリーズ. 第23集 西表島天然記念物緊急調査報告書Ⅰ: 11-40	0	0	0	0	0	743	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
新城和治, 島袋曠, 宮城朝章, 新島義龍, 佐久本敞. 1984. 沖縄島の植物. 日本生物教育会沖縄大会沖縄の生物編集委員会(編), 全国大会記念誌, 沖縄の生物: 167-189	0	0	0	0	0	1505	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新城和治, 日越国昭. 1988. 那覇市小禄金城公園(予定地)の植物. 沖縄県立博物館紀要. 14: 31-50	0	0	0	0	0	105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新倉三佐雄, 中村一恵. 1987. 日本におけるアカガシラサギの分布と生息状況. Strix. 6: 50-65	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
新田宗仁. 2002. 宜野湾市の鳥類. 宜野湾市史第9巻資料編8自然: 357-392	0	447	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新田敦子. 2006. 2005年秋、渡嘉敷島でウスアオオナガウラナミシジミを確認. 琉球の昆虫. (29): 34-35	0	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0			
新田敦子. 2014. 2013年、本部町水納島でホリイコシジミを採集. 琉球の昆虫. (38): 53	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新田敦子. 2006. モクセンナでウラナミシロチョウが発生. 琉球の昆虫. (29): 33	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新田敦子. 2011. 沖縄県離島の蝶、覚え書き. 琉球の昆虫. (35): 15-17	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新田敦子. 2009. 座間味島でクロセセリを撮影. 琉球の昆虫. (33): 54-55	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0			
新田敦子. 2006. 比地川流域でのリュウキュウミスジ. 琉球の昆虫. (29): 35-36	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新納義馬. 1985. ヤンバルテナガコガネ生息地の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第26集, 西表島等天然記念物緊急調査Ⅳ, ヤンバルテナガコガネ実態調査報告書Ⅰ: 21-26	0	0	0	0	0	237	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新納義馬. 1964. 嘉津宇岳と安和岳の植生. 沖縄農業. 3(1): 87-93	0	0	0	0	0	164	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新納義馬. 1981. 佐敷町の主な御嶽及び拝所の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第21集, 沖縄県社寺･御嶽林調査報告Ⅳ: 27-46	0	0	0	0	0	825	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新納義馬. 1975. 西表島東部の植生. 浅海における海中の生態系に関する研究調査報告書: 31-72	0	0	0	0	0	1150	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	

表 4－5－1（21）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
新納義馬. 1991. 第二章陸性植物 第一節中城村の植生. 中城村史第二巻 資料編1(地理･自然･政治行政･産業経済･移民). (2): 197-209	0	0	0	0	0	1133	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新納義馬. 1965. 辺戸岬の植生. 沖縄生物学会誌. 2(3): 32-42	0	0	0	0	0	97	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新納義馬, 新城和治, 宮城康一, 日越国昭. 1985. 沖縄県指定天然記念物｢万座毛石灰岩植物群落｣調査報告. 恩納村文化財調査報告書. 第6集: 64	0	0	0	0	0	893	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新敏夫. 1970. 八重山群島の植生. 遺伝. 27: 2-9	0	0	0	0	0	5745	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
新里孝和, 新本光孝, 山盛直. 1993. 西表島における牧草地の植生と採食植物. 琉球大学農学部学術報告. 40: 153-165	0	0	0	0	0	439	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
新里孝和, 嵩原建二. 2002. 伊江島の植物図鑑	0	0	0	0	0	166	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
新里孝和, 比嘉寿. 1976. 北明治山の植物. 沖縄生物学会誌. (14): 99-110	0	0	0	0	0	373	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
新里孝和, 澤岻安喜. 1979. 名護市の御獄林. 名護市教育委員会社会教育課(宿), 名護市天然記念物調査報告2: 179p	0	0	0	0	0	1940	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
森井隆三. 1975. 台湾･沖縄における翼手類の採集. 哺乳類動物学雑誌. 6(3): 121-126	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
森哲, 天野雅男, 太田英利. 1984. 八重山諸島･新城島のトカゲ類の分布に関する新知見. 沖縄生物学会誌. (22): 117-118	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
森田祐介, 越野一志, 山篙仁志. 2014. 渡嘉敷島におけるブロンズトキの記録. Bird Research. 10: S23-S24	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
深尾 隆三. 1990-1991. 沖縄産コケギンポ属魚類とその生息場所. 37: 116-126	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○		
真志喜丈子, 新納義馬. 1988. 安波のサキシマスオウノキ群落. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集, 国頭郡天然記念物緊急調査Ⅲ: 85-95	0	0	0	0	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
真野徹. 2009. 日本におけるツバメ*Hirundo rustica* の換羽. 日本鳥類標識協会誌. 21: 22-30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
神谷保江. 1980. 佐敷町冨祖崎におけるハマジンチョウの葉の観察. 沖縄生物教育研究会誌. (13): 10-16	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
神田 猛, 上原 聡, 澁野 拓郎. 2009. 八重山諸島石垣島の陸水域魚類相. 宮崎大学農学部研究報告. 55: 13-24	0	0	0	0	126	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
神奈川県立生命の星･地球博物館. 魚類写真資料データベース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3233	0	0	0	0	○		
諏訪僚太, 井口亮. 2008. 造礁サンゴに共生する褐虫藻の分子系統学的研究に関するレビュー(北西太平洋を中心に). 日本サンゴ礁学会誌. 10: 13-23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
水産無脊椎動物研究所. 水産無脊椎動物図鑑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	○		
水谷晃, 河野裕美. 2008. 琉球列島八重山諸島における2001年繁殖期のエリグロアジサシとベニアジサシの現状. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 39: 101-111	0	174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
水谷晃, 村越未來, 唐真盛人, 木村賢史, 北野忠, 河野裕美. 2010. 西表島西部の湿地環境における水鳥類相とその季節的消長. 沖縄生物学会誌. (48): 121-139	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
水谷晃, 丹尾岳斗, 小菅丈治, 河野裕美. 2012. 鳩間島におけるオオナキオカヤドカリの宿貝利用ー特に大型個体とチョウセンサザエの殻との関係ー. 沖縄生物学会誌. (50): 73-81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0		○	
水流拓馬, 浜崎活幸, 三田哲也, 藤河俊介, 北田修一. 2018. 鳩間島におけるオカヤドカリ類の分布. 日本生物地理学会会報. 72: 75-85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	82	0		○	
嵩原健二, 前原一統, 嘉手苅初子, 松田史郎. 2001. 久米島における最近の鳥類記録について. 久米島自然文化センター紀要. (1): 1-19	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
嵩原建二, 岡村麻生, 比嘉邦昭, 山崎仁也. 2014. 西表島の鳥類について. 沖縄県立博物館･美術館博物館紀要. 7: 15-36	0	390	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
嵩原建二, 嘉手苅初子, 前原一統, 松田哲哉, 佐久田勇, 松田史郎. 1999. 久米島から最近新たに記録された鳥類. 沖縄県立博物館紀要. 25: 95-115	0	252	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
嵩原建二, 久貝勝盛, 瀬名波任. 1995. 久米島の鳥類について. 久米島総合調査報告書: 65-95	0	174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
嵩原建二, 久貝勝盛, 瀬名波任. 1995. 最近(1994年4月～1995年3月)沖縄諸島で保護及び目撃された興味深い鳥類について. 沖縄県立博物館紀要. 21: 209-211	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
嵩原建二, 久貝勝盛, 瀬名波任. 1995. 那覇市天久で観察された鳥類(1). 沖縄県立博物館紀要. 21: 79-99	0	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
嵩原建二, 久貝勝盛, 大城亀信. 1996. 最近(1995年4月～1996年3月)で目撃された興味深い鳥類について. 沖縄県立博物館紀要. 22: 173-178	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
嵩原建二, 砂川栄喜, 比嘉邦昭, 宮城国太郎, 高良淳司, 金城輝男, 仲地邦博, 長嶺隆. 2008. 沖縄県内における 2003 年から 2006 年までの稀な鳥類の飛来記録と希少な繁殖記録について. 南島文化. 30: 127-144	0	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
嵩原建二, 姉崎悟, 高木昌興, 奥戸春夫, 金川雅之. 1999. 南大東島で最近新たに記録された鳥類について. 沖縄県立博物館紀要. 25: 75-93	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
嵩原建二, 池間幸男, 兼城克男. 1995. 慶良間諸島の鳥類. 沖縄県立博物館紀要. 21: 101-128	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
嵩原建二, 池長裕史, 金城道男, 渡久地豊, 金城輝雄, 庄山守. 2000. 沖縄県内において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等により確認された興味深い鳥類の記録について. 沖縄県立博物館紀要. 26: 27-46	0	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
嵩原建二, 中村和雄, 国吉修. 2004. 伊平屋島及び伊是名島における鳥類記録について. 沖縄県立博物館紀要. 30: 1-25	0	292	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
嵩原建二, 中村和雄, 又吉盛泰. 2009. 粟国島の鳥類. 地域研究. 5: 103-118	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
嵩原建二, 中村和雄. 2001. 南大東島の環境保全: 南大東島の鳥類とその保全. 沖縄大学地域研究所所報. 22: 25-28	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
嵩原建二, 渡久地政武. 1997. 沖縄南部の市街地で繁殖する鳥類. 沖縄県立博物館紀要. 23: 33-54	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
嵩原建二, 島村修, 加治工真市. 1998. 波照間島で記録された鳥類とその方言名について. 波照間島総合調査報告書: 65-86	0	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
嵩原建二, 髙良淳司, 安和守浩, 天野洋祐. 2009. ミツユビカワセミ*Ceyx erithacus* の国内初記録. Japanese Journal of Ornithology. 58: 208-211	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
嵩原建二, 安座間安史. 1996. 大宜味村(沖縄島)の鳥類相とその生息状況について. 大宜味村の自然: 421-514	0	1717	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
嵩原建二. 1988. 宇茂佐及び屋部川下流域の鳥相. あじまぁ 名護博物館紀要. (4): 1-7	0	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
嵩原建二. 2002. 沖縄島で留鳥として生息する希少な3亜種の繁殖記録について. 沖縄県立博物館紀要. 28: 1-11	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
嵩原建二. 2001. 沖縄島中南部の市街地で繁殖したツミとリュウキュウサンショウクイの2種について. 沖縄県立博物館紀要. 27: 45-50	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
嵩原建二. 1994. 宜野湾市伊佐、大山、宇地泊周辺地域の鳥類と哺乳類. 沖縄県立博物館紀要. 20: 67-96	0	205	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
嵩原建二. 1994. 最近沖縄で目撃及び保護された興味深い鳥類. 沖縄県立博物館紀要. 20: 141-146	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
嵩原建二. 2004. 小浜島における鳥類の記録について. 小浜島総合調査報告書: 35-59	0	170	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
嵩原建二. 2001. 那覇市天久新都心開発地域の鳥類. 沖縄大学地域研究所年報. 15: 67-90	0	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
嵩原建二. 1993. 波照間島の鳥類と哺乳類. 沖縄県立博物館紀要. (19): 1-16	7	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
嵩原建二, 比嘉邦昭, 山城勇人, 盛長容子. 2011. 久米島における最近の鳥類記録及び傷病鳥保護の記録について. 久米島自然文化センター紀要. (11): 15-36	0	339	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
杉本雅志 杉本まゆみ. 2012. ランタナの花を食べるアオタテハモドキ. 琉球の昆虫. (36): 140	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
杉本雅志. 2004. 2003年 カワカミシロチョウの確認データ. 琉球の昆虫. (24): 70	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
杉本雅志. 2014. シジュウカラがリュウキュウアサギマダラを捕食. 琉球の昆虫. (38): 205	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
杉本志郎. 1977. 南西諸島採集報告. 琉球の昆虫. (1): 30-39	0	0	0	0	0	0	120	5	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
菅沼孝之, 内藤俊彦. 1976. 先島諸島の草地植生. 菅沼孝之(編), 南西諸島南部(先島諸島)の草地生態に関する研究: 3-18	0	0	0	0	0	178	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
瀬戸良三. 1982. 沖縄産のオオイシソウ科の藻類について. 藻類. 30(1): 57-62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		○	
瀬能宏, 吉野哲夫, 矢野維幾. 1987. 西表島で採集されたテッポウウオ*Toxotes jaculator* . 魚類学雑誌. 34(2): 231-232	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0		○	

表４−５−１（22）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
瀬能宏. 1997. ボラ科メナダ属ヒルギメナダ(新称)の再記載. 26: 51-55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0		○	
成瀬 貫, 渡部 哲也, 吉田 隆太. 2017. ムツアシガニ類6種の分布と生息環境に関する追加情報, 及び和名の整理. Fauna Ryukyuana. 35: 17-28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	○	○	
成瀬貫, 諸喜田茂充. 2003. ワタリガニ類の稀種、マレーベニツケガニ(十脚目:短尾亜目:ワタリガニ科)の沖縄島からの記録. 沖縄生物学会誌. (41): 43-49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
成瀬貫, 藤田喜久, 近藤正義, 小渕正美. 2012. 沖縄島より採集されたクメジマドウクツガザミ(甲殻亜門: 十脚目: 短尾下目: ワタリガニ科). 沖縄生物学会誌. (50): 67-71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		○
成瀬貫, 前之園唯史. 2014. ハジカサーヒメソバガラガニ (新称) (甲殻亜門 十脚目 短尾下目 ヤラワガニ科) の沖縄諸島からの記録. Fauna Ryukyuana. 12: 1-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	○		
成瀬貫, 藤田喜久. 2015. *Lipkemera iejima*，a new cavernicolous crab (Brachyura: Xanthidae) from a submarine cave at Ie Island，central Ryukyu Islands，Japan. Crustacean Research. 44: 21-27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0			
清水善和. 2003. 南大東島の自然 もう一つの大洋島の視点から. 地域学研究. (16): 9-32	0	0	0	0	0	142	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
西栄二郎. 1993. 沖縄本島羽地内海におけるヤッコカンザシの生態と付着生物の種類組成. 沖縄生物学会誌. (31): 29-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	○		
西垣孝治, 安次嶺要. 2012. 伊江島の地下水域から採集されたアシナガヌマエビ(甲殻亜門: 十脚目: コエビ下目: ヌマエビ科)の記録. 沖縄生物学会誌. (50): 93-97	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0			
西垣孝治, 佐伯智史, 成瀬貫. 2011. 石垣島より採集された日本初記録のケフサアシハラガニ属(新称)(甲殻亜門: 十脚目: 短尾下目: モクズガニ科)2種の記録. 沖縄生物学会誌. (49): 85-93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	○	○	
西垣孝治, 安次嶺要. 2019. 伊江島の地下水域から採集されたチカヌマエビ (甲殻亜門 - 十脚目 - コエビ下目 - ヌマエビ科) の記録. Fauna Ryukyuana. 51: 15-17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0			
西垣孝治, 比嘉高明, 小林峻, 谷本拓夢, 長井隆, 成瀬貫. 2013. 石垣島と西表島より採集された日本初記録の樹上性甲殻類· マルベンケイガニ (甲殻亜門 十脚目 短尾下目 ベンケイガニ科). Fauna Ryukyuana. 5: 1-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0		○	
西原町史編纂委員会. 1989. 西原の民俗. 西原町史. 第4巻(資料編3): 1203p	0	0	0	0	17	0	0	0	19	2	4	1	0	1	0	○		
西川昭, 中島祐一, 長田智史, 酒井一彦. 2007. 琉球列島における幼生保育型サンゴ*Seriatopora hystrix*の遺伝的集団構造. 琉球大学21世紀プログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」平成18年度成果発表会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
西村昌彦. 2010. 沖縄県内の市町村が運用するハブ捕り器の捕獲成績３ —市町村ごと及び具志川市(現うるま市)における1台ごとのハブとアカマタの捕獲結果—. 沖縄県衛生環境研究報. 44: 37-44	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
西村昌彦, 赤嶺博行. 2002. 沖縄島南部において1976年に逃亡後定着した侵入種サキシマハブの分散範囲—2002年時点の予備的な調査の結果. 沖縄県衛生環境研究所報. 36: 89-92	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
西村昌彦. 2010. 沖縄県内の市町村が運用するハブ捕り器の捕獲成績４ —浦添市, 具志川市(現うるま市), 北中城村, 中城村におけるハブの捕獲地点—. 沖縄県衛生環境研究報. 44: 103-105	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
西村昌彦. 1999. 沖縄県内の市町村が運用するハブ捕り器の捕獲成績 1 -1998年の資料を中心とした予報－. 沖縄県衛生環境研究所報. 33: 133-138	0	0	0	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
西村昌彦. 1990. 琉球列島におけるヘビの社会行動の目撃例1. 沖縄生物学会誌. (27): 47-51	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
西村正賢. 2006. 沖縄県宮古島列島で採集した蝶類. 琉球の昆虫. (29): 36-34	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0			○
西村正賢. 2006. 沖縄県宮古列島で採集した蝶類. 琉球の昆虫. (29): 36-37	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0			○
西田睦. 1986. 日本･琉球列島におけるアユの分子、形態および繁殖形質の地理的変異. 魚類学雑誌. 33(3): 232-248	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
西田睦. 1988. 琉球列島より得られたアユの新亜種. 魚類学雑誌. 35(3): 236-242	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
西島信昇, 諸喜田茂充, 大城信弘. 1981. 久米島における河川動物群集の特性とその人為的変革. 琉球列島における島嶼生態系とその人為的変革II: 205-241	0	0	0	0	24	0	0	5	11	37	8	13	0	20	0	○	○	○
西島信昇, 諸喜田茂充, 大城信弘. 1980. 久米島儀間川における淡水動物の生息状況. 「環境科学」研究報告集 琉球列島における島嶼生態系とその人為的変革: 113-125	0	0	0	0	96	0	0	20	28	164	32	32	0	84	0			○
西平守孝. 2007. 沖縄島南部具志頭浜海岸の礁池における移植サンゴ片の生存と成長. 名桜大学総合研究. (11): 37-46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	○		
西平守孝. 1985. ヒメイワガニによるヤマトウシオグモの捕食. 沖縄生物学会誌. (23): 39-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			
西平守孝. 1986. 潮間帯に堆積した赤土のアマオブネによる除去について. 沖縄生物学会誌. (24): 69-70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0			○
西里公作, 垣花武志, 洲鎌理恵, 本永明, 下地瑞姫. 宮古島の湧水域環境保全を目指した研究 ～湧水域に生息する生物の保全を目指して～	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
青木 美鈴, 今井 秀行, 和田 恵次. 2009. 沖縄島におけるシオマネキの新生息地と遺伝的構造. 日本ベントス学会誌. 64: 10-14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	○		
青木一宰. 2014. アオスジアゲハ異常型の与那国島での記録. 琉球の昆虫. (38): 56	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
青木一宰. 2009. アカスジベッコウトンボの与那国島での記録. 琉球の昆虫. (33): 11	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0		○	
青木一宰. 2012. リュウキュウムラサキの渡嘉敷島での記録. 琉球の昆虫. (36): 50	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0			
青木一宰. 2017. ルリウラナミシジミの久米島での記録. 琉球の昆虫. (41): 158	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0			○
青柳克. 2015. 沖縄諸島 粟国島の水生昆虫(トンボ･カメムシ･コウチュウ). 琉球の昆虫. (39): 40-44	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0			
青柳克. 2011. 沖縄島近隣島嶼(屋我地島･瀬底島･伊計島･浜比嘉島)の水生昆虫類. 琉球の昆虫. (35): 101-109	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	○		
青柳克. 2013. 座間味島の水生昆虫(トンボ･カメムシ･コウチュウ). 琉球の昆虫. (37): 18-22	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0			
青柳克. 2012. 渡名喜島から初記録のトンボ･チョウ. 琉球の昆虫. (36): 41-42	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0			
青柳克. 2013. 渡名喜島の水生昆虫(トンボ･カメムシ･コウチュウ). 琉球の昆虫. (37): 23-29	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0			
青柳克. 2015. 慶良間諸島阿嘉島、並びに久高島からのシロアゴガエルの初記録. Akamata. 25: 28-30	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
青柳克. 2015. 沖縄島南部地域におけるリュウキュウコゲラの繁殖記録. 沖縄生物学会誌. (53): 85-87	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
青柳克. 2016. 多良間島からのミナミイシガメの初記録. Akamata. 26: 33-34	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
青柳克. 2014. 琉球列島沖縄島からのエビノコバン(等脚目:ニセウオノエ科)の初記録. 沖縄生物学会誌. (52): 65-68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○		
青柳克. 2011. 伊平屋島･伊是名島から初めて採取されたシオカワヨコエビの記録. 沖縄生物学会誌. (49): 109-112	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0			
青柳兵司. 1942. 琉球糸満港内の珊瑚砂洲に見られる小潮溜水の魚相に就て附一部ハゼ科魚類の雌雄性徴. 動物學雑誌. 54(4): 144-149	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	○		
斉藤基樹. 2006. イワカワシジミの成虫の興味深い生態. 琉球の昆虫. (28): 47	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
斉藤基樹. 2006. シルビアシジミの軽微な異常型. 琉球の昆虫. (28): 46	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
斉藤文保. 2006. 伊平屋島の小動物(2001～2005年の目撃記録). 琉球の昆虫. (29): 1-14	0	0	0	0	0	0	89	12	0	0	0	0	0	0	0			
斉藤文保. 2006. 渡嘉敷島の小動物(2001～2005年までの目撃記録). 琉球の昆虫. (29): 15-32	0	0	0	0	0	0	217	39	0	0	0	0	0	0	0			
斉藤友己, 藤田嘉久. 2018. A new species of the stenopodidean shrimp genus *Odontozona* Holthuis，1946 (Crustacea: Decapoda: Stenopodidea: Stenopodidae) from the Ryukyu Islands，Indo-West Pacific. Zootaxa. 4450(4): 458-472	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		
斉藤友己, 藤田嘉久. 2009. 琉球諸島産ウミシダに共生するスベスベオトヒメエビ属(十脚目: オトヒメエビ下目: オトヒメエビ科)の1新種. 国立科学博物館研究報告 A類(動物学) 増補. 3: 123-135	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		
石垣市建設部 都市建設課. 2017. 平成28年度平久保半島エコロード整備調査事業に係る環境基礎調査業務委託報告書	22	88	8	27	23	233	0	29	8	47	4	9	0	33	0		○	
石川市教育委員会. 2005. 石川市の植物	0	0	0	0	0	422	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		

表 4－5－1（23）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
石川哲郎, 阿部愼太郎, 早瀬川直充, 高柳清明, 今村勝, 西平明彦, 當銘美奈子. 2011. 沖縄島における外来種グリーンアノールの分布. 沖縄生物学会誌. (49): 9-13	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
石川哲郎, 阿部愼太郎, 早瀬川直充, 高柳清明, 三原正法, 新川織江. 2012. 沖縄島南部のおける粘着トラップを用いた外来種グリーンアノールの防除および混獲される小型脊椎動物への影響評価. 沖縄生物学会誌. (50): 37-47	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
石川邦彦. 1980. 八重山群島の蝶類採集記録·1979年春と秋. 琉球の昆虫. (4): 59-64	0	0	0	0	0	0	209	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
石田憲, 前之園唯史. 2019. 宮古島初記録のアダンベンケイガニ (甲殻亜門 - 十脚目 - ベンケイガニ科). Fauna Ryukyuana. 48: 5-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0			○
石田仁. 1985. ハシブトガラスによるソテツの種子散布の観察. 沖縄生物学会誌. (23): 29-32	0	3	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
石毛久美子, 伊澤雅子, 上田恵介. 2002. 亜熱帯マングローブ林でのメジロを核にした混群形成. Strix. 20: 153-158	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
赤嶺博行, 西村昌彦. 1998. 沖縄島の本部半島東部におけるヘビの目撃と捕獲の頻度 –ハブの低頻度と移入種の定着の可能性ー. 沖縄生物学会誌. (36): 51-58	0	0	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
雪野出, 鈴木淳, 川幡穂高, 塚本斉, Janice M. Lough, 中森亨, 中野義勝. 1999. 琉球列島瀬底島産のハマサンゴ骨格を用いた水温復元: 水温指標としてのMg/Sr比. 海の研究. 8(6): 399-409	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
雪野出. 2000. 琉球列島における高解像度サンゴ骨格記録に基づく環境復元. 博士論文: 328-332	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
千木良芳範 (沖縄県教育庁文化課). 2009. 嘉津宇岳周辺の両生爬虫類. 名護市天然記念物調査シリーズ. 第7集, 嘉津宇岳～嘉津宇岳·安和岳周辺の自然～ 名護市動植物総合調査報告書2005-2008: 135-171	0	0	132	111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
千木良芳範, 島袋盛和. 1980. 漢那岳におけるイボイモリの側溝への落下について. 沖縄生物学会誌. (18): 45-49	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
千木良芳範, 島袋盛和. 1982. 目撃観察によるヌマガエル個体群の季節的消長. 沖縄生物学会誌. (20): 11-15	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
千木良芳範, 島袋眩. 2007. 第4章 基地と自然 基地の中の自然. 沖縄市史 第4巻 自然·地理·考古編 自然編: 335-339	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○		
千木良芳範. 2007. 第2章 残された自然 沖縄市の両生爬虫類. 沖縄市史 第4巻 自然·地理·考古編 自然編: 101-120	0	0	185	265	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
千木良芳範. 2014. 第3章 恩納村の動物 恩納村の両生爬虫類. 恩納村誌 第1巻 自然編: 453-490	0	0	140	169	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
千木良芳範. 2007. 第3章 都市の中の自然 移入動物の話. 沖縄市史 第4巻 自然·地理·考古編 自然編: 325-333	0	0	0	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
千木良芳範. 1997. 南風原町の哺乳類. 南風原町史 第2巻 自然·地理資料編: 143-149	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
千木良芳範. 2003. 名護市の両生類. 名護市天然記念物調査シリーズ 第5集 名護市の自然: 225-247	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
千木良芳範. 2003. 名護市の哺乳類. 名護市天然記念物調査シリーズ 第5集 名護市の自然: 141-156	0	0	131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
千木良芳範. 1989. 与那国島の陸上脊椎動物. 沖縄県立博物館総合調査報告書VI 与那国島: 25-38	2	28	2	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
千木良芳範. 1988. 多良間島の両生爬虫類について ーサキシマママダラの採集例とヌマガエルの移入ー. 沖縄県立博物館紀要. 14: 51-56	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
尖閣諸島文献史料編纂会. 2011. 対米協会助成シリーズ42 尖閣研究: 1-279	4	21	0	6	0	21	0	0	3	0	0	0	0	1	0		○	
川口四郎, 益田芳樹. 1978. 造礁さんごキクメイシモドキ*Oulastrea crispata* の造骨組織の電子顕微鏡的研究. 動物学雑誌. 87(4): 515-515	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
川上勲. 1996. 宮古の自然'95. 平良市総合博物館紀要. (3): 71-83	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
川上勲. 1994. 宮古群島のキケマン類について. 平良市総合博物館紀要. (1): 81-87	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
川上勲. 1999. 宮古島の自然'98. 平良市総合博物館紀要. (6): 79-90	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
川上和人, 田中聡. 2004. 沖縄県小浜島の路上におけるゴイサギの待ち伏せ型採食行動. 小浜島総合調査報告書: 61-64	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
浅見哲司. 1987. 石垣島採集記録(1984年3月). 琉球の昆虫. (11): 44-46	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
船越公威, 大沢夕志, 大沢啓子. 2006. 沖縄島周辺島嶼のオリイオオコウモリ *Pteropus dasymallus inopinatus* の分布、特に与論島における生息確認と若干の生態的知見について. 哺乳類科学. 46(1): 39-34	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
前田喜四雄, 丸山勝彦. 1993. ヤエヤマオオコウモリの宮古島からの記録. 沖縄生物学会誌. (31): 63-65	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
前田喜四雄, 松本貢. 2004. 南西諸島西表島大富第一洞におけるカグラコウモリ*Hipposideros turpis* Bangs, 1901の最近10年間の個体数変化. 沖縄生物学会誌. (42): 57-60	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
前田喜四雄, 赤澤泰, 松村澄子. 2001. 南西諸島徳之島におけるコウモリ類の生息実態およびコウモリの新記録. 東洋蝙蝠研究所紀要. (1): 1-9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
前田喜四雄. 1996. 日本産翼手目(コウモリ類)の分類レビューと解説. 哺乳類科学. (36): 1-23	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
前田喜四雄. 1984. 日本産翼手目の採集記録(Ⅰ). 哺乳類科学. (49): 55-78	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
前田喜四雄. 1986b. 日本産翼手目の採集記録(Ⅱ). 哺乳類科学. (52): 79-97	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
前田健, 山崎望, 向井貴彦, 立原一憲. 2011. 沖縄島におけるミツボシゴマハゼとマングローブゴマハゼの形態と生息環境. 魚類学雑誌. 58(2): 127-140	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	○		
前田健, 立原一憲. 2006. 沖縄島江間川の魚類相. 沖縄生物学会誌. (44): 7-25	0	0	0	0	99	0	0	0	0	0	260	0	0	0	0	○		
前田憲男. 2015. ヤエヤマイシガメによるカエル幼生の捕食. 爬虫両棲類学会報. 2: 119-120	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
前之園唯史, 成瀬貫. 2016. 琉球列島におけるヒライソガニ亜科2稀種(十脚目 短尾下目 モクズガニ科)の新産地報告. Fauna Ryukyuana. 28: 1-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	○	○	
前之園唯史, 大澤正幸. 2018. 琉球列島より採集された日本初記録のソバカスコブシ (新称) (十脚目 短尾下目 コブシガニ科). Fauna Ryukyuana. 45: 19-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	○	○	
前之園唯史. 2017. 日本初記録の2種を含む琉球列島産ヒメサンゴガニ科(十脚目 短尾下目 サンゴガニ上科)9種の報告. Fauna Ryukyuana. 36: 31-53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53	0	○		○
前之園唯史. 2018. 日本初記録の2種を含む琉球列島産マルミアワツブガニ属(甲殻亜門 十脚目 短尾下目) 6種の報告. Fauna Ryukyuana. 44: 17-32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	○		
前之園唯史. 2016. 琉球列島の宮古島より採集されたクボミカルイシガニ(新称)(十脚目 短尾下目 ヒシガニ科). Fauna Ryukyuana. 30: 17-19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			○
前之園唯史. 2019. 琉球列島産のツェンナーガニ属(新称)(甲殻亜門 - 十脚目 - 短尾下目 - ケブカガニ科)について. Fauna Ryukyuana. 52: 15-22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	○		
前之園唯史. 2017. 琉球列島初記録となるアリアケヤワラガニ(十脚目 短尾下目 ヤワラガニ科)の記録. Fauna Ryukyuana. 37: 23-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
前之園唯史, 戸田守. 2007. 琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布. Akamata. 18: 28-46	0	0	11	147	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
前之園唯史, 長井隆, 成瀬貫. 2015. 石垣島より採集された日本初記録のダルマガニ(新称)(甲殻亜門: 十脚目: 短尾下目: モクズガニ科). 沖縄生物学会誌. (53): 31-36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		○	
前之園唯史, 佐伯智史. 2016. 新産地記録を伴う石垣島のベンケイガニ類相. Fauna Ryukyuana. 33: 1-13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	33	0		○	
前之園唯史, 成瀬貫. 2016. 石垣島より採集された日本初記録のベンケイガニ科(甲殻亜門 十脚目 短尾下目)の2種. Fauna Ryukyuana. 28: 5-22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	18	0	○	○	
前之園唯史, 成瀬貫. 2015. 琉球列島のカクベンケイガニ属(甲殻亜門 十脚目 短尾 下目 ベンケイガニ科)6種の形態的特徴と分類学的諸問題. Fauna Ryukyuana. 23: 1-41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	66	0	○	○	○
前之園唯史, 成瀬貫. 2018. 琉球列島より採集された日本初記録種を含むオサガニ類(甲殻亜門 十脚目 短尾下目 オサガニ科)の3 稀種. Fauna Ryukyuana. 40: 15-37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	○	○	
前之園唯史, 大澤正幸. 2015. 沖縄島より採集された日本初記録のトハリカニダマシ(新称)(十脚目 異尾下目 カニダマシ科). Fauna Ryukyuana. 24: 17-22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	○		

表 4－5－1（24）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
前之園唯史. 2018. 沖縄島から採集された日本初記録のミナミヨコナガモドキ(新称)*Asthenognathus hexagonum* Rathbun, 1909 (十脚目 短尾下目 モクズガニ科). Fauna Ryukyuana. 40: 1-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		
前之園唯史. 2018. 沖縄諸島におけるイワガニ科2稀種(十脚目: 短尾下目)の新産地記録. Fauna Ryukyuana. 40: 11-17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	○		
前之園唯史. 2015. 琉球列島の宮古島および西表島より採集された日本初記録のシロツメアシハラガニモドキ(新称)(甲殻亜門 十脚目 短尾下目 ベンケイガニ科). Fauna Ryukyuana. 26: 17-22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	○	○	○
前之園唯史. 2016. 沖縄諸島より採集された日本初記録のツブヨコナガオキナガニ(新称)(甲殻亜門: 十脚目: 短尾下目: ケブカガニ科). 沖縄生物学会誌. (54): 39-45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		
前泊豊光. 1973. 知念地区の植生. 沖縄生物教育研究会誌. 6: 29-47	0	0	0	0	0	1258	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
倉田篤. 1966. 八重山群島西表島の鳥類. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 4: 358-370	0	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
増永元, 太田英利, 戸田光彦, 中島朋成, 鐘雅哉, 松本千枝子. 2005. 鳩間島におけるオオヒキガエルの侵入と生息状況. 爬虫両棲類学会報. 2: 173-179	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
増野高司, 佐々木健志, 安川雄一郎. 1998. 沖縄島から採集されたクサガメ *Chinemys reevesii* (カメ目: バタグールガメ科). 沖縄生物学会誌. (36): 33-36	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
村越正慶. 1978. ヒメジャコの発生. 沖縄生物学会誌. (16): 29-34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		○	
村山望. 2016. 東村でウミアカトンボを確認. 琉球の昆虫. (40): 13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
村田尚史. 2017. ニンジャベンケイガニの沖縄島からの初記録. Fauna Ryukyuana. 37: 11-13	0	0	0	0	4	0	0	0	1	5	0	1	0	2	0	○		
多和田真惇. 1933. 美東植物目録. 美東小学校区域植物調査報告書. 40	0	0	0	0	0	2174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
太田英利, 山下晶子. 1985. オンナダケヤモリ *Gehyra mutilata* (Wiegmann) の波照間島からの記録. 沖縄生物学会誌. (23): 33-34	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
太田英利, 藤井亮, 岡本卓, 疋田努. 2004. 八重山諸島波照間島の外来性爬虫類に関する新知見およびこれまでに同島から報告された爬虫類の記録に関するコメント. 爬虫両棲類学会報. 2: 128-137	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
太田英利. 1981. 波照間島の爬虫両生類相. 爬虫両棲類学雑誌. 9(2): 54-60	0	0	5	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
太田英利. 1983. 八重山群島の爬虫両生類相･Ⅰ. 沖縄生物学会誌. (21): 13-19	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
太田格, 工藤利洋. 2007. 名蔵湾周辺における沿岸性水産重要魚類の分布. 平成17年度沖縄県水産試験場事業報告書: 181-193	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	541	0	0	0	0		○	
大岡素平, 藤田喜久. 2020. 浜比嘉島の洞窟内河川から記録されたアシナガヌマエビ. Fauna Ryukyuana. 53: 7-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○		
大宜味村教育委員会. 1995. 大宜味村の自然: 1-555	0	600	0	0	0	0	0	0	669	0	0	39	0	0	0	○		
大見謝辰男. 2000. 沖縄県赤土汚染定点調査海域における白化後のサンゴ被害状況. みどりいし. (11): 15-18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	○		
大城勝, 山城篤, 金城直樹, 宮城智浩. 1997. 羽地内海海岸におけるトビハゼ類の生態分布とすみ分け調査. 沖縄生物教育研究会誌. (29): 23-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	○		
大城勝, 前田歩, 宮城美加代, 金城美香, 辺土名なおみ, 辺土名清美, 大嶺安子, 我那覇安江, 島袋牧, 稲福さゆり, 稲福美奈子, 崎原一美, 前田喜美子. 1989. 饒波川の魚類調査Ⅰ-河口閉塞と河川魚類の減少について-. 沖縄生物教育研究会誌. (22): 23-31	0	0	0	0	68	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	○		
大城勝, 前田歩, 宮城美加代, 金城美香, 辺土名なおみ, 辺土名清美, 大嶺安子, 我那覇安江, 島袋牧, 山口泉, 稲福美奈子, 新城かおり, 前田喜美子. 1989. 饒波川の魚類調査Ⅱ-河口閉塞が魚におよぼす影響について-. 沖縄生物教育研究会誌. (22): 33-41	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	○		
大城勝. 1990. 生態実習教材としての饒波海岸の貝類調査. 沖縄生物教育研究会誌. (23): 16-29	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	592	0	0	0	○		
大城勝, 前田歩, 宮城美加代, 金城美香, 辺土名なおみ, 辺土名清美, 大嶺安子, 我那覇安江, 島袋牧, 稲福さゆり, 稲福美奈子, 崎原一美, 前田喜美子. 1989. 饒波川の魚類調査I-河口閉塞と河川魚類減少について-. 沖縄生物教育研究会誌. (22): 23-32	0	0	0	0	67	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	○		
大城勝, 前田歩, 宮城美加代, 金城美香, 辺土名なおみ, 辺土名清美, 大嶺安子, 我那覇安江, 島袋牧, 稲福さゆり, 稲福美奈子, 崎原一美, 前田喜美子. 1989. 饒波川の魚類調査II-河口閉塞が魚におよぼす影響について-. 沖縄生物教育研究会誌. (22): 33-42	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	○		
大城信弘, 西島信昇. 1978. 海におけるヨシノボリ(ハゼ科)稚魚の生態. 沖縄生物学会誌. (16): 17-22	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
大城信弘, 大城勝, 西島信昇. 1976. 琉球列島産イソギンポ科魚類22種の産卵場所と卵について. 沖縄生物学会誌. (14): 67-70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	0	0	0	0	○		
大城肇. 1975. 琉球列島の海藻群落学的研究(1)南大東島の海藻群落について. Journal of General Edu.Dep. 3: 1-13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	88	0	0			
大城肇. 1978. 琉球列島の海藻群落学的研究(II)宮古島の海藻群落について. Journal of General Edu.Dep. 5: 1-12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73	0	0			○
大城肇. 1984. 琉球列島の海藻群落学的研究(III)八重山諸島の海藻群落. Journal of General Edu.Dep. 11: 33-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0		○	
大西敏一, 真木広造. 2004. 沖縄県与那国島におけるカンムリオウチュウ*Dicrurus hottentottus*の日本初記録. 日本鳥学会誌. 53: 47-48	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
大沢啓子, 崇原建二, 山城正邦, 四方正良, 大沢夕志. 2013. 粟国島ニオケルクビワオオコウモリ *Pteropus dasymallus* Temminck, 1825(翼手目:オオコウモリ科)の初記録. Fauna Ryuukyuana. 4: 5-7	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
大谷力. 2004. 沖縄県石垣島におけるヤマガラの観察記録. 日本鳥学会誌. 53: 104-106	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
大嶋洋行. 1994. サンゴ礁海域内海海洋牧場開発推進調査. 平成４年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0			
大葉英雄. 1995. 沖縄県慶良間諸島阿嘉島周辺の海藻目録. みどりいし. (6): 23-28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	542	0	0			
大葉英雄, 有賀祐勝. 1982. 八重山郡島石垣島周辺の海藻. 藻類. 30(4): 325-331	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	102	0	0		○	
大嶺哲雄, 中玉利澄男, 高嶺英恒. 1984. 国頭村大国林道の道路側溝に落下した土壌動物相(予報). 沖縄生物学会誌. (22): 71-78	0	0	7	4	0	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0	○		
大嶺哲雄. 1980. 沖縄本島中部 (中城湾沿岸を中心とする) 動物相概観－1975年3月調査より－. 沖縄大学紀要. 1: 137-181	0	3	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
大嶺哲雄. 1995. 基地内の自然環境と生態系－嘉手納基地弾薬庫地区の土壌生物－. 沖縄大学紀要. (12): 31-78	0	0	0	0	0	0	0	0	94	0	0	0	0	0	0	○		
大嶺哲雄. 1975. 本部半島　動物相の第一次調査報告－主として昆虫及びその他陸産小動物－. 沖大論叢: 81-96	0	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
大嶺徹. 2001. 沖縄島北部古生層石灰岩地の植生と植物層	0	0	0	0	0	1350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
大澤正幸, 長井隆, 成瀬貫. 2011. 琉球列島から採集されたカスリベンケイガニ(新称). 沖縄生物学会誌. (49): 37-47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0		○	
大澤正幸, 藤田喜久. 2005. 沖縄島からのヤエヤマヒメオカガニの報告およびその生息場所について. 沖縄生物学会誌. (43): 59-63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	○		
大澤正幸, 奥野淳兒, 藤田喜久. 2006. Two new species of Pagurixus (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguridae) from submarine caves of the Ryukyu Islands, southwestern Japan. Zootaxa. 1148: 27-45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	○		○
大澤正幸, 藤田喜久, 古見 久. 2001. 日本初記録のアナモリチュウコシオリエビ(新称). 伊豆海洋公園通信. 13(1): 1-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
大澤正幸, 藤田喜久. 2005. A new species of Lissoporcellana (Crustacea: Decapoda: Anomura: Porcellanidae) from Okinawa, southwestern Japan, and a redescription of T. balli (McLaughlin & Haig, 1996). Zootaxa. 1038: 53-63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		

表４－５－１（25）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
大澤正幸, 藤田喜久. 2001. A new species of the genus *Neopetrolisthes* Miyake, 1937 (Crustacea: Decapoda: Porcellanidae) from the Ryukyu Islands, southwestern Japan. PROCEEDINGS OF THE BIOLOGICAL SOCIETY OF WASHINGTON. 114(1): 162-171	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		
大澤正幸, 藤田喜久. 2005. *Clibanarius ambonensis* (Crustacea: Decapoda:Anomura: Diogenidae) from the Ryukyu Islands, south-western Japan. JMBA2 Biodiversity Records. 85: 1-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0		○	
大澤正幸, 藤田喜久. 2012. New records of Albuneidae (Decapoda, Anomura) from Japan, with description of a new species of Paralbunea. Studies on Eumalacostraca:a homage to Masatsune Takeda. 17: 245-262	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○	○	
大澤正幸, 藤田喜久. 2019. Submarine cave hermit crabs (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguroidea) from three islands of the Ryukyu Islands, southwestern Japan. Zootaxa. 4560(3): 463-482	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	○		○
大澤正幸, 藤田喜久. 2008. Two new species of *Turleania* McLaughlin, 1997 (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguridae) from the Ryukyu Islands, southwestern Japan, and a redescription of T. balli (McLaughlin & Haig, 1996). Zootaxa. 1753: 49-68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	○		○
大澤正幸, 藤田喜久. 2016. 宮古諸島伊良部島･下地島から得られた口脚目および十脚目 (アナエビ下目, アナジャコ下目, 異尾下目) 甲殻類. Fauna Ryukyuana. 28: 37-56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0			○
大澤正幸. 1998. *Novorostrum* , new genus (Decapoda Anomura Porcellanidae), with descriptions of three related species. Journal of Crustaccan Biology. 18(1): 161-176	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		○	
沢田 幸雄, 新井良一, 阿部 宗明. 1972. 八重山群島より採集されたコバンハゼ属の一新種, *Gobiodon okinawae* について. 魚類学雑誌. 19: 57-62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		○	
沢田勇. 1978. 琉球諸島における洞穴棲コウモリの条虫相. 動物分類学会誌. 14: 5-9	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
沢田勇. 沖縄地方におけるコウモリの条虫相. 学会(一般公演 生態 要旨)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
沢田勇. 1989. 条虫相からみた対馬のコウモリ. 遺伝. 43(10): 78-85	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
棚原哲雄. 2003. 沖縄島におけるアジサシ類の繁殖状況調査. 第18回(平成１５年度)TaKaRaハーモニストファンド 活動助成報告: 77-89	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
棚村大輔, 広瀬裕一. 2016. 沖縄島残波の礁池に出現する後鰓類の季節変動. 沖縄生物学会誌. (54): 17-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	0	0	0	○		
知念盛俊, 治井正一. 2002. 硫黄鳥島の陸貝. 沖縄県史 資料編13 硫黄鳥島 自然環境1. (13): 193-198	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0			○
知念盛俊. 1966. 第2回八重山生物教材調査報告陸産貝の部. 沖縄生物教育研究会誌. (1): 141-154	0	0	0	0	0	0	0	0	31	0	0	2	0	0	0		○	
知念盛俊. 1991. 第三章陸性動物 中城城跡と周辺の陸産貝類. 中城村史第二巻 資料編1(地理･自然･政治行政･産業経済･移民). (2): 238-243	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	1	0	0	0	○		
知念盛俊. 1976. Land shells of Miyako-jima and adjacent islands. Ecological studies of nature conservation of the Ryukyu Islands(Ⅱ): 89-94	0	0	0	0	0	0	0	0	102	0	0	4	0	0	0			○
知念盛俊. 1977. Land shells of Okinawa-jima and adjacent islands：Exclusive of truncatellidae, assimieidae and ellobiidae. Ecological studies of nature conservation of the Ryukyu Islands(Ⅲ): 127-149	0	0	0	0	0	0	0	0	584	0	0	0	0	0	0	○		○
知念盛俊. 1965. 沖縄産陸産貝の採集と標本の作り方(Ⅰ). 沖縄生物学会誌. 2(4): 77-88	0	0	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	○	○	○
知念盛俊. 1989. 沖縄島北部の陸産貝類 淡水産貝類. 昭和62年度沖縄島北部地域調査報告書, 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究：433-449or433-451 要確認	0	0	0	0	0	0	0	0	342	0	0	69	0	0	0	○		
知念盛俊. 1979. 尖閣列島の陸産貝類. 沖縄生物学会誌. (17): 19-27	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	2	0	0	0		○	
知念盛俊, 治井正一. 1976. 伊平屋島, 伊是名島の陸, 淡水貝類 (予報). 沖縄生物教育研究会誌. 9: 37-43	0	0	0	0	0	0	0	0	67	0	0	8	0	0	0			
知念盛俊, 治井正一, 儀間一恵. 2004. 西原町の陸, 淡水貝類. 西原町史付属刊行物 西原町の自然～動物, 人と自然の関わり～: 79-90	0	0	0	0	0	0	0	0	189	0	0	5	0	0	0	○		
池原直樹. 1993. 嘉手納米軍基地弾薬庫周辺の植物. 沖縄生物教育研究会誌. 25: 29-41	0	0	0	0	0	4180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
池原直樹. 1996. 金武町海岸植物調査報告書: 45p	0	0	0	0	0	572	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
池原貞雄, 安部琢哉, 城間俟. 1978. 尖閣列島･南小島を訪ねて. 沖縄生物学会誌. (16): 39-44	0	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
池原貞雄. 1989. 沖縄島北部地域におけるノグチゲラ、ヤンバルクイナの生息分布について-総括-. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅱ中間報告書: 183-188	0	173	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
池原貞雄. 1988. 沖縄島北部与那覇岳及びその周辺地域の鳥類調査結果. 特殊鳥類等生息環境調査中間報告書: 63-76	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
池原貞雄. 1974. 慶良間群島の陸上脊椎動物. 沖縄海岸国定公園拡張候補学術調査報告: 187-199	0	80	0	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
池原貞雄. 1973. 大東島の陸産脊椎動物. 大東島天然記念物特別調査報告: 52-62	7	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
池原貞雄, 玉城松栄. 1972. 沖縄県下鳥獣保護区の鳥類と植生調査報告I名護岳, 与那覇岳, 西銘岳. 鳥. (10): 2-64	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
池長裕史, 川上和人, 柳澤紀夫. 2014. Ⅱ. 日本鳥類目録改訂で「検討中」とした種および亜種について. 日本鳥学会誌. 63: 134-149	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
池長裕史, 川上和人, 柳澤紀夫. 2014. I.日本鳥類目録改訂第 7 版で新たに掲載された種および亜種の記録等について. 日本鳥学会誌. 63: 96-149	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
池田穣. 2005. 水中コンクリートによるサンゴの移築工法の開発. ハザマ研究年報. 37: 1-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
池田善英. 1986. 北大東島で冬期に観察された鳥類. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 18: 68-70	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
竹中践, 皆藤琢磨, 戸田守. 2015. 小浜島におけるサキシマカナヘビの標本採集およびその他の爬虫類･両生類の記録. Akamata. 25: 36-40	0	0	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
竹島雅彦, 吉野哲夫. 1996. 沖縄島に帰化したナマズ目魚類*Liposarcus disjunctives* の報告. 沖縄生物学会誌. (34): 35-41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	○		
竹内寛彦, 原村隆司. 2015. ヤエヤマヒバァによるオオハナサキガエルの捕食例. Akamata. 25: 15-16	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
竹内寛彦, 原村隆司. 2016. 河口域で発見されたオオヒキガエルの幼生. Akamata. 26: 8-10	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
竹内将俊, 小峰幸夫, 野村昌史. 2001. 琉球列島に固有なオキナワヤマタカマイマイ類の地理的分布と生息環境. 野生生物保護. 6: 91-107	0	0	0	0	0	0	0	0	69	0	0	0	0	0	0	○		○
中井 末松. 1987. 沖縄の湧泉の珪藻. Diatom. 3: 117-131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	0	0	○		
中須賀常雄, 坂内さおり. 2003. マングローブの分布と植生に関する研究マヤプシキ林の林分構造. 平成14年度内閣府委託事業マングローブに関する調査研究報告書: 5-16	0	0	0	0	0	82	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
中須賀常雄. 1976. マングローブに関する研究 Ⅳ-(3) 宮古･八重山群島におけるマングローブの分布状況. 琉球大学農学部学術報告. 23: 339-364	0	0	0	0	0	131	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
中須賀常雄, 大山保表, 春木雅寛. 1974. マングローブに関する研究 I. 日本におけるマングローブの分布. 日本生態学会誌. 24: 237-246	0	0	0	0	0	152	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
中須賀常雄, 馬場繁幸, 伊藤和昌. 1982. 沖縄の海岸林に関する研究(Ⅱ)西表島船浦湾の海岸林. 琉球大学農学部学術報告. 29: 231-239	0	0	0	0	0	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
中西喜栄, 細谷誠一, 平野暁. 2007. 沖縄島知念岬周辺で確認された絶滅危惧種のクビレミドロ (フシナシミドロ目, 黄緑藻綱) とその分布. 沖縄生物学会誌. (45): 43-47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	○		
中西喜栄. 2009. 石垣島の海草藻場で確認されたアオウミガメの食み跡. 沖縄生物学会誌. (47): 19-23	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
中西希, 伊澤雅子. 2014. イリオモテヤマネコの山地部における繁殖情報. 沖縄生物学会誌. (52): 45-51	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
中川尚史, 崎原永輝, 島村均. 1983. イシガキカグラコウモリの波照間島からの記録. 沖縄生物学会誌. (21): 3-5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
中村泰之. 2010. ナミエガエルによるオキナワアオガエルの捕食例. Akamata. 21: 7-8	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		

表４－５－１（26）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
中村洋平. 2010. ウミショウブ藻場の消失に伴う魚類群集構造の変化. 西表島研究: 18-22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	103	0	0	0	0		○	
中島朋成, 戸田光彦, 青木正成, 鐘雅哉. 2005. 西表島におけるオオヒキガエル対策事業について. 爬虫両棲類学会報. 2: 179-186	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
中藤成実, 佐橋紀男, 加藤雅啓. 2002. *Thelypteris angustifrons* 倍数体複合群(ヒメシダ科)の細胞分類学的解析. Acta phytotaxonomica et geobotanica. 53(1): 63-76	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
中坊 徹次, 岩田 明久. 1979. 沖縄より得られた日本初記録のタンザクテグリ(新称)*Anaona tentaculata* . 魚類学雑誌. 26: 89-93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
中本敦, 金城和三, 伊澤雅子. 2015. クビワオオコウモリの老齢個体の捕獲記録. 沖縄生物学会誌. (53): 37-44	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
中本敦, 佐藤亜希子, 金城和三, 伊澤雅子. 2011. 沖縄県で近年見られるオリイオオコウモリ *Pteropus dasymallus inopinatus* の個体数の増加について. 保全生態学研究. (16): 45-53	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
中野義勝, 土屋誠. 2007. ［研究活動紹介］サンゴ礁における多種共存機構と物質循環の多様性：海草生態系におけるアプローチ. あまみきよ. (5): 6-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
仲宗根一哉, 岸本高男, 比嘉ヨシ子, 花城可英, 満本裕彰, 渡口輝, 与那嶺正人, 岩永節子, 大城直雅, 大見謝辰男, 比嘉栄三郎. 1998. 河川改修工事後の源河川における底生動物相とその変動. 沖縄県衛生環境研究所報. 32: 169-180	0	0	0	0	0	0	0	19	38	0	0	17	0	2	0	○		
仲宗根一哉, 満本裕彰, 与那嶺政人, 岸本高男, 比嘉榮三郎, 大見謝辰男. 1998. 米軍基地内河川の底質中懸濁物質含量と底生動物に関する調査研究. 沖縄県衛生環境研究所報. 32: 161-167	0	0	0	0	0	0	0	7	8	0	0	4	0	3	0	○		
仲宗根貴道, 田場美沙基, 清澤昇太, 富永篤. 2015. リュウキュウカジカガエルの変態サイズ、野外、飼育下での幼体の成長速度. Akamata. 25: 1-4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
仲宗根幸男, 赤嶺智子. 1981. ミナミコメツキガニの生殖周期と稚ガニの成長. 沖縄生物学会誌. (19): 17-23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
仲宗根幸男. 1977. 沖縄島雄樋川におけるカニの帯状分布. 日本生態学会誌. 27: 61-70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	79	0	○		
仲松徳修, 高良茂宏. 2013. 生態系に配慮した道路事業の実施について ～読谷道路におけるコウモリ調査の中間報告～. 平成25年度国土交通省国土技術研究会講演要旨. 一般課題(一般部門)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
仲真良英. 1994. 泡瀬植物目録: 1-42	0	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
仲地明, 長谷川英男. 1992. 沖縄島のリュウキュウヤマガメに寄生していた *Meteterakis ishikawanae* Hasegawa, 1987 (線虫綱:ヘテラキス上科:ヘテラキス科). 沖縄生物学会誌. (30): 25-28	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
仲田栄二. 2000. 西表島仲間川支流の植生. 南島文化. 22: 25-37	0	0	0	0	0	197	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
仲田栄二. 1997. 大里村真境名の植物相と植生-丘陵斜面を中心として-. 大里村文化財調査報告書第2集, 大里村真境名丘陵動植物調査: 34-65	0	0	0	0	0	365	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
仲田栄二, 多和田眞淳. 1989. 西原町の植物. 西原町史編纂委員会(編), 西原町史第4巻, 資料編3, 西原の民俗: 36-72	0	0	0	0	0	789	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
朝倉彰, 古見久, 野村恵一, 立川浩之. 2002. セグロサンゴヤドカリ(新称)とクリイロサンゴヤドカリの日本からの記録、およびセグロサンゴヤドカリの色彩変異. 沖縄生物学会誌. (40): 33-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0		○	
長井隆, 成瀬貫, 前之園唯史, 藤田喜久, 駒井智幸. 2011. 琉球列島におけるアシハラガニモドキ属とその近似属(甲殻亜門:十脚目:短尾下目)の種の再検討と分布状況. 沖縄生物学会誌. (49): 15-36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48	0	○	○	○
長谷川英男, 安里龍二, 岩附信紀. 1986. 沖縄島産食虫類、齧歯類の寄生蠕虫相. 沖縄生物学会誌. (24): 7-16	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長谷川英男. 1985. 沖縄県産爬虫類の寄生蠕虫相. 沖縄生物学会誌. (23): 1-11	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
長谷川英男. 1992. 沖縄県久米島産の両生･爬虫類の寄生蠕虫. 沖縄生物学会誌. (30): 7-13	0	0	3	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
長谷川英男. 1984. 沖縄県産数種両生類の寄生蠕虫相. 沖縄生物学会誌. (22): 11-22	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長田勝 佐々木健志. 2012. 西表島産オニヤンマの羽化場所の一例. 琉球の昆虫. (36): 35-36	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		○	
長田勝 小浜継雄. 2014. 沖縄島恩納村で採集したヒメイチモンジセセリ. 琉球の昆虫. (38): 50	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長田勝 小浜継雄. 2012. 恩納村におけるムラサキツバメの記録. 琉球の昆虫. (36): 59	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長田勝. 2006. カラスヤンマの羽化場所. 琉球の昆虫. (30): 36	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
長田勝. 2005. モンパの木に集まるカバマダラ. 琉球の昆虫. (27): 17	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長田勝. 2012. 糸満市摩文仁でコノハチョウを目撃. 琉球の昆虫. (36): 60-62	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長田勝. 1980. 那覇市末吉森におけるチョウの個体数調査. 琉球の昆虫. (4): 42-48	0	0	0	0	0	0	123	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長田勝. 2010. 北中城村でリュウキュウハグロトンボを採集. 琉球の昆虫. (34): 47	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
長田勝. 2014. 琉球大学ビオトープのヒメイチモンジセセリ幼虫. 琉球の昆虫. (38): 50	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長田勝. 2014. 琉球大学構内で見たモンキチョウ. 琉球の昆虫. (38): 59	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長田智史, 小笠原敬, 山川英治, 小澤宏之, 上野大輔, 酒井一彦. 2006. 沖縄島周辺海域におけるトゲサンゴ(*Seriatopora hystrix*)の分布. 沖縄県環境科学センター報. (7): 77-81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	○		
長嶺晴美, 金城あや子, 親盛啓介, 中村博幸. 1983. ナハキハギの調査と観察. 沖縄生物教育研究会誌. (16): 15-16	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1978. 1977年7月八重山で観察した蝶･トンボ･セミ. 琉球の昆虫. (2): 38-43	0	0	0	0	0	0	144	14	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1980. 1978年 伊平屋島のチョウ･トンボ(7月). 琉球の昆虫. (4): 74	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0			
長嶺邦雄. 1980. 1979年8月の八重山のチョウ･トンボ. 琉球の昆虫. (4): 72-73	0	0	0	0	0	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1981. 1980年8月･伊平屋島からの採集報告. 琉球の昆虫. (5): 59-60	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0			
長嶺邦雄. 1984. 1983年の沖縄島北部･南部の蝶. 琉球の昆虫. (9): 69-72	0	0	0	0	0	0	1055	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1993. 1987年5月中旬～6月の那覇市鏡原中学校々庭での虫の記録. 琉球の昆虫. (15): 12-13	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2006. 2005年、沖縄島でマークされたアサギマダラの再捕獲記録. 琉球の昆虫. (28): 28	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2007. 2006年、県外から飛来したマークつきアサギマダラの記録. 琉球の昆虫. (31): 22	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2007. 2006年迷蝶の記録. 琉球の昆虫. (31): 64-65	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1993. アカタテハがヤナギイチゴに ヒメアカタテハがカラムシに産卵. 琉球の昆虫. (15): 11	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1993. アサギマダラについて(1988年～1992年3月). 琉球の昆虫. (15): 4-10	0	0	0	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2013. アサギマダラについて(2012年). 琉球の昆虫. (37): 99-101	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2006. アサギマダラのマーキング記録(沖縄島2005年). 琉球の昆虫. (28): 9-27	0	0	0	0	0	0	175	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2010. アサギマダラのマーキング調査報告(2009). 琉球の昆虫. (34): 94-102	0	0	0	0	0	0	95	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2011. アサギマダラのマーキング調査報告(2010). 琉球の昆虫. (35): 40-41	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2008. アサギマダラのマーキング報告(2007). 琉球の昆虫. (32): 24-44	0	0	0	0	0	0	209	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2009. アサギマダラのマーキング報告(2008). 琉球の昆虫. (33): 88-94	0	0	0	0	0	0	91	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2007. アサギマダラのマーキング報告. 琉球の昆虫. (31): 1-21	0	0	0	0	0	0	452	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2008. アサギマダラの食草記録及び飼育記録から. 琉球の昆虫. (32): 92	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2011. アサギマダラの幼生期の記録(2010). 琉球の昆虫. (35): 48-49	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2006. アサギマダラマーキング調査会の報告. 琉球の昆虫. (28): 29	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2014. アサギマダラ調査報告(2013年). 琉球の昆虫. (38): 1-24	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1993. オキナワオジロサナエの羽化殻数の記録(1991年). 琉球の昆虫. (15): 18-19	0	0	0	0	0	0	0	57	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1991. オキナワオジロサナエの羽化数の記録. 琉球の昆虫. (14): 27	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1991. カバマダラ リュウキュウガシワを食す. 琉球の昆虫. (14): 11-12	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2008. スジグロカバマダラの沖縄島での幼虫の記録. 琉球の昆虫. (32): 95	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2009. タイワンアサギマダラとウスアオオナガウラナミシジミの記録(2008). 琉球の昆虫. (33): 60	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	○		

表４−５−１（27）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
長嶺邦雄. 2008. タテハモドキの西表島での新食草. 琉球の昆虫. (32): 95	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 2016. マサキルリマダラを南城市糸数城跡で採集. 琉球の昆虫. (40): 100	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2014. ムラサキシジミの観察記録(2013). 琉球の昆虫. (38): 60	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2015. ムラサキシジミの観察記録(2014). 琉球の昆虫. (39): 130-131	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2017. ムラサキシジミの観察記録. 琉球の昆虫. (41): 124	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2013. ムラサキツバメの観察報告(2012). 琉球の昆虫. (37): 108	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2008. リュウキュウウラナミジャノメについて(第一報). 琉球の昆虫. (32): 100-103	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2017. リュウキュウウラナミジャノメについて(第二報). 琉球の昆虫. (41): 122-123	0	0	0	0	0	0	231	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1987. 粟国島からの昆虫の記録(1985年7月). 琉球の昆虫. (11): 39-40	0	0	0	0	0	0	17	7	0	0	0	0	0	0	0			
長嶺邦雄. 2008. 伊計島の蝶. 琉球の昆虫. (32): 98-99	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2007. 沖縄島·蝶の幼生期の記録(2005, 2006). 琉球の昆虫. (31): 56-64	0	0	0	0	0	0	200	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1985. 沖縄島でのトンボ類の目撃記録(1984年). 琉球の昆虫. (10): 71-73	0	0	0	0	0	0	0	88	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1985. 沖縄島での蝶の訪問植物(1984年). 琉球の昆虫. (10): 58-61	0	0	0	0	0	0	188	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1984. 沖縄島での蝶の幼生期の記録(1983年). 琉球の昆虫. (9): 34-42	0	0	0	0	0	0	201	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1985. 沖縄島での蝶の幼生期の記録(1984年). 琉球の昆虫. (10): 62-70	0	0	0	0	0	0	136	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1987. 沖縄島での蝶の幼生期の記録(1985年). 琉球の昆虫. (11): 27-33	0	0	0	0	0	0	154	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1993. 沖縄島での蝶の幼生期の記録(1986年～1991年). 琉球の昆虫. (15): 35-59	0	0	0	0	0	0	507	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1983. 沖縄島での蝶類の幼生期の記録(1980年～1982年). 琉球の昆虫. (7): 37-52	0	0	0	0	0	0	260	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2006. 沖縄島でマルバネルリマダラの一時的発生. 琉球の昆虫. (30): 57	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1991. 沖縄島のトンボの目撃記録(1986年). 琉球の昆虫. (14): 35-37	0	0	0	0	0	0	0	71	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1993. 沖縄島のトンボの目撃記録(1987～1988年). 琉球の昆虫. (15): 16-18	0	0	0	0	0	0	0	74	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1991. 沖縄島のトンボの目撃記録(1990年). 琉球の昆虫. (14): 33-35	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1993. 沖縄島のトンボの目撃記録(1991年). 琉球の昆虫. (15): 20-23	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1984. 沖縄島のトンボ類の目撃記録(1982～1983年). 琉球の昆虫. (9): 84-88	0	0	0	0	0	0	0	278	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1987. 沖縄島のトンボ類の目撃記録(1985年). 琉球の昆虫. (11): 51-53	0	0	0	0	0	0	0	65	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1993. 沖縄島のトンボ類の目撃記録(1987～1988年). 琉球の昆虫. (15): 16-18	0	0	0	0	0	0	0	114	0	0	0	0	0	0	0	○		○
長嶺邦雄. 1991. 沖縄島のトンボ類の目撃記録(1989年). 琉球の昆虫. (14): 28-31	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1993. 沖縄島のトンボ類の目撃記録(1991年). 琉球の昆虫. (15): 20-23	0	0	0	0	0	0	0	316	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2012. 沖縄島のムラサキツバメについて. 琉球の昆虫. (36): 69	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2011. 沖縄島の蝶·成虫の記録(2009, 2010年). 琉球の昆虫. (35): 78-94	0	0	0	0	0	0	3008	8	0	0	0	0	0	0	0	○		○
長嶺邦雄. 2015. 沖縄島の蝶の成虫の記録. 琉球の昆虫. (39): 115-125	0	0	0	0	0	0	1946	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2012. 沖縄島の蝶の目撃記録(2011). 琉球の昆虫. (36): 70-78	0	0	0	0	0	0	1419	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2013. 沖縄島の蝶の目撃記録(2012). 琉球の昆虫. (37): 91-99	0	0	0	0	0	0	886	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1982. 沖縄島南部の蝶(1980年、1981年). 琉球の昆虫. (6): 13-15	0	0	0	0	0	0	984	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1983. 沖縄島北部(1980～1982年)·南部(1982)の蝶. 琉球の昆虫. (7): 53-57	0	0	0	0	0	0	1135	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1987. 久米島の5月の採集報告(1986年). 琉球の昆虫. (11): 34-36	0	0	0	0	0	0	12	5	0	0	0	0	0	0	0			○
長嶺邦雄. 1981. 慶良間諸島からの採集報告. 琉球の昆虫. (5): 54-56	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0			
長嶺邦雄. 1978. 慶良間諸島阿嘉島で採集した蝶類. 琉球の昆虫. (2): 46-47	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0			
長嶺邦雄. 2006. 県外から飛来のマークつきアサギマダラの記録(2005). 琉球の昆虫. (28): 28	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1998. 新城島(下地島、上地島)で見た蝶(1995年). 琉球の昆虫. (18): 35	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1993. 数種の迷蝶の記録(1989～1991年). 琉球の昆虫. (15): 11-12	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
長嶺邦雄. 2012. 西表島8月のチョウ(2011年). 琉球の昆虫. (36): 67-68	0	0	0	0	0	0	80	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 2006. 西表島でクロコノマチョウ、クルーギールリマダラを記録(再報告). 琉球の昆虫. (30): 58	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 2003. 西表島での蝶類 幼生期の記録(1997.1～2002.3). 琉球の昆虫. (23): 1-19	0	0	0	0	0	0	1176	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1998. 西表島での蝶類幼生期の記録(1995年4月～1997年3月). 琉球の昆虫. (19): 1-23	0	0	0	0	0	0	375	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1997. 西表島の蝶 トンボの記録(1995年). 琉球の昆虫. (17): 1-30	0	0	0	0	0	0	2334	521	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1999. 西表島の蝶の記録(1996年). 琉球の昆虫. (20): 1-27	0	0	0	0	0	0	4023	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 2004. 西表島の蝶の記録(1997年1月～2002年3月). 琉球の昆虫. (24): 1-40	0	0	0	0	0	0	5664	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 2003. 西表島白浜旧道の蝶 トンボ セミ(1999.2～2002.3). 琉球の昆虫. (23): 20-48	0	0	0	0	0	0	2694	383	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1993. 石垣 西表のチョウ トンボ セミ(1989年 1990年). 琉球の昆虫. (15): 13-15	0	0	0	0	0	0	123	47	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1985. 石垣島·西表島での採集·目撃記録(1984年). 琉球の昆虫. (10): 130-136	0	0	0	0	0	0	303	81	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 2014. 蝶の成虫の記録(2013年). 琉球の昆虫. (38): 109-118	0	0	0	0	0	0	1322	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2012. 蝶の幼生期の記録(1992～1994年). 琉球の昆虫. (36): 79-83	0	0	0	0	0	0	143	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2008. 蝶の幼生期の記録(2007). 琉球の昆虫. (32): 80-87	0	0	0	0	0	0	174	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2009. 蝶の幼生期の記録(2008). 琉球の昆虫. (33): 60-65	0	0	0	0	0	0	104	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2010. 蝶の幼生期の記録(2009). 琉球の昆虫. (34): 66-70	0	0	0	0	0	0	169	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2011. 蝶の幼生期の記録(2010). 琉球の昆虫. (35): 17-23	0	0	0	0	0	0	177	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2012. 蝶の幼生期の記録(2011). 琉球の昆虫. (36): 84-90	0	0	0	0	0	0	207	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2013. 蝶の幼生期の記録(2012). 琉球の昆虫. (37): 85-91	0	0	0	0	0	0	140	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 2014. 蝶の幼生期の記録(2013年). 琉球の昆虫. (38): 119-122	0	0	0	0	0	0	144	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1987. 渡嘉敷島の3月の蝶(1986年). 琉球の昆虫. (11): 37	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0			
長嶺邦雄. 1993. 渡嘉敷島の7月の蝶·トンボ·セミ(1988年). 琉球の昆虫. (15): 1-12	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
長嶺邦雄. 1982. 那覇市末吉森の蝶. 琉球の昆虫. (6): 10-11	0	0	0	0	0	0	989	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1999. 波照間島で見た蝶·トンボ·セミ(1996年). 琉球の昆虫. (20): 31-32	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1999. 鳩間島で見たチョウ·トンボ·セミ(1996年). 琉球の昆虫. (20): 30	0	0	0	0	0	0	22	3	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1988. 与那国島のチョウ トンボ類(1987年8月). 琉球の昆虫. (12): 41-45	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1970. 黒島の蝶類. 沖縄生物学会誌. 6(8): 37-39	0	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1964. 最近沖縄で記録された蝶数種について. 沖縄生物学会誌. 1(2): 80-82	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
長嶺邦雄. 1967. 竹富島のキヤムラシジミについて(Ⅰ). 沖縄生物学会誌. 4(6): 30-34	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
長嶺邦雄. 1966. 琉球列島から採集された数種の蝶について. 沖縄生物学会誌. 3(5): 36-37	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
長嶺邦雄·比嘉正一. 1982. 伊平屋島の採集報告(1981年8月). 琉球の昆虫. (6): 53-56	0	0	0	0	0	0	56	22	0	0	0	0	0	0	0			
鳥羽通久. 2004. 渡嘉敷島のアマミタカチホヘビ. 爬虫両棲類学会報. 1: 20-21	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
鳥居高志, 塩根嗣理, 加藤憲一, 杉浦幸彦, 黒川忠之, 大野正博, 大城朝一, 新垣敏一. 2011. 河口閉塞による感潮域魚類相への影響. 応用生態工学. 13(2): 123-139	0	0	0	0	142	0	0	0	0	0	1158	0	0	0	0	○		
津波古光男, 町田数子. 2005. 北谷の植物. 北谷町史第1巻通史編: 83-108	0	0	0	0	0	4087	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
津波高志, 名嘉靖文, 高良文雄, 泉文貤, 名嘉正宗, 上江洲均, 平敷令治, 諸見川見枝, 玉城英徳, 東江金蔵, 仲田栄光, 大城逸朗, 仲田栄二, 宮城邦治, 比嘉清松, 名嘉正. 1989. 伊是名諸島の植物. 伊是名村史 下巻 島と民俗と生活: 604	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0			
通事太一郎, 庄山守, 亀崎直樹. 1994. 西表島における爬虫類、鳥類、哺乳類の路上死体の記録. 沖縄生物学会誌. (32): 43-48	0	78	0	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
天野正晴, 高田圭, 中村元紀, 佐藤寛之, 宮城直樹, 立石庸一. 2012. 琉球大学千原構内に生育する野生維管束植物. 琉球大学教育学部紀要. 8: 333-354	0	0	0	0	0	1650	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
天野正晴, 大城(坂口) 由希子, 立石庸一. 沖縄県の離島·へき地における自然教育のための基礎資料の充実(5)南城市久高島の植物相. 琉球大学教育学部紀要. 81: 355-370	0	0	0	0	0	1162	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
天野正晴, 立石庸一, 佐藤寛之, 田場美沙基. 2013. 沖縄県の離島·へき地における自然教育のための基礎資料の充実(6)うるま市津堅島の植物相. 琉球大学教育学部紀要. 83: 177-200	0	0	0	0	0	1010	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
天野鉄夫. 1982. 知花グスクの植物. 沖縄自然研究会(編), 沖縄県自然環境保全地域指定候補地学術調査報告, 知花グスク·斎場御嶽とその周辺地域: 5-17	0	0	0	0	0	195	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		

表４－５－１（28）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
天野鉄夫. 1982. 斎場御嶽及びその周辺の植物. 沖縄自然研究会(編), 沖縄県自然環境保全地域指定候補地学術調査報告, 知花グスク･斎場御撤とその周辺地域, : 77-90	0	0	0	0	0	216	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
田窪亮三. 2012. 石垣島での蝶類幼生期の記録. 琉球の昆虫. (36): 51-54	0	0	0	0	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
田場美沙基, 仲宗根貴道, 清澤昇太, 富永篤. 2013. 流水環境で繁殖するリュウキュウカジカガエルの繁殖期の生態調査. 九州両生爬虫類研究会誌. 4: 68-70	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
田谷以生, 曽我部陽子, 原田綾華, 吉田文也, 三日月茜, 田和国明, 境寛, 前潟光弘, 桜谷保之. 2013. 沖縄県八重山諸島で記録された蝶類･両生類･爬虫類及び鳥類. 近畿大学農学部紀要. 46: 299-307	0	9	4	7	0	0	198	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
田中 剛, 糸野 洋. 2011. 与那国島の海藻 II. 鹿児島大学水産学部紀要. 21(1): 1-14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41	0	0		○	
田中聡, 嵩原建二. 2003. 先島諸島における野生化したインドクジャクの分布と現状について. 沖縄県立博物館紀要. 29: 19-24	0	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
田中聡, 西平守孝. 1981. キノボリトカゲについての2、3の観察. 沖縄生物学会誌. (19): 33-39	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
田中聡. 2009. ヨナグニキノボリトカゲの生態について. 与那国島総合調査報告書 沖縄県立博物館･美術館 別刷: 13-22	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
田中聡. 2004. 小浜島におけるインドクジャクの現状について. 小浜島総合調査報告書: 65-74	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
田中聡. 1994. 瀬底島におけるイボイモリとシリケンイモリの生態についての予備的観察. 沖縄生物教育研究会誌. (26): 13-21	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
田中聡. 1994. 瀬底島におけるイボイモリとシリケンイモリの生態についての予備的観察. 沖縄生物教育研究会誌. (26): 13-21	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
田中聡. 1986. サキシマカナヘビの体温調節. 沖縄生物学会誌. (24): 39-41	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
田中聡. 2004. 小浜島における両生爬虫類の現状について. 小浜島総合調査報告書: 21-33	0	0	12	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
田中聡. 2006. シロアゴガエルとオンナダケヤモリの池間島からの記録. 沖縄県立博物館紀要. 32: 1-3	0	0	4	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
田中洋. 1977. 久米島で採集したトンボ類. 琉球の昆虫. (1): 72	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0			○
田中洋. 1977. 久米島の蝶類 採集･観察報告(1975年7月). 琉球の昆虫. (1): 53-54	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0			○
田中洋. 1977. 宮古島の蝶類 採集･観察報告(1975年5月). 琉球の昆虫. (1): 47-50	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0			○
田中洋. 1978. 大東諸島の蝶類採集報告(1977年3月). 琉球の昆虫. (2): 44-45	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0			
渡嘉敷村史編集委員会. 1987. 第一章渡嘉敷島の自然 第二節淡水動物. 渡嘉敷村史 資料編: 13-42	0	0	0	0	27	0	0	0	10	38	2	3	0	6	0			
渡久山章, 川満永公, 新里孝和. 1998. 亜熱帯琉球石灰岩地域の照葉樹林におけるリターの研究. 琉球大学理学部紀要. 66: 39-62	0	0	0	0	0	358	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
渡辺賢一. 2012. 石垣島における蝶類幼生期の記録. 琉球の昆虫. (36): 54-55	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺賢一 田窪亮三. 2013. 石垣島でのスナアカネ大量飛来と定点観察. 琉球の昆虫. (37): 37-40	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺賢一. 2014. 2013年石垣島で採集されたオナガアカネ. 琉球の昆虫. (38): 169	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺賢一. 2014. 2014年1月石垣島のプールで得られたウスバキトンボとスナアカネのヤゴ. 琉球の昆虫. (38): 170-171	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺賢一. 2015. 2015年2月石垣島のプールで得られたウスバキトンボとスナアカネのヤゴ. 琉球の昆虫. (39): 54-55	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺賢一. 2017. 2016年1月石垣島のプールで得られたウスバキトンボのヤゴ. 琉球の昆虫. (41): 166-167	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺賢一. 1977. アサヒナキマダラセセリの生活史. 沖縄生物教育研究会誌. (10): 45-49	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺賢一. 2015. ミナミトンボ産卵の観察例. 琉球の昆虫. (39): 57	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺賢一. 2015. ワタナベオジロサナエの産卵. 琉球の昆虫. (39): 55	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺賢一. 2017. 沖縄島でウスバキトンボのヤゴが越冬した記録. 琉球の昆虫. (41): 164-165	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○		
渡辺賢一. 2012. 西表島でアカスジベッコウトンボの羽化を確認. 琉球の昆虫. (36): 141	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺賢一. 2015. 西表島におけるウミアカトンボの一記録. 琉球の昆虫. (39): 56	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺賢一. 2013. 石垣島でアカスジベッコウトンボを採集. 琉球の昆虫. (37): 34-35	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺賢一. 1977. 石垣島産蜻蛉類目録. 沖縄生物教育研究会誌. (10): 51-56	0	0	0	0	0	0	0	80	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺清. 1987. オオゴマダラの越冬の一形態に就いて. 琉球の昆虫. (11): 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
渡辺清. 1983. 秋の西表島調査報告(1982年). 琉球の昆虫. (7): 102-103	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡辺美郎, 籠島恵介. 2016. 沖縄県与那国島におけるカワリサンコウチョウ *Terpsiphone paradisi* の観察記録. 日本鳥学会誌. 65: 43-45	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
渡邉謙太, 小渕正美, 山城秀之, 磯村尚子, 西原ちひろ. 2011. 沖縄本島北部大浦湾周辺の自然と環境教育の試み. 平成22年度熊本大学総合技術研究会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
島袋敬一. 1976. 琉球列島付属小島嶼のシダ植物相 2.宮古諸島. 琉球大学理工学部紀要 理学篇. (22): 63-78	0	0	0	0	0	65	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
島袋寛盛, 野日忠秀. 2007. 沖縄本島に育成する雄雌同株のウミトラノオ. 藻類. 55(1): 103-107	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	○		
島袋敬一, 新城和治, 横田昌嗣. 1990. 西表島崎山半島(船浮)の植物相. 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究: 37-80	0	0	0	0	0	912	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
島袋健二. 2007. クロコノマチョウの記録. 琉球の昆虫. (31): 22	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
島袋健二. 1985. リュウキュウムラサキの幼虫サツマイモより採集. 琉球の昆虫. (10): 128	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
島袋守成. 1978. 海浜植物の野外観察資料(1). 沖縄生物教育研究会誌. (11): 59-66	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
島袋守成. 1986. 座喜味城跡の植物. 国指定史跡座喜味城跡環境整備事業報告書: 74-81	0	0	0	0	0	93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
島袋守成. 1966. 八重山に於けるシダ植物の分布とその原因1. 沖縄生物教育研究会誌. (1): 161-178	0	0	0	0	0	83	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
島袋伸三, 野原朝秀, 初島住彦, 天野鉄夫, 新納義馬, 新城和治, 高良鉄夫, 東清二, 池原貞雄, 新屋敷幸繁, 多和田眞淳. 1974. 久米島県立公園候補地 学術調査報告. 沖縄自然研究会調査報告. (1): 110p	3	133	0	0	0	657	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
島袋正俊. 2003. 植物群落の指導の工夫一石灰岩地と非石灰岩地の森林の種組成を通して-. 沖縄生物教育研究会誌. 35: 39-47	0	0	0	0	0	523	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
島袋智, 金城元, 田場利恵子, 名護優子. 1984. 照間における野鳥の行動-海岸･水田･湿地での観察をとおして-. 沖縄生物教育研究会誌. (17): 35-36	0	129	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
島袋智･金城元･田場利恵子･名護優子. 1984. 照間における野鳥の行動-海岸･水田･湿地での観察をとおして-. 沖縄生物教育研究会誌. (17): 35-36	0	129	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
島袋徳正. 1989. 伐採が森林内部へ及ぼす影響(中間報告). 沖縄生物教育研究会誌. (22): 13-21	0	0	0	0	0	423	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
島袋曠, 新島義龍, 新城和治, 宮城康一, 宮城朝章, 真志喜丈子, 日越国昭, 天願敏男, 新納義馬. 1988. 田港御願の植物群落. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集, 国頭郡天然記念物緊急調査Ⅲ: 25-58	0	0	0	0	0	249	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
島袋眊, 新城和治, 宮城朝章, 佐久本敞, 喜屋武一三六. 2007. 第2章 残された自然 沖縄市の植生. 沖縄市史 第4巻 自然･地理･考古編 自然編: 19-71	0	0	0	0	0	2450	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
島田和彦, 吉野哲夫. 1984-1985. 八重山諸島から採集されたベラギンポ属の1新種. 魚類学雑誌. 31: 15-19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
島田知彦. 2002. アカマダラとサキシママダラにおける死体食の例. 爬虫両棲類学会報. 1: 7-10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
島田知彦. 2003. ガラスヒバァのナミエガエル捕食例. 爬虫両棲類学会報. 2: 76-77	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
嶋津 信彦. 2011. 2010年夏沖縄島300水系における外来水生生物と在来魚の分布記録. 保全生態学研究. 16: 99-110	0	0	0	0	517	0	0	0	0	0	214	0	0	0	0	○		
嶋津信彦, 河内紀浩. 2017. 外来種亜種ヤエヤマイシガメの多良間島における定着及び島内分布に関する報告. Fauna Ryuukyuana. 36: 13-17	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○

表 4－5－1（29）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
嶋津信彦. 2014. 2004年夏に実施した調査による座間味島, 阿嘉島, 外地島からの陸水動物の分布記録. Fauna Ryukyuana. 15: 1-4	0	0	3	1	5	0	0	0	0	9	6	0	0	0	0			
嶋津信彦. 2015. 南西諸島における陸生･陸水生カメ類の分布変遷. 調査研究･技術開発の実施内容及び成果に関する報告書: 1-116	0	0	0	1091	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
嶋津信彦. 2017. 与那国島における陸生･ 陸水生カメ類の文献と環境省自然環境保全基礎調査からの 分布記録, および 2015 年の生息実態. Fauna Ryukyuana. 37: 15-22	0	0	0	84	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
嶋津信彦. 2015. 沖縄島安波川水系ヒジナン沢におけるアメリカザリガニの単位努力量あたりの採集個体数の体長組成の経月変化. 沖縄生物学会誌. (53): 55-59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○		
嶋津信彦. 2014. 沖縄島国場川水系饒波川において2013年8月に起きた魚類大量斃死により得られたオオウナギの個体数密度と全長組成. 沖縄生物学会誌. (52): 69-72	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
嶋津信彦. 2008. 沖縄島比謝川に侵入したオオクチバスの生態学的研究. 人と自然. 19: 35-41	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
東正雄, 東良雄, 平田義浩. 1992. 久米島の陸産貝類相. 貝類学雑誌VENUS. 50(4): 264-269	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0			○
東正雄, 東良雄. 1987. 宮古群島の陸産貝類-I. 貝類学雑誌. 46(3): 159-165	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0			○
東清二, 佐々木健志. 2002. 硫黄鳥島の昆虫相. 沖縄県史 資料編13 硫黄鳥島 自然環境1. (13): 171-180	0	0	0	0	0	0	11	4	0	0	0	0	0	0	0			○
当山昌直, 佐藤文保. 1985. バーバートカゲの伊平屋島からの記録. 沖縄生物学会誌. (23): 25-27	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
当山昌直, 千木良芳範, 佐藤文保. 1997. 南風原町の両生類･爬虫類. 南風原町史 第2巻 自然･地理資料編: 161-174	0	0	18	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
当山昌直. 1980. (特別寄稿)粟国島の陸上脊椎動物. 沖縄県立博物館総合調査報告書Ⅰ粟国島: 51-55	3	10	2	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
当山昌直. 2004. 西原町の両生類･爬虫類. 西原町史付属刊行物 西原町の自然 ～動物･人と自然の関わり～: 19-34	0	0	0	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
当山昌直. 1981. 渡名喜島の陸上脊椎動物. 沖縄県立博物館総合調査報告書Ⅱ渡名喜島: 49-56	3	13	2	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
当山昌直. 1976. 宮古群島の両生爬虫類相(Ⅰ). 爬虫両棲類学雑誌. 6(3): 64-74	0	0	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
当山昌直. 1976. ミヤコトカゲの生息の確認. 沖縄生物学会誌. (14): 61-66	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
当山昌直. 1981. 沖縄群島の両生爬虫類相(Ⅰ). 沖縄県立博物館紀要. 7: 1-8	0	0	20	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
当山昌直. 1984. 沖縄群島の両生爬虫類相(Ⅲ)一渡嘉敷島･久米島一. 沖縄県立博物館紀要. 10: 25-36	0	0	7	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
当山昌直. 2009. キクザトサワヘビ. 琉球大学資料館収蔵タイプ標本目録. (1): 12	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
当真 武, 島袋新功, 佐多忠夫, 具志堅 剛, 近藤 忍. 1992. 久米島と慶良間諸島の礁地形と藻場. 平成 2 年度沖縄県水産試験場事業報告: 141-150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	82	0	0			○
当真 武. 1993. 沖縄島におけるヒジキの分布と季節的消長. 沖縄県水産試験場事業報告書: 105-116	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	○		
当真 武. 1994. 紅藻ハナフノリの沖縄諸島における季節的消長と地形的･地理的分布. 水産増殖. 42(4): 553-561	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	0	○		
当真武, 玉木俊也, 具志堅剛. 1991. 沖縄島および周辺離島の海草･ホンダワラ藻場(沿整基礎調査). 平成元年度沖縄県水試事業報告書: 131-142	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	0	0	○		
当真武, 渡辺利明, 勝俣亜生, 久保弘文, 平安名盛正, 中田幸孝. 1990. 昭和63年度沖縄県水産試験場事業報告書_伊江島･水納島礁池内の海底地形と藻場及び有用動物について: 127-137	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	0	0	○		
当真武, 本村浩司, 大城譲. 1984. 昭和57年度沖縄県水産試験場事業報告書_沖縄産ヒジキの増殖に関する生態学的研究: 163-173	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	○		
当真武. 2012. 沖縄の海藻と海草 自然環境･養殖･海藻250種: 1-433	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	475	0	0	○	○	○
当真武. 1991. 宮古島で確認された大規模ホンダワラ藻場. 水産増殖. 38(5): 47-54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0			○
当真武. 1975. 昭和50年度沖縄県水産試験場事業報告書_海産顕花植物(アジモ)について: 1-125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	0	0	○		○
当真武. 1981. 昭和54年度沖縄県水産試験場事業報告書_琉球列島(沖縄島以南)の海草藻場面積と主要組成: 167-176	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	196	0	0	○	○	○
当真武. 1988. 昭和61年度沖縄県水産試験場事業報告書_宮古島与那覇湾内の小規模なホンダワラ藻場について: 133-136	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0			○
当真武. 1990. 昭和63年度沖縄県水産試験場事業報告書_沖縄･宮古諸島の紅藻イワノリの生育状況(Ⅰ): 119-126	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	○		
当真武. 1993. 赤土流入のある沖縄島３地域の海草(1977-1978)現存量 平成３年度沖縄県. 水産試験場事業報告書: 135-141	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	0	0	○		
藤井琢磨. 2015. The giant brown alga *Sargassum carpophyllum* on a nearshore coral reef in Okinawa Island, Japan. Marine Biodiversity. 45: 603-604	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	○		
藤岡善三, 黒住耐二. 1980. 尖閣列島の海産貝類. 沖縄生物学会誌. (18): 51-58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	253	0	0	0		○	
藤河俊介, 浜崎活幸, 三田哲也, 石山尚樹, 水流拓馬, 團重樹, 北田修一. 2017. 石垣島と西表島沿岸域におけるオカヤドカリ. 日本生物地理学会会報. 71: 25-38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	178	0		○	
藤吉正明, 北野忠, 崎原健, 北條芳隆, 藤野裕弘, 河野裕美. 2014. 西表島の水田に生息する絶滅危惧植物5種の分布. 沖縄生物学会誌. (52): 21-29	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
藤田喜久 仲宗根一哉 金城孝一 玉城不二美 上野大輔. 2012. 久米島儀間川および白瀬川における河川環境と河川動物群集の現状. 久米島博物館紀要: 35-88	0	0	1	2	70	0	0	26	25	72	36	24	0	54	0			○
藤田喜久 北村崇明. 2010. 宮古島崎田川にて採集されたツノナガヌマエビとニセモクズガニ. 宮古島市総合博物館紀要. (14): 115-121	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	3	0			○
藤田喜久, 久保弘文. 2013. 宮古島島尻マングローブ域で発見されたキバウミニナ(軟体動物門: 腹足綱: キバウミニナ科). 沖縄生物学会誌. (51): 73-77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0			○
藤田喜久, 佐伯智史, 瀬戸文久, 福島新. 2020. 八重山諸島鳩間島の洞窟およびアンキアライン環境から採集された十脚目甲殻類3種の記録. Fauna Ryukyuana. 53: 11-14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0		○	
藤田喜久, 砂川博秋. 2008. 多良間島の洞穴性および陸性十脚甲殻類. 宮古島市総合博物館紀要. (12): 53-80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	10	0			○
藤田喜久, 諸喜田茂充. 2003. New record of a crinoid symbiotic crab, *Harrovia longipes* Lanchester, 1900 (Decapoda: Brachyura:Pilumnidae: Eumedoninae) from Japan. Crustacean Research. 32: 98-103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
藤田喜久, 諸喜田茂充. 2005. The complete larval development of *Sadayoshia edwardsii* (Miers, 1884) (Decapoda: Anomura: Galatheidae) described from laboratory-reared material. JOURNAL OF NATURAL HISTORY. 39(12): 865-886	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
藤田喜久, 上野大輔. 2011. 久米島のシオマネキ類. 久米島自然文化センター紀要: 93-103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0			○
藤田喜久, 水山克, 山田祐介. 2017. 宮古諸島下地島の海底洞窟から得られたメヒカリセキヨウエビ (十脚目: コエビ下目: セキヨウエビ科). Fauna Ryukyuana. 37: 31-33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			○
藤田喜久, 水山克. 2016. モモイロドウクツガザミの沖縄島と伊江島からの初記録. Fauna Ryukyuana. 33: 19-20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	○		
藤田喜久, 成瀬貫, 山田祐介. 2013. 宮古諸島下地島の海底洞窟で採集されたカニ類2稀種. Fauna Ryukyuana. 1: 1-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0			○
藤田喜久, 成瀬貫. 2011. *Catoptrus iejima* , a new species of cavernicolous swimming crab (Crustacea: Brachyura: Portunidae) from a submarine cave at Ie Island, Ryukyu Islands, Japan. Zootaxa. 2918: 29-38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			
藤田喜久, 成瀬貫. 2016. 宮古諸島水納島におけるサキシマオカヤドカリの記録. Fauna Ryukyuana. 28: 57-58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			○
藤田喜久, 成瀬貫. 2016. 多良間島初記録のドウクツベンケイガニ. Fauna Ryukyuana: 28-33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	2	0		○	○
藤田喜久, 大澤正幸, 久保弘文. 2017. 宮古島与那覇前浜の潮下帯砂底環境から得られた十脚目甲殻類. Fauna Ryukyuana. 34: 1-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0			○

表４－５－１（30）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
藤田喜久, 渡久地健. 2017. 伊是名島からのヤシガニの記録. Fauna Ryukyuana: 9-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0			
藤田喜久, 藤井琢磨. 2019. 徳之島および沖縄島からのドウクツベンケイガニの初記録. Fauna Ryukyuana. 48: 1-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	○		
藤田喜久, 馬場敬次, 諸喜田茂充. 2003. Larval development of *Galathea amboinensis* (Decapoda: Anomura: Galatheidae) under laboratory conditions. Crustacean Research. 32: 79-97	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
藤田喜久, 馬場敬次. 1999. Two galatheid associates of crinoids from the Ryukyu Islands (Decapoda: Anomura: Galatheidae), with their ecological notes. Crustacean Research. 28: 112-124	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	○		
藤田喜久, 北村崇明. 2010. 宮古島崎田川にて採集されたツノナガヌマエビとニセモクズガニ. 宮古島市総合博物館紀要. (14): 115-121	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0			○
藤田喜久, 野甫斉, 諸喜田茂充. 2005. アカモンガニの紋の数. CANCER. 14: 9-12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		
藤田喜久. 2017. 沖縄島におけるアサヒガニモドキの記録. Fauna Ryukyuana: 1-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
藤田喜久. 2007. 宮古の湧水に生息する十脚甲殻類. 宮古島市総合博物館紀要. (11): 89-110	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	0	0	0	11	0			○
藤田喜久. 2017. 宮古諸島水納島の十脚甲殻類相. 宮古島市博物館紀要. 21: 91-110	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	31	0			○
藤田喜久. 2009. 宮古島におけるミヤコサワガニの新たな生息地について. 宮古島市総合博物館紀要. (13): 71-76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0			○
藤田喜久. 2009. 宮古島のオカガニ類. 宮古島市総合博物館紀要. (13): 53-70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0			○
藤田喜久. 2017. 先島諸島における希少オカガニ類4種の分布記録. Fauna Ryukyuana. 36: 19-26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	0	0		○	○
藤田喜久. 2019. 八重山諸島与那国島における地下水性コエビ類 2 種の新産地記録. Fauna Ryukyuana. 51: 13-14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0		○	
藤田喜久. 2017. 与那国島におけるハマベンケイガニとイワトビベンケイガニの新産地記録. Fauna Ryukyuana. 36: 27-29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0		○	
藤田喜久. 2011. Complete larval development of crinoid-symbiotic crab, *Tiaramedon spinosum* (Miers, 1879) (Decapoda, Brachyura, Pilumnidae, Eumedoninae), described from laboratory-reared materials. Crustacean Research. 40: 57-73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		
藤田喜久. 2012. First zoea of *Porcellanopagurus truncatifrons* Takeda, 1981 (Decapoda, Anomura: Paguridae) described from laboratory-hatched material. Studies on Eumalacostraca:a homage to Masatsune Takeda. 17: 117-125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
藤田喜久. 2007. First zoeas of two shallow-water galatheids, *Lauriea gardineri* (Laurie, 1926) and *Phylladiorhynchus integrirostris* (Dana, 1853) (Crustacea: Decapoda: Anomura: Galatheidae). PROCEEDINGS OF THE BIOLOGICAL SOCIETY OF WASHINGTON. 120(1): 74-85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		
藤田喜久. 2010. Larval stages of the crinoid-associated squat lobster, *Allogalathea elegans* (Adams & White, 1848) (Decapoda: Anomura: Galatheidae) described from laboratory reared material. Crustacean Research. 39: 37-53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
藤田喜久. 2019. カワアナゴ属魚類の嘔吐物中から発見されたオハグロテッポウエビ. 宮古島市総合博物館紀要. (23): 169-172	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			○
藤田喜久. 2007. クビナシアケウスはウミシダ類に擬態しているか？. CANCER. (16): 11-16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○		
藤田喜久. 2013. 宮古諸島初記録のアシナガベンケイガニ. 宮古島市総合博物館紀要. (17): 81-86	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0			○
藤田喜久. 2018. 宮古諸島池間島･大神島･来間島の十脚甲殻類. (22): 55-76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	67	0			○
藤田喜久. 2017. 第3章海の生物 第5節甲殻類. 名護市史本編･1 自然と人I 名護やんばるの自然誌: 252-461	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	15	0	○		
藤田喜久. 2017. 八重山諸島与那国島における洞窟性十脚目甲殻類2種の新産地記録. Fauna Ryukyuana. 34: 7-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0		○	
藤田喜久. 2018. 標本を基にした宮古諸島の十脚甲殻類記録: 77-92	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	171	0			○
藤田喜久. 2009. 宮古島から得られたキノボリエビ. 沖縄生物学会誌. (47): 29-31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			○
藤田義久, 上野大輔. 2011. 久米島のシオマネキ類. 久米島自然文化センター紀要. (11): 93-103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0			○
藤田祐樹. 2009. アオアシシギとアマサギに見られる採食中の歩行動作. 沖縄県立博物館･美術館博物館紀要. 2: 1-4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
藤波不二雄. 1982. 春季の沖縄の野鳥. Strix. 1: 125	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構. 2007. 沖縄科学技術大学院大学(仮称)整備事業に係る環境影響評価書: 6章	180	427	26	92	28	1048	17	73	65	208	144	186	447	641	360	○		
読谷村 生活福祉部 健康環境課. 2014. 平成25年度 読谷村井泉(カー)環境調査委託業務 報告書: 460p	0	0	23	91	44	2855	279	109	70	59	0	24	20	17	0	○		
読谷村文化財保護委員会. 1980. 読谷の文化第2集植物編: 79	0	0	0	0	0	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
那覇市, 南風原町. 2002. 那覇市･南風原町ごみ処理施設事務組合ごみ処理施設整備事業に係る環境影響評価評価書. (V): 179-217	2	24	3	4	0	371	12	5	0	0	0	0	0	1	0	○		
内閣府沖縄総合事務局国土交通省大阪航空局. 2013. 那覇空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書. 第二分冊: 6章	49	1281	22	58	0	822	123	60	87	0	33	12	0	45	598	○		
内閣府沖縄総合事務局国土交通省大阪航空局. 2015. 那覇空港滑走路増設事業に係る事後調査報告書. 第6章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	107	○		
南九州大学人間発達学部 遠藤研究室. 2012. 平成23年度沖縄離島地域における自然の保護活用促進のための調査(ケラマジカ生息状況調査)業務: 7p	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
南風原町史編集委員会. 2000. 南風原町の植物. 南風原町史編集委員会(編), はえばるの自然と地理, 南風原町史第4巻, 自然地理本編: 159-180	0	0	0	0	0	1143	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
南條楠土, 加納光樹, 堀之内正博, 佐野光彦. 2010. 西表島浦内川のマングローブ域における澪の魚類群集構造と環境特性. 東海大学海洋研究所研究報告. 31: 31-41	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	129	0	0	0	0		○	
南條楠土, 河野裕美, 中村洋平. 2012. マングローブの生育するエリアと生育しないエリアにおける魚類群集構造と餌資源量の違い. 西表島研究：東海大学沖縄地域研究センター所報: 50-62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	201	0	0	0	0		○	
楠井善久. 2006. 石垣市内のテングチョウの観察. 琉球の昆虫. (29): 42	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
楠井善久, 楠井陽子. 2005. 伊江島、瀬底島、水納島における4月末日の蝶類の記録. 琉球の昆虫. (26): 39	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
楠井善久, 楠井陽子. 2005. 慶留間島と外地島の蝶類. 琉球の昆虫. (26): 40	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0			
楠井善久, 楠井陽子. 2006. 慶良間諸島座間味島における5月の蝶. 琉球の昆虫. (29): 40-41	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0			
楠井善久, 楠井陽子. 2005. 渡嘉敷島の4月初旬の蝶. 琉球の昆虫. (26): 39-40	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0			
楠井善久, 楠井陽子. 2006. 渡嘉敷島の早春の採集、甲虫と蝶. 琉球の昆虫. (28): 55-56	0	0	0	0	0	0	72	0	0	0	0	0	0	0	0			
楠井善久. 2009. クロマダラソテツシジミの鳩間島の発生記録. 琉球の昆虫. (33): 58	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
楠井善久. 2010. ナガンヌ島(チービシ)の蝶類. 琉球の昆虫. (34): 60	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0			
楠井善久. 2005. 伊平屋島で2月に目撃した蝶類. 琉球の昆虫. (26): 38	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0			
楠井善久. 2005. 慶留間島と外地島における7月の蝶類記録. 琉球の昆虫. (27): 24	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0			
楠井善久. 2006. 座間味島と屋嘉比島における7月下旬の蝶類の記録. 琉球の昆虫. (28): 41	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0			
楠井善久. 1991. 浜比嘉島　藪地島の蝶. 琉球の昆虫. (14): 21-22	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
楠井善久. 2005. 浮原島と南浮原島の蝶の小記録. 琉球の昆虫. (26): 38	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
二宮早由子, 井上隆彦, 中野義勝, 土屋誠. 2016. 沖縄･備瀬の礁池における海草群落の分布と底質特性. Algal Resources. 9(1): 15-23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	○		
日越国昭, 千木良芳範. 1988. 辺野喜川上流における防風樹林帯の構造について. 沖縄生物教育研究会誌. (21): 58-69	0	0	0	0	0	239	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
日越国昭, 島袋肱. 1972. 西表島仲間川のサガリバナ群落について. 沖縄生物教育研究会誌. (5): 36-44	0	0	0	0	0	393	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
日越国昭. 1968. 今帰仁村諸志御嶽の植生. 琉球大学生物クラブ誌. 10: 41-47	0	0	0	0	0	304	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		

表 4－5－1（31）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
日越国昭. 1988. 瀬底島の植生の概況. 沖縄県立博物館総合調査報告書Ⅴ 瀬底島: 7-22	0	0	0	0	0	645	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
日越国昭. 1989. 辺野喜川上流における防風林帯の構造変化1. 沖縄県立博物館紀要. 15: 23-35	0	0	0	0	0	239	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
日越国昭, 新城和治. 1987. 那覇市小禄金城俗称[上の毛]の植物. 沖縄県立博物館紀要. 13: 1-16	0	0	0	0	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
日越国昭, 新城和治, 新島義龍, 島袋曠, 宮城朝章, 宮城康一, 真志喜丈子, 新納義馬. 1987. 沖縄島国頭地域の現存植生図. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第28集, 国頭郡天然記念物緊急調査Ⅱ: 12	0	0	0	0	0	2555	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
日越国昭, 新城和治, 新納義馬, 宮城康一, 新島義龍, 島袋曠, 宮城朝章, 真志喜丈子. 1988.「安波のタナガ-グムイの植物群落」の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集, 国頭郡天然記念物緊急調査Ⅲ: 1-24	0	0	0	0	0	190	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
日越國昭, 島袋眩, 翁長丈子, 島袋正俊, 天願敏男, 新城和治. 2014. 第2章 恩納村の植物. 恩納村誌第1巻 自然編: 63-244	0	0	0	0	0	6103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
日高 浩一, 岸本 浩和, 岩槻 幸雄. 2004. ソトイワシ科魚類マルクチソトイワシ (新称) Albula glossodontaの日本からの記録. 魚類学雑誌. 51: 61-66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○		
入川暁之. 2002. 沖縄島沿岸における造礁サンゴ群集の現況. 沖縄県環境科学センター報. (4): 42-61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	○		
農林水産省. 田んぼの生きもの調査	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
波戸岡清峰, 吉野哲夫. 1998. 西部太平洋域より得られたウミヘビ科魚類ハクテンウミヘビ属(新称)の2稀種(ウナギ目). Bulletin of the Osaka Museum of Natural History. 52: 21-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
波戸岡清峰. 1996. 大阪市立自然史博物館所蔵両生爬虫類模式標本目録. 大阪市立自然誌博物館研究報告. 50: 17-43	0	0	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
波部忠重, 知念盛俊. 1974. 八重山群島石垣･西表両島の陸産貝類相とその生物地理学的意義. 国立科学博物館専報. 7: 121-128	0	0	0	0	0	0	0	0	167	0	0	8	0	0	0		○	
馬場敬次, 藤田喜久. 2008. Squat lobsters of the genus *Galathea* (Decapoda: Anomura: Galatheidae) associated with comatulid crinoids from the Ryukyu Islands, Japan. Crustacean Research. 37: 43-62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	○		
梅垣佑介, 大西敏一. 2012. 沖縄県与那国島におけるチフチャフ *Phylloscopus collybita tristis* の南西諸島初記録と国内における冬期の記録. 日本鳥学会誌. 61: 151-155	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
白井和伸. 1999. 1997年10月、久米島の蝶. 琉球の昆虫. (20): 32-33	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0			○
白井和伸. 2014. 沖縄各地未記録のチョウの記録. 琉球の昆虫. (38): 61	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
白井和伸. 2016. 慶良間諸島座間味島でヒメシルビアシジミを採集. 琉球の昆虫. (40): 102	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0			
八重山リゾート開発株式会社. 2005. 八重山リゾート開発計画に係る環境影響評価補正評価書	70	107	6	21	15	2020	76	97	16	21	32	11	283	29	31		○	
板谷浩男, 有山智樹. 2015. 沖縄県与那国島におけるキタヤナギムシクイ*Phylloscopus trochilus* の観察記録. 日本鳥学会誌. 64: 257-260	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
比嘉敦, 岩永洋志登, 藤田喜久, 岸本和雄, 香村眞徳. 2019. 宮古島の淡水産大型藻類 (池原貞雄初代会長 追悼号). 沖縄生物学会誌. (57): 229-241	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0			○
比嘉ヨシ子. 1998. 波照間島の小動物. 波照間島総合調査報告書 自然･歴史･民俗･考古･美術工芸 1998年: 32-64	0	0	0	0	0	0	22	4	19	13	0	0	0	0	0		○	
比嘉高明. 2015. ハヤブサ(ハヤブサ目: ハヤブサ科)によるヤンバルクイナ(ツル目: クイナ科)の採餌の記録. 沖縄生物学会誌. (53): 81-84	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉寿. 1985. 嘉陽の植物. あじまぁ 名護博物館紀要. (1): 55-79	0	0	0	0	0	399	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉寿, 新里孝和. 2009. 嘉津宇岳･安和岳一帯の植生と植物相. 名護市天然記念物調査シリーズ. 第7集, 嘉津宇岳～嘉津宇岳･安和岳周辺の自然～ 名護市動植物総合調査報告書2005-2008: 23-78	0	0	0	0	0	503	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉寿, 新里孝和. 2003. 名護市の植生と植物相. 名護市教育委員会文化財係(編), 名護市天然記念物調査シリーズ第5集, 名護市の自然,名護市動植物総合調査報告書1988-2002: 49-139	0	0	0	0	0	883	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一, 小浜継雄, 砂川博秋. 2015. 宮古島･来間島9月の蝶類. 琉球の昆虫. (39): 156-159	0	0	0	0	0	0	109	0	0	0	0	0	0	0	0			○
比嘉正一, 小浜継雄, 長田勝. 2013. コノハチョウの記録(2012年). 琉球の昆虫. (37): 137	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一, 野林千枝, 片野茂樹. 1998. 那覇市のトンボの記録(1996～1998年). 琉球の昆虫. (19): 33-37	0	0	0	0	0	0	0	155	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一, 野林千枝, 片野茂樹. 2003. 那覇市の蝶類の記録(1996-1998年). 琉球の昆虫. (23): 50-64	0	0	0	0	0	0	2067	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一,下地英嗣. 1978. 八重山の蝶類採集記録(1976). 琉球の昆虫. (2): 30-37	0	0	0	0	0	0	161	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
比嘉正一. 1979. 1976年 八重山で採集したトンボ類. 琉球の昆虫. (3): 47-48	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0		○	
比嘉正一. 2002. 2000年に沖縄島で記録した蝶. 琉球の昆虫. (21): 49-55	0	0	0	0	0	0	462	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2008. 2007年秋のマーキング調査報告. 琉球の昆虫. (32): 52-56	0	0	0	0	0	0	67	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2009. アサギマダラのマーキング調査(2008). 琉球の昆虫. (33): 95-96	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2010. アサギマダラマーキング調査(2009). 琉球の昆虫. (34): 103	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2013. アサギマダラマーキング調査報告(2012年). 琉球の昆虫. (37): 136	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2014. アサギマダラマーキング調査報告(2013年). 琉球の昆虫. (38): 33-42	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 1991. カバマダラの幼虫をカロトロピスで見つけた. 琉球の昆虫. (14): 38-39	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2008. クロマダラソテツシジミの異常型. 琉球の昆虫. (32): 117	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0			○
比嘉正一. 2017. シオカラトンボ、中城公園での目撃メモ. 琉球の昆虫. (41): 162	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2006. ピンクシャワーからシロチョウ類3種が羽化. 琉球の昆虫. (29): 43	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2013. フタオチョウの記録(2012年). 琉球の昆虫. (37): 138	0	0	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 1988. 伊是名島の採集報告(1987). 琉球の昆虫. (12): 65-67	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0			
比嘉正一. 2013. 沖縄の蝶類の記録(2012年). 琉球の昆虫. (37): 109-135	0	0	0	0	0	0	2928	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
比嘉正一. 2014. 沖縄県の蝶類の記録(2013年). 琉球の昆虫. (38): 123-148	0	0	0	0	0	0	3335	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2015. 沖縄県の蝶類の記録(2014年). 琉球の昆虫. (39): 132-155	0	0	0	0	0	0	3162	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2012. 沖縄島蝶類の記録(2011年). 琉球の昆虫. (36): 90-108	0	0	0	0	0	0	1904	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 1988. 久高島の鳥類(1987). 琉球の昆虫. (12): 63-64	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0			
比嘉正一. 1981. 座間味島で目撃した蝶類(1980年). 琉球の昆虫. (5): 57-58	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0			
比嘉正一. 1988. 石垣島 竹富島冬の蝶類. 琉球の昆虫. (12): 71-73	0	0	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
比嘉正一. 2005. 蝶の幼虫の捕食者、2種の記録. 琉球の昆虫. (27): 12	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2003. 蝶類の記録(1997年、1998年). 琉球の昆虫. (22): 12-22	0	0	0	0	0	0	654	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2003. 蝶類の記録(1999年). 琉球の昆虫. (22): 24-32	0	0	0	0	0	0	441	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2004. 蝶類の記録(2001年、2002年). 琉球の昆虫. (24): 51-67	0	0	0	0	0	0	1557	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2004. 蝶類の記録(2003年). 琉球の昆虫. (25): 39-51	0	0	0	0	0	0	1157	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2005. 蝶類の記録(2004年). 琉球の昆虫. (26): 22-32	0	0	0	0	0	0	868	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2006. 蝶類の記録(2005年). 琉球の昆虫. (28): 30-41	0	0	0	0	0	0	930	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2007. 蝶類の記録(2006年). 琉球の昆虫. (31): 46-55	0	0	0	0	0	0	674	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2008. 蝶類の記録(2007年). 琉球の昆虫. (32): 104-116	0	0	0	0	0	0	1141	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2009. 蝶類の記録(2008年). 琉球の昆虫. (33): 99-107	0	0	0	0	0	0	899	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2010. 蝶類の記録(2009年). 琉球の昆虫. (34): 104-108	0	0	0	0	0	0	846	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 2011. 蝶類の記録(2010年). 琉球の昆虫. (35): 25-31	0	0	0	0	0	0	1609	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 1997. 東南植物楽園内の蝶 セミ トンボ(1990～1992). 琉球の昆虫. (17): 31-37	0	0	0	0	0	0	300	64	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 1993. 東南植物楽園内の蝶類(1982～1983). 琉球の昆虫. (15): 60-72	0	0	0	0	0	0	1372	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 1982. 八重山群島の蝶類. 琉球の昆虫. (6): 73-80	0	0	0	0	0	0	243	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
比嘉正一. 1982. 本部町水納島の蝶類(1981年). 琉球の昆虫. (6): 56	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉正一. 1979. 本部町水納島の蝶類. 琉球の昆虫. (3): 29-30	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	○		

表 4－5－1（32）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
比嘉正一, 崎山仁, 喜屋武ひとみ, 後藤岳志. 1982. 八重山群島の蝶類, トンボ類(1979年). 琉球の昆虫. (6): 60-68	0	0	0	0	0	0	172	17	0	0	0	0	0	0	0		○	
比嘉敦, 岩永洋志登, 岩橋浩輔, 山本広美, 香村眞徳. 2015. 国指定天然記念物「塩川」(ヌガー)における植物の生育状況. 沖縄生物学会誌. (53): 65-76	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	18	0	0	○		
比嘉邦昭, 吉里伸, 池間幸男, 仲本興明, 慶田城健仁, 又吉勇, 大城亀信, 山城正邦, 又吉哲二, 北橋良子, 知念守. 1989. 西銘岳及びその周辺地域における鳥獣類分布調査. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅱ中間報告書: 123-182	0	598	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉邦昭, 慶田城健仁, 池間幸男, 大城亀信, 山城博明, 吉里伸, 知念守. 1990. 照首山周辺におけるロードサイド及び定点調査による鳥類分布調査. 特殊鳥類等生息環境調査Ⅲ中間報告書: 125-141	0	266	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
比嘉邦明, 池間幸男, 大城亀信, 慶田城健仁, 崇原建二. 1988. 与那覇岳及びその周辺地域におけるメッシュコードによる鳥類調査結果(中間報告). 特殊鳥類等生息環境調査中間報告書: 77-90	0	326	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
肥後伸夫. 1974. 潜水観察による人工漁礁の実態についてI：沖縄県 勝連半島周辺海域の場合. 鹿児島大学水産学部紀要. 23: 19-28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	0	○		
尾崎清明, 馬場孝雄, 米田重玄, 金城道男, 渡久地豊, 原戸鉄二郎. 2002. ヤンバルクイナの生息域の減少. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 34: 136-144	0	165	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
尾本和義. 1979. 1977年7月上旬の久米島の蝶. 琉球の昆虫. (3): 26-28	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0			○
富永智. 2008. ヤクシマルリシジミ幼虫を石垣島でマルヤマカンコノキから採取. 琉球の昆虫. (32): 96	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
富永篤, 松井正文, 中田勝士. 2015. ホルストガエルに見られる遺伝的多様性とその分布域変遷の推定. 九州両生爬虫類研究会誌. 6: 39-42	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
富田峻平, 松崎章平, 岡 慎一郎, 戸田 実, 今井秀行. 2016. 絶滅危惧種タナゴモドキ集団の高い遺伝的多様性と 遺伝的均一性. 魚類学雑誌. 63: 27-32	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
武下雅文. 1996. 日本におけるズグロカモメの生息記録. Strix. 14: 182-185	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
武田恵世. 1989. 日本列島におけるタカの渡り. Strix. 8: 35-123	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
武田正倫, 小松浩典, 鹿谷法一, 前之園唯史, 成瀬貫. 2019. 沖縄島中城湾産浅海性カ二類（鹿谷コレクション）の目録. Fauna Ryukyuana. 50: 1-69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
服部 昭尚. 1994. サンゴ礁におけるクマノミのグループ間移動と配偶者の獲得戦術. 魚類学雑誌. 41: 159-165	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
福岡雅史, 南條楠土, 佐藤守, 河野裕美. 2010. 西表島浦内川のマングローブ域におけるシレナシジミGeloina coaxansの分布特性. 東海大学海洋研究所研究報告. 31: 19-29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0		○	
福家悠介. 2016. アカマタによるリュウキュウヤマガメの捕食例. Akamata. 26: 3-7	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
福田宏, 青柳克, 亀田勇一. 2017. 沖縄県渡名喜島の非海産貝類相 (特集 沖縄県産貝類の多様性と保全). 軟体動物多様性学会. 5(1): 117-144	0	0	0	0	0	0	0	0	57	0	0	16	0	0	0			
平岡考. 1989. ズグロヤイロチョウ*Pitta sordida* の日本初記録. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 21: 283-285	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
平手康市, 下池和幸. 1995. 慶良間諸島阿嘉島において確認したタイマイ*Eretmochelys imbricata* (Linnaeus) の産卵. 沖縄生物学会誌. (33): 61-63	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
平田義弘. 1968. 沖縄新産アマオブネ科について. 沖縄生物学会誌. 5(7): 35-36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	○		
平田義浩. 1989. 佐敷町産種子植物. 佐敷町史編集委員会(編),佐敷町史三自然: 93-196	0	0	0	0	0	3382	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
平嶋健太郎, 立原一憲. 2000. 沖縄島に生息する中卵型ヨシノボリ2種の卵内発生および仔稚魚の成長に伴う形態変化. 魚類学雑誌. 47(1): 29-41	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
平嶋健太郎, 立原一憲. 2006. 沖縄島源河川におけるヨシノボリ属魚類の分布と食性. 魚類学雑誌. 53(1): 71-76	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
平野尚浩, 内田翔太, 大谷ジャーメンウィリアム, 齊藤匠, 山崎大志, 和田慎一郎. 2017. 南西諸島から新たに記録されたトガリオカクチキレ科 (腹足綱: アフリカマイマイ上科). 軟体動物多様性学会. 5(1): 83-85	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	2	0	0	0		○	○
平澤聡、中川良平、沼波信. 2006. 沖縄県宮古島仲原鍾乳洞(アブチャー)から産出したキクガシラコウモリ属標本について(予報). J.speleol.Soc,Japan. (31): 42-48	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
米田英明. 2012. 渡嘉敷島におけるクビワオオコウモリの初記録. 沖縄生物学会誌. (50): 99	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
片野茂樹. 1996. ツマムラサキマダラの観察. 琉球の昆虫. (16): 4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
片野茂樹. 1983. 伊良部島の蝶-1982年の記録-. 琉球の昆虫. (7): 89-92	0	0	0	0	0	0	63	0	0	0	0	0	0	0	0			○
片野茂樹. 1985. 石垣 バンナ岳で燃えた日々(1984年)クロタテハモドキ ミナミコモンマダラ コモンマダラを採集. 琉球の昆虫. (10): 56-57	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
豊見山元, 仲田実, 播磨保治, 比嘉正一. 1987. ハブによるヤンバルクイナの捕食. 沖縄生物学会誌. (25): 57-58	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
豊見山元. 1990. 恩納岳と周辺地域のシダ植物. 沖縄生物教育研究会誌. 19: 31-33	0	0	0	0	0	221	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
豊見山元. 1995. 久米島のシダ植物. 久米島総合調査報告書 自然･歴史･民俗･考古･美術工芸･建築 1994年: 12-25	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
豊見山元. 1998. 波照間島のシダ植物相. 波照間島総合調査報告書 自然･歴史･民俗･考古･美術工芸 1998年: 25-31	0	0	0	0	0	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
豊見山元. 1987. 琉球列島植物分布資料 4. 沖縄生物学会誌. (25): 59-61	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
北浦純, 和田恵次. 2005. オサガ二類(スナガ二上科)における捕食･腐食行動. 沖縄生物学会誌. (43): 71-73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	○	○	
北浦純, 和田恵次. 1999. 沖縄本島中城湾から本邦初記録されたミナミオサガ二(新称) Macrophthalmus brevis. 沖縄生物学会誌. (37): 57-60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
北村晃寿, 山本なぎさ, 小林小夏. 2012. 海底洞窟生微小二枚貝*Carditella iejimensis* の成長. Venus. 70: 41-45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0			
北村崇明, 岡徹, 安谷屋昇. 2009. 4.動物について. 東平安名崎根元周辺文化財及び自然環境調査報告書: 87-100	0	0	13	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
北村崇明. 2009. 地域の生物を生かした環境教育の実践 ～宮古島咲田川の水生生物相(主に甲殻類･魚類･大型水生昆虫)を通して～. 沖生教研会誌. 41: 23-31	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0			○
北大東村誌編集委員会. 1986. 北大東島の主な現存植生. 北大東村誌: 26-39	0	0	0	0	0	295	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
北野忠, 渡辺健太, 崎原健, 北條芳隆, 河野裕美. 2014. 西表島におけるマルタニシの利用と西部のミナピシ地区で確認された個体群の由来. 西表島研究: 東海大学沖縄地域研究センター所報: 44-49	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		○	
堀田政男. 1985. 伊是名島のモンキチョウとウラナミシジミ. 琉球の昆虫. (10): 125-126	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0			
堀田政男. 1987. 八重山諸島の蝶1974年の採集記録. 琉球の昆虫. (11): 22-26	0	0	0	0	0	0	107	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
堀之内 正博, 中村 洋平, 佐野 光彦, 澁野 拓郎. 2005. 沖縄県石西礁湖における海草藻場保全地域の選定に関する研究:どの海草藻場を保全すれば魚類の種多様性が維持できるか. 汽水域研究. 12: 63-67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	77	0	0	0	0		○	
本川雅治. 1997. 沖縄諸島におけるワタセジネズミ *Crocidura watasei* Kuroda, 1924 (食虫目トガリネズミ科) の新産地と歯数異常. 沖縄生物学会誌. (35): 43-46	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
本村浩之, 吉野哲夫, 高村直人. 2004. 日本産フサカサゴ科オニカサゴ属魚類(Scorpaenidae: Scorpaenopsis)の分類学的検討. 魚類学雑誌. 51(2): 89-115	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0	○	○	
本多正尚. 2015. 屋我地島と古宇利島のオキナワキノボリトカゲ(爬虫綱:アガマ科)の確認記録. Akamata. 25: 25-27	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
本門奈央子, 土屋誠. 2007. 沖縄島大度海岸にヒメサンゴヤドリガニ*Pseudohapalocarcinus ransoni* と宿主サンゴの分布. 琉球大学21世紀プログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」平成18年度成果発表会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	○		
又吉盛健, 大城信弘, 喜友名孝子, 干川裕, 三井興治, 熊谷英子. 1978. イボイモリの産卵について. 沖縄生物学会誌. (16): 11-16	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		

表 4－5－1（33）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
又吉盛健, 大城信弘, 喜友名孝子, 干川裕, 三井興治, 熊谷英子. 1977. 沖縄島におけるイボイモリの分布について. 沖縄生物学会誌. (15): 1-4	0	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
湊 宏. 1980. 宮古群島の陸産貝類相. 貝類学雑誌. 39(2): 83-99	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0			○
湊宏. 1976. 与那国島の陸産貝類相. 貝類学雑誌. 35(4): 163-183	0	0	0	0	0	0	0	0	55	0	0	5	0	0	0		○	
湊宏. 1982. 沖永良部島·久米島のオキナワヤマタカマイマイ種群. 貝類学雑誌. 40(4): 187-194	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0			○
湊宏. 1981. 日本産陸棲貝類の生殖器の研究XVII キセルガイ科(4):琉球列島産の5種. 貝類学雑誌. 39(4): 236-242	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0			
名護市教育委員会. 2009. 嘉津宇岳～嘉津宇岳·安和岳周辺の自然～ 名護市動植物総合調査報告書2005-2008. 名護市天然記念物調査シリーズ. 第7集: 1-208	0	138	134	105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
名護市教育委員会. 2006. 名護市天然記念物調査シリーズ 第6集 名護岳: 1-214	0	49	53	2	0	0	32	14	0	0	0	0	0	0	0	○		
名護市教育委員会. 1999. 名護市天然記念物調査報告4 名護市動植物総合調査報告 名護市の淡水魚類: 1-119	0	0	0	0	801	0	0	0	0	0	506	0	0	0	0	○		
名護市教育委員会社会教育課文化財係. 2003. 名護の自然·第2集: 229p	0	0	12	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
名護市史編さん委員会. 2017. 第6章 陸の動物 第2節 陸産貝類. 名護市史本編1 自然と人I 名護やんばるの自然誌: 436-455	0	0	0	0	0	0	0	0	568	0	0	0	0	0	0	○		
名蔵アンパルガイドブック制作委員会. 2013. 第３章アンパルの生き物たち. 名蔵アンパルガイドブック: 18-92	0	166	6	6	0	38	0	4	0	14	0	27	0	34	0		○	
名波敦, 西平守孝. 2007. 沖縄海岸海中公園におけるサンゴ礁の魚類相. 沖縄生物学会誌. (45): 15-26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	○		
名和純. 2000. 沖縄県における干潟と低湿地の貝類の現状. 特殊鳥類等生息環境調査XI(改訂版) 湿地(水辺環境)編総括 -沖縄県内の水辺環境に生息する生物種の概要-: 103-129	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	47	0	0	0	○	○	○
名和純. 2001. 琉球列島における内湾干潟の貝類相. WWF Japan science report. 4: 1-44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	627	0	0	0	○	○	○
明仁親王, 目黒勝介. 1982-1983. 沖縄県で採集された新種*Myersina nigrivirgata* クロオビハゼ. 魚類学雑誌. 29: 343-348	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
明仁親王, 目黒 勝介. 1978. 沖縄県石垣島で採集された日本初記録のハゴロモハゼ(新称)*Mnersina macrostoma* . 魚類学雑誌. 24: 295-299	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
明仁親王, 目黒勝介. 1979. Sicydium 属と Sicyopterus 属の相違について. 魚類学雑誌. 26(2): 192-202	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
明仁親王, 目黒勝介. 1975. ナメラハゼについて. 魚類学雑誌. 22(2): 112-116	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○		
明仁親王, 目黒勝介. 1975. ヒナハゼの学名について. 魚類学雑誌. 22(1): 49-52	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○	○	○
明仁親王, 目黒勝介. 1974. ホシマダラハゼ(新称) *Ophiocam Porocephala* とタメトモハゼ Ophieleotris aporos について. 魚類学雑誌. 21(2): 72-84	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
明仁親王, 目黒勝介. 1975. 沖縄県産のスナゴハゼ(新称) *Pseudogobius javanicus* について. 魚類学雑誌. 22(1): 46-48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	○	○	
明仁親王, 目黒勝介. 1975. 沖縄県産のハスジマハゼ(新 称) *Cryptocentroides insignis* について. 魚類学雑誌. 21(4): 231-232	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0		○	
明仁親王, 目黒勝介. 1977. 沖縄県石垣島で採集された日本初記録のウチワハゼ(新称) *Mangarinus waerousi* . 魚類学雑誌. 24(3): 223-226	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0		○	
明仁親王, 目黒勝介. 1975. 西表島で採れたイワハゼ(新称) *Glossogobius celebius* について. 魚類学雑誌. 21(4): 227-230	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
明仁親王, 目黒勝介. 1977. 日本で採集されたオキナワハゼ属5種及びその類縁関係. 魚類学雑誌. 24(2): 113-127	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	○	○	
明仁親王, 目黒勝介. 1980. 日本で採集されたクモハゼ属 Bathygobius 6種について. 魚類学雑誌. 27(3): 215-236	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	○	○	
明仁親王. 1963. ハゼ科魚類の肩胛骨につて. 魚類学雑誌. 11(1/2): 1-26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○		
明仁親王. 1971. ハゼ科魚類の上顳顬骨について. 魚類学雑誌. 18(2): 57-64	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	○	○	
明仁親王. 1969. ハゼ科魚類の中翼状骨, 後鎖骨, 鰓条骨, 腹鰭, 肩胛骨, 眼下骨に基づく分類の検討. 魚類学雑誌. 16(3): 93-114	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	○	○	○
明仁親王. 1967. 続ハゼ科魚類の肩胛骨について. 魚類学雑誌. 14(4/6): 167-182	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	○	○	
明仁親王. 1967. 日本産ハゼ科魚類カワアナゴ属の4種について. 魚類学雑誌. 14(4/6): 135-166	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
茂田良光, 尾崎清明. 1999. 標識調査で確認された日本新記録の鳥種 (1). 日本鳥類標識協会誌. 14(1): 1-9	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
木寺法子, 下瀬環, 新盛基史. 2016. 石垣島で観察された鳥類2種とヘビ類1種によるキシノウエトカゲ Plestiodon kishinouyei (有鱗目:トカゲ科)の捕食. 沖縄生物学会誌. (54): 27-31	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
木寺法子, 戸田守. 2010. 八重山諸島の上地島(新城島)および嘉弥真島の両生爬虫類相. AKAMATA. 21: 44-49	0	0	1	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
木場一夫. 1959. 奄美群島の爬虫·両棲相 (Ⅲ). 熊本大学教育学部紀要. 7: 187-202	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		○
木村昭一, 久保弘文, 木村妙子, 増田修. 2006. 石垣島に生息するヘゴノメミミガイ. ちりぼたん. 37(2): 57-61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0		○	
木村正明, 杉本雅志, 稲田悟司. 1999. 那覇市黄金森の昆虫、1996～97年の記録. 琉球の昆虫. (20): 40-50	0	0	0	0	0	0	66	23	0	0	0	0	0	0	0	○		
木村正明, 杉本雅志, 稲田悟司. 1999. 那覇市識名園の昆虫、1996～97年の記録. 琉球の昆虫. (20): 34-39	0	0	0	0	0	0	12	8	0	0	0	0	0	0	0	○		
木村正明 杉本雅志 稲田悟司. 1998. 那覇市弁ヶ岳公園の昆虫、1996～1997年の記録. 琉球の昆虫. (19): 24-33	0	0	0	0	0	0	101	18	0	0	0	0	0	0	0	○		
木村正明, 杉本雅志, 稲田悟司. 1998. 那覇市末吉公園の昆虫、1996～97年の記録. 琉球の昆虫. (18): 20-34	0	0	0	0	0	0	158	28	0	0	0	0	0	0	0	○		
木村正明 杉本雅志. 1996. キョウチクトウからツマムラサキマダラの蛹を発見. 琉球の昆虫. (16): 4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
木村正明. 1996. 1993·1994年に久米島で確認した蝶の記録. 琉球の昆虫. (16): 17-20	0	0	0	0	0	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0			○
木村正明. 1997. 1995年6月 尖閣諸島北小島の昆虫(2). 琉球の昆虫. (17): 38	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0		○	
木村正明. 2004. 2003年 カワカミシロチョウの記録. 琉球の昆虫. (24): 70	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
木村正明. 2003. 2003年5月～6月 沖縄島におけるアサギマダラ·マーキングデータ. 琉球の昆虫. (23): 83	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
木村正明. 1998. ヒメイトトンボ、石垣島の記録. 琉球の昆虫. (18): 39	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0		○	
木村正明. 2003. 浦添大公園で実施した蝶のラインセンサス(2002年度). 琉球の昆虫. (22): 38-53	0	0	0	0	0	0	818	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
木村正明. 1998. 沖縄島、大宜味村と宜野湾市におけるベニモンアゲハの記録. 琉球の昆虫. (19): 43	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
木村正明. 1999. 沖縄島中部(名護市より南)のフタオチョウの記録. 琉球の昆虫. (20): 55	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
木村清志, 佐土哲也, 岩槻幸雄, 吉野哲夫. 1999. 石垣島で採集された日本初記録のカタクチイワシ科魚類 ヤエヤマアイノコイワシ(新称) *Stolephorus commersonnii* . 魚類学雑誌. 46(1): 45-50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
木村良子, 木村清志, 吉郷英範, 吉野哲夫. 2006. 日本初記録のヒイラギ科魚類2種. 魚類学雑誌. 53(1): 83-87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○		○
目黒勝介. 1972. コモチサヨリ属(新称)の分布の北限として沖縄県で得られたコモチサヨリ(新称)の記載. 魚類学雑誌. 19(3): 186-190	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
野村恵一. 2000. 日本産アカマダラテッポウエビの宿主と色彩変異. 沖縄生物学会誌. (38): 59-64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		○	
野村穣, 佐藤治雄. 1963. 西表島の植生. 大阪市立大学八重山群島学術調査隊(編), 八重山群島学術調査報告	0	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	

表 4－5－1（34）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
野中圭介, 興那覇健次. 2010. 沖縄島泡瀬産リュウキュウアマモ *Cymodoceaserrulat* αの開花過程. 藻類. 58(1): 123-128	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	○		
野林千枝, 渡辺清. 1988. 短報2題. 琉球の昆虫. (12): 26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1996. 1990～94年沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (16): 24-25	0	0	0	0	0	0	3856	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1996. 1990～94年沖縄島及び周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (16): 21-37	0	0	0	0	0	0	289	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1998. 1995～96年 沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (18): 10-11	0	0	0	0	0	0	5334	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1998. 1995～96年沖縄島及び周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (18): 1-18	0	0	0	0	0	0	343	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1996. 1995年のカワカミシロチョウの記録. 琉球の昆虫. (16): 8	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2002. 1997年 沖縄島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (21): 34-39	0	0	0	0	0	0	1195	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2002. 1998年 沖縄島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (21): 40-48	0	0	0	0	0	0	2471	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2003. 1999年の沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (22): 1-11	0	0	0	0	0	0	2335	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2003. 2000～2001年 沖縄島及周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (23): 65-79	0	0	0	0	0	0	3321	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2004. 2002年 沖縄島及周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (24): 42-50	0	0	0	0	0	0	1641	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2004. 2003年 沖縄島及び周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (25): 29-38	0	0	0	0	0	0	2685	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2004. 2003年沖縄島におけるカワカミシロチョウの記録. 琉球の昆虫. (24): 68-69	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2005. 2004年 沖縄島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (26): 14-21	0	0	0	0	0	0	2114	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2006. 2005年 沖縄島の蝶類の記録. 琉球の昆虫. (28): 42-45	0	0	0	0	0	0	707	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2006. 2005年･秋のアサギマダラ･マーキングの記録. 琉球の昆虫. (28): 1-8	0	0	0	0	0	0	80	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2007. 2006年･沖縄島及び周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (31): 34-43	0	0	0	0	0	0	1578	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2007. 2006年･秋のアサギマダラ･マーキングの記録. 琉球の昆虫. (31): 25-33	0	0	0	0	0	0	63	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2007. 2006年･春期のアサギマダラ･マーキングの記録. 琉球の昆虫. (31): 23-24	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2009. 2007･2008年 ウラナミシジミの記録. 琉球の昆虫. (33): 67-74	0	0	0	0	0	0	78	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2008. 2007年･アサギマダラ･マーキングの記録. 琉球の昆虫. (32): 45-51	0	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
野林千枝. 2008. 2007年･沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (32): 57-79	0	0	0	0	0	0	1761	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
野林千枝. 2009. 2008年･沖縄島及び周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (33): 74-87	0	0	0	0	0	0	1604	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2010. 2009年･沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (34): 71-82	0	0	0	0	0	0	1227	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2010. 2009年･沖縄島のアサギマダラ･マーキングと蝶の渡りについて気儘に考えてみた. 琉球の昆虫. (34): 83-93	0	0	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2011. 2010年･沖縄島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (35): 5-14	0	0	0	0	0	0	1220	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2012. 2011年･沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (36): 111-121	0	0	0	0	0	0	1104	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2013. 2012年･沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (37): 71-82	0	0	0	0	0	0	1370	1	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2014. 2013年･アサギマダラのマーキング記録. 琉球の昆虫. (38): 45-48	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2014. 2013年･沖縄島および周辺離島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (38): 68-108	0	0	0	0	0	0	3978	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2015. 2014年･沖縄島の蝶の記録. 琉球の昆虫. (39): 160-193	0	0	0	0	0	0	199	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1991. 8月のアサギマダラの記録. 琉球の昆虫. (14): 24	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2007. オオゴマダラの斑紋変異と異常型. 琉球の昆虫. (31): 44-45	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1993. シルビアシジミの異常型. 琉球の昆虫. (15): 31	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1993. シロオビアゲハ雌の異常型. 琉球の昆虫. (15): 31	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1998. ツマムラサキマダラ成虫捕食者の観察記録. 琉球の昆虫. (18): 19	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1987. フタオチョウの交尾に関する記録. 琉球の昆虫. (11): 47	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2004. フタオチョウの南下について. 琉球の昆虫. (25): 1-8	0	0	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1987. ヤエヤマムラサキに関する覚え書. 琉球の昆虫. (11): 15	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
野林千枝. 2006. 浦添大公園･Bゾーンに掛けたトラップで記録した昆虫類. 琉球の昆虫. (30): 36-38	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1996. 沖縄島でウスコモンマダラを採集. 琉球の昆虫. (16): 7	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1996. 沖縄島でタイワンアオバセセリを採集. 琉球の昆虫. (16): 7	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1985. 沖縄島で採集した迷蝶3種. 琉球の昆虫. (10): 124	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1993. 沖縄島の迷蝶2題. 琉球の昆虫. (15): 29-30	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2002. 沖縄島南部のフタオチョウの記録. 琉球の昆虫. (21): 22	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 2006. 嘉数高台公園に掛けたトラップで記録した昆虫類. 琉球の昆虫. (30): 38-39	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
野林千枝. 1987. 蝶に関する短報4題. 琉球の昆虫. (11): 49	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
矢部隆, 服田昌之. 1996. 慶良間列島阿嘉島に帰化したミナミイシガメについて. みどりいし. (7): 25-27	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
矢野晴隆, 上田恵介. 2005. リュウキュウアカショウビンによる発泡スチロール製人工営巣木の利用. 日本鳥学会誌. 54: 49-52	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
柳谷和彦, 田中直美, 土屋誠. 1987. 沖縄県米須海岸におけるオカヤドカリ類の貝殻資源と行動. 沖縄生物学会誌. (25): 43-52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	○		
友利博一, 梶原健次. 2009. 宮古諸島の礁原におけるサンゴ礁モニタリング. 宮古島市総合博物館紀要. (13): 77-86	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6			○
有限会社海游. 2011. 平成22年度西表石垣国立公園海域公園地区モニタリング業務報告書: 170p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	330	40	64	2	418		○	
有限会社海游. 2012. 平成23年度西表石垣国立公園海域公園地区モニタリング業務報告書: 121p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	554	15	107	0	248		○	
与那原正勝. 2014. ホトトギスをルリタテハが摂食. 琉球の昆虫. (38): 65-66	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
与那原正勝. 1993. 南大東島で採集したチョウ トンボ(1992年). 琉球の昆虫. (15): 26	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0			
与那城義春, 池原貞雄. 2002. 硫黄鳥島の鳥類. 沖縄県史 資料編13 硫黄鳥島 自然環境1. (13): 151-160	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
与那城義春. 1998. キジバトの繁殖. 沖縄県立博物館紀要. 24: 69-74	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
与那城義春. 1999. セッカの繁殖. 沖縄県立博物館紀要. 25: 69-74	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
与那城義春. 2000. メジロの繁殖. 沖縄県立博物館紀要. 26: 21-26	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
与那城義春. 2004. 西原町の哺乳類･鳥類. 西原町史付属刊行物 西原町の自然 ～動物･人と自然の関わり～: 3-18	10	204	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
与那城義春. 2007. 第2章 残された自然 沖縄市の鳥類. 沖縄市史 第4巻 自然･地理･考古編 自然編: 91-100	0	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
与那城義春. 1998. 波照間島の鳥類調査. 波照間島総合調査報告書: 87-95	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
与那城義春. 1971. リュウキュウヒヨドリの活動時間と食性. 沖縄生物学会誌. 7(9): 38-40	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
葉田敬子. 2013. オキナワイシカワガエル*Odorrana ishikawae* の体色変異個体. 爬虫両棲類学会報. 2: 98-99	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
葉田敬子. 2013. ムカデによるクロイワトカゲモドキの捕食例. 爬虫両棲類学会報. 2: 99-100	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
立原一憲, 中尾耕平, 徳永桂史, 津波古優子, 高田未来美, 下瀬環. 2003. 沖縄島、宮古島、石垣島および西表島のマングローブ水域における魚類相. Bulletin of the Society of Sea Water Science, Japan. 57: 481-490	0	0	0	0	47	0	0	0	0	0	258	0	0	0	0	○	○	○
立原一憲, 中尾耕平, 徳永桂史, 津波古優子. 2002. マングローブ水域の魚類相 沖縄島慶佐次川のマングローブ水域に出現する魚類相. 平成13年度内閣府委託調査研究 マングローブに関する調査研究報告書: 37-71	0	0	0	0	114	0	0	0	0	0	555	0	0	0	0	○	○	○
立原一憲. 琉球列島の中卵型ヨシノボリ属2種: 島嶼の河川で進化してきたヨシノボリ類の保全と将来. 魚類学雑誌. 56(1): 70-74	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
立松沙織, 南條楠土, 河野裕美. 2013. マングローブ域における護岸造成が魚類群集構造に与える影響. 沖縄生物学会誌. (51): 27-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68	0	0	0	0		○	
立石庸一, 横田昌嗣, 新城和治, 平岩篤, 新納義馬. 2002. 硫黄鳥島の植物相. 沖縄県史 資料編13 硫黄鳥島 自然環境1. (13): 57-104	0	0	0	0	0	396	0	0	0	0	0	0	0	0	0			○
立石庸一, 宮城直樹, 脇田悟寿. 2011. 沖縄県の離島, へき地における自然教育のための基礎資料の充実(4)本部町水納島の植物相と注目すべき植物. 琉球大学教育学部紀要. 78: 139-156	0	0	0	0	0	344	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
琉球新報. 2012. 珪藻付着で死滅 瀬底島近海のコモンサンゴ. 琉球新報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 安波のサキシマスオウノキ. 文化財要覧1960年版: 1-91	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		

表 4－5－1（35）．生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数															地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	沖縄島	八重山	宮古・久米島
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 安波のタイナガーグムイ植物群落. 文化財要覧1960年版: 1-91	0	0	0	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 宮鳥御嶽のリュウキュウチシャノキ. 文化財要覧1960年版: 1-91	0	0	0	0	0	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 宮良川のヒルギ林. 文化財要覧1960年版: 1-91	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 慶佐次湾のヒルギ林. 文化財要覧1960年版: 1-91	0	0	0	0	0	77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 荒川のカンヒザクラ. 文化財要覧1960年版: 1-91	0	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 星立のヒルギ, ミミモチシダ, ノヤシ群落. 文化財要覧1960年版: 1-91	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 船浦のニッパヤシ群落. 文化財要覧1960年版: 1-91	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 船浮のヤエヤマハマゴウ. 文化財要覧1960年版: 1-91	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 仲間川のヒルギ林. 文化財要覧1960年版: 1-91	0	0	0	0	0	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 平久保のヤエヤマシタン. 文化財要覧1960年版: 1-91	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
琉球政府文化財保護委員会. 1960. 米原のノヤシ. 文化財要覧1960年版: 1-91	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
琉球大学. 2006-2008. イリオモテヤマネコ 生息状況等総合調査(第4次)報告書: 178	0	0	0	0	0	388	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
琉球大学. 2014. 西表·石垣沿岸の水深30～55mより発見された大規模な中深度サンゴ群集. プレス発表資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○		
琉球大学資料館(風樹館). 2010. 琉球大学資料館(風樹館)収蔵資料目録 第3号:琉球大学資料館(風樹館)甲殻類標本目録(3). (3): 9-61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	211	0	0	0	368	0	○	○	○
琉球列島鳥類研究会, 環境省沖縄奄美地区自然保護事務所. 2004. 平成15年度大東諸島環境情報収集調査報告書: 69p	51	120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
両角健太, 南條楠士, 福岡雅史, 河野裕美. 2012. 西表島浦内川のマングローブ域に生息するキバウミニナ*Terebralia palustris* の産卵生態. 沖縄生物学会誌. (50): 17-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		○	
緑地研究会. 1974. 社寺林の研究. 森林: 222p	0	0	0	0	0	825	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
緑地研究会. 1977. 社寺林の研究6. 森林: 235p	0	0	0	0	0	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
緑地研究会. 1977. 社寺林の研究8. 森林: 171p	0	0	0	0	0	184	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	○
林 公義, Randall J.E. 1989-1990. 西部太平洋産テンジクダイ科の1新種*Apogon selas* . 魚類学雑誌. 36: 399-403	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0		○	
林 公義. 1980-1981. 石垣島より得られた日本初記録のテンジクダイ科魚類3種. 魚類学雑誌. 27: 261-267	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0		○	
林原毅. 1996. 阿嘉島の淡水域に生息する甲殻類と魚類. みどりいし. (7): 28-30	0	0	0	0	7	0	0	0	0	13	0	0	0	4	0			
林野庁. 森林生態系多様性基礎調査	0	0	0	0	0	1862	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	
嶺井久勝. 1966. 琉球列島のオカガニ類. 沖縄生物学会誌. 3(5): 8-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	○	○	○
鈴木 寿之, 瀬能 宏. 1994. 西部太平洋産ハゼ科魚類の1新種ヒメサツキハゼ. 魚類学雑誌. 41(3): 281-286	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0		○	
鈴木賀与, 鳥居憲親, 桑原崇, 寺田早百合, 牛田博, 前潟光弘, 桜谷保之. 2011. 沖縄県八重山諸島で記録された鳥類. 近畿大学農学部紀要. 44: 151-161	0	135	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
鈴木雅子. 2017.ジュゴンの生息環境調査と保護活動. けーし風. (96): 26-28	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
鈴木寿之, 瀬能宏, 吉野哲夫, 細川正富, 吉郷英範. 1995. 西表島で採集された日本初記録のエリトゲハゼ(新称). I. O. P. DIVING NEWS. 6(2): 4-6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
鈴木寿之, 瀬能宏, 世古徹. 2011. 沖縄島で採集された日本初記録のサオトメハゼ (新称)(スズキ目ハゼ科). 神奈川県立博物館研究報告 自然科学. 40: 61-66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○	○	
鈴木寿之, 瀬能宏, 矢野維幾, 米沢俊彦, 大迫尚晴. 2009. 琉球列島で採集された日本初記録のハゼ科魚類4種. 大阪市立自然史博物館研究報告. 63: 1-10	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○	○	
鈴木寿之, 大迫尚晴, 瀬能宏. 2008. 日本初記録のハゼ科魚類カブキハゼ(新称). 日本生物地理学会会報. 63: 81-86	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	○	○	○
鈴木寿之. 2004. 西表島浦内川の魚類とその存続の危機. 理科通信サイエンスネット. 22: 8-11	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	23	0	0	0	0		○	
鈴木優子. 1999. 沖縄島南部地域におけるシロガシラ*Pycnonotus sinensis* の個体数と餌量の季節変動. 九州病害虫研究会報. 45: 80-83	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
脇田悟寿, 與座(仲本)優子, 来間和菜, 傅田哲郎, 立石庸一. 2005. 琉球列島のモダマ類. 分類. 5(1): 9-19	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
國島大河, 西丸裕敏, 立原一憲. 2014. 沖縄島佐敷干潟におけるスナゴハゼ*Pseudogobius javanicus* とマサゴハゼ*P. masago* の生息環境. 魚類学雑誌. 60: 59-68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○		
澤田勇. 1994. 日本のコウモリ洞総覧. 自然誌研究雑誌. (2, 3, 4): 53-80	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○	○
澤田勇. 2002. 日本産コウモリの寄生線虫類総覧. 奈良産業大学『産業と経済』. 17(5): 81-85	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○	
澤岻安喜. 2000. 宜野湾市の植物相. 宜野湾市教育委員会文化課(編), 宜野湾市史第9巻資料編8自然: 255-324	0	0	0	0	0	1839	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
籠島恵介. 2011. 沖縄本島における *Ipomoea* 属 2種の花に対するメジロの盗蜜行動. Bird Research. 7: S1-S4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
籠島恵介. 2012. 沖縄本島におけるメジロによるハイビスカス花への盗蜜被害率の周年変化. Bird Research. 8: S5-S9	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		
與那嶺盛次. 1980. オトヒメエビの繁殖生態. 沖縄生物学会誌. (18): 39-43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○		
饒平名里美, 当山昌直, 安川雄一郎, 陳賜隆, 高橋健, 久貝勝盛. 1998. 宮古諸島における陸棲爬虫両生類の分布について. 平良市総合博物館紀要. (5): 23-38	0	0	131	283	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○		○
齊藤匠, 平野尚浩, 内田翔太, 山崎大志. 2017. 西表島で確認されたヘゴノメミミガイ (真有肺目: オカミミガイ科)(特集 沖縄県産貝類の多様性と保全). 軟体動物多様性学会. 5(1): 113-115	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0		○	
齊藤匠, 平野尚浩, 内田翔太, 山崎大志. 2017. 石垣島および西表島におけるヒメヒラマキミズマイマイ (腹足綱: ヒラマキガイ科) の発見. 軟体動物多様性学会. 5(1): 79-82	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2	0	0	0		○	

（３）生物文化に関する参考文献等

第２章－２で解析手法を示した生物文化について、情報源を表 ４－５－２ に示す。合計 137 冊の字誌、市町村誌、専門書について調査を実施した。

表 4－5－2（1）．生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年	生物文化記載有無
1	宮古島市	池間島大橋開通記念	川上哲也	1992	○
2		池間島史誌	大井浩太郎	1984	○
3		池間島のミャークヅツ	池間島民謡保存会	1981	○
4		池間島の民謡	前泊徳正	1982	
5		伊良部郷土誌	大川恵良	1974	○
6		伊良部島調査報告書－地域研究シリーズ No.4－	沖縄国際大学南島文化研究所	1983	○
7		伊良部島の女乃くらし（農村高齢者生活誌）	与那覇ハル・国吉幸子//編	1983	○
8		伊良部村郷土史	島尻實永	1940	○
9		伊良部村史	川満昭吉	1978	○
10		伊良部村の庶民史※マイクロフィルム複製本 2010	川満昌尹	1963	○
11		いらぶの自然　植物編	いらぶの自然編集委員会//編	1995	○
12		いらぶの自然　動物編	いらぶの自然編集委員会//編	1990	○
13		上野	「上野」編集委員　会〃編	1982	
14		上野村誌（村制 40 周年版）	砂川功	1988	○
15		ウプシ　大神島生活誌	「ウプシ　大神島生活誌　編集委員会」編	2017	○
16		浦島物語－宮古島時代推理小説－	上地盛光	1992	
17		うるか字誌	うるか字誌編集委員会	2015	○
18		大嶺(うぷんみ) 分字 35 周年記念誌	記念誌刊行委員会〃編	1989	
19		沖縄･久高島のイザイホー（琉球弧叢書２）	湧上元雄・赤嶺政信・大城学・宮里千里・古橋信孝・かりまたしげひさ・新里幸昭・上原孝三	1993	○
20		沖縄池間島民俗誌	野口武徳	1972	○
21		沖縄芸術の科学 第 24 号　宮古島西原の祭祀用具について	上原 孝三	2012	○
22		沖縄県史研究叢書18　沖縄の民俗資料(下)	沖縄県教育庁文化財課史料編集班	2018	○
23		沖縄県天然記念物調査シリーズ第46集　キシノウエトカゲ生息実態調査報告書	沖縄県教育庁文化財課編	2013	○
24		沖縄・素潜り漁師の社会誌	高橋そよ	2018	○
25		沖縄文化 第 66 号(第 22 巻 2 号)	『沖縄文化』編集所/編	1986	
26		沖縄文化 第 67 号(第 23 巻 1 号)	『沖縄文化』編集所/編	1986	
27		沖縄文化　沖縄文化協会創設四〇周年記念誌	『沖縄文化』編集所/編	1989	
28		沖縄文化 第 110 号(第 45 巻 2 号)	『沖縄文化』編集所/編	2011	
29		沖縄・宮古島狩俣民俗史	狩俣吉正	2011	
30		沖縄民俗 15 周年記念号 22 号　宮古平良市島尻・西原村棚原	平良克巳	1976	○
31		沖縄民俗第 19 号　池間島、島尻部落報告	琉球大学民俗芸能研究クラブ	1972	○
32		沖縄民俗第 12 号　狩俣･熱田部落調査報告	伊礼百合子（責任）	1966	○
33		沖縄民俗第 18 号　砂川部落･南風原部落報告	奥村幸巳（責任）	1970	○
34		沖縄民俗薬用動植物誌	前田光康・野瀬弘美	1989	○
35		加治道部落沿革史	城辺町教育委員会〃[編]	2002	
36		狩俣民俗史	上地太郎	1980	○
37		郷里・郷友を結ぶ『ういづ』	洲鎌良平	1987	○
38		城辺町史　第 5 巻民話編	城辺町史編纂委員会//編	2005	○
39		ぐすくべの方言語彙 下 西里添・福里・長間・比嘉	城辺町教育委員会〃[編]	2004	
40		ぐすくべの方言語彙 上 友利・砂川・下里添・新城・保良	城辺町教育委員会〃[編]	2003	

表４－５－２（2）．生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年	生物文化記載有無
41	宮古島市	くばがさ 創刊号・1994	関東下地郷友会事務局∥[編]	1994	
42		在沖狩俣郷友会 30 周年記念誌	在沖狩俣郷友会 30 周年記念事業期成会	1999	
43		在沖城辺町郷友会 30 周年記念誌 宮古島「ぐすくべ」	在沖城辺町郷友会∥[編]	1984	
44		在沖砂川郷友会結成 25 周年記念誌	25 周年記念誌実行委員会	1992	
45		在沖西辺郷友会結成 30 周年記念誌 躍進・西辺	記念事業期成会・編集委員会	1996	
46		サシバ日和	謝花勝一	1997	○
47		下地町誌 町制 40 周年記念版	下地町役場総務課	1989	○
48		写真集 上野 くらしの移り変わり	上野村役場∥編	1998	
49		昭和初期よりの保良風俗史	松川寛良	1992	○
50		創立五十周年記念誌 ひさまつ	創立五十周年記念誌編集委員会∥編	2012	○
51		第 3 回宮古島の神と森を考える会 報告書	宮古島の神と森を考える会//編	1996	
52		町政 20 周年記念誌　下地町	町政施行 20 周年記念誌編纂委員会	1969	○
53		東北学 vol.3 もうひとつの東北から	赤坂 憲雄/編	2000	○
54		仲地の今昔	山城晶輝//編	1976	○
55		西原創立百周年記念誌	西原創立百周年記念誌編集委員会	1974	○
56		日本の民俗　南島の暮らし	古家信平・小熊誠・萩原左人	2009	
57		比嘉大泉（ウプカー）－農村高齢者生活誌	宮古農業改良普及所	1984	○
58		東底原郷土史	砂川泰信	1974	○
59		比嘉部落沿革誌（第１巻）	沿革誌編集委員会	1985	
60		光るナナムイの神々　沖縄・宮古島～西原～	比嘉 豊光	2001	○
61		ぴゃうなだつ 在沖保良郷友会 20 周年記念誌	[在沖保良郷友会∥ 編]	1989	
62		平良市史　第７巻（民俗・歌謡）	平良市史編さん委員会／編	1987	○
63		宮古研究　第 10 号	宮古郷土史研究会/編	2010	
64		宮古研究　第 12 号	宮古郷土史研究会/編	2014	
65		宮古島郷土誌	宮古教育部会	1937	
66		宮古島郷土史考	砂川明芳	1976	
67		宮古島郷土史考　第５部	砂川明芳	1989	
68		宮古島郷土史考　第３部	砂川明芳	1984	
69		宮古島郷土史考第７部	砂川明芳	1993	
70		宮古島郷土史考　第２部	砂川明芳	1981	○
71		宮古島郷土史考　第４部	砂川明芳	1986	
72		宮古島市史資料 6　ユナンダキズマ むかしの暮らし	謝敷正市	2015	○
73		宮古島市史資料４　郷土誌	宮古島市教育委員会生涯学習振興課／編	2012	
74		宮古島市史資料 5　宮古方言集　第１集	下地盛路	2014	
75		宮古島市史第２巻　祭祀編	宮古島市史編さん委員会	2018	○
76		宮古島市総合博物館紀要 第 21 号	宮古島市総合博物館/編	2017	
77		宮古島庶民史	稲村賢敷	1972	○
78		宮古島の神と森を考える会　報告書	宮古島の神と森を考える会//編	1996	○
79		宮古島保良の土俗信仰	松川寛良	1995	○
80		宮古島与那覇邑誌－その伝説・民俗及び歴史	上地盛光	1974	○

表 4－5－2（3）．生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年	生物文化記載有無
81	宮古島市	宮古、下地町調査報告書（1）－地域研究シリーズ No.15－	沖縄国際大学南島文化研究所	1990	
82		宮古、下地町調査報告書（4）－地域研究シリーズ No.18－	沖縄国際大学南島文化研究所	1992	
83		宮古の神々と聖なる森	平井芽阿里	2012	○
84		みやこの自然　宮古島市史第 3 巻自然編	宮古島市史編さん委員会	2019	○
85		宮古の自然と文化 第 3 集　ツバメの方言名とその由来、及び各地におけるツバメ観― 宮古からの出発―	渡久山章	2011	○
86		宮古のフォークロア	ニコライ・A・ネフスキー	1998	
87		宮古の民俗文化	下地馨	1975	
88		融和・親睦・団結　在沖西辺郷友会結成 50 周年記念誌	在沖西辺郷友会結成 50 周年記念事業期成会	2016	
89	多良間村	沖縄民俗第 2 号	琉球大学民俗芸能研究クラブ	1960	
90		沖縄民俗第 24 号　多良間村仲筋、国頭村安田報告	琉球大学民俗芸能研究クラブ	1986	○
91		在沖多良間郷友会 50 周年記念誌絆	在沖多良間郷友会結成五十周年記念誌編集委員会／編	2009	
92		在沖多良間郷友会 30 周年記念誌大十字路	仲程正吉	1988	
93		在沖多良間郷友会 20 周年記念誌ふるさと	在沖多良間郷友会	1977	○
94		村誌たらま島	多良間村誌編纂委員会	1973	○
95		たらま島－在沖多良間郷友会十周年記念誌	立津春公	1966	○
96		多良間島調査報告書（1）－地域研究シリーズ No.19－	沖縄国際大学南島文化研究所	1993	
97		多良間島調査報告書（2）－地域研究シリーズ No.20－	沖縄国際大学南島文化研究所	1994	
98		多良間島調査報告書（3）－地域研究シリーズ No.21－	沖縄国際大学南島文化研究所	1995	○
99		多良間島調査報告書（4）－地域研究シリーズ No.22－	沖縄国際大学南島文化研究所	1995	○
100		多良間島の八月踊り－多良間村村政施行 80 周年記念写真集－	小橋川共男（撮影）	1993	
101		多良間村史第 1 巻通史編　島のあゆみ	多良間村史編集委員会編	2000	○
102		多良間村史第四巻資料編 3（民俗）	多良間村史編集委員会編	1993	○
103		多良間の民俗　宮古諸島学術調査研究報告（地理・民俗編）	中山盛茂	1966	○
104		ふくぎの里－多良間村高齢者生活誌－	芳山清美・与那覇ハル//編	1982	○
105	久米島町	沖縄久米島の総合的研究	法政大学百周年記念久米島調査委員会／編	1984	○
106		沖縄縣史 第 5 巻　各論編 4 文化	沖縄県教育委員会	1989	
107		沖縄県史 資料編 13　 硫黄鳥島	沖縄県文化振興会公文書館管理部史料編集室／編	2002	○
108		沖縄の魔除けとまじない	山里純一	1997	○
109		沖縄の民俗資料 第 1 集	琉球政府文化財保護委員会	1974	
110		おきなわの民俗探訪―島と人と生活と	上江洲均	2018	○
111		沖縄民俗第 14 号　比屋定・糸数部落調査報告	嶺井敏子（責任）	1967	○
112		沖縄民俗 20 号記念号　久米島仲里村儀間・東風平村当銘報告	佐久川紀成（責任）	1974	○
113		儀間部落誌	宮平絜福	1971	○
114		[久米島具志川村]具志川部落史	宮里 正光∥編	1979	○
115		久米島具志川村史	具志川村史編集委員会∥編	1976	○
116		久米島調査報告書（1）－地域研究シリーズ No.36－	沖縄国際大学南島文化研究所	2009	
117		久米島町の文化財 平成 26 年度	久米島博物館/編	2015	
118		久米島のくらしと自然	琉球大学附属図書館	2014	
119		久米島の地名と民俗	仲村昌尚	1992	○
120		久米島の民俗文化	上江洲均	2007	○

表４−５−２（4）．生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年	生物文化記載有無
121	久米島町	久米島の歴史と民俗	仲原善秀	1990	○
122		久米仲里旧記[複製本]	高橋 俊三∥[編] 池宮 正治∥[編]	[不明]	
123		久米仲里旧記 神名・歌謡索引	高橋 俊三∥著 池 宮 正治∥著	1973	
124		久米村と琉球王国	久米国鼎会/編	2017	
125		在沖久米島儀間郷友会創立１０周年記念誌	平田清・波平憲一郎・佐久川盛昭・与座実・新里信夫	1984	○
126		じまむら	宮城幸吉	1989	○
127		謝名堂誌	謝名堂誌編集委員 会∥編	2015	○
128		銭田誌	銭田誌編集委員会	1996	○
129		鳥島移住始末	齋藤用之助	1920	
130		鳥島移住報告書	齋藤用之助	1903	
131		鳥嶌郷友七嶽会誌 [1 集]	鳥島郷友七嶽会誌編集委員会／編	2008	○
132		仲里村誌	仲里村誌編集委員 会∥編	1975	○
133		西銘誌	久米島西銘誌編集委員会	2003	○
134		比屋定字誌	沖縄本島在住比屋定郷友会	1996	○
135		福木の郷（さと）	山里政一	2007	○
136		みどり 第 10 号	琉球政府経済局林務課/編	1962	○
137	複数の市町村に係わるもの	南島の民俗文化	上江洲均	1988	○

（４）自然環境の利活用に関する参考文献等

第２章－３で解析手法を示した自然環境の利活用における使用データと参考文献を示す。

1. 林秀美, 2010, 改訂版 沖縄県の山, 株式会社山と渓谷社
2. 沖縄県観光企画課, 2010, 平成 21 年度 持続可能な観光地づくり支援事業（調査研究）実施報告書
3. 沖縄県公式ホームページ, 県知事認定保全利用協定について <https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html>
4. 財団法人沖縄観光コンベンションビューロー, 2010, 美ら島－沖縄県観光情報ファイル－, 財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

（５）自然環境及び社会環境に関する参考文献等

第２章－４で解析手法を示した自然環境及び社会環境における使用データと参考文献を示す。

・生物多様性の情報

1.沖縄県環境利用ガイド,1992

2.環境省,2008,サンゴ礁分布図システム

3.沖縄県環境部自然保護課,2010,平成 21 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

4.沖縄県環境部自然保護課,2011,平成 22 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

5.沖縄県環境部自然保護課,2012,平成 23 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

6.富山義則,2014,沖縄ビーチ大全 505

7.沖縄県教育委員会,2001,ウミガメ類生息実態調査報告書Ⅲ

8.沖縄県環境部環境保全課,2017,平成 28 年度赤土流出防止海域モニタリング調査委託業務報告書

9.沖縄県環境部自然保護課,2018,平成 29 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

10.沖縄県環境部自然保護課,2019,平成 30 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

11.沖縄県環境部自然保護課,2020,平成 31 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

12.沖縄県環境部自然保護課,2021,令和 2 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

・その他の情報

1.環境省,2015,日本のラムサール条約湿地

2.国土交通省国土政策局国土情報課, 2007,国土数値情報 河川データ

3.国土地理院,2014, 基盤地図情報（数値標高モデル）10m メッシュ DEM

4.環境省自然環境局生物多様性センター,1993,1/50,000 現存植生図

5.国土交通省国土政策局国土情報課, 2005,国土数値情報 湖沼データ

（６）環境カルテに関する参考文献等

第３章で示した環境カルテにおける使用データと参考文献を示す。

なお、番号は、環境カルテの様式（第３章―２）の項目番号と対応している。

・陸域カルテ項目

1-6　市町村名

総務省統計局,平成 27 年度国勢調査町丁・字等別境界データ

1-7 町丁・字等

総務省統計局,平成 27 年度国勢調査町丁・字等別境界データ

2-1　地形・地質

2-1-1　地形分類、表層土壌、表層地質

沖縄県企画部土地対策課,1983～1992,土地分類基本調査

2-1-2　特異な地形・地質

沖縄県,1992,沖縄県環境利用ガイド（環境特性地図集）

2-2　植物

2-2-1　現存植生

環境省自然環境局生物多様性センター,2000～2005（一部 2006～）,自然環境保全基礎調査（第 6 回・第 7 回植生調査）

2-2-2　特定植物群落

環境省自然環境局生物多様性センター,1979、1985～1987、1998～1999,自然環境保全基礎調査（第 2～3 回・第 5 回植生調査）

2-2-3　マングローブ林

沖縄県環境部環境再生課,2015,自然環境再生指針（仮称）策定事業委託業務統合報告書（平成 24～26 年度）

4-1　観光拠点

沖縄県観光商工部観光企画課,2010,平成 21 年度持続可能な観光地づくり支援事業（調査研究）実施報告書

4-2　保全利用協定

沖縄県公式ホームページ, 県知事認定保全利用協定について
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html>

5-1　法規制等

5-1-1　法規制等

沖縄県企画部土地対策課,2019,土地利用規制現況図

国土交通省国土政策局国土情報課,2015,国土数値情報　鳥獣保護区データ

5-2　土地利用

5-2-1　土地利用の現況

沖縄県企画部土地対策課,2000～2017,土地利用現況図

5-2-2　農業振興地域

沖縄県企画部土地対策課,2019,土地利用規制現況図

5-2-3　米軍基地

沖縄県環境部環境政策課,2017,米軍基地データ

5-3　河川

5-3-1　河川の分布

国土交通省国土政策局国土情報課,2008,国土数値情報　河川データ

5-3-2　河床勾配と渓流環境

国土交通省国土政策局国土情報課,2008,国土数値情報　河川データ

国土交通省国土政策局国土情報課,2006,国土数値情報　湖沼データ

国土地理院,2014,基盤地図情報（数値標高モデル）10m メッシュ DEM

5-3-3　ダム湖、湖沼

国土交通省国土政策局国土情報課,2015,国土数値情報　ダムデータ

・海域カルテ項目

1-4　総務省統計局,平成 27 年度国勢調査町丁・字等別境界データ

2-1　地形・地質・海岸線

2-1-1　海底地質分類

環境省,2008,サンゴ礁分布図システム

2-2　藻場・干潟・サンゴ礁

2-2-1　生サンゴの被度（礁原）

環境省自然環境局生物多様性センター,1990～1993,自然環境保全基礎調査（第 4 回サンゴ礁調査)

2-2-2　生サンゴの被度（礁縁）

沖縄県環境部自然保護課,2010,平成 21 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県環境部自然保護課,2011,平成 22 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県環境部自然保護課,2012,平成 23 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

2-2-3　藻場、干潟

環境省自然環境局生物多様性センター,1998～2002,自然環境保全基礎調査（第 5 回藻場調査）

環境省自然環境局生物多様性センター,1990～1993,自然環境保全基礎調査（第 4 回干潟調査）

2-2-4　重要なサンゴ礁海域

沖縄県自然保護課,2006,沖縄のサンゴ礁－沖縄県の重要なサンゴ礁海域－

2-4-2　ウミガメ産卵地

富山義則,2014,沖縄ビーチ大全 505

沖縄県教育委員会,2001,沖縄県天然記念物調査シリーズ第 40 集　ウミガメ類生息実態調査報告書Ⅲ－八重山諸島における調査結果－

2-5　SPSS

沖縄県環境部自然保護課,2010,平成 21 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県環境部自然保護課,2011,平成 22 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県環境部自然保護課,2012,平成 23 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県,2017,平成 28 年度赤土等流出防止海域モニタリング調査委託業務報告書

沖縄県,2018,平成 29 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

沖縄県,2019,平成 30 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

沖縄県,2020,平成 31 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

沖縄県,2021,令和 2 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

4-1　観光拠点

沖縄県観光商工部観光企画課,2010,平成 21 年度持続可能な観光地づくり支援事業（調査研究）実施報告書

財団法人沖縄観光コンベンションビューロー,2010,美ら島－沖縄県観光情報ファイル－

4-2　保全利用協定

沖縄県公式ホームページ, 県知事認定保全利用協定について
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html>

5-1　法規制等

5-1-1　法規制等

沖縄県企画部土地対策課,2019,土地利用規制現況図

国土交通省国土政策局国土情報課,2015,国土数値情報　鳥獣保護区データ

5-1-2　海岸保全区域

沖縄県企画部土地対策課,2019,土地利用規制現況図

5-2　海域利用

沖縄県農林水産部水産課、2018、平成 30 年 9 月更新 漁業権区域図（GIS データ）

沖縄県農林水産部水産課、2018、漁業権について（漁業権の説明及び免許の状況）

5-3　河川

国土交通省国土政策局国土情報課,2008,国土数値情報　河川データ

（７）用語集に関する参考文献等

第４章－４に示した用語集について、参考文献及び参考ウェブサイトを下記に示す。

［1］”環境用語集” EIC ネット.
<http://www.eic.or.jp/>
［2］”国際保健用語集” 一般社団法人日本国際保健医療学会.
<https://seesaawiki.jp/w/jaih/>
［3］”天文学辞典”　公益社団法人日本天文学会.
<http://astro-dic.jp/>
［4］”沖縄 21 世紀ビジョン”　沖縄県.
<https://www.pref.okinawa.jp/21vision/index.html>
［5］”自然環境の保全に関する指針のあらまし”　沖縄県.
<https://www.pref.okinawa.jp/okinawa_kankyo/shizen_hogo/hozen_chiiki/shishin/shishin_aramashi/aramashi_ichizuke.html>
［6］”改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第 3 版-菌類編・植物編-”　沖縄県.
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/okinawa_rdb_kinrui_syokubutu.html>
［7］平成 23 年度サンゴ礁資源情報整備事業サンゴ礁資源調査事業「沖縄島周辺離島地域」「宮古地域」「大東地域」「波照間島地域」報告書．平成 24 年．沖縄県.
［8］鷲谷いづみ、後藤章（2018)．新版 絵でわかる生態系のしくみ．講談社.
［9］”河床勾配”　国土交通省国土技術政策総合研究所.
<http://www.nilim.go.jp/>
［10］”国内に生息・生育する希少種の指定”　環境省.
<https://www.env.go.jp/nature/kisho/domestic/index.html>
［11］”外来生物法用語集”　環境省自然環境局.
<http://www.env.go.jp/nature/intro/1law/yougo.html>
［12］”侵略的な外来種”　環境省自然環境局.
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html>
［13］久保田康裕、楠本聞太郎、藤沼潤一、塩野貴之（2017)．生物多様性の保全科学：システム化保全計画の概念と手法の概要．日本生態学会誌
［14］”ジオコーディングとは”　esri.
<https://pro.arcgis.com/ja/pro-app/help/data/geocoding/what-is-geocoding-.htm>
［15］”自然の恵みの価値を計る”　環境省自然環境局.
<https://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/valuation/service.html>

［16］”「生物多様性おきなわ戦略」について” 沖縄県.
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/bd_okinawa_senryaku.html>

［17］”「生物多様性条約」” WWF ジャパン.
<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3516.html>

［18］”「生物文化多様性とは」” 第 1 回アジア生物文化多様性国際会議.
<http://bcd2016.jp/bcd/index.html>

［19］”「日射観測」” 気象庁高層気象台.
<https://www.jma-net.go.jp/kousou/obs_third_div/rad/rad_sol.html>

［20］”沖縄県の天然記念物” 琉球大学博物館風樹館.
<http://fujukan.lib.u-ryukyu.ac.jp/db_gallery/natural.php>

［21］”平成 24 年版情報通信白書” 総務省.
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/html/nc121410.html>

［22］”県知事認定保全利用協定について” 沖縄県.
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html>

［23］”モニタリングサイト 1000 とは” 環境省生物多様性センター.
<http://www.biodic.go.jp/moni1000/moni1000/>

［24］”レッドリスト” 環境省.
<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html>

［25］”魚類の学名と和名” 国立科学博物館.
<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html>

［26］”Bioclimatic variables” WorldClim – Global Climate Data.
<http://www.worldclim.org/bioclim>

［27］”生物情報収集・提供システム いきものログ” 環境省生物多様性センター.
<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html>

［28］”GIS とは…” 国土地理院.
<http://www.gsi.go.jp/GIS/whatisgis.html>

［29］大見謝辰男（2003）. SPSS 簡易測定法とその解説. 沖縄県衛生環境研究所報

［30］”2 次メッシュとは” 環境省生物多様性センター.
<http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-042.html>

生物多様性保全利用指針 OKINAWA
［宮古・久米島編］

［編集・発行］沖縄県環境部自然保護課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎１－２－２
TEL：098－866－2243